

昭和五十八年三月

史料館所藏史料目錄

第三十七集

史料館

史料館所藏史料目錄

第三十七集

凡 例

- 一 本目録は『史料館所蔵史料目録』第三十七集信濃国松代真田家文書目録（その二）として、同文書の書付型史料の一部を収めた。
- 一 史料は利用上の便宜を考慮して、その内容・性格等に応じ、大・中・小の項目を立てて分類配列した。大項目は一〇ポイント・ゴチック活字、中項目は九ポイント・ゴチック活字、小項目は九ポイント活字で示した。また必要に応じて〇印で細項目を示した。
- 一 史料目録の記載欄はほぼ、(一)表題 (二)作成者または差出人 (三)宛名 (四)作成年月日 (五)形態及び封紙類 (六)数量 (七)整理番号の順である。
- 一 表題（史料名称）は原表題の無いものが多いため仮に命名して掲げたが、(一)を付すことは省略した。本目録において(一)を付したものは当該表題に疑問を残したものである。また内容摘記は「」内に八ポイント活字をもって併記した。
- 一 作成者または差出人および宛名のうち複数のものの一部などは適宜省略したものもある。なお役職名は必要に応じて付した。
- 一 作成年次は年月日・干支を採った。また推定年代は(一)を付した。
- 一 史料の形態は、薄冊類では半（半紙判）、美（美濃判）、美大（美濃大判）、半半（半紙半截判）、美半（美濃半截判）、横長半（半紙横長判）、横長美（美濃横長判）、横長美大（美濃大横長判）、横半半（半紙半截横長判）、横美半（美濃半截横長判）、などによって原書の大きさの大概を示すにとどめた。また一紙書付類は大概は通をもって数量を示し、紙形の大小寸法は省略した。
- 一 数量の上部に示した仮は仮綴本を示した。
- 一 最下欄の、かの記号および数字は、各史料の整理番号を示す。照合・閲覧・引用の場合に利用されたい。
- 一 巻末に簡単な解題を付した。

目次

凡例	一
信濃国松代真田家文書目録(その二)	四
目次	五
目録	三
解題	三

信濃
松代
国

真田家文書目録(その二)

信濃国 松代 真田家文書目録(その二) 目次

信濃国
松代 真田家文書目録(その二) 目次

領知	頁
領知	五
領知、家禄	五
預所	五
真田家	六
相統	六
相統、養子、慶応二年相統一件、御讓	六
金	六
官位	二〇
参勤・上京	二〇
参勤、雄若参府、帰城、上京	二〇
夫人等出入国	二六
晴姫・貞松院	二六
規式	三三
規式、登城、供立・行列、元治元年参	三三
内一件、野掛・善光寺参詣、御供立減	三三
略一件	三三
慶事	四一
婚姻、鉄漿式、その他、祝儀目録	四一
誕生	四三

雄若、豊松、棄松、かね、まさ、よし、	みつ
病氣・療養	六〇
疱瘡、薬礼、湯治、幸教病氣一件	六〇
葬送	六四
感応院、慧雲院、綾雲院、智光院、文	六四
聡院、御遺物、法事、廟所、その他	六四
奥向	七三
晴姫、貞松院、側室、奥女中、碓氷峠	七三
関所手形、奥向賄、呉服、坊主衆、奥	七三
方役人用状	七三
江戸屋敷	七五
屋敷替、抱屋敷、赤坂溜池凌銀、その他	七五
交際	八九
為御知事、彦根井伊家、桑名松平家、	八九
郡山柳沢家、高松松平家、宇和嶋伊達	八九
家、水戸家使者送迎礼紛議一件、その他、留守居、表用人	八九
勤役	一〇〇
幕令	一〇〇

触	一四
勤番	一四
御門番、その他	一四
海防	一六
供奉	一六
日光供奉	一六
御手伝	一六
御普請金、久能山東照宮	一六
拝領・献上・見舞	一六
役儀	一六
十藩触頭	一六
甲府城代	一六

信濃国
松代
真田家文書目録(その二)
(文書記号 26A)

領知

領知

包紙〔天明七年御判物御改之節、松平和泉守様江被差出候扣〕天明七年六月	一点	か	二〇
敵有院様御判物写 文四年四月五日	一通	か	一一
常憲院様御判物写 享元年九月二日	一通	か	一二
文昭院様御判物写 徳二年四月二日	一通	か	一三
有徳院様御判物写 保二年八月二日	一通	か	一四
領知判物手目録控 (真田家) (幕府宛) 天明七年六月	一通	か	一五
断書〔領知判物・目録写の作成覚書〕真田家家老 恩田内蔵丞 天明七年八月	一通	か	一六
領知目録写 松平乗祐・戸田氏英 真田伊豆守宛 宝曆二年一月二二日	一通	か	一七

家禄

領知目録写 松平乗祐・戸田氏英 真田伊豆守宛 宝曆二年一月二二日	一通	か	一四七
歴代領知判物目録控〔寛文四―宝曆一一年分〕恩 田内蔵丞(天明七年カ) 六月一九日	一通	か	一七五
旧知事家禄請取証文 真田從四位家扶小山田久米 富永新平宛 明治四年一月	一通	か	三〇六
旧知事家禄請取証文 小山田久米 富永新平宛 明 治四年二月	一通	か	三〇七
旧知事家禄請取証文 小山田久米 富永新平宛 明 治五年二月	一通	か	三〇八

預所

老中申渡書〔信濃国五千石預所、これまでの通りたるべき旨〕(水野忠成) 真田弾正大弼宛(文政五年二月一六日)	一通	か	二九三
真田家留守居同書并附札〔領所命ぜられたる二付御札方〕石川新八(老中阿部正精宛) (文政五年二月一七日)	一通	か	三〇九
西丸老中返札〔真田家よりの礼状の趣、承知したる旨〕酒井若狭守 真田弾正大弼宛 (文政五年) 二月二九日	一通	か	二九五
老中返札〔同前〕阿部備中守 真田弾正大弼宛(文政五年) 二月晦日	一通	か	二九四

真田幸貫伺書并附札〔信濃國預所、家督以後継統の件〕（幕府老中宛）（文政六年）八月二二日

包紙一

一通 か 五〇

真田家

起返高請書〔真田家預所、高井郡幸高村の内、荒地二石分起返高請〕 幸高村名主文之助 入久左衛門・春日榮作宛 弘化四年九月

一通 か 三六〇

相統

矢野倉惣之進申上書〔柿崎喜作、御預所懸詰番出府の件〕 一〇月

一通 か 三六

相統

某申上書〔柿崎喜作・古岩彦作と交代出府の件なお勘考ありたき旨〕

一通 か 三六

真田幸弘申渡書〔我等家督以来出精の事、豊後守へ政事譲りて後も精勤すべき旨〕（金井彦右衛門・坂口利右衛門宛々） 寛政一〇年八月

包紙一

一通 か 二六

御用状〔喜作・彦作出府願の件ニ付、判断下されたき旨頼入〕 岩下左源太・成沢莊藏外一名 北沢源次兵衛宛 一〇月一六日

一通 か 三六

（真田幸貫申渡書）〔伊豆守へ政事譲りて後も精勤すべき旨〕 水道役宛（嘉永五年五月）

一通 か 二六

元御預所掛り伺書〔元捕亡小池龍吉外三名、此度被免ニ付御賞下されたき旨〕 片岡半十郎・三沢清美（明治五年）正月

一通 か 三六

御相統祝儀御仕向書〔真田家より土岐家への進物先例書〕

一通 か 三七五

元御預所掛り申上書〔預所仕丁榮藏外一名、永年出精、此度被免ニ付御賞下されたき旨〕 片岡半十郎・三沢清美（明治五年）四月

一通 か 三六

養子

○天明五年井伊順介養子入

御預所仲間扶持方先例書

一通 か 三六

井伊家公用人書状〔別紙問合の趣并諸道具寸法を報らせられたき旨〕 山本運平 鈴木弥左衛門宛 九月一二日

一通 か 二四三

鳥毛道具挾箱仕様覚書 山本運平 鈴木弥左衛門宛 九月二二日

一通 か 二四三

井伊家公用人書状〔明日使者勤め致すニ付、掛合下されたき旨〕 山本運平 鈴木弥左衛門宛 九月一七日

一通 か 二四四

井伊家公用人書状〔別紙問合の趣を返報されたき旨〕 山本運平 鈴木弥左衛門宛 一〇月一日

一通 か 二四五

井伊家公用人書状〔先日拝借の挾箱・簀箱返進いたす旨〕 山本運平 鈴木弥左衛門宛 一〇月一日

一通 か 二四六

井伊家公用人書狀〔養子順介の実名選定の件〕 山本運平 鈴木弥左衛門宛 一〇月二二日	一通 か 四七
井伊家公用人書狀〔順介実名その他の件、早々申上、返答いたす旨〕 山本運平 鈴木弥左衛門宛 一〇月二三日	一通 か 四六
真田幸弘願書案〔井伊直幸四男順介を真田家養子となしたき旨〕 松平周防守・田沼主殿頭外二名宛 天明五年十一月	一通 か 五三
真田幸弘願書案〔同前〕 同前宛	一通 か 五四
井伊家系図	一通 か 五五
真田幸弘屈書案〔井伊直政、真田信弘母方高祖父の旨〕 (幕府宛)	四通 か 五六
真田家一類統書案 真田幸弘 (幕府宛)	二通 か 五七
真田幸弘口上伺書案〔明日登城のところ順介病氣ニ付如何なすべきやの旨〕 (幕府宛)	一通 か 五八
養子御礼登城例書写〔明和九年小笠原家先例書〕	一通 か 五九
小笠原忠総願書写〔小笠原保三郎を養子となしたき旨〕 松平右近將監・松平右京大夫外三名宛 明和九年二月二十九日	一通 か 五五
小笠原忠総口上伺書写〔明日登城のところ保三郎病氣ニ付如何なすべきやの旨〕 (明和九年三月七日)	一通 か 五六
養子御礼登城例書写〔明和四年水野家先例書〕 小笠原左京大夫 (幕府宛) (明和九年三月七日)	一通 か 五七
山口修理亮統書写 山口弘道 (幕府宛) 安永九年八月	一通 か 五三
松平下総守統書写 四月二七日	一通 か 五四
○	
西尾隠岐守統書写 一二月一八日	一通 か 五五
牛久山口家留守居書狀〔統書返却されるに及ばざる旨〕 岡部又兵衛 鈴木弥左衛門宛 一〇月三日	一通 か 五六
真田家留守居問合書并下札〔妙仙院と御当主との統柄承知したき旨〕 鈴木弥左衛門 浅木源兵衛宛 一〇月二日	一通 か 五七
真田家留守居問合書并下札〔養子願書提示当日、使者取り替わしの件外〕 一〇月二日	一通 か 五八
秋月和三郎用人書狀〔秋月和三郎は秋月山城守より養子の旨〕 吉村又左衛門 鈴木弥左衛門宛 一月七日	一通 か 五九
小浜酒井家養子願一件書付写	一通 か 五〇
○	
真田家老連署狀控〔松平主殿頭息男弘次郎、真田家御養子引移りの件〕 鎌原伯耆・真田國書外二名 島原松平家老板倉八右衛門・松平勘解由外六名宛 (文政八年) 一二月六日	一通 か 二二
老中達書〔当分養子願書返進の旨〕 水野和泉守 真田信濃守宛 (文久三年) 一〇月二十九日	一通 か 二四
真田家留守居問合書并下札〔実子病身ニ付養子の件〕 (幕府目付宛カ)	一通 か 二三
真田家留守居問合書并下札〔二男他家養子後、嫡子死去にて二男取戻しの件〕	一通 か 二五
真田家留守居問合書并下札〔五十才以上の者の末期養子願の件〕	一通 か 二六
慶応二年相統一件	一通 か 二七
玉川一学書狀〔幕府老中、若年寄への御礼勤の件〕 畑権兵衛・津田 転宛 二月一七日	一通 か 二八

玉川一学書状〔御側衆へ表使者派遣の件〕 畑権兵衛・津田 転宛 二月一七日	一通 か三〇元	真田家留守居書状〔真田幸教隠居家督願の判元見届の件、松平源太夫の代理頼入〕 玉川一学 土屋大膳亮用人宛 三月七日	一通 か三〇五
玉川左門書状〔御貢物御配等の件〕 津田 転宛 二月一九日	一通 か三〇六	松平源太夫書状〔判元見届の件安堵、先日来入念申し入れ方への挨拶、披露方頼入〕 真田家用人宛 三月八日	一通 か三〇三
玉川一学書状〔柳沢・本多・三宅家への使者口上書認方〕 津田 転宛 二月二八日	一通 か二九五	松平源太夫書状〔判元見届謝礼方、また幕府への届出方への助言〕 津田 転宛 三月八日	一通 か三〇三
真田家使者口上書案〔願書進達の節の控の件、御用召の節の保薦名代の件ニ付報告〕 (柳沢家外宛カ)	一通 か二九〇	玉川左門書状〔保薦御引移後、御前様方より表立御仕向の件〕 津田 転宛 三月八日	一通 か三〇三
問合書案〔家督願書進達前後、諸向への使者・為御知奉札差出方の覚書〕	一通 か二九七	高野広馬書状〔自分病氣により御用筋よろしく治定されたき旨〕 畑権兵衛・津田 転宛 三月八日	一通 か三〇五
玉川一学書状〔別紙差上たる旨〕 津田 転宛	一通 か二九四	北沢幟之助書状〔隠居家督相統願出の件、ただ今許可されし旨〕 畑権兵衛・津田 転宛 三月九日	一通 か三〇三
判元見届方被下物覚書 (玉川一学カ)	一通 か二九四	老中申渡書写〔真田幸教隠居、伊達保鷹養子の上、家督相違なき旨〕 (水野忠精) 真田信濃守・伊達保鷹宛 三月九日	一通 か三〇三
急養子願書進達方先例書	一通 か二九七	玉川一学書状〔伊達保鷹、真田屋敷着駕の節、供の者入来方〕 津田 転宛 三月九日	一通 か三〇三
真田家留守居伺書案〔家督御礼廻勤方〕 玉川一学 (幕府宛) 二月	四通 か二九四	畑権兵衛書状〔内々の進物落手せし旨〕 津田 転宛 三月九日	一通 か三〇七
某進達書写〔重御頼の御方様へ使者派遣の件、御引請様への御礼使者の件を伺うべきことを命ぜられし旨〕 二月	一通 か二九四	御使者手続書案〔実名書・御大小・鞍置物進献方〕	一通 か三〇五
家督御礼名代名前書	一通 か三〇七	北沢幟之助書状〔御姓名書失念の詫状〕 畑権兵衛・津田 転宛	一通 か三〇六
玉川一学書状〔御引請様への伺書の件、愚意下札に認めし旨外三件報告〕 津田 転宛 三月三日	一通 か二九四	真田幸教書状控〔隠居家督の旨〕 (日光東照宮宛)	一通 か三〇八
家督願書目録	一通 か二九五	津田 転書状〔宇和嶋伊達家への進物方問合、勘返付〕 長谷川三郎兵衛宛 (三月カ) 一〇日	一通 か三〇九
御用召奉書到来之節為御知方覚書	一通 か二九五	津田 転書状〔同前〕 同前宛 一〇日	一通 か三〇〇
堤上之助請書〔奉札の趣、承知したる旨〕 玉川一学	一通 か三〇〇		
・北沢幟之助御使中宛 三月六日			

玉川一学書状〔家督相続祝儀の坊主衆・同席大名招請の件〕 津田 転宛 一一日	一通 か三二四
松平源太夫書状〔明一三日罷出づべしとの書中の趣承知の旨〕 津田 転宛 三月一二日	一通 か二九六
郡山柳沢家用人書状〔保暦引移ニ付真田家より柳沢家への御土産贈進への返礼状〕 稲野寛右衛門・萩原直右衛門 烟権兵衛・津田・転宛 三月一二日	一通 か三二三
玉川一学書状〔御養子となるべきや否やの件、横山氏に確認されたき旨〕 烟権兵衛・津田 転宛 三月一三日	一通 か三二四
津田 転書状〔別紙高橋より端書の趣ニ付手統書・絵図面を差上ぐる旨〕 玉川一学宛 三月一七日	一通 か二九五〇
表用人書状案〔殿様引移りの件ニ付精者共への御賞筋相談申入〕 長谷川三郎兵衛・高野広馬 玉川一学宛 三月一七日	一通 か二九九
松平源太夫書状〔真田家よりの祝儀物への返礼状〕 烟権兵衛・津田 転宛 三月二三日	一通 か二九六三
黒川柳沢家留守居書状〔真田家より本多・三宅へ表立ち使者あるように主人柳沢光昭の意向の旨〕 斎藤武司 玉川一学宛 三月二三日	一通 か三〇二三
片岡亀司書状〔殿様改名何書へ附札を以て差図済みし旨〕 津田 転宛 四月六日	一通 か二九五三
浄運院院代頭証書状〔真田保暦、明日の増上寺参詣方〕 玉川一学・北沢職之助宛 四月七日	一通 か二九五
常照院書状〔真田保暦、明日の寛永寺参詣方〕 玉川一学・北沢職久助宛 四月九日	一通 か二九五
宮下謙太夫書状〔酒井家よりの進物は此度の御悦の故や、御出産の答礼や伺いたき旨〕 津田 転宛 四月九日	一通 か二九五
玉川一学書状〔別紙宇和嶋伊達家の申越ニ付、日限を指示されたき旨〕 表用人宛 四月一一日	一通 か二五四

玉川一学書状〔佐山・中嶋氏への土産物の件〕 津田 転宛 四月一七日	一通 か二九六三
烟権兵衛書状〔老中井上正直に对面のこと、誓詞願いの手筈等の件〕 津田 転宛 六日	一通 か二九六四
溝口美作守用人書状〔真田家の口宣頂戴御礼の老中廻勤名代を溝口に頼まれし件承知の旨〕 山崎謙三郎・稻生三右衛門 北沢職之助宛 六月六日	一通 か三〇二
口宣頂戴名代御礼先例書	一通 か二九六
叙爵次第書	一通 か二九七
真田家留守居問合書案〔保暦上京中、名代にての叙爵御礼方〕 (幕府宛)	一通 か二九六
叙爵御礼廻勤覚書	一通 か三〇〇
宮嶋嘉織書状〔御供人数の件、別紙の通りたるべき旨〕 用人宛 六月一三日	一通 か二九五
家老等御借足軽人数覚書	一通 か二九六
祝儀御仕向書〔隼人正・和泉守より信濃守・右京大夫への進物書〕	一通 か二九六
献立	一通 か二九六
雑〔幸教隠居・家督相続および幸民上京関係〕	九通 か三〇〇
御讓金	一通 か二七
殿様御讓金不足一件継証文	一通 か二七
1 御讓金年賦上納御請証文 玉川慶藏・高山内蔵進外四名 藤田新吾・久保源左衛門外四名宛 寛政一二年七月	
2 御讓金皆済証文 小川友衛・岡嶋平治外三名 伊東伝吾・寺内多宮外四名宛 文化五年三月	

大殿様御讓金預り証文 佐藤左金吾・徳嶋恒吉外一名北沢源次兵衛・中俣左吉外二名宛 文政八年五月二五日

一通 か四六

○感応院（真田幸貫）御讓金

御讓金請取証文 竹内晋平・鹿野茂手木外二名 山岸助藏・小山田菅右衛門宛 嘉永五年一月二七日

一通 か三三

御讓金請取証文 鹿野茂手木・竹間元司外一名 山岸助藏・小山田菅右衛門宛 嘉永五年一月

一通 か三三

封状并金子請取証文 蓮華定院役僧真光院 飯嶋楠左衛門・中俣一平宛 子年一月二五日

一通 か三三

藤田繁之丞書状〔蓮華定院役僧の請取書を進達の旨〕 飯嶋楠左衛門宛 一月二八日

一通 か三〇

吉田慎之助書状〔金三兩下賜への礼状〕 飯嶋楠左衛門宛 二月一六日

一通 か三三

金子請渡勘定書〔御茶入・御箱膳代金〕 月岡万里丑年正月

一通 か三三

御讓金請取証文 磯田小藤太 小山田菅右衛門・山岸助藏宛 嘉永六年二月五日

一通 か三六

御讓金請取証文 磯田小藤太 山岸助藏宛 嘉永六年二月一三日

一通 か三六

官位

官物請取書〔真田幸専、從四位下成〕 六条家雜掌・山科家雜掌 鈴木弥左衛門宛 文化二年正月

包紙一

一通 か三三

口宣頂戴次第書 天保三年

一通 か三〇

口宣頂戴祝儀次第書

一通 か三〇

於御内書院口宣頂戴之図

口宣案并位記目録

一通 か三〇

○慶応二年、幸民叙爵一件

老中申渡書〔真田保應、諸大夫の件は名代にて行い早々に上京すべきを達すべき旨〕（大目付宛カ）

包紙一

一通 か三六

真田幸民伺書并附札〔養父信濃守の通り自分も出仕すべきやの件〕（老中宛）（慶応二年）四月四日

包紙一

一通 か三三

真田幸民伺書并附札〔官位御礼の大刀・馬代献上方〕（老中宛） 五月一六日

一通 か三三

真田幸民伺書并附札〔官位御礼ニ付、和宮以下への礼物の件〕（老中宛） 五月一六日

一通 か三三

老中申渡書〔明日官位御礼の名代の者、西丸へ登城すべき旨〕 真田信濃守宛 五月二九日

一通 か三七

老中御書取〔雛型の通り官位申文を提出すべき旨、内意達し〕 真田保應宛

一通 か三〇

官位申文雛型

包紙一

一通 か三〇

官位申文雛型

包紙一

一通 か三〇

真田幸民伺書并附札〔養父信濃守、左京大夫と改名したき件〕（老中宛）（慶応二年）四月五日

包紙一

一通 か三三

江戸御側役御用状〔真田家家老中宛来状御覽濟ニ付返進する旨〕 宮下孫兵衛・榎田弥惣兵衛外一名寺内友右衛門・山中鹿渡外一名宛 六月二〇日

包紙一

一通 か三〇

井伊家中老披露状〔真田幸民叙爵改名への祝詞〕 沢村角右衛門 小山田老岐・恩田頼母外三名宛 五月一二日

一通 か三〇

江戸御側役御用状〔家老中宛来状返進の旨〕 宮下
・榎田外一名 寺内・山中外一名宛 六月二〇日
諏訪家家老披露状〔叙爵祝詞〕 千野兵庫外三名
鎌原伊野右衛門・小山田宅岐外二名宛 六月二日
須坂堀家用人披露状〔叙爵祝詞〕 永井半右衛門・
駒沢武右衛門 鎌原・小山田外二名宛 五月二十九日

某書状案〔殿様当一六日登城にて四品仰せつけられし
旨報知〕

玉川左門進達書〔海野宿神主石和より真田家の増地
と昇進を祝し献上物ありし旨〕 八月二十九日

行政官達書〔官位改正令、従前の百官・受領廃止〕
明治二年七月

官位相当表 (明治二年七月カ)

官位相当表 (明治二年七月カ)

参勤・上京

参勤

真田幸専伺書并附札〔病氣ニ付参勤御礼献上物如
何すべきやの旨〕 (老中大久保忠真宛) 文政二年八
月一日

真田幸教伺書并附札〔英國軍艦渡来ニ付参府、御礼
献上物取計方〕 (老中宛) 文久三年三月二七日

真田家留守居伺書〔藩主出府ニ付御礼献上物取計
方、内慮伺い〕 津田 転 (老中井上正直宛) 文久
三年一〇月二七日

一通 か三二
一 1

一通 か二二
一 2

一通 か二二
一 3

一通 か三四

一通 か三〇元

一通 か六三元

一通 か三七三

一通 か三〇四

老中御書取〔此節着府たりとも御礼は予定の二二月
中旬になすべき旨〕 (井上正直) (真田家宛) 一〇
月二八日

津田 転申上書〔参府御礼伺いニ付別紙御書取の示
達ありし旨〕 一〇月二八日

老中御達書〔参勤御礼ニ付、明日老中対面すべき
旨〕 (真田家宛) (文久三年一二月二四日)

真田幸教伺書并附札〔昨日参府したるも病氣再発、
御礼献上物取計方〕 (老中宛) 慶応元年六月二六日

参勤着府祝儀到来物覚書

○参府道中諸入料

御礼金御免拝借金請取証文 菅全右衛門 菊池孝
助・海沼与兵衛外一名宛 文政四年八月

御礼金御免拝借金請取証文 羽田雄助 同前宛
文政四年八月

御礼金御免拝借金請取証文 浦野勇右衛門 菊池
孝助・海沼与兵衛外二名宛 文政五年二月

御礼金御免拝借金請取証文 中村織右衛門 同前
宛 文政五年二月

御参府道中諸入料中借金請取証文 関山平治 一
場茂右衛門宛 卯(安政二年カ)五月一三日

御参府道中人馬賃錢中借金請取証文 湯本十学
一場茂右衛門宛 安政二年五月一五日

御参府御供上下御切米金渡控帳 御弘方

卯年御参府御道中品々御入料証文留 西村源蔵
関山平治・三村大之助外二名宛 安政三年四月

卯年御参府道中諸入料中借勘定書控 (安政三年)
五月二二日

一通 か七七
一 2

一通 か七七
一 3

一通 か四七

一通 か七六

一通 か二三

一通 か三六

一通 か三九

一通 か三九

一通 か三九

一通 か三七三

一通 か三七三

一通 か三七六

一通 か三七元

一通 か三七三

御參府道中諸向中借留

横長半

宿々御札願書雛型〔御俟約中の通行時恐悦内願方〕

何村何之誰 勘定所元宛 万延元年六月

一綴 か三三〇
一通 か二六四

河野曾十郎書狀断簡〔俟約中ニ付參勤通行時、馳走方無用の旨、承知返報〕（真田家宛）

一通 か二六六

堀田与一郎外連名歎願書案〔江戸表事変発生ニ付出府を命ぜられたき旨〕（慶応三年カ）二月二十九日

一通 か三三三
一通 一

近習役御用伏案〔事変一件ニ付近習衆よりの歎願書取扱方〕 植木直衛 両所宛 一二月晦日

一通 か三三三
一通 一

○慶応元年出府

御出府道中人馬賃錢仕上勘定書 御供小頭齋藤房吉・荒井伴之助 池田富之進・堤千治郎外四名宛 慶応元年七月

一通 か三〇五

御出府道中人馬賃錢請渡一紙ノ出勘定書 人馬掛飛脚才領組佐藤健藏・鳥羽友作 齋藤房吉・荒井伴之助宛 慶応元年六月

一通 か三〇六

宿定人馬繼立証文目錄 人馬掛

一通 か三〇七

宿定人馬繼立証文〔人足二五人、御供駕籠人足三人、本馬三八匹、輕尻一匹〕 海野宿本陣問屋藤田徳左衛門 鳥羽友作・佐藤健藏宛 慶応元年六月

一通 か三〇八

宿定人馬繼立証文 小諸町問屋塩川小右衛門 同前宛 慶応元年六月

一通 か三〇九

宿定人馬繼立証文 追分宿本陣問屋土屋市左衛門 同前宛 慶応元年六月

一通 か三二〇

宿定人馬繼立証文 杏掛宿飯間屋甚右衛門 同前宛 慶応元年六月一〇日

一通 か三二一

宿定人馬繼立証文 輕井沢宿本陣問屋佐藤市右衛門 同前宛 慶応元年六月

一通 か三二二

宿定人馬繼立証文 松本宿本陣問屋金井三郎左衛門 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三三

宿定人馬繼立証文 松井田宿問屋駒之丞 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三四

宿定人馬繼立証文 安中宿問屋内藏助 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三五

宿定人馬繼立証文 板鼻宿問屋源左衛門 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三六

宿定人馬繼立証文 高崎宿問屋次郎右衛門 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三七

宿定人馬繼立証文 倉賀野宿喜太郎 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三八

宿定人馬繼立証文 新町宿年寄重右衛門 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三九

宿定人馬繼立証文 本庄宿問屋善右衛門 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三〇

宿定人馬繼立証文 深谷宿問屋千右衛門 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三一

宿定人馬繼立証文 熊谷宿問屋勇兵衛 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三三

宿定人馬繼立証文 須原宿問屋庄右衛門 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三三

宿定人馬繼立証文 桶川宿問屋由三郎 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三四

宿定人馬繼立証文 上尾宿問屋峯五郎 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三五

宿定人馬繼立証文 大宮宿問屋甚左衛門 同前宛 慶応元年六月

一通 か三三六

宿定人馬繼立証文 浦和宿問屋星野権兵衛 同前
宛 慶応元年六月

一通 か三七

宿定人馬繼立証文 蕨宿問屋五郎兵衛 同前宛
慶応元年六月

一通 か三六

宿定人馬繼立証文 板橋宿飯田宇兵衛 同前宛
慶応元年六月

一通 か三三

御雇人馬繼立証文目録 人馬掛

一通 か三〇

御雇人馬繼立証文〔人足一九人、本馬三九匹〕海
野宿本陣問屋藤田徳左衛門外 鳥羽友作・佐藤健蔵
宛 慶応元年六月

二一通 か三三
二二三

御側長持・御台所長持改増人足賃錢払帳 道中
方人馬掛町田元吉・羽生田徳左衛門 丑六月

横長美

一冊 か三五

御出府道中御馬飼料代金請渡ノ出勘定書 御厩小
頭稲葉恒作 矢野茂宛 慶応元年七月

一綴 か七六

御馬湯代錢請取書 上田町本陣外 真田家役人
宛 丑年六月一六日―二四日

八通

御馬飼料代錢請取証文 海野宿ともや喜兵衛外
稲葉恒作宛 慶応元年六月一六日―二五日

一〇通

宿々下賜目録金請渡一紙ノ出勘定書 人馬掛飛
脚才領組荒井弥平・中村初右衛門外三名 齋藤房吉・
荒井伴之助宛 慶応元年六月

一綴 か三七

御目録金頂戴証文 海野宿本陣問屋藤田徳左衛
門外 荒井弥平・中村初右衛門外宛 慶応元年六月
一七日―二四日

三八通

御出府道中御荷物人馬賃錢仕上勘定書 齋藤房
吉・荒井伴之助 池田富之進・堤千治郎外四名宛 慶
応元年七月

一綴 か三五

碓氷川越人足賃錢請渡証文 小出陽之助組三郎
兵衛外 齋藤房吉・荒井伴之助宛 丑六月

八通

御関札荷賃錢外請渡証文 同前 同前宛 慶応
元年六月

一通

地蔵峠通御雇人馬賃錢請渡証文 米倉元兵衛組
峯作 同前宛 丑六月

三通

長持修復料請渡証文 同前 同前宛 丑六月

一通

御荷物人馬賃錢外請渡証文 同前 同前宛 慶
応元年六月

八通

御出府道中長持其外通日雇人足賃錢仕上勘定書
齋藤房吉・荒井伴之助 池田富之進・堤千治郎外四名
宛 慶応元年七月

一綴 か三五

御手充金請取書 井口良助組健治外 齋藤房吉
・荒井伴之助宛 丑六月

二通

通日雇御賃銀御勘定帳 福嶋屋莊五郎 齋藤房
吉・荒井伴之助宛 慶応元年七月

美

一冊

御出府道中臨時入料仕上勘定書 齋藤房吉・荒井
伴之助 池田富之進・堤千治郎外四名宛 慶応元年七
月

一通 か三五

臨時入料請渡一紙ノ出勘定書 人馬掛町田元吉・
羽生田徳左衛門 齋藤房吉・荒井伴之助宛 慶応元年
六月

一通 か三五

御手充金輕尻馬代請取書 町田元吉 丑七月

一通 か三五

輕尻馬代請取書 板鼻宿問屋治郎右衛門外
元吉・羽生田徳左衛門宛 丑六月

四通 か三五
二二三

碓氷川御定川越人足賃錢請取証文 板鼻宿碓氷川
御場掛次郎右衛門・源左衛門外一名 真田家道中方宛
慶応元年六月

一通 か三五

浅黄布損料請取証文 板鼻宿碓氷川掛り役人庄兵
衛 同前宛 丑六月二〇日

一通 か三四

舟印持人足賃錢請取証文 板鼻宿問屋次郎右衛門
外 羽生田徳左衛門外宛 丑六月二〇日

四通 か三五
二二三

御召船買上代金請渡書	町田元吉	丑六月	一通	か三六九
御用荷貫目改木札代金請渡書	鳥羽友作	丑六月	一通	か三七〇
御用荷桐油代金請取書	町田元吉・羽生田徳左衛門	丑六月	一通	か三七二
袋〔道中諸入料証文入、二二七四、二二八五番在中〕	御弘方	慶応元年六月	一点	か三七三
葉籠持人足賃錢請取証文	島田全隆・松山文声	西	一通	か三七四
村源兵衛・池田富之進外五名宛	慶応元年六月			
御供小頭外道中日増賄代金仕上勘定書	証文掛小頭井口良助・高橋龍右衛門	池田富之進・堤千治郎外四名宛	一通	か三七五
慶応元年一〇月				
道中困葉種料請取証文	松山文声	西村源兵衛・池田富之進外五名宛	一通	か三七六
慶応元年六月				
道中困葉種料請取証文	島田全隆	同前宛	一通	か三七七
慶応元年六月				
宿々被下金中借証文	今井友之進・竹花兵馬	同前宛	一通	か三七八
慶応元年六月				
道中諸入料請取証文	〔本馬駄賃・旅籠料并当代金〕	神戶神蔵	一通	か三七九
同前宛	慶応元年閏五月			
道中諸入料請取証文	〔同 前〕	窪田富之進	一通	か三八〇
同前宛	慶応元年五月			
道中諸入料請取証文	〔馬銀・旅籠料并当代金〕	漬物師喜惣太	一通	か三八二
同前宛	慶応元年閏五月			
道中諸入料請取証文	〔同 前〕	御膳立清水龍右衛門	一通	か三八三
同前宛	慶応元年閏五月			
出精褒美金請渡証文	〔慶応元年参府道中御供人馬掛へ下賜分〕	斎藤房吉	一通	か三八三
池田富之進・堤常之丞外三名宛	慶応三年四月			

御出府道中諸入料仕上勘定書	元ノ石川藤治郎	御金奉行御役取扱矢野茂宛	一綴	か三六四
慶応元年六月				
御供中旅籠料請渡勘定書	元ノ石川藤治郎	丑六月	二通	
旅籠料請取証文	海野宿本陣藤田徳左衛門外	石川藤治郎宛	九通	
慶応元年六月一六日一二十四日				
屋弁当代金請取証文	上田町本陣柳沢太郎兵衛	外 石川藤治郎宛	九通	
慶応元年六月一六日一二十四日				
御目録金頂戴証文	海野宿本陣藤田徳左衛門外	石川藤治郎宛	一〇通	
慶応元年六月一五日一二十四日				
献上返別段御目録金頂戴証文	下塩尻村杵掛權右衛門外	今井友之進外宛	九通	
慶応元年六月一六日一二十五日				
御膳物諸入料請取証文	現金屋祖吉外	御台所役所宛	一七通	
丑六月一三日一二十五日				
菓子代外請取証文	藤屋恐左衛門外	同前宛	四通	
六月一三日一三〇日				
道中出精者被下酒代勘定書	石川藤治郎	丑六月	一通	
酒代請取証文	鼠宿村組頭平吉外	御台所役所宛	二通	
慶応元年六月				
長持修復料外勘定書	石川藤治郎	丑六月	一通	
御道中御入料諸向証文留	御弘方	慶応元年六月	一冊	か三六五
雄若参府				
雄若様参府御供人数書	天保一五年二月八日		一綴	か三六九
春日儀左衛門書状	〔雄若出府ニ付御手充金先例内調の件〕	丸山平左衛門宛	一通	か三六五
二月八日				

御勘定役差紙 春日儀左衛門 土口村・岩野村三役人宛 二月八日

春日儀左衛門書狀「雄若御供被下物の件」 御勘定役二名宛 二月一〇日

真田家子女出府先例書「天明六年一・文政一一年分供人数・購入料」

天明六年貴姫出府先例書

綿城

真田家留守居同書「当主參勤年に嫡子在所への御暇願いをなして不苦やの旨」 座間百人（老中大久保忠真宛） 天保三年九月六日

老中御書取「願いても不苦旨」 （大久保忠真）（真田家宛）（天保三年九月）

真田幸教同書案「地震にて江戸屋敷破損ニ付在所へ繰上御暇願い」 （老中宛） 安政三年二月

御綿城道中宿々下賜金中借証文 佐藤小左衛門・片岡龜之進 福田小平太宛 万延元年六月

袋「御綿城道中御入料一卷、二二九八〇二二〇一番在中」 御弘方 文久二年三月

御綿城道中御入料諸向中借証文留 遠藤小右衛門 文久二年二月

御綿城道中入料引替留 文久二年五月八日―同三年九月二日

戊午御綿城道中御勘定引替一紙 御供小頭齋藤房吉 文久三年二月

去戌二月中御綿城道中諸入料払留 （文久三年）

御綿国旅日記 二月二日―二七日

御勝手元々申上書「御綿城御供向、鼠宿旅籠上端錢の儀」 九月一〇日

○元治元年綿城

御綿城道中人馬賃錢仕上勘定書断簡（大内源之助・齋藤房吉カ）

宿定人馬賃錢請渡一紙勘定書 人馬掛鳥羽友作・羽生田徳左衛門 大内源之助・齋藤房吉宛 元治元年四月

宿定人馬繼立証文 板橋宿問屋市右衛門外 大内源之助・齋藤房吉外宛 元治元年三月

台所長持過賃目人足賃錢払帳 人馬掛中村初右衛門・町田元吉 子三月―四月

供駕籠増手充人足賃錢払帳 人馬掛鳥羽友作・羽生田徳左衛門 子三月―四月

道中御雇人賃錢請渡一紙勘定書 鳥羽友作・羽生田徳左衛門 大内源之助・齋藤房吉宛 元治元年四月

御雇人馬繼立証文 板橋宿問屋市右衛門外 大内源之助・齋藤房吉外宛 元治元年三月

御内借上納金勘定寛「子三月中御綿城道中入用内借金」 齋藤房吉（慶応二年）一二月

袋「御綿城道中一卷、二二一三〇二二三五番在中」 御弘方 元治元年三月

道中藥種代金請渡証文 島田全隆 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治元年五月

御供調掛人馬掛御用出府諸入料仕上勘定書「手充金・伝馬代料」 割番小頭立岩孝左衛門・深沢喜三郎 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治元年七月

道中馬飼料仕上勘定書 御廐小頭金兒富之丞 同前宛 元治元年五月

御馬飼料請取証文 浦和宿本陣星野權兵衛外 田家御所方役所宛 子三月二日—二六日	九通	別段御目録金勘定書 山下木之助 子四月 御膳物代金請取証文 万屋七三郎外 御台所役 所宛 子三月	二通
御帛城宿々宿外江被下金寛 西沢甚七郎・中村嘉 一郎 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治元年三 月—五月	一冊 か三三	酒代旅籠代勘定書 山下木之助 子四月	一〇通
子年御帛城道中宿々下賜目録金仕上勘定書 大 内源之助・斎藤房吉 池田富之進・堤千治郎外二名宛 慶応元年一二月	一綴 か三六九	御目録金包紙入料勘定書 同前 子三月	一通
御目録金頂戴証文 板橋宿御出入豊田市右衛門 外 荒井弥平・中村初右衛門外宛 元治元年三月二 二日—二七日	三二通	諸色代金請取書 大工吉右衛門外 子三月	四通
臨時御目録金頂戴証文 板橋宿問屋役人外 同 前宛 子三月二日—二六日	五通	旅籠代上端勘定書 山下木之助 子四月	一通
御手充金頂戴証文 坂本宿四ッ谷村五作 松代 様役人中宛 元治元年三月二七日	一通	子年道中御関札并跡荷物賃錢仕上勘定書 大内 源之助・斎藤房吉 池田富之進・堤千治郎外二名宛 慶応元年一二月	一綴 か三三七
御手充金頂戴証文 人馬掛荒井伴之助 元治元 年三月	一通	御跡荷物賃錢請渡証文 井口良助組才太郎外 大内源之助・斎藤房吉宛 元治元年三月	二通
子年道中御膳物其外諸色入料仕上勘定書 御台 所元々山下木之助 池田富之進・堤千治郎外二名宛 慶応元年一〇月	一綴 か三三五	御関札荷物賃錢請渡証文 佐藤弥一組新之助 同前宛 元治元年三月	一通
御供中旅籠料請渡一紙勘定書 山下木之助 子 四月	一通	子年御帛城道中臨時入料請渡一紙出勘定書 大内源之 助・斎藤房吉 池田富之進・堤千治郎外二名宛 慶 元年一二月	一綴 か三六
旅籠料請取証文 桶川宿本陣府川甚右衛門外 真 田家役人中宛 子三月二日—二六日	八通	御帛城道中臨時入料請渡一紙出勘定書 中村 初右衛門・町田元吉 大内源之助・斎藤房吉宛 元 治元年四月	一通
御膳物代金請取証文 同前 同前宛 子三月二 二日—二六日	一〇通	舟印持人足賃錢請取証文 板橋宿問屋市右衛門 外 中村初右衛門宛 子三月二日・二四日	二通
御目録金頂戴証文 同前 西沢勘七郎・中村嘉一 郎宛 子三月二日—二六日	四通	長持棒代料請取証文 鴻巣宿問屋庄左衛門 羽生 田徳左衛門宛 子三月二三日	一通
献上返別段御目録金頂戴証文 鼠宿村室賀八左 衛門外 山下木之助宛 元治元年三月	六通	御用荷貫目改木札代金請渡覚 中村初右衛門・ 町田元吉 子三月	一通
		御用荷桐油代金請取覚 同前 子三月	一通

○元治元年上京

馬銀請取証文〔上京御供〕
 御納戸元々仙仁伴七
 龜師泉藏十郎 漬物師喜德太・同彦作・大谷津又藏・
 堀井泉藏十郎 山田見龍・田沢一・二島・清水主
 吉・駒村彦三・東条慎介・大久保喜太郎・奥村小金吾
 立・田中左吉・崎草馬・御所元石川藤次郎・名
 元治元年五月 外 西村源兵衛・池田富之進外五名宛

一
三
通

かかかかかかかか
九八八八八八八八
四八一七三〇七三〇
・ 〉 ・ 〉 ・ ・ 〉

馬銀請取証文〔上京御供〕大木伊左衛門・富岡文

治松 密門・山藏
 元村 某・御寺
 年半 恒同 奥常宮
 六次 相坊 吉本
 月郎 沢主・彦之
 外 芳藤 藤彦
 小之 藤藤 藤彦
 西池 助元 清・
 村六 吉曲・木
 源左 衛村 月峰
 兵衛 門佐 永岡
 衛門 佐十 沢方
 ・十 沢方
 池畑 郎繁 里・
 田畑 弥・山
 富翁 小・小
 之 輔林 下野・
 目・善 目家
 外 敷 付 杵
 五話 名・有・林
 名專 郎賀 平
 宛 辰思 野金
 郎小 左・玄
 元・頭 衛彦

一七通

かかかかかかかかかか
 九九九八八八八八八八八八
 一〇〇九七五二八七六六六
 三六四
 } . . . }

馬銀請取証文〔上京御供〕
 下目付田口喜右衛門・塚田内藏助・坂西正之進・御厩
 小頭金兎富之丞・同稻葉恒作・西村源兵衛・池田富之
 進外五名宛 元治元年七月

五通

かかかかか
一一一一一
九九九九九
四三二一七
六三〇九七
・ ・ ・ ・

馬銀請取証文〔上京御供〕 御厰小頭金児富之丞・
同稻葉恒作・大内喜太郎 西村源兵衛・池田富之進外
五名宛 元治元年八月

二通

かか
一九四七
一九三七
•

馬銀請取証文〔上京御供〕
・小林惣兵衛・丸山保次外
外五名宛 元治元年九月

竹内多吉・倉田三之丞
西村源兵衛・池田富之進

四通

かかか
一九四八
一九四二
一九四〇
・)

馬銀請取証文〔京より帰城〕丸山保次・竹内多吉
外月 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治元年一一

馬銀請取証文〔上京御供〕 春山喜平次・神戸美之助・御台所元々山下木之助・宮下三郎治・御台所中間大吉・同伝之丞・近藤權内西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治元年一二月

馬銀請取証文〔上京御供〕 山崎卓馬 西村源兵衛
・池田富之進外四名宛 元治二年二月

馬銀請取証文〔埴城御供〕 御台所元々石川藤次郎
 ・同片桐喜平太・富岡良右衛門・北沢一二馬・松林左
 金吾・西沢甚七郎・竹花兵馬・土屋左衛門・御湯殿
 番国兵衛外 西村源兵衛・池田富之屋外五名宛 元治
 二年三月

馬銀請取証文〔埽城御供〕 大木伊左衛門・小野宗
井・月岡桂齋・平野玄祐・月岡万里・大谷津又藏・堀
井泉藏・松村平次郎・鮎鯉・新所十郎・濱物喜惣太・
奥坊主佐藤元吉・同松本林平・御膳立市川七郎治外・
西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治二年四月

九通

かかかか
二二二二
三三三三
〇八七四

馬銀請取証文〔大坂より帰城〕 塚田内蔵助・坂西
正之進・御厩小頭小池六左衛門・坂西広見・中村久吉
外 西村源兵衛・池田富之助 外五名宛 慶応元年五月

三通

かかか
二〇三
四六四

馬銀請取証文〔大坂より帰城〕山口孝助 西村源
兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年 閏五月

一通

か
二〇三
七

馬銀請取証文〔大坂より帰城〕下目付田口喜右衛門・同有賀忠左衛門・同相沢芳之助・長谷川藤左衛門・駒村佐十郎 西村源兵衛・池田富之進外五名宛
応元年六月 慶

五通

かかかかか
二二二二二
〇〇〇〇〇
五四四三三
九二一五三

馬銀請取証文〔大坂より帰城〕 春山喜平次・山寺常吉・御台所元々山下木之助・近藤権内・宮下三郎治 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年八月	六通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか
馬銀請取証文〔大坂より帰城〕 神戸美之助・大塚峯治・小山弥一・富岡文蔵・宮本彦之進外 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年九月	三通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか
馬銀請取証文〔大坂より帰城〕 大内喜太郎 池田富之進・堤千治郎外二名宛 慶応元年一〇月	一通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか
高崎銀請取証文〔上京御供〕 保崎保太郎・間庭助次郎・笠原平六郎・小野柔四郎外 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治元年五月	二通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか
高崎銀請取証文〔上京御供〕 原半七郎・金児忠兵衛・高野車之助・岸太五之丞・山中小平次・佐藤安喜・蟻川賢之助・玉川渡・松山文声・竹村半蔵・真田志摩内市川繁司外 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治元年六月	一〇通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか
高崎銀請取証文〔上京御供〕 依田源之丞・鈴木内蔵允・出浦民部・海野寅男・小林喜太夫・片岡磐・津三十郎・横田甚五右衛門・春原織右衛門外 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治元年七月	七通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか
高崎銀請取証文〔上京御供〕 白川綾次郎・藤岡伊織・河原左京内馬場惣左衛門 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治元年八月	三通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか
高崎銀請取証文〔上京御供〕 久保九郎右衛門・前島友之進・望月顯蔵・雨宮通得・久保三郎・山田兵衛・矢野求馬外 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治元年九月	五通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか

高崎銀請取証文〔上京御供〕 南沢策意・竹内金左衛門・宮下力之丞・前島友之進・菅鉞太郎外 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治元年一〇月	三通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか
高崎銀請取証文〔京都より帰城〕 藤岡伊織・久保九郎右衛門・矢野求馬・久保三郎・山田兵衛・雨宮通得・青木忠太夫 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治元年一二月	六通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか
高崎銀請取証文〔上京御供〕 矢沢但馬内北村佐左衛門・岩崎玄蕃・成沢助左衛門 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治元年一二月	三通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか
高崎銀請取証文〔帰城御供〕 高野広馬・原半七郎・岩崎玄蕃・岸太五之丞・寺内多宮・長谷川徳右衛門・高田多兵衛・依田政之進・桑名左太郎・牧野大右衛門・岡野弥右衛門・成沢勘五郎門外 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治二年三月	一一通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか
高崎銀請取証文〔帰城御供〕 嶋田全隆・山田見龍・雨宮通得・鈴木内蔵允・竹村半蔵 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治二年四月	四通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか
高崎銀請取証文〔京・大坂より帰城〕 柵津三十郎・西沢八十馬・加藤直衛・宮下欽次郎・松本源八・津熊之助・佐久間忠幾久・原忠治郎・石川清次・石倉義佳・里見勘左衛門・渡辺憲蔵・渡辺富太郎・五郎・山口左馬介・望月奥蔵・南沢策意・栗山五郎三郎・長谷川安太郎・山中平次・海野寛男・栗山五郎三郎・小野里清之進・関根勇外 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年五月	一三通 かかかかかか かかかかかか かかかかかか

高崎銀請取証文〔京・大坂より帰城〕 門・藤田新太郎・坂口又治・宮下嘉太郎・真田志摩内 北川原慶助・同田口司馬之助・横田甚五左衛門・金児 忠兵衛・野村集多・恩田甚三郎・佐々木玄文・河原左 京内馬場惣左衛門・緑川茂馬・岩下權太夫外 兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年閏五月 西村源 兵衛	高崎銀請取証文〔大坂より帰城〕 ・佐藤安喜 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応 元年六月	高崎銀請取証文〔大坂より帰城〕 ・伊藤九郎兵衛・ ・鐵川賢之助 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応 元年七月	高崎銀請取証文〔大坂より帰城〕 ・宮沢馬輔 西村 源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年九月	詰中御手充金請取証文 牧野大右衛門・東条清見 ・笠原平六郎・小野柔四郎・矢野六藏・岩下半兵衛・ ・西沢甚七郎・竹花兵馬外 西村源兵衛・池田富之進 外五名宛 元治元年五月	詰中御手充金請取証文 西沢甚七郎・竹花兵馬・ 平野玄祐・佐藤清甫・小野宗甫・松山文声・島田全隆 ・山田見龍・御側御納戸物書初太郎外 西村源兵衛・ 池田富之進外五名宛 元治元年六月	詰中御手充金請取証文 月岡桂齋 西村源兵衛・ 池田富之進外五名宛 元治元年七月	詰中御手充金請取証文 久保九郎右衛門・雨宮通 得 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治元年九月	詰中御手充金請取証文 南沢策意 西村源兵衛・ 池田富之進外五名宛 元治元年一〇月	詰中御手充金請取証文 榎田弥惣兵衛・片岡龜司 ・藤井浅右衛門・師岡源兵衛外 西村源兵衛・池田富 之進外五名宛 元治二年三月
九通	二通	二通	一通	四通	七通	一通	二通	一通	二通
か二二六 か二〇八 か二〇〇 か二〇六 か二〇六 か二〇六 か二〇六 か二〇六 か二〇六 か二〇六	か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三	か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五	か二〇七 か二〇七 か二〇七 か二〇七 か二〇七 か二〇七 か二〇七 か二〇七 か二〇七 か二〇七	か二八四 か二八四 か二八四 か二八四 か二八四 か二八四 か二八四 か二八四 か二八四 か二八四	か二八五 か二八五 か二八五 か二八五 か二八五 か二八五 か二八五 か二八五 か二八五 か二八五	か二九六 か二九六 か二九六 か二九六 か二九六 か二九六 か二九六 か二九六 か二九六 か二九六	か二九〇 か二九〇 か二九〇 か二九〇 か二九〇 か二九〇 か二九〇 か二九〇 か二九〇 か二九〇	か二九四 か二九四 か二九四 か二九四 か二九四 か二九四 か二九四 か二九四 か二九四 か二九四	か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九

詰中御手充金請取証文 牧野大右衛門・東条清見 ・嶋田全隆・山田見龍・小野宗甫・月岡桂齋・平野玄 祐・雨宮通得外 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治二年四月	詰中御手充金請取証文 南沢策意・松山文声・西 沢甚七郎・竹花兵馬 西村源兵衛・池田富之進外五名 宛 慶応元年五月	詰中御手充金請取証文 佐々木玄文・御側御納戸 物書初太郎 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応 元年閏五月	詰中御手充金請取証文 堀田伴右衛門 西村源兵 衛・池田富之進外五名宛 慶応元年七月	子年道中本陣触御用往来賄代仕上勘定書 割番 掛小頭小山繁八 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年六月	旅籠料弁当代金請取証書〔人馬掛二人上京時、九 泊一〇昼分〕 稻荷山宿外屋定八外 子〔元治元年〕 四月一八日一七七日	京都御警衛御用從信州麻積宿京都迄人馬賃錢 帳 荒井伴之助 元治元年四月	旅籠料弁当代金請取証書〔人馬掛二人帰城時、一 〇泊一〇昼分〕 草津宿大黒屋儀兵衛外 荒井伴之 助・鳥羽友作宛 四月二九日一五月一〇日	京都御警衛御用從江州大津宿信州松代迄宿々 人馬賃錢帳 荒井伴之助 元治元年四月	輕尻馬代金請取証文 京都備後屋八兵衛 荒井 伴之助・鳥羽友作宛 子年四月二八日
五通	四通	二通	一通	一綴	一九通	一冊	二九通	一冊	一通
か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九	か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三 か二〇三	か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五	か二〇六 か二〇六 か二〇六 か二〇六 か二〇六 か二〇六 か二〇六 か二〇六 か二〇六 か二〇六	か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五 か二〇五	か二八五 か二八五 か二八五 か二八五 か二八五 か二八五 か二八五 か二八五 か二八五 か二八五	か二九六 か二九六 か二九六 か二九六 か二九六 か二九六 か二九六 か二九六 か二九六 か二九六	か二九四 か二九四 か二九四 か二九四 か二九四 か二九四 か二九四 か二九四 か二九四 か二九四	か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九 か一九九	

子年道中人馬繼立御用往來賄代仕上勘定書 割番掛小頭小山繁八 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年閏五月	一綴 か二〇五
。旅籠料弁当代金請取証書〔本山宿迄往來六泊七屋分〕 稻荷山宿米屋新助外 中村初左衛門宛 五月二日―二七日	一通
。京都御警衛御用信州麻積宿同州上ヶ松宿迄宿々駄賃帳 道中方中村初左衛門 子年五月	一冊
子年道中筋取調御用往來賄代仕上勘定書 割番掛小頭小山繁八 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年閏五月	一綴 か二〇六
。旅籠料弁当代金ノ出勘定書 荒井伴之助・鳥羽友作 子年六月	一通
。旅籠料弁当代金請取証書 稻荷山宿舛屋定八外 荒井伴之助・鳥羽友作宛 子年五月二日―二九日	一〇通
。京都御警衛御用從麻積宿松本迄人馬賃錢払帳 荒井伴之助 子年五月	一冊
子年道中本陣御用往來賄代仕上勘定書 割番掛小頭小山繁八 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年閏五月	一綴 か二〇四
。旅籠料弁当代金請取証書 稻荷山宿舛屋定八外 羽生田德左衛門宛 子年六月八日―一三日	二一通
。御警衛御用從信州麻積宿同州奈良井宿迄宿々駄賃帳 道中方羽生田德左衛門 子年六月	一冊
上京往來入用金請取証文 小出莊司 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治元年六月	一通 か二九七
御馬牽入用金請取証文 本山宿助藏 真田家御厩役所宛 子年六月二一日	一通 か二九六
御馬牽人足賃銀請取証文 中町龜屋郡治郎 同前 子年六月二二日	一通 か二九六

酒代請取証文 本山宿助藏 同前宛 子年六月二一日	一通 か一九二〇
御貸馬入料請取証文 竹村慶次郎 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治元年六月	一綴 か一九二五
御荷物送り入料請取証文 南沢甚之介 同前宛 元治元年八月	一綴 か一九三
御荷物送り入料請取証文 伊東賢治 同前宛 元治元年八月	一綴 か一九六
子年京地往來賄代仕上勘定書 割番掛小頭小山繁八 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年六月	一綴 か二〇五
。信州從麻積宿京都迄宿々旅籠仕切帳 坂田徳右衛門 元治元年六月―七月	一冊
。江州從大津宿信州松代迄宿々旅籠仕切帳 同前 元治元年一〇月	一冊
御貸馬入料請取証文 中村元尾 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治元年一〇月	一綴 か一九五
。旅籠料弁当代金請取証文 桑原村名主要之助・与頭源四郎外二名 代官所宛 元治元年一〇月	一通 か一九五
子年京地往來賄代仕上勘定書 割番掛小頭小山繁八 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 慶応元年六月	一綴 か二〇六
。旅籠帳 荒井伴之助 子年一〇月―一二月	一冊
上京道中小荷駄方諸色入料仕上勘定書 元ノ石川藤次郎 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治元年一二月	一綴 か二〇三
。旅籠料弁当代金ノ出勘定書 元ノ石川藤次郎 子年六月	一通
。旅籠料弁当代金請取証書 青柳宿本陣八郎右衛門外小荷駄方役人宛 元治元年六月一四日―二七日	五四通

馬飼料請取書 青柳宿問屋会所八郎右衛門外 前宛 元治元年六月一四日―二七日	五七通
御目錄金頂戴証文 青柳宿本陣青柳八郎右衛門外 同前宛 元治元年六月一四日―二七日	三〇通
小者酒代勘定書 元ノ石川藤次郎 子年六月	一通
御膳物諸色代金請取証文 現金屋祖吉外 御台 所役所宛 子年六月	三四通
諸道具修復入料勘定書 石川藤次郎 子年六月	一通
道中増入料勘定書 同前 子年六月	二通
御馬胡摩油焼酎外品々代金勘定書 御厩小頭小 池六左衛門 山崎卓馬宛 元治元年一二月	二通
御馬胡摩油焼酎外品々代金請取書 青柳宿万屋 喜作外 御厩方役人宛 六月一四日―二四日	五〇通
御荷物送り入料請取証文 近藤權右衛門・伊木億 右衛門 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治元年 一二月	一通 か一九六
出役往来賄代請取証文 福津繁人・宮島嘉織 同 前宛 元治二年二月	一綴 か一九〇
飛脚道中入料請取証文 割番小頭馬橋龍左衛門 同前宛 元治二年三月	一通 か一九六
子年道中飛脚往来賄代仕上勘定書 割番小頭深沢 喜三郎 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年 九月	一綴 か二七〇
從信州松代大鍛宿迄往来宿々旅籠料払帳 丸 山金太 慶応元年二月―三月	一冊 横長半
御馬沓買上代金仕上勘定書 御厩小頭 小池六左 衛門 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年五 月	一綴 か二〇七三

御馬沓代金請取書 守口宿松屋平八外 二月一 三日―三月二日	一二通
御馬沓買上代金仕上勘定書 御厩小頭小池六左衛 門 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元年五月	一綴 か二〇三
御馬沓買上代金勘定書 (小池六左衛門)	一通
御馬沓代金請取書 青柳宿いつみ屋半助外 小 池六左衛門宛 六月一日―二四日	一四通
御馬沓買上代金勘定書 (小池六左衛門)	一通
御馬沓代金請取書 青柳宿岡田屋茂七外 小池 六左衛門宛 六月一五日―二八日	一五通
武具調製入料仕上勘定書 金児忠兵衛・小野喜平 太外三名 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 慶応元 年六月	一綴 か二七二
武具代金請取証文 東十二町金四郎外 武具方 役所宛 子年六月	三一通
子年上京御入用人馬賃錢仕上勘定書 斎藤房吉 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年一月	一綴 か三三六
人足持歩合増賃錢御勘定帳 人馬掛荒井伴之助 ・羽生田徳左衛門 子年七月	一冊 横長半
乗駕籠老挺雇賃錢払帳 同前 子年六月	一冊 横長美
道中御雇人馬賃錢一紙々出勘定書 人馬掛飛 脚才領組荒井伴之助・鳥羽友作 大内源之助・斎藤 房吉外一名宛 元治元年七月	一通
御雇人馬繼立証文 青柳宿問屋八郎右衛門外 荒井伴之助宛 元治元年六月	三五通
木曾十一ヶ宿相對雇人足賃錢払帳 (人馬掛) 元治元年六月一七日―二〇日	一冊 半

。道中宿定人馬賃錢一紙ノ出勘定書 荒井伴之助・鳥羽友作 大内源之助・齋藤房吉外一名宛 元治元年七月	一通	。上京道中臨時入料一紙ノ出勘定書 荒井伴之助・羽生田德左衛門 大内源之助・齋藤房吉外一名宛 元治元年七月	一通
。宿定人馬繼立証文 青柳宿問屋八郎右衛門外 荒井伴之助宛 元治元年六月	四五通	。長持式棹宿々雇人足賃錢払帳 同前 子年六月 橫長美	一冊
。子年御上京関札并段々荷物賃錢外仕上勘定書 齋藤房吉 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年十一月	一綴 か三九五	。御臨時御入用御雇人足賃錢御勘定帳 同前 子年七月 橫長半	一冊
。御先荷物賃錢外請渡証文 飛脚才領組佐藤健蔵外 大内源之助・齋藤房吉外一名宛 元治元年六月一七日	一六通	。舟印持人足賃錢請取書 伏見宿役人外 六月二二日一四日	三通
。長持修復代請渡証文 飛脚才領組八重治外 同前宛 子年六月・七月一日	二通	。諸色代金請取書 いせや庄兵衛外 子年六月一六日一十九日	三通
。長持棒并扼台代金請取書 上松宿喜助外 宮沢吉十郎・新村八重治宛 六月一四日	二通	。御用荷貫目改木札代金請渡覚 荒井伴之助・羽生田德左衛門 子年七月	一通
。子年上京御供通日雇賃錢仕上勘定書 齋藤房吉 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年十一月	一綴 か三九四	。御用荷桐油代金請取書 同前 子年七月	一通
。具足持人足賃錢請渡証文 御関札才領市川忠右衛門組左吉 大内源之助・齋藤房吉外一名宛 元治元年八月	一通	。道中諸入料勘定書 人馬掛石坂佐十郎組太兵衛 子年七月	一通
。通日雇御賃銀御勘定帳 福嶋屋莊五郎 大内源之助・齋藤房吉外一名宛 元治元年九月	二冊	。旅籠料弁当代金請取書 大井宿藤田屋三郎兵衛外 倉沢太兵衛宛 子年六月二二日一四日	二三通
。子年上京道中臨時品々入料仕上勘定書 齋藤房吉 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年十一月	一綴 か三五五	。宿々駄賃帳 倉沢太兵衛 元治元年六月一七日	一冊
。御用荷貫目改木札代金并桐油代金請渡証文 人馬掛飛脚才領組鳥羽友作・宮尾三左衛門 大内源之助・齋藤房吉外一名宛 元治元年十一月	一通	。子年道中宿々御手充金御目録金仕上勘定書 齋藤房吉 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年十一月	一綴 か三六六
。長持棒繩代金請渡証文 武員方手付千左衛門 大野健左衛門・齋藤房吉宛 元治元年六月	一通	。宿々下賜御目録金一紙ノ出勘定書 人馬掛飛脚才領組中村初右衛門・宮尾三左衛門 大内源之助・齋藤房吉外一名宛 元治元年六月	一通
。長持棒繩代金請取書 費川宿半左衛門 元治元年六月一七日	一通	。御目録金頂戴証文 洗馬宿問屋志村勘之丞 中村初右衛門宛 元治元年六月一三日	一通

川々御買揚船賃并御目録金請取証文 太田川役人福田九一郎外 真田家川掛り役人宛 元治元年六月	三通
御小休料頂戴証文 三条獻上々本陣立場并筒屋太右衛門外 真田家役人宛 子年六月	三通
御雇人馬繼立出精御手充金一紙ノ出勘定書 荒井弥平・荒井伴之助 大内源之助・齋藤房吉外一名宛 元治元年六月	一通
木曾十一ヶ宿御手充金被下渡帳 同前 子年六月	一冊
宿々下賜御目録金一紙ノ出勘定書 同前 大内源之助・齋藤房吉外一名宛 元治元年七月	一通
御目録金頂戴証文 青柳宿問屋八郎右衛門外 荒井伴之助宛 元治元年六月一五日―二八日	六〇通
川々渡船諸入料請取証文 太田川附役人福田九一郎外 真田家役人宛 元治元年六月二二日・二四日	二通
御目録金請渡証文 大津宿年番徳右衛門 同前 宛 丑(慶応元年)二月	一通
子年御上京道中一紙勘定書 齋藤房吉 卯(慶応三年)七月	一綴 か三〇三

○慶応二年上京

老中御書付写〔当夏京都警衛、山内・溝口・真田の三家命ぜられたる段通達すべき旨〕 大目付宛 寅(慶応二年)二月	一通 か三〇六
御意控書 (真田幸民カ) (慶応二年カ)	一通 か五三
表御用人書状〔上京ニ付桑名の珠光院、京の板倉・井上家への進物方相談申入〕 畑権兵衛・津田転 長谷川三郎兵衛・玉川一学宛 四月九日	二通 か二九三

進物覚書 畑権兵衛・津田転	三通	か二九四
浜松井上家書役書状〔井上の帰府と真田の上京とは道中行逢にならざる旨、返報〕 真田家留守居方書役宛 五月八日	一通	か二九五
馬銀請取証文〔上京御供〕 小山弥一・森五十三・大里忠之進・御台所元メ山下木之助 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年二月	五通	か三〇六 か三〇七 か三〇八 か三〇九 か三一〇
馬銀請取証文〔上京御供〕 大内喜太郎・下目付宮入半左衛門・西村久之助・竹村慶次郎・山口孝助・酒井市治・玉井進一郎・渡辺榮司・中沢慎蔵・宮下左太郎・柿崎甚蔵・倉嶋弥兵衛・嶋田竹治郎・宮本彦之進・山寺常吉・御鉄砲師高木多之助・大塚峯治・近藤權左衛門・御頭小池六左衛門・同金兒富之丞・下大工義次郎・金兒与助・春山喜平次 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年三月	一五通	か三二五 か三二六 か三二七 か三二八 か三二九 か三三〇 か三三一 か三三二 か三三三 か三三四 か三三五 か三三六 か三三七 か三三八 か三三九 か三四〇
馬銀請取証文〔上京御供〕 下目付有賀忠左衛門・近藤権内 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年四月	二通	か三三六 か三三七
高崎銀請取証文〔上京御供〕 春原玄三・金兒忠兵衛・富永新平・牧野大右衛門・恩田織部・山中小平次・村田寛兵衛・橋本丹下・金井精蔵・奥村三左衛門・石川清治・渡辺憲蔵・伊東太郎・塚本義太郎・白井要人・片岡警・齋藤龜作・近藤三郎・竹内友馬・菅沼治郎・右衛門・岩下章五郎・坂野次郎・大嶋忠吉・徳太郎・左金吾・岡部治郎・右衛門・竹内六郎・兵衛・宮沢前嶋権兵衛・近藤慶二・中村左兵衛外 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年三月	一通	か三八一 か三八二 か三八三 か三八四 か三八五 か三八六 か三八七 か三八八 か三八九 か三九〇 か三九一 か三九二 か三九三 か三九四 か三九五 か三九六 か三九七 か三九八 か三九九 か四〇〇

高崎銀請取証文〔上京御供〕 洪谷玄岱・原隼之進
・寺内多宮・馬場広人・間庭助次郎・西村弥太郎 池
田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年四月

六通

か三三
か三三
か三三
か三三
か三三
か三三

高崎銀請取証文〔上京御供〕 桜井佳人 池田富之
進・堤常之丞外二名宛 慶応二年五月

一通

か三六

詰中手充金請取証文 春原玄三 池田富之進・堤
常之丞外二名宛 慶応二年三月

一通

か三〇

詰中手充金請取証文 洪谷玄岱 池田富之進・堤
常之丞外二名宛 慶応二年四月

一通

か三五

中借金請取証文〔京都詰中御手充親代〕 春山喜平
次・堀内莊作 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶
応二年三月

三通

か三〇
か三〇
か三〇

中借金請取証文〔同 前〕 宮本慎助・堀内莊作
池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年五月

一通

か三六

中借金請取証文〔御座木枕賃銀并釘鉄物類買上代
金〕 宮嶋素織 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶
応二年五月

一通

か三三

内借金請取証文〔上京御供道中賄代〕 下目付宮入
半左衛門・玉井進一郎・渡辺栄司・中沢慎蔵・宮下左
太郎・柿崎甚蔵・倉嶋弥兵衛・嶋田竹治郎・片岡馨・
藤内六郎兵衛・小山弥一・西村久之助・大嶋忠吉・齋
藤龜作・山口孝助・大内喜太郎・竹村慶次郎・春山喜
平次・大塚峯治・近藤権左衛門 池田富之進・堤常之
丞外二名宛 慶応二年三月

一〇通

か三〇
か三〇
か三〇
か三〇
か三〇
か三〇
か三〇
か三〇
か三〇
か三〇

内借金請取証文〔道中賄代・具足持人足賃〕 山中
小平次・村田常兵衛・橋本丹下・岩下章五郎・宮本彦
之進・宮下嘉太郎・高田賞之輔外 池田富之進・堤常
之丞外二名宛 慶応二年三月

五通

か三〇
か三〇
か三〇
か三〇
か三〇

内借金請取証文〔道中賄代・具足持人足賃・從僕具
足持手充金・馬飼料外〕 金児忠兵衛・富永新平・高
野右金吾・白井要人・牧野大右衛門・恩田織部・宮下
力之助・金児友太郎外 池田富之進・堤常之丞外二名
宛 慶応二年三月

七通

か三〇
か三〇
か三〇
か三〇
か三〇
か三〇
か三〇

内借金請取証文〔道中賄代・具足持人足賃・御用荷
人足賃〕 森五十三 池田富之進・堤常之丞外二名宛
慶応二年三月

一通

か三九

内借金請取証文〔道中賄代・團栗種料〕 春原玄三
池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年三月

一通

か三八

内借金請取証文〔上京御供小銃組道中用金〕 金児
忠兵衛・牧野大右衛門 池田富之進・堤常之丞外二名
宛 慶応二年三月

二通

か三九
か三九

内借金請取証文〔道中賄代〕 岸左太郎・宮下大膳
・長谷川太郎・月岡徳治・竹内又五郎 池田富之進・
堤常之丞外二名宛 慶応二年四月

三通

か三三
か三三
か三三

内借金請取証文〔道中賄代・具足持人足賃〕 飯嶋
二郎太夫・前嶋権兵衛・小林岩次郎・湯本久次郎・西
村弥太郎 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年
四月

三通

か三三
か三三
か三三

内借金請取証文〔道中賄代・具足持人足賃・從僕具
足持手充金・馬飼料外〕 原隼之進・寺内多宮・馬場
広人 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年四月

三通

か三三
か三三
か三三

内借金請取証文〔道中賄代・御用荷人足賃〕 山本
常吉・久保九郎右衛門 池田富之進・堤常之丞外二名
宛 慶応二年四月

二通

か三三
か三三

内借金請取証文〔道中賄代・具足持人足質・葉籠持人足質〕 〔渋谷玄岱 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年四月〕	一通 か三三三
内借金請取証文〔道中開業種料〕 〔渋谷玄岱 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年四月〕	一通 か三三六
内借金請取証文〔小銃組道中開金〕 〔寺内多宮 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年四月〕	一通 か三三六
内借金請取証文〔道中賄代・具足持人足質〕 〔桜井 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年五月〕	一通 か三三六
内借金請取証文〔道中賄代・具足持人足質・馬飼料〕 〔河原左京内馬場惣左衛門 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年七月〕	一通 か三八一
内借金請取証文〔買物所品々入料〕 〔大里忠之進 池田富之進・堤常之丞外二名宛 寅(慶応二年)三月一日〕	一通 か三七〇
内借金請取証文〔同前〕 〔同前宛 寅三月二日〕	一通 か三七三
内借金請取証文〔同前〕 〔両角要右衛門 同前宛 寅五月〕	一通 か三六一
内借金請取証文〔京都への飛脚手充金并賄代〕 〔根井小右衛門 同前宛 慶応二年三月〕	一通 か三七三
内借金請取証文〔飛脚并荷物才領手充金并賄代〕 〔同前 同前宛 慶応二年四月〕	一通 か三三九
内借金請取証文〔同前〕 〔蟻川賢之助 同前宛 慶応二年五月〕	一通 か三七三
内借金請取証文〔同前〕 〔小野喜平太 同前宛 慶応二年六月〕	一通 か三七三
内借金請取証文〔同前〕 〔同前 同前宛 慶応二年六月〕	一通 か三七六

内借金請取証文〔同前〕 〔同前宛 慶応二年六月〕	一通 か三七九
内借金請取証文〔上京荷物駄賃銀〕 〔近藤権右衛門 同前宛 寅五月一九日〕	一通 か三七七
内借金請取証文〔同前〕 〔伊木億右衛門 同前宛 寅五月〕	一通 か三六九
内借金請取証文〔同前〕 〔同前 寅五月二日〕	一通 か三八〇
内借金請取証文〔同前〕 〔近藤権右衛門 同前宛 寅六月九日〕	一通 か三七〇
内借金請取証文〔同前〕 〔同前 寅六月一日〕	一通 か三七七
内借金請取証文〔同前〕 〔同前 寅六月〕	一通 か三七四
内借金請取証文〔同前〕 〔同前 寅六月二日〕	一通 か三七七
内借金請取証文〔同前〕 〔同前 寅六月二日〕	一通 か三七六
内借金請取証文〔合衆製入料〕 〔三村大之助 同前宛 慶応二年三月〕	一通 か三七四
内借金請取証文〔同前〕 〔同前 慶応二年四月〕	一通 か三三九
内借金請取証文〔上京御供先立ニ付品々入料〕 〔春原織右衛門 同前宛 寅三月〕	一通 か三七七
内借金請取証文〔上京御用〕 〔岡野弥右衛門 同前宛 寅三月一三日〕	一通 か三七五
内借金請取証文〔諸々御手充金〕 〔堀田速見 同前宛 寅三月〕	一通 か三七九

内借金請取証文〔武員方手附一人分詰給親代〕 久保九郎右衛門 同前宛 慶応二年四月	一通 か三三三	御供小頭并人馬掛伝馬入料請渡証文 証文掛小頭深沢喜三郎・割番小頭滝沢平作 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年十一月	一通 か三六〇
内借金請取証文〔鉄炮師一人分道中賄代〕 同前宛 慶応二年四月	一通 か三三三	道中賄代請取証文 御仲間小頭吉蔵 御普請奉行所宛 慶応二年二月	一通 か三六二
内借金請取証文〔宿々人馬駄賃錢〕 岸太五之丞 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年十一月	一通 か三七〇	足輕道中諸入料請渡証文 割番小頭中沢忠吾・滝沢平作 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応三年四月	一通 か三六二
内借金請取証文〔御目録金・通御雇賃金〕 同前 同前宛 慶応二年十一月	一通 か三七三	御荷物才領人道中賄代金仕上勘定書 割番小頭小山繁八 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年十二月	一綴 か三六四
内借金請取証文〔御目録金〕 同前 同前宛 慶応二年二月	一通 か三七四	旅籠料并当代金請取書 草津宿万屋庄兵衛外七月三〇日―八月一二日	一二通
内借金請取証文〔道中御囲金〕 同前 同前宛 慶応二年二月	一通 か三七六	御荷物才領人道中増賄代金仕上勘定書 小山繁八 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年二月	一綴 か三六三
内借金請取証文〔寅年道中囲索種料〕 渋谷玄岱 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応三年一二月	一通 か三八三	宿々旅籠帳 三井芳次組立岩長兵衛・永原新之助組水沢与十郎 割番所宛 寅年九月	一冊
道中御用金内借勘定覚 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年	一通 か三七七	御荷物才領人道中増賄代金仕上勘定書 小山繁八 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年二月	一綴 か三六二
中借金請取証文〔通日雇賃金〕 斎藤房吉 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年十一月	一通 か三七二	旅籠帳 依田莊吉組宮尾佐太郎・中沢平右衛門組佐々木作治外一名 寅年九月	一冊
中借金請取証文〔関札并段々荷物賃金〕 同前 同前宛 慶応二年十一月	一通 か三七三	御荷物才領人道中増賄代金仕上勘定書 小山繁八 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年二月	一綴 か三六七
中借金請取証文〔宿々被下金〕 鳥海藤五郎・都築喜平 同前宛 慶応二年十一月	一通 か三七五	旅籠帳 桜井勇作組鈴木佐市・西村喜代治組中村喜一外一名 慶応二年八月―九月	一冊
中借金請取証文〔道中御台所入料〕 同前 同前宛 慶応二年二月	一通 か三七六	御荷物才領人道中増賄代金仕上勘定書 小山繁八 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年二月	一綴 か三六六
中借金請取証文〔御借馬道中路用金〕 竹村半蔵 同前宛 慶応二年二月	一通 か三七九	旅籠料并当代金請取書 大津宿定宿丸屋金兵衛外 真田家宛 寅年八月二四日―九月一二日	二九通

御荷物才領人道中増賄代金仕上勘定書 小山繁八 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応二年一二月
旅籠料并当代金請取書 大津宿佐野屋茂七外
寅年八月二六日―九月二日

一綴 か三六五
三通

御荷物人馬賃錢増入料請渡証文〔寅年中京都往來分〕 近藤権右衛門 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応三年七月

一通 か六四二

御荷物人馬賃錢増入料請渡証文〔同 前〕 同前 慶応三年七月

一通 か六四三

御荷物人馬賃錢増入料請渡証文〔同 前〕 同前 慶応三年七月

一通 か六四三

御荷物人馬賃錢増入料請渡証文〔同 前〕 同前 慶応三年七月

一通 か六四四

道中人馬賃錢并賄代請取証文〔寅年上京御供分〕 春原織右衛門 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応三年一二月

一通 か三六二

道中賄代請取証文〔同 前〕 元ノ岸田義右衛門 同前宛 慶応三年一二月

一通 か三六三

道中賄代請取証文〔同 前〕 下大工義次郎 同前宛 慶応三年一二月

一通 か三六四

道中賄代請取証文〔同 前〕 金児与助 同前宛 慶応三年一二月

一通 か三六五

道中賄代請取証文〔同 前〕 同前 同前宛 慶応三年一二月

一通 か三六六

道中賄代請取証文〔寅年上京帰還分〕 元ノ岸田義右衛門 池田富之進・長谷川直太郎外二名宛 慶応四年閏四月

一通 か三六七

道中賄代請取証文〔同 前〕 同前 同前宛 慶応四年閏四月

一通 か三六八

寅年御供小頭・足輕・郷夫道中賄代御手充金仕上勘定書 御上京掛宮入三治・滝沢平作外一名 池田富之進・長谷川直太郎外二名宛 慶応四年三月
寅年御供小頭・足輕馬銀仕上勘定書 同前 同前宛 慶応四年三月

一綴 か三六六
一綴 か三六九

○慶応三年上京命令

長谷川深美書状〔京都表情勢報告〕 烟権兵衛・津田転宛〔慶応三年〕五月一七日

包紙一

一通 か八三三

真田幸民書状案〔御用ニ付早々上京すべき幕命承知の旨〕 板倉勝静宛〔慶応三年〕一〇月二二日

一通 か三六二

真田幸民請書案〔御書付兩通の趣并早々上京すべき御沙汰の趣御請の旨〕 飛鳥井雅典宛 一〇月二二日

二通 か三六四

真田幸民請書案〔二条城にて御渡の御書付三通の趣御請の旨〕 板倉勝静宛 一〇月二二日

一通 か三六五

真田幸民請書案〔二条城にて御渡の封書拝見、早々上京すべき趣御請の旨〕 同前宛 一〇月二二日

二通 か三六六

京都留守居御用状〔別紙板倉・飛鳥井宛の請書使者勤むべき旨、承知返報〕 長谷川深美・長谷川平次郎 烟権兵衛・津田転宛 一一月二日

包紙一

一通 か三六四

京都留守居御用状〔宇和嶋伊達家上京ニ付進物方使者勤めたる旨〕 同前 同前宛 一一月一七日

包紙一

一通 か三六二

京都留守居御用状〔上京猶予願書を板倉・飛鳥井へ提出の旨〕 北沢幟之助・長谷川深美外一名 同前宛 一一月二二日

包紙一

一通 か三六四

○明治元年上京

大殿様御側役御用状〔殿様始め一行への見舞状〕 興津権右衛門・磯田小藤太外二名 中俣一平・宮下孫兵衛外二名宛 一二月二五日

一通 か三六四

大殿様御側役御用状〔明日脇田熊太郎出立ニ付大熊衛士より真田志摩・赤沢助之進宛の添状を同人に託せし旨〕 同前 宮下孫兵衛・久保極人外一名宛 二月二十五日

一通 か三六

大殿様御側役御用状〔御殿の方も無事跡片づきたる旨〕 同前 同前宛 二月二十五日

一通 か三七

大御前様御側役御用状〔坊主役赤塚一右衛門、吟味方物書役に転出の件〕 (同前カ) (同前宛カ) 二月二十五日

一通 か三五

大御前様御守役御用状〔殿様福島宿まで無事到着のこと、大御前様承知されし旨、返報〕 鹿野茂手木・中嶋渡浪外五名 中候一平・宮下孫兵衛外二名宛 二月二十八日

一通 か三六

在京家老御用状〔先月分の日記写送付の旨〕 真田志摩・赤沢助之進 鎌原伊野右衛門・河原左京外三名宛 (明治二年) 三月五日

一通 か三七

在京家老連署状〔真田幸民加茂行幸に供奉し、種々勤勞の段賞詞ありし旨〕 同前 同前宛 (明治二年) 三月五日

一通 か三七

○

道中馬銀請取証文〔卯年より辰年一月中迄、東京居延ニ付〕 西沢甚七郎 池田富之進・長谷川直右衛門外四名宛 明治二年八月

一通 か三六

東海道宿々御泊り付

一通 か三六

東海道宿々御泊り付

一通 か三六

夫人等出入国

晴 姫

○文久二年松代入部

道中諸入料請取証文〔駕籠賃・輕尻馬代・賄代〕 宮嶋通珉 谷口左仲・坂口又治外二名宛 文久二年九月

一通 か三七

馬銀請取証文 御酒番嘉助・鯉鈍師愛之助外二名 同前宛 文久二年一〇月

一通 か三七

道中諸入料請取証文〔本馬賃・賄代〕 神谷三五郎・大谷津又藏 同前宛 文久二年一〇月

一通 か三七

道中諸入料請取証文〔馬銀・賄代〕 長谷川藤左衛門 同前宛 文久二年一〇月

一通 か三七

道中諸入料請取証文〔輕尻馬代・賄代〕 同前 同前宛 文久二年一〇月

一通 か三七

道中諸入料請取証文〔本馬賃・賄代〕 横田嘉一郎・丸山改助 同前宛 文久二年一〇月

一通 か三七

道中諸入料請取証文〔駕籠賃・輕尻馬代・賄代〕 横山玄庵 谷口左仲・福田小平太外三名宛 文久二年一〇月

一通 か三七

道中諸入料請取証文〔本馬賃・賄代〕 酒井金太郎・藤田源左衛門外三名 同前宛 文久二年一〇月

一通 か三七

道中諸入料請取証文〔同前〕 東条清見・馬場介作外五名 同前宛 文久二年一〇月

一通 か三八

道中諸入料請取証文〔同前〕 湯本源助 同前 宛 文久二年一〇月

一通 か三八

道中諸入料請取証文〔駕籠賃〕 長谷川藤左衛門 同前宛 文久二年一〇月

一通 か三八

道中諸入料請取証文 横山玄庵 同前宛 文久二年一〇月

一通 か三九

道中諸入料請取証文 宮嶋通珉 同前宛 文久二年一〇月

一通 か三八

道中諸入料請取証文〔本馬・輕尻馬賃〕 証文掛
 小頭小山繁八・割番小頭滝沢平作 同前宛 文久二年
 二月 一通 か三三八

矢代宿御供泊賄入料請渡証文 伊東賢治 同前宛
 文久三年二月 一綴 か三三五

御前様御供賄代請取証文 矢代宿名主吉左衛門
 ・同忠右衛門外六名 代官所宛 文久二年二月 一通

鼠宿御供昼賄入料請渡証文 野本力太郎 同前宛
 文久三年二月 一綴 か三三六

御前様御供賄代請取証文 鼠宿村名主七右衛門
 ・同長左衛門外四名 代官所宛 文久二年二月 一通

戊年道中諸入料請取証文〔御台所仲間賄代〕 山
 崎卓馬 福田小平太・松本源八外四名宛 文久三年一
 月 一綴 か三三七

旅籠料弁当代金請取書 大黒屋新三郎外 一〇
 月一六日―二〇日 八通

戊年道中諸入料請取証文〔輕尻馬賃〕 御台所元
 石川藤治郎 同前宛 文久三年二月 一通 か三三八

戊年道中諸入料請取証文〔賄代〕 同前 同前宛
 文久三年二月 一綴 か三三九

旅籠料弁当代金請取書 大黒屋新三郎外 一〇
 月一六日―二〇日 八通

戊年道中諸入料請取証文〔足輕・下座見ら七〇人
 分御手充金・賄代〕 割番小頭中沢忠吾・滝沢平作
 同前宛 文久三年二月 一通 か三九〇

御前様御道中被下金覚 佐藤小左衛門・寺沢大之
 輔 文久二年一〇月 半 一冊 か三九二

御前様松代入部道中諸入料仕上勘定書〔御腰物
 品々・目録金・御供賄代・小買物諸色入料〕 御台所
 元石川藤治郎 谷口左仲・福田小平太外三名宛 文
 久二年二月 一綴 か三三九

道中旅籠料弁当代金勘定書 同前 戊年一〇月 二通

旅籠料弁当代金請取証文 浦和宿本陣星野権兵
 衛外 石川藤治郎宛 文久二年一〇月一十一日 一四通

御膳物諸色代金請取書 深谷宿飯嶋十兵衛 同
 前宛 一〇月二八日―十一月五日 一一通

御目録金頂戴証文 浦和宿本陣星野権兵衛外
 同前宛 戊年一〇月二六日―十一月四日 八通

御目録金勘定書〔板橋宿まで見送りの諸家使者
 ・出入商人への目録金分〕 同前 戊年一〇月 一通

献上返別段御目録金頂戴証文 板橋宿本陣飯田
 新左衛門外 石川藤治郎宛 戊年一〇月二六日―一
 月三日 一一通

出精者酒代勘定書 石川藤治郎 戊年一〇月 一通

御膳物諸色代金請取書 秋田屋嘉兵衛外 御台
 所役人宛 戊一〇月 一一通

道中諸入料勘定書〔目録金包紙代外〕 石川藤
 治郎 戊一〇月 二通

戊年御前様松代入部道中人馬賃錢仕上勘定書
 (大内源之助・斎藤房吉カ) 福田小平太・松本源八外
 二名宛 文久三年八月 一綴 か三三五

宿定人馬賃錢一紙出勘定書 人馬掛荒井伴之
 助・鳥羽友作外一名 大内源之助・斎藤房吉宛 文
 久二年十一月 一通

宿定人馬繼立証文 板橋宿御徳居飯田新左衛門
 外 鳥羽友作・中村良作宛 文久二年一〇月 一三三通

御供駕籠五挺増手充人足賃錢払帳 荒井伴之助 ・鳥羽友作外一名 戊午一〇月一十一日	横長半	一冊
御雇人馬賃錢一紙ノ出勘定書 同前 大内源之助・鳥羽友作宛 文久二年十一月		一通
御雇人馬繼立証文 板橋宿飯田新左衛門外 鳥羽友作・中村良作宛 文久二年一〇月	二三通	
人足持過賃目増賃錢払帳 荒井伴之助・中村初右衛門 戊午一〇月一十一日	横長半	一冊
御雇問錢請取証文 蕨宿問屋加兵衛 荒井伴之助宛 戊午一〇月二十六日		一通
戊午御前様松代入部道中通日雇人足賃錢仕上勘定書 大内源之助・齋藤房吉 福田小平太・松木源八外二名宛 文久三年八月	一綴 か三六	
御手充金請取証文 御供小使房治 大内源之助・齋藤房吉宛 文久二年十一月	一通	
戊午御前様御国入道中通日雇賃銀勘定帳 福嶋屋莊五郎 大内源之助・齋藤房吉宛 文久三年六月	一冊	
戊午御前様松代入部道中通日雇賃錢仕上勘定書 大内源之助・齋藤房吉 福田小平太・松木源八外二名宛 文久三年八月	一綴 か三七	
御荷物賃錢請渡証文 飛脚才領組鳥羽友作外 大内源之助・齋藤房吉宛 文久二年一〇月	一七通	
戊午御供人馬掛輕尻馬賃錢外勘定書 御供調掛 大内源之助・御供小頭齋藤房吉 福田小平太・松木源八外二名宛 文久三年八月	一通 か三六	
戊午道中宿々下賜御目録金仕上勘定書 大内源之助・齋藤房吉 池田富之進・堤千治郎外二名宛 (文久三年)	一綴 か三六	
御目録金頂戴証文 板橋宿飯田新左衛門外 荒井弥平・荒井伴之助外一名宛 戊午一〇月	四二通	

戊午道中品々臨時御入料仕上勘定書 大内源之助・齋藤房吉 福田小平太・松木源八外二名宛 文久三年八月	一綴 か三七	
道中品々臨時御入料一紙ノ出勘定書 人馬掛 荒井伴之助・中村初右衛門 大内源之助・齋藤房吉宛 文久二年十一月	一通	
御用荷賃目改木札代金請渡書 荒井伴之助 戊午一〇月	一通	
舟印持人足賃錢請取書 板橋宿飯田新左衛門外 荒井伴之助宛 戊午一〇月二十六日・二十九日	二通	
御用荷桐油代金請取書 荒井伴之助 戊午一〇月	一通	
臨時入用病氣代雇人足賃錢払帳 荒井伴之助・中村初右衛門 戊午一〇月一十一日	一冊	横長美
戊午人馬掛出精者褒美金請取証文 大内源之助・齋藤房吉 西村源兵衛 池田富之進外五名宛 慶応元年五月	一通 か三七	
○元治元年出府		
袋〔元治元年御前様御出府道中諸証文〕 御供御目付 丑(慶応元年)十一月	一点 か三六	
子年御前様御出府道中通日雇賃錢仕上勘定書 御供小頭齋藤房吉・荒井伴之助 池田富之進・堤千治郎外四名宛 慶応元年五月	一綴 か三〇三	
御手充金請取書 御供小使勘作 齋藤房吉・荒井伴之助宛 子年一二月	一通	
御前様御出府御用通日雇賃銀勘定帳 福嶋屋 莊五郎 同前宛 元治二年三月	一冊	美
子年御前様御出府道中宿々下賜御目録金仕上勘定書 齋藤房吉・荒井伴之助 池田富之進・堤千治郎外四名宛 慶応元年五月	一綴 か三六	

。御目錄金頂戴証文 海野宿本陣問屋藤田德左衛門外 荒井伴之助宛 子年一二月	四二通
。子年御前様御出府道中臨時入料仕上勘定書 齋藤房吉・荒井伴之助 池田富之進・堤千治郎外四名宛 慶応元年五月	一綴 か三六
。足輕酒代請渡書 齋藤房吉・荒井伴之助 元治元年一二月	一通
。御前様御出府道中臨時入料一紙ノ出勘定書 人馬掛飛脚才領組鳥羽友作・羽生田德左衛門 齋藤房吉・荒井伴之助宛 元治元年一二月	一通
。御用荷貫目改木札代金請渡書 人馬掛荒井伴之助・羽生田德左衛門 子年一二月	一通
。舟印持人足賃錢請取書 倉賀野宿問屋庄兵衛外 荒井伴之助宛 子年一二月	二通
。新代金請取書 倉賀野宿松屋太郎八 一二月二六日	一通
。人足御手充金請取書 倉賀野宿問屋庄兵衛 荒井伴之助宛 子年一二月二六日	一通
。御用荷桐油代請取書 人馬掛荒井伴之助・羽生田德左衛門 子年一二月	一通
。乘駕籠賃錢請取書 板橋宿葛屋音八 一二月晦日	一通
。子年御前様御出府道中人馬賃錢仕上勘定書 御供小頭齋藤房吉・荒井伴之助 池田富之進・堤千治郎外四名宛 慶応元年七月	一綴 か三九
。御前様御出府道中人馬賃錢一紙ノ出勘定書 人馬掛鳥羽友作・羽生田德左衛門 齋藤房吉・荒井伴之助宛 元治二年正月	一通
。宿定人馬繼立証文目錄 人馬掛	一通

。宿定人馬繼立証文 海野宿問屋德左衛門外 鳥羽友作宛 元治元年一二月	一二通
。御雇人馬繼立証文目錄 人馬掛	一通
。御雇人馬繼立証文 海野宿問屋德左衛門外 鳥羽友作宛 元治元年一二月	一二通
。人足持過貫匁改増賃錢払帳 人馬掛荒井伴之助・鳥羽友作外一名 元治元年一二月	一冊
。臨時入用雇人足賃錢払帳 同前 元治元年一二月	二冊
。子年御前様御出府道中御荷物賃錢仕上勘定書 御供小頭齋藤房吉・荒井伴之助 池田富之進・堤千治郎外四名宛 慶応元年七月	一綴 か三〇四
。御荷物賃錢外請渡勘定書 飛脚才領組海沼国治外 齋藤房吉・荒井伴之助宛 元治元年一二月	一四通
。子年御前様御出府道中人馬掛出精者褒美金請渡証文 御供小頭齋藤房吉・荒井伴之助 池田富之進・堤常之丞外三名 慶応二年二月	一通 か三七七
。子年御前様御出府道中御勘定引替一紙 齋藤房吉 卯(慶応三年)四月	一通 か三六八
貞松院	
○文久三年松代入部	
。道中困業種料請渡証文 篠原亭安 福田小平太・松本源八外三名宛 文久三年三月	一通 か三四九
。道中諸人料請渡証文〔御供小頭・人馬掛出府御用の者、本馬・輕尻馬賃錢〕 中沢忠吾・伊東嘉右衛門 同前宛 文久三年五月	一通 か三五〇
。道中諸人料請渡証文〔御台所仲間、馬銀・旅籠料〕 山崎卓馬 同前宛 文久三年七月	一通 か三五二

道中諸入料請取証文〔本馬賃錢・旅籠料〕 篠崎源五郎・石倉鎌之進外五名 同前宛 文久三年三月	一通 か三三三	亥年貞松院様松代入部道中御供小頭御手充金并賄代金請渡証文〔大内源之助・齋藤房吉分〕 立岩孝左衛門・伊東嘉左衛門 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治元年四月	一通 か三三二
道中諸入料請取証文〔同前〕 堀井泉藏・橋詰嘉六 同前宛 文久三年三月	一通 か三三三	亥年貞松院様松代入部道中足輕御手充金并賄代金請渡証文 同前 同前宛 元治元年四月	一通 か三六一
道中諸入料請取証文〔同前〕 大木伊左衛門 同前宛 文久三年三月	一通 か三五四	亥年貞松院様松代入部道中人馬賃錢仕上勘定書 大内源之助・齋藤房吉 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年二月	一綴 か三四四
道中諸入料請取証文〔馬銀・旅籠料〕 酒番嘉助・漬物師龜作外二名 同前宛 文久三年三月	一通 か三三五	道中人馬賃錢一紙ノ出勘定書 人馬掛荒井伴之助・鳥羽友作 大内源之助・齋藤房吉宛 文久三年六月	一通
亥年道中諸入料請取証文〔輕尻馬代・旅籠料・駕籠賃〕 篠原亭安 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治元年五月	一通 か三六三	宿々人馬賃錢払帳 人馬掛飛脚才領組荒井伴之助・鳥羽友作 亥年三月六月	一冊 横長半
亥年葉籠持人足賃錢請取証文 松山文声・篠原亭安 同前宛 元治元年五月	一通 か三六四	宿継長持四棹過實目人足賃錢払帳 同前 亥年三月一六月	一冊 横長半
御添雇者賃銀請渡証文 鈴木市之丞 福田小平太・松木源八外三名宛 文久三年四月	一通 か三四六	道中臨時御雇人馬賃錢一紙ノ出勘定書 同前 大内源之助・齋藤房吉宛 文久三年六月	一通
貞松院様松代入部道中御供馬飼料仕上勘定書 御厩小頭金兒富之丞・小池六左衛門外一名 福田小平太・松木源八外二名宛 文久三年六月	一綴 か三五五	臨時入用雇人馬賃錢払帳 同前 亥年三月一六月	一冊 横長半
御馬湯代金請取書 藤宿万屋源右衛門外 亥年三月一九日一二四日	六通	駕籠人足賃錢請取書 天神橋御立場嶋屋金治外荒井伴之助宛 亥年三月二〇日・二一日	二通
御馬飼料品々代錢請取書 大宮宿岩井屋新右衛門外 亥年三月一九日一二四日	六通	亥年貞松院様松代入部道中御荷物賃錢仕上勘定書 大内源之助・齋藤房吉 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年二月	一綴 か三三六
御馬増飼料請取書 大宮宿岩井屋新右衛門外 亥年三月一九日一二四日	六通	御荷物賃錢并鞍敷・蠟燭代金請渡証文 玉井忠治組助藏外 大内源之助・齋藤房吉宛 文久三年三月	六通
道中御供往來賄代金仕上勘定書 鈴木市之丞 福田小平太・松木源八外二名宛 文久三年七月	一綴 か三五九	亥年貞松院様道中御供小頭并人馬掛御手充金仕上勘定書 大内源之助・齋藤房吉 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年二月	一綴 か三三七
宿々旅籠帳 鈴木市之丞 三月一日一二四日	一冊 横長半		

。御手充金請取証文 御供小頭大内源之助・斎藤房吉外 一場茂右衛門・西村十郎右衛門宛 文久三年三月
 亥年御供人馬掛褒美金請渡証文 大内源之助・斎藤房吉 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年二月
 亥年御供人馬掛品々御手充金請渡証文 斎藤房吉 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年二月
 袋〔貞松院様松代入部道中御払切証文、二二八七・二三三番在中〕
 亥年貞松院様松代入部道中宿々下賜目録金仕上勘定書 大内源之助・斎藤房吉 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年二月
 御目録金頂戴証文 板橋宿本陣飯田新左衛門外 荒井弥平・荒井伴之助外宛 文久三年三月十九日―二十五日
 宿々被下金寛 鳥海藤五郎・西沢甚七郎 福田小平太・松本源八外四名宛 文久三年三月一〇月
 道中御膳物并品々諸入料仕上勘定書 御台所元久三年二月
 御供中旅籠代金勘定書 御台所元久助片桐喜平太 亥年三月
 旅籠料并当代金請取書 大宮宿本陣山崎喜右衛門外 山崎卓馬宛 文久三年三月十九日―二十四日
 御膳物代金請取書 大宮宿本陣山崎喜左衛門外 山崎卓馬宛 亥年三月十九日―二十四日
 御目録金頂戴証文 大宮宿本陣山崎喜左衛門外 山崎卓馬宛 亥年三月十九日―二十四日

四通
 一通 か三三七
 一通 か三六六
 一点 か三六六
 一通 か三七七
 五六通 か三八六
 一冊 か三六〇
 一綴 か三六六
 二通
 一二通
 九通
 七通

。御目録金并酒代勘定書 片桐喜平太 亥年三月
 献上返別段御目録金頂戴証文 板橋宿本陣飯田新左衛門外 山崎卓馬宛 亥年三月十九日―二十五日
 別段御手充金頂戴証文 大宮宿本陣山崎喜左衛門 真田家役人宛 亥年三月十九日
 小買物諸色代金請取書 秋田屋嘉右衛門外 御台所役人宛 亥年三月
 御目録金包紙代金請取書 片桐喜平太 亥年三月
 亥年貞松院様松代入部道中臨時入料仕上勘定書 大内源之助・斎藤房吉 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年二月
 道中臨時入料一紙々出勘定書 人馬掛荒井伴之助・鳥羽友作 大内源之助・斎藤房吉宛 文久三年六月
 御用荷貫目改木札代金請渡書 荒井伴之助・鳥羽友作 亥年三月
 船印持人足賃錢請取書 板橋宿御徳居飯田新左衛門外 中村初右衛門宛 亥年三月
 宿繼狀人足賃錢払帳 荒井伴之助・鳥羽友作 亥年三月―六月
 延繩代金請取書 上尾宿堺屋宇兵衛 三月二〇日
 御道中品々小払御勘定帳 荒井伴之助・鳥羽友作 亥年三月六月
 御用荷桐油代金請取書 荒井伴之助 亥年六月
 ○慶応元年出府
 馬銀請取証文 鯉鈍師中沢孝三郎・酒番嘉助 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治二年正月

三通
 二〇通
 一通
 一六通
 二通
 一綴 か三三五
 一通
 一通
 二通
 一冊
 一通
 一冊
 一通
 一通
 一通 か三四一

馬銀請取証文	山崎卓馬 同前宛 元治二年正月	一通 か三三
馬銀請取証文	山崎卓馬 同前宛 元治二年正月	一通 か三五
馬銀請取証文	長谷川藤左衛門 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治二年四月	一通 か三三
道中諸入料請取証文〔駕籠賃・人馬賃錢〕	兩宮通得 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治二年正月	一通 か三三
道中諸入料請取証文〔本馬賃・宿々賄代〕	須田五十喜・神戸神藏 同前宛 元治二年正月	一通 か三四〇
道中諸入料請取証文〔同 前〕	中村嘉一郎 同前宛 元治二年正月	一通 か三四
道中諸入料請取証文〔同 前〕	原田紉 同前宛 元治二年正月	一通 か三四
道中諸入料請取証文〔輕尻馬賃・路錢〕	下目付宮入芳三郎 同前宛 元治二年正月	一通 か三四
道中諸入料請取証文〔駕籠賃・輕尻馬賃・賄代〕	馬場弥三郎 同前宛 元治二年正月	一通 か三四
道中諸入料請取証文〔本馬賃・賄代〕	上村治右衛門・正村勇之進外六名 同前宛 元治二年正月	一通 か三三
道中諸入料請取証文〔同 前〕	藤田專藏・春原六左衛門 同前宛 元治二年正月	一通 か三三
道中諸入料請取証文〔同 前〕	丸山改助 同前宛 元治二年正月	一通 か三三
道中諸入料請取証文〔輕尻馬賃・賄代〕	御台所元ノ岡沢恒三郎 同前宛 元治二年正月	一通 か三三
道中諸入料請取証文〔同 前〕	長谷川藤左衛門 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治二年四月	一通 か三三
道中諸入料請取証文〔御湯殿番末吉・倉之助分賄代〕	富岡良右衛門 同前宛 慶応元年五月	一通 か三三
道中諸入料請取証文〔賄代〕	岡田新兵衛 同前宛 慶応元年六月	一通 か三三
道中諸入料請取証文〔駕籠賃・賄代〕	真田丑年道中諸入料請取証文〔駕籠賃・賄代〕 真田勘解由 池田富之進・堤常之丞外三名宛 慶応三年二月	一通 か三三
道中藥籠持人足賃錢請取証文	篠原亭安・兩宮通得 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治二年正月	一通 か三三
道中田葉種料請取証文	兩宮通得 池田富之進・堤千治郎外四名宛 慶応元年九月	一通 か三三
貞松院様御出府道中宿々宿外五被下金寛	原田紉・中村嘉一郎 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治二年正月・四月	一冊 か三三〇
道中宿々賄入料勘定書	橋詰勘藏 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治二年三月	一綴 か三三
旅籠料并当代金請取書	浦和宿伊勢屋左金吾外 二月九日・一三日	九通
道中宿々賄入料勘定書	橋詰勘藏 西村源兵衛・池田富之進外四名宛 元治二年三月	一綴 か三三
旅籠料并当代金請取書	藤宿会田新藏外 二月一日・一五日	一綴 か三三
道中御馬飼料勘定書	御厩小頭金児富之丞・小池六左衛門外一名 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治二年四月	一綴 か三三
御馬飼料請取書	鼠宿清右衛門外 田中助藏宛 丑年正月二六日・二月三日	八通
御馬湯代金請取書	小諸宿菱屋五兵衛外 同前宛 丑年正月二七日・二月三日	七通

道中御馬飼料勘定書 金児富之丞・小池六左衛門
外一名 西村源兵衛・池田富之進外五名宛 元治二年
四月

一綴 か三五六

。御馬飼料請取書 鼠宿市右衛門外 青山由之助
丑年二月一日―一五五

四通

。御馬湯代金請取書 矢代宿源右衛門外 同前宛
丑年二月一日―一五五

五通

丑年貞松院様御出府道中諸入料仕上勘定書 御
台所元ノ片桐喜平太・岡沢恒三郎 池田富之進・堤常
之丞外四名宛 慶応二年九月

一綴 か三六二

。御供中旅籠料弁当代金勘定書 御台所元ノ岡沢
恒三郎

一通

。旅籠料弁当代金請取書 追分宿本陣土屋市左衛
門外 岡沢恒三郎宛 丑年正月二七日―二月四日

一四通

。御目録金頂戴証文 御茶屋守室賀八左衛門外
原田胤・中村嘉一郎宛 元治二年正月二八日―二月
二日

八通

。献上返別段御目録金頂戴証文 下戸倉宿本陣滝
沢茂兵衛外 同前宛 丑年正月二七日―二月三日

一九通

。御供中酒代金勘定書 岡沢恒三郎

一通

。御膳物諸色代金請取書 現金屋祖吉外 御台所
役所宛 丑年正月―二月

一六通

。小買物諸色代金請取書 小諸宿大和屋吉兵衛外
岡沢恒三郎宛 丑年正月二七日―二月一日

八通

。御目録包紙代金勘定書 岡沢恒三郎

一通

。旅籠代上端錢勘定書 同前

一通

丑年貞松院様御出府道中御供向賄代金勘定書
御手代五明富弥・五明元作 池田富之進・堤常之丞外
三名宛 慶応三年一〇月

一綴 か三三七

。御供向御賄品々代錢請取証文 矢代村名主宰右
衛門・神右衛門外六名 代官所宛 慶応三年

一綴

貞松院様御出府道中宿々下賜臨時目録金仕上勘
定書 御供小頭齋藤房吉・荒井伴之助 池田富之進
・堤千治郎外四名宛 慶応元年七月

一綴 か三六四

。臨時御目録金頂戴証文（人馬繼立出精ニ付）
海野宿間屋徳左衛門外 荒井伴之助宛 元治二年正
月二七日―二月四日

四一通

貞松院様御出府道中人馬賃錢仕上勘定書 御供
小頭齋藤房吉・荒井伴之助 池田富之進・堤千治郎外
四名宛 慶応元年七月

一綴 か三六四

。道中人馬賃錢一紙ノ出勘定書 人馬掛鳥羽友
作・羽生田徳左衛門 齋藤房吉・荒井伴之助宛
元治二年正月

一通

。宿定人馬繼立証文目録 人馬掛

一通

。宿定人馬繼立証文 海野宿間屋徳左衛門外 鳥
羽友作宛 元治二年正月二三日―二八日

二二通

。御雇人馬繼立証文目録 人馬掛

一通

。御雇人馬繼立証文 海野宿間屋徳左衛門外 鳥
羽友作宛 元治二年正月二三日―二八日

二二通

。人足持過賃及改増賃錢払帳 人馬掛荒井伴之助
・鳥羽友作外一名 丑年正月

横長半

一冊

貞松院様御出府道中人足賃錢仕上勘定書 御供
小頭齋藤房吉・荒井伴之助 池田富之進・堤千治郎外
四名宛 慶応元年七月

一綴 か七〇〇

。御手充金請取証文 松本孝三郎組御跡供世話役
勘作 齋藤房吉・荒井伴之助宛 丑年二月

一通

。道中人足賃銀勘定書 人馬掛飛脚才領組荒井弥
平・羽生田徳左衛門 齋藤房吉・荒井伴之助宛 丑
年三月

一通

。貞松院様御出府通日雇御賃銀御勘定帳 福嶋
屋莊五郎 同前宛 丑年三月

美

一冊

貞松院様御出府道中臨時入料仕上勘定書 御供
小頭齋藤房吉・荒井伴之助 池田富之進・堤千治郎外
四名宛 慶応元年七月

一綴 か七二

。道中臨時入料一紙ノ出勘定書 人馬掛鳥羽友作
・羽生田徳左衛門 齋藤房吉・荒井伴之助宛 元治
二年二月

一通

。舟印持人足賃錢請取証文 倉賀野宿問屋庄兵衛
外 羽生田徳左衛門宛 丑年正月晦日・二月三日

二通

。御用荷貫目改木札代金請渡書 人馬掛荒井伴之
助・羽生田徳左衛門 丑年正月

一通

。御用荷桐油代金請取書 同前 丑年正月

一通

○中山道松井田宿復興助成一件

松井田宿本陣役人歎願書〔宿火災復興の助成拝借
金歎願〕 金井藤右衛門 松代役所宛 天保八年四月

包紙一

一通 か七三

御目付伺書〔松井田宿歎願書の取扱方〕 (家老宛)
四月一九日

一通 か七三

拝借掛御答書〔同前の件諮問答申、先例無きにより
確答なしとざる旨〕 四月

一通 か七三

郡方御答書〔同前答申、大名諸家並方に准ずるが妥
当の旨〕 四月

一通 か七四

矢沢監物書状〔諸役人の意見別紙の通り、江戸諸家
並方調べられたき旨〕 小山田采女宛 四月二二日

一通 か七五

江戸留守居申上書〔榊原家外の先例調査報告〕
座間百人 閏四月

一通 か七六

榊原家道中宿々助成先例書〔榊原家留守居〕 (座
間百人宛)

一通 か七七

規 式

規 式

真田家留守居伺書并附札〔積奠献備の件ニ付、真
田幸専服忌のため如何心得べき哉の旨〕 小松文治
(林大学頭宛) 文政二年二月九日

包紙二

一通 か二七〇

御誦初城中着座心得書 (真田家留守居カ) 天保
四年二月二日

一通 か二六五

(雄若御守役申上書)〔雄若文武入門ニ付幣物員数
方上申〕 卯(天保一四年カ)四月一五日

一通 か二六一

正月御かさり覚

一通 か二七二

御省略中正月祝事覚

一通 か二六

登 城

幕府御目付達書〔江戸城内玄関前迄、用足輕・烏
帽子持を召連れの件〕 土屋帯刀・井上美濃守 (真
田家宛) 文化二年二月

包紙一

二通 か二〇九

某氏申上書〔殿様登城の節、他家よりの御書到来へ
の応接方、畑小藤太報告の旨取次〕 文化一〇年八
月七日

包紙一

一通 か七九

袋〔下乗内江御挾箱入之儀御伺一件、一二四五ノ一
二四八番在中〕 文化一二年

一点 か三四四

御挾箱一件留守居役報告書

か三四七

1 鈴木弥左衛門申上書〔御挾箱一件ニ付幕府徒目
付と内談、内應伺書提出然るべき旨〕 (真田家執
政方宛) 三月九日

一通

2 鈴木弥左衛門申上書〔幕府徒目付へ謝礼として
反物下賜ありたき旨〕 三月九日

一通

3 鈴木弥左衛門申上書〔御挾箱一件ニ付内談せし幕府徒目付らに被下物ありたき旨〕 五月	二通	か三四五
御挾箱一件留守居伺書	包紙一	
1 真田家留守居伺書〔真田氏登城の折、挾箱を中御門外迄持入れたき旨〕 鈴木弥左衛門（幕府宛）四月	一通	
2 真田伊豆守幸道略譜	一通	
3 伺書案〔前二者の草案〕（鈴木弥左衛門）	一通	
御挾箱一件真田幸専願書	包紙一	か三四六
1 真田幸専願書案〔登城の折、挾箱を中御門外迄持入れたき旨〕（幕府老中宛）	一通	
2 真田伊豆守幸道略譜	一通	
真田幸専伺書并附札〔旧格通り登城の折、挾箱を中御門外迄持入れたき旨〕（老中松平信明宛） 文化一二年五月一日	包紙一	一通 か二〇五
下乗橋内江御挾箱入之儀御伺一件 四月二三日一七月一日	半	一冊 か三四六
真田幸専願書并附札〔持病のため江戸城内にて杖使用の件〕（老中松平信明宛） 文化一三年一月七日	包紙一	一通 か四三三
真田家留守居御聞置書并附札〔真田幸専城中杖使用許可されしにより杖持一人召連の件〕 鈴木弥左衛門（幕府目付簡井佐次右衛門宛） 文化一三年一月八日	包紙一	一通 か三七四
真田幸貴御聞置書并附札〔勝手向難波ニ付登城の折、供人数減少の旨〕（老中大久保忠真宛） 文政一〇年六月一二日	包紙一	一通 か三三三
文政十二年日記書抜〔將軍家和姫婚姻関係〕		二通 か三六六

老中奉書并請書控〔日光正遷宮祝儀御能の見物のため登城すべき旨〕（真田幸貴宛） 天保三年九月四日	包紙一	一通 か五五
老中奉書并請書控〔琉球人御礼ニ付登城すべき旨〕 青山忠裕・水野忠成外三名（真田幸貴宛） 天保三年閏一月三日		二通 か四七五
玉川一学書状〔甲府城代御役御免ニ付御機嫌伺のため明日登城なるや打合の儀承知の旨返報〕 畑権兵衛宛（明治元年カ）正月二五日		一通 か八〇
幕府表坊主衆書状〔明日部屋御用立の儀、同朋頭池田貞阿弥へ申達し取計いたる旨返報〕 徳力孝益・関久門 玉川一学宛 三月晦日	封筒一	一通 か三九五
幕府若年寄申渡書〔狩野伊川院絵の手伝のため江戸に居るべき旨〕（林肥後守忠英） 真田伊豆守家来三村晴山宛 文政九年三月一七日	包紙一	一通 か七五
供立・行列		
両山参詣関係書付	包紙二	か七九
1 真田家留守居御聞置書并附札〔真田家両山参詣の節、持鎧・牽馬の残置場所の件〕 鈴木弥左衛門（幕府大目付宛） 文化一四年五月		一通
2 例書〔真田家享和三年両山参詣の節の先例書〕 鈴木弥左衛門（幕府大目付宛） 文化一四年五月		一通
真田幸貴問合書并附札〔真田家旧格の引戸腰黒駕籠を用いても苦しからざる哉の旨〕（幕府目付宛） 文政九年正月一九日	包紙二	一通 か三六
真田家留守居伺書并附札〔参勤供人数減少令に對し真田家希望人数の提出〕 小松義兵衛（幕府宛） 文政一二年四月四日	包紙二	一通 か七五

御刀拵書〔真田幸専遺骸帛城の節、道中御用差料〕
 山本雄左衛門・高久伊之介外一名 三井源吉・佐藤金 包紙一
 三郎外七名宛 文政十一年十一月
 行列書 文久三年

○御供騎馬提灯一件

御刀番伺書〔殿様御乗切の節、御供の者の騎馬提灯は
 他家同様に提灯御驗御定の上、御渡物とされたき旨〕
 正月

御供方騎馬挑灯御驗之図

公用人御答書〔御供騎馬提灯制定の件、諮問への答
 申〕 二月五日

高野広馬御答書〔同 前〕 二月六日

前嶋友之進御答書〔同 前〕 二月

赤沢助之進進達書〔御刀番伺の通りに衆議同意、御
 驗は洲浜繫き胸赤しかるべき旨〕 真田志摩宛 二月
 六日

○真田家目付通達

千喜良新之進書狀〔主上崩御ニ付殿様御供揃にて今
 朝五時西丸登城を仰出されし旨〕 表御用人宛（慶
 応三年カ）正月五日

河原理助書狀〔明朝御具足祝儀のため御登城の旨〕
 同前宛 正月一〇日

河原理助書狀〔御駕籠にて即刻御登城の旨〕 同前
 宛 正月一〇日

長谷川太郎書狀〔明朝西丸御登城の旨〕 同前宛
 正月一三日

河原理助書狀〔明朝盛徳寺大鋒院牌前へ御参詣の旨〕
 津田 転宛 正月一六日

一通 か二四一
 一綴 か三七〇

一通 か二四三

一通 か二四四

一通 か二四六

一通 か二四七

一通 か二四八

一通 か二四八

一通 か二四四

一通 か三七九

一通 か三七八

一通 か三七二

一通 か三七三

河原理助書狀〔明朝將軍家御機嫌伺のため御登城の
 旨〕 同前宛 正月一八日

河原理助書狀〔九時過に南部坂御屋敷へ砲術稽古の
 ため御出の旨〕 表御用人宛 正月一八日

河原理助書狀〔登城召の老中奉書到来ニ付明日御登
 城の旨〕 同前宛 正月一八日

東条清見書狀〔明朝西丸御登城の旨〕 同前宛 二
 月四日

河原理助書狀〔今日の南部坂御屋敷への御出は延引
 の旨〕 同前宛 二月九日

鈴木治部右衛門書狀〔明日西丸御登城、それより
 南部坂御屋敷へ御出の旨〕 同前宛 二月一三日

鈴木治部右衛門書狀〔明朝芝方丈新御靈所へ御参
 詣の旨〕 同前宛 二月一九日

千喜良新之進書狀〔明朝盛徳寺大蓮院牌前へ御参詣
 の旨〕 同前宛 二月二三日

鈴木治部右衛門書狀〔明日南部坂屋敷へ御出の旨〕
 同前宛 二月二五日

鈴木治部右衛門書狀〔明朝落合泰雲寺の法雲院牌
 前御願所へ御参詣の旨〕 同前宛 二月二七日

千喜良新之進書狀〔明日南部坂屋敷へ御出の旨〕
 同前宛 三月五日

長谷川太郎書狀〔明朝西丸御登城をそれより南部坂屋
 敷へ御出の旨〕 同前宛 三月一三日

鈴木治部右衛門書狀〔明朝南部坂屋敷へ御出の旨〕
 同前宛 三月一四日

鈴木治部右衛門書狀〔明朝、助御用番老中松平周
 防守へ御逢御動の旨〕 同前宛 三月一五日

一通 か三七三

一通 か三七四

一通 か三七七

一通 か三八七

一通 か八五五

一通 か二九七

一通 か二九八〇

一通 か二九八三

一通 か二九八三

一通 か二五五

一通 か二七〇四

一通 か三七〇二

一通 か二〇三六

一通 か二〇三七

千喜良新之進書狀〔明朝大森村丁打場へ御出の旨〕 同前宛 四月一二日	一通 か三〇〇
千喜良新之進書狀〔今日の丁打場御出は延引の旨〕 同前宛 四月一二日	一通 か三九九
長谷川太郎書狀〔明朝芝安国殿へ御参詣の旨〕 同 前宛 四月一六日	一通 か三九八
河原理助書狀〔明朝御老中へ御勤の旨〕 同前宛 五月四日	一通 か三九六
長谷川太郎書狀〔明日松平玄蕃頭の下へ御出の旨〕 同前宛 五月二〇日	一通 か三九〇
長谷川太郎書狀〔明日諏訪因幡守の下へ御出の旨〕 同前宛 五月二二日	一通 か三八九
長谷川太郎書狀〔明日時候見舞のため所々御勤の 旨〕 同前宛 六月二七日	一通 か三九六
河原理助書狀〔明朝盛徳寺大暁院廟所へ御参詣の 旨〕 同前宛 七月五日	一通 か三九七
河原理助書狀〔明日將軍家御機嫌伺のため御登 城、それより松平左衛門尉方へ御勤の旨〕 同前宛 七月一三日	一通 か三九三
某書狀断簡〔將軍家御法事済みの御機嫌伺のため 御登城の旨〕 八月二〇日	一通 か三七六
河原理助書狀〔明日南部坂屋敷へ御出の旨〕 同前 宛 九月八日	一通 か三六〇
河原理助書狀〔明日御稽古のため南部坂屋敷へ御出 の旨〕 同前宛 一〇月一五日	一通 か三六一
河原理助書狀〔今日五半時、老中稲葉美濃守方へ御 勤の旨〕 同前宛 一〇月二八日	一通 か三六七
河原理助書狀〔明朝諸々御勤の旨〕 同前宛 一一 月三日	一通 か三六三

元治元年参内一件	
真田志摩差図書〔明日参内の節、傘持・供人数の 件〕 御刀番宛 九月四日	一通 か二二七
真田志摩差図書〔参内并公家衆廻勤後の帰還道順の 件〕 同前宛 九月四日	一通 か二二六
山中小平次書狀〔御廻勤の儀ニ付玉川氏より別紙の 通り申来りし旨〕 当番御刀番宛 九月五日	一通 か二一九
矢野六藏書狀〔御廻勤の節、徒士は袴着用や平服な るやの旨問合、勘返付〕 玉川一学宛 九月五日	一通 か二二〇
玉川一学書狀〔中川宮井三家への廻勤作法の件〕 磯田小藤太宛 九月六日	一通 か二二三
岩下半兵衛書狀〔明日重陽参内を命ぜられしこと承 知ありたき旨〕 玉川一学宛 九月八日	一通 か二二三
岩下半兵衛書狀〔明日参内刻限、中座・退出方問 合、勘返付〕 同前宛 九月八日	一通 か二二三
玉川一学書狀〔参内刻限は野宮様に伺い御刀番衆へ 申したる旨〕 岸太五之丞・山中小平次宛 九月八日	一通 か二三四
御廻勤箇所付	一通 か二三五
玉川一学書狀〔当五日の参内・廻勤箇所付を拝見し たき旨〕 御刀番当番宛 (九月)二四日	一通 か二三七
谷口弥右衛門書狀〔供揃刻限・廻勤箇所付の件問合〕 御刀番宛 (九月)二七日	一通 か二二六
○	
御目付書狀写〔殿様明一一日四時の御供揃にて大坂 城代へ御勤のこと仰出されし旨〕 (元治元年カ)	一通 か二二六
老中申渡書〔毛利大膳父子追討は御免、是迄通り大 坂警衛を勤むべき旨〕 真田信濃守(辛教)宛 (元治 元年)九月一六日	一通 か二七毛

野掛・善光寺参詣

○文政六年善光寺辺野掛一件

御勘定役差紙〔急御用ニ付後町村御用向へ出頭すべき旨〕 宮下三郎治 丹波嶋・後町村外一村三役人宛 四月一〇日

宮下三郎治書状〔別紙の通り申来るニ付差上ぐる旨〕 池田良左衛門宛 四月一〇日

包紙一

野掛御供人数積書 四月一〇日

一通か二三

妻科村三役人願書〔野掛小休賄方の入料は冥加として差上げたき旨〕 名主曾兵衛・組頭与兵衛外四名

一通か二三

池田良右衛門・春日儀左衛門宛 文政六年四月一日

御本陣献立

一通か二三〇

野掛順路書

一通か二三

賄方手伝人名前書

一通か二三

御勘定役申上書〔後町村以下より献上の魚菜類品書〕 池田良右衛門・春日儀左衛門 四月

二通か二三

野掛供衆御賄献立

一通か二五

○弘化三年遠乗并善光寺参詣

包紙〔善光寺辺御遠馬、夫々如來江御参詣ニ付下調〕 岡嶋莊藏 弘化三年九月四日

一点か五

真田幸貫御書下写〔善光寺参詣は野掛の含みたること并路固めのこと〕 恩田頼母宛 八月

一通か五

恩田頼母伺書并附札写〔善光寺参詣諸件取調〕 八月八日

二通か五

岡嶋莊藏伺書〔善光寺僧正より問合せの諸件〕 (恩田頼母宛カ) 八月二十九日

一通か五

岡嶋莊藏伺書〔大勸進にての差上物員数・賄方〕 八月二十九日

一通か二〇

深見六三郎伺書并附札〔善光寺参詣時の供連、村方の件〕 郡奉行所宛 八月二十九日

一通か二二

寺内多宮書状〔休息所における供連配置の件〕 岡嶋莊藏宛 八月二十九日

一通か二二

善光寺参詣御供人数書

一通か二二

善光寺寺参詣御供人数書

一通か二二

場所固番士人数書

一通か二五

岡嶋莊藏申上書〔大勸進物見聞取、出役の者見分の儀〕 九月朔日

一通か二六

寺内多宮書状〔野掛の際の馬飼料は村方にて用意されたき旨〕 岡嶋莊藏宛 九月朔日

一通か二六

岡嶋莊藏書状〔寺内書状の取継ぎ〕 恩田頼母宛 九月朔日

一通か二六

郡奉行書状案〔善光寺参詣の折、出迎・馳走は無用の旨外〕 岡嶋莊藏・竹村金吾外一名 上田丹下・山極亦兵衛宛 九月二日

三通か二六

申上書控〔善光寺参詣取計方ニ付松本嘉十郎出役のため付人足輕等を普請奉行に命ぜられたき旨〕 (岡嶋莊藏カ) (九月二日)

一通か二七

大仏頂院役人書状〔明後四日、殿様遠乗にて善光寺参詣の旨承知返報〕 上田丹下・山極亦兵衛 岡嶋莊藏・竹村金吾外一名宛 九月二日

一通か二〇

松本嘉十郎書状〔中之条代官川上金吾助、今晚善光寺止宿しおる旨〕 岡嶋莊藏・山寺源太夫宛 九月三日

一通か二六

上田丹下書状〔参詣供人数并中之条代官当地止宿の件〕 岡嶋莊藏宛 九月三日

一通か二三

寺内多宮書狀〔善光寺大勧進より進物の件〕 同前 宛 九月五日	一通 か 二二
岡嶋莊藏書狀控〔進物両品宜しく取計れたき旨〕 上田丹下宛 九月六日	一通 か 二三
申上書控〔当月四日の善光寺参詣の御札を大仏頂院 役人より申越せし旨〕 (御用番家老宛) 九月七日	一通 か 二〇
善光寺参詣先例書〔文政七・天保三年分〕 (恩田 頼母) (真田幸貫宛)	一綴 か 六
善光寺参詣次第書案	一二綴 か 二四
善光寺参詣諸事留書〔弘化三年八月二七日―二九 日〕 (岡嶋莊藏カ)	一綴 か 二五
御郡方役伺書〔善光寺両寺より被下物を返却の件取 計方〕 九月四日	一通 か 二三 ― 1
回牒〔前件取計方相談申入〕 矢沢監物 鎌原石見 ・恩田頼負外一名宛 (天保頃) 九月五日	一通 か 二三 ― 2
議事申上書〔諸社寺御参詣御出口・御服之儀〕 (明 治期) 正月	一通 か 四四
諸社参詣案件覚書	一綴 か 四五
御供立減略一件	
新御殿御家扶伺書〔真晴院様御供立の儀ニ付別帳の 通り取調べたる旨〕 (明治三年カ) 正月	一通 か 三六
真晴院様御供立 新御殿御家扶	一二綴 か 三五
貞松院様付御家扶伺書〔貞松院様長国寺参詣ニ付 御供人数拝借したき旨〕 二月	一通 か 三七
計政副主事御答書〔御二方様御供立の儀御尋ニ付 答申〕 二月	一通 か 三六

監察御答書〔同 前〕 二月	一通 か 三九
議事御答書〔同 前〕 二月	一通 か 四〇
理事御答書〔同 前〕 二月五日	一通 か 四二
少参事申上書〔御二方様供立の件ニ付諸有司意見を 取纏め具申〕 二月七日	一通 か 四三
慶 事	
婚 姻	
村上内藤家家老書狀〔真田政姫の化粧料贈進の御 書取返却の件は留守居に委ねられたき旨〕 江坂監物 大熊長門宛 文政八年六月二二日	一通 か 四六
真田家留守居懸合書并附札〔縁組ニ付御普請金・ 化粧料贈方の件〕 座間百人 (郡山柳沢家宛) 文政 九年三月	一通 か 四三
縁組願書案〔柳沢家女と真田貞四郎との縁組〕 幕 府御先手組細井出雲守・奥山主税助 (幕府宛) 文政 九年八月五日	一通 か 五元
御施行物頂戴願書〔道姫様縁組ニ付座頭・盲女へ祝 儀物下されたき旨〕 座元山石一外四名 郡方奉行 所宛 天保八年二月	一通 か 六二
金児丈助伺書〔道姫様縁組ニ付座頭・盲女祝儀頂戴 の儀〕 二月	一通 か 六三
御買物役伺書〔道姫様縁組ニ付三小屋非人祝儀米頂 戴の儀〕 二月	一通 か 六四
恩田奎差図書〔座頭・盲女・非人への祝儀の件伺の 通りたるべき旨〕 金児丈助宛 一二月一三日	一通 か 六五
鉄漿式	

袋〔貞姫様初御鉄漿御祝儀一件、一三九〇一四八番在中〕 弘化三年十一月	一点 か二三
桑名松平家人書状〔御状の趣、貞姫へ申し上げたる旨返報〕 宇野五郎左衛門・大平九左衛門 鹿野牧人宛 七月一八日	一通 か二四四
高田幾太書状〔御鉄漿儀式道具取揃方、入用金支払方問合〕 同前宛 九月一八日	一通 か二四〇
桑名松平家人書状〔御祝道具・膳部は真田家にて取揃えられたき旨〕 同前宛 九月二二日	一通 か二四六
御鉄漿式道具品書	一通 か二四二
御鉄漿式道具代銀積書 伊勢屋善四郎 真田家役人宛 午年九月	一通 か二四七
御鉄漿式道具納入目録 同前 同前宛 午年九月二四日	一通 か二三九
桑名松平家人書状〔御鉄漿御祝道具取揃方、万事手輕となすこと承知の旨返報〕 宇野五郎左衛門・大平九左衛門 鹿野牧人宛 九月二九日	一通 か二四四
書状控〔此度御鉄漿祝儀は先方役人へ頼切となすべきこと、自分の掛りを免ぜられたき旨〕〔鹿野牧人カ〕 高田幾太宛 九月	一通 か二四三
御鉄漿式御召物品書	一通 か二四
貞姫様御鉄漿初御祝儀之記 南部坂御守役 一二月 半	一冊 か二四八
袋〔秀姫様御鉄漿初二付諸控、一一五〇〜一一五九番在中〕 (嘉永二年カ)	一点 か二四九
南部坂御守役申上書控〔秀姫御鉄漿初祝儀、御召物類は表方にて出来ニ付入料を支払われたき旨〕 西 (嘉永二年カ) 七月二二日	一通 か二五〇
伺書控〔御鉄漿初祝儀進物方、員数・入料取調伺い〕 (南部坂御守役カ) 八月	一通 か二五五

御鉄漿初祝儀御召物覚書	一通 か二五
御鉄漿初祝儀入料一件在所評議留書 九月	一通 か二五
申上書控〔御祝儀の御召物は何卒新調されたき旨〕 (南部坂御守役カ) (池田要人宛) 酉年一〇月七日	一通 か二五
池田要人書状〔秀姫御召物の件は別紙勘定吟味役・望月主水殿書面にて心得られたき旨〕 小野肇宛 酉年一〇月二七日	一通 か二五
差図書写〔勘定吟味役の意見書・家老望月主水より差図書の写〕 一〇月二二日・二三日	一通 1 2
申上書控〔御召物調製は御賄料の内にてはなし難き旨〕 (南部坂御守役カ) (望月主水宛) 酉年二月朔月	一通 1 2
申上書控〔御祝式は御年限明まで延引とするとも御召物調製はこの節になされたき旨〕 (同前カ) (池田要人宛) 酉年二月一日	一通 1 2
回牒〔秀姫御召物調製の件、儉約中ニ付表方支払はなり難きこと、意見聴取〕 恩田頼母 鎌原石見・小山田老岐外一名宛 一月一四日	一通 1 2
御鉄漿初祝儀進物御仕向書 (真田幸貫室お雅)	一通 1 2
御鉄漿道具進献目録写 (本多家室) (晴姫宛) (嘉永六年カ)	一通 1 2
御鉄漿初儀式次第書〔晴姫分カ〕 関野 (嘉永六年カ)	一通 1 2
御鉄漿初祝儀進物御仕向書 (高松松平家衛姫分) 慶応二年四月二七日	一通 1 2
御鉄漿初祝儀進物御仕向書 (同 前) 四月二七日	一通 1 2
その他	一通 1 2

植木直衛書状〔殿様有封入ニ付割合献上金を差上ぐる旨〕 宮下孫兵衛宛 六月朔日

一通 か二三〇

御奥元ノ役申上書案〔長井平馬縁者を御取揚とし
たき旨〕 (同前宛) 九月(七日)

一通 か一五四

御書取〔大殿様五十の年賀ニ付、家中の者より詩歌
・俳偈を差上ぐべき旨〕 (家中宛)

一通 か二四〇

恩田頼母差図書〔別紙何の通り承済みたる旨〕 御
奥元ノ役宛 九月八日

一通 か一五三

御用状別紙〔当一五日殿様祝誕ニ付大殿様より進物あり、
答礼の儀は其表にて取計れたき旨〕

一通 か三〇三

恩田頼母差図書〔同 前〕 御奥元ノ役宛 九月
二二日

一通 か一五〇

御枕鎗等被進之御吹聴留書

一通 か二四〇

御奥元ノ役伺書〔御出生前後御用意物人料の儀、先
例取調へ伺い〕 九月(二四日)

一通 か一五〇

祝儀目録

祝儀進物目録 保寿院・玉振院・少将外

九通 か三

祝儀進物目録 柳沢時之助・真華院 信濃守宛

三通 か四

祝儀進物目録 松平讃岐守・玄蕃頭外 信濃守・右
京大夫外宛

六通 か五

包紙五
札紙六

祝儀進物御仕向書〔珠光院・はつ入米時の贈答外〕

四通 か二六

祝儀進物御仕向書〔郡山柳沢・高松松平家と真田家
との贈答〕

三通 か二七

祝儀進物御仕向書〔晴姫・秀姫ら上巳節句ニ付高松
松平家よりの進物〕

二通 か二八

御土産物御仕向書〔貞姫・秀姫の築地屋敷(桑名松
平家)訪問時の進物〕

一通 か一九

誕生

雄 若

○安政六年雄若誕生一件

御奥元ノ役伺書〔御側久米妊身ニ付着帯の御祝なし
下されたき旨〕 (恩田頼母宛) (安政六年)九月(七
日)

一通 か二五元

御書取〔安産祈禱・吉方勘申・御宮参日限等諸件指
示〕 (恩田頼母) 山中鹿渡宛 (一一月晦日)

一通 か一五五

山中鹿渡伺書〔火鉢・三方・台十能御買上取計れた
き旨〕 一一月(二四日)

一通 か一五四

山中鹿渡申上書〔御乳持被下物員数取調書〕 一一
月二四日

一通 か一五元

山中鹿渡伺書〔諏訪部市郎治女せいを御乳持として
抱入れたき旨〕 一一月(二四日)

一通 か一五六

恩田頼母差図書〔御用意御猪樟子等出来の儀、承済
みたる旨〕 山中鹿渡宛 一〇月二〇日

一通 か一五七

恩田頼母差図書〔別紙の趣、招呼内意致すべき心得
にて申通すべき旨〕 山中鹿渡宛 一〇月一四日

一通 か一五五

恩田頼母差図書〔別紙申立の件承済みたるニ付其向
へ談すべき旨〕 山中鹿渡宛 一〇月三日

一通 か一五四

山中鹿渡申上書〔御用意物の内、御あふりこは有合
御用立ニ付出来方見合わせたき旨、内々申上〕 一〇
月

一通 か一五元

恩田頼母差図書〔御抱守・乳持へ被下物の儀、伺の
通り承済みたる旨〕 山中鹿渡宛 一〇月朔日

一通 か一五五

御書取〔御抱守・乳持誓詞ニ付下案取調べ上申すべき旨〕 同前宛 (二月晦日)	一通 か一五六	山中鹿渡伺書〔御名箱并御上箱出来方〕 二月(二五日)	一通 か一五三
御書取〔当月より出産迄の御取揚・抱守・乳持等の詰方・賄方ニ付諸件伺の通り心得べき旨〕 同前宛	一通 か一五五	山中鹿渡伺書〔御抱守いろ奉公上リニ付酒肴下されべき旨〕 二月二六日	一通 か一五三
恩田頼母差図書〔別紙伺の通り承済、但し減額にて取計うべき旨〕 同前宛 二月朔日	一通 か一五三	山中鹿渡伺書〔暮目御用品々、御用済みの後は返却すべきや御用掛りの者へ下賜となるやの旨〕 二月(二六日)	一通 か一四三
恩田頼母差図書〔御抱守・乳持誓詞前書差越したるにより急ぎ取計うべき旨〕 同前宛 二月二日	一通 か一五七	恩田頼母差図書〔殿様服忌のため明日の御七夜内祝延引の旨〕 御奥元メ役宛 二月二七日	一通 か一四九
恩田頼母差図書〔御取揚より夜具拝借の件山中鹿渡伺ニ付、同人手にて取計うよう申通すべき旨〕 片岡十郎兵衛宛 二月四日	一通 か一五五	山中鹿渡伺書〔御七夜延期となるも来正月に御酒被下はありたき旨、評議上申〕 二月二八日	一通 か一五〇
恩田頼母差図書〔別紙の通り心得べき旨〕 山中鹿渡宛 二月四日	一通 か一五四	恩田頼母差図書〔使廻一人増の件承済みたる旨〕 山中鹿渡宛 二月二八日	一通 か一五一
山中鹿渡伺書〔御用意物の内上々様より進ぜらるる品と然らざる品との区訳方〕 二月(二二日)	一通 か一五二	恩田頼母差図書〔別紙伺の通り承済みたる旨〕 同前宛 二月晦日	一通 か一五八
恩田頼母差図書〔御守袋・天児等用意物区訳方、伺の通り承済みたる旨〕 山中鹿渡宛 二月一六日	一通 か一五六	恩田頼母書状〔初の年頭祝儀として雄若へ破魔弓進ずるニ付宜しく取計れたき旨〕 同前宛 (万延元年)正月三日	一通 か一五四
三沢刊部丞書状〔御むつき仕立の件、老人へ申渡したるころ冥加至極とて赤飯献上したき由の旨〕 同前宛 二月一七日	一通 か一五三	恩田頼母書状〔今日御七夜内祝ニ付、過日の申渡しの如く取計うべき旨〕 同前宛 正月四日	一通 か一五一
恩田頼母書状〔久米男子出産のこと承知、明朝江戸へ飛脚指出しの旨〕 同前宛 二月二〇日	一通 か一五七	山中鹿渡申上書〔暮目御用済品々取調べ上申〕 正月一〇日	一通 か一四四
恩田頼母書状〔御出生様容体を御医師に相談のうえ報告すべき旨〕 同前宛 二月二二日	一通 か一五八	山中鹿渡口上伺書〔御宮参日限・御守刀遣され方・諏訪宮への御備金等の件〕 正月一三日	一通 か一五五
恩田頼母書状〔明後日飛脚指出ニ付其後の容体を明夕までに月番家老に報告すべき旨〕 同前宛 二月二二日	一通 か一五九	恩田頼母差図書〔御宮参伺いの件、附札の通り心得べき旨〕 山中鹿渡宛 正月一五日	一通 か一五九
恩田頼母差図書〔岩下章五郎妹いろ御抱守となすべき件、伺の如く承済みたる旨〕 同前宛 二月二四日	一通 か一五三	恩田頼母差図書〔御宮参御七夜内祝の節の赤飯、御酒被下は雄若賄料の内にて取計うべき旨〕 同前宛 正月一七日	一通 か一五三

玉川左門差図書〔伺の通り心得べき旨〕 同前宛
五月一二日

玉川左門差図書〔別紙式次第を御前様・介添の老女へ伝達すべき旨〕 同前宛 五月一七日

着帯儀式次第書

玉川左門差図書〔着帯式ニ付殿様・貞松院への答礼使者を勤むべき旨〕 御守役宛 五月二〇日

玉川左門差図書〔秦名松平家其外への答礼進物方〕 同前宛 五月

御前様着帯祝儀進物御仕向書

御書取〔着帯の節、上杉家奥方よりの進物の件承済みたる旨〕 御守役宛

御書取〔御前様着帯式後、山王へ代参すべき旨〕 同前宛

御書取〔御台所定人数へ赤飯・酒下賜の件承済みたる旨〕 同前宛

御書取〔御前様御産用意物の件、万事入料減を心掛くべき旨〕 同前宛

御書取〔着帯式祝儀の節、料理・酒被下方〕 同前宛

御書取〔祝儀到来物への答礼方を御留守居役石川新八へ申渡しおきたる旨〕 同前宛

御書取〔順操院以下への御目録被下方〕 同前宛

元服着帯儀式次第書案

御前様着帯袖留祝儀物御仕向書 表御用人

一通 か九二

一通 か九一

二通 か九九

一通 か九六

一通 か二〇一

一通 か九七

一通 か九七

一通 か九〇

一通 か九三

一通 か九四

一通 か九五

一通 か九八

一通 か九九

一通 か九八

一綴 か二二三

○万延元年豊松御七夜祝

御書取〔来二二日御七夜内祝ニ付其段御側向へ通達すべき旨〕 御側役宛

御七夜祝儀物覚書〔諸方への進物、御用掛役人への被下物等取調覚書〕

御七夜祝儀物覚書〔玉川左門、裏目御用鈴木内蔵允・座間百人、御側役 御守役外への被下物〕

御七夜祝儀物覚書〔同 前〕

御七夜祝儀御用掛女中等名前書

御用状控〔豊松御七夜枕直御祝の節、進物・被下物員数の件ニ付評議結果を江戸へ進達〕

御答書控〔御祝儀省略方ニ付諮問への答申〕
重姫様御七夜祝儀物先例書

御産着代金勘定書 遠金屋半三郎 御側御納戸役宛 一〇月一三日

望月婦一郎申上書〔若殿誕生祝儀として八幡社別当・神主より献上物ありし旨〕 十一月二八日

御答書控〔御出生様御抱守・御乳持雇方格法の件答申、二男以下の出生は本腹・脇腹にても手輕の取扱いとなすべき旨〕

棄 松

○文久元年棄松誕生

御奥元メ役同書〔久米妊身ニ付着帯御祝なされたき旨〕 (赤沢助之進宛) (文久元年) 三月

御奥元メ役申上書〔長井平馬縁者ように御取揚御用申渡ししたき旨〕 (赤沢助之進宛) 三月

一通 か二〇三

一通 か二〇五

一綴 か二〇三

一綴 か二〇六

一通 か二〇六

一通 か二〇七

一通 か二〇八

一通 か二〇九

一通 か二一〇

一通 か三一

一綴 か三六

一通 か二〇三

一通 か二〇六

一通 か二〇九

赤沢助之進差図書〔別紙何の如く承済みたる旨〕 御奥元ノ役宛 三月一八日 一通 か二四六三

赤沢助之進差図書〔同 前〕 同前宛 三月二六日 一通 か二〇五三

小山田菅右衛門伺書〔久米妊身ニ付桜井与平御取扱の儀〕 四月朔日 一通 か二四四六

申上書案〔長局普請図面早急に送られたき旨〕 (小山田菅衛門カ) 四月一九日 一通 か二四七一

長局御普請箇所付 一通 か二四七三

御奥元ノ役伺書案〔御側御雇はま病氣ニ付御暇下されたき旨〕 五月 一通 か二四六〇

御奥元ノ役伺書〔はま御殿より帰府までの一〇日間の御賄下されたき旨、内々伺い〕 六月 一通 か二四五〇

御奥元ノ役伺書〔御用意物の儀、雄若誕生の先例を以てなす旨〕 六月 一通 か二〇三四

御奥元ノ役伺書控〔久米妊身ニ付御用意物の儀、内々伺い〕 六月 一通 か二四六六

御奥元ノ役伺書案〔同 前〕 一通 か二四六三

御出生様御用意物品書〔夜具・簞笥・履物・傘等〕 一通 か二四六七

御簞笥寸法書 一通 か二四六四

御奥元ノ役伺書〔臍帯箱・薬箱出来方命ぜられたき旨、内々伺い〕 六月 一通 か二四四七

赤沢助之進差図書〔臍箱等出来方、承済みたる旨〕 小山田菅右衛門宛 七月五日 一通 か二〇三元

山中鹿渡伺書〔養目御用の品々請取方々向々へ命ぜられたき旨〕 六月 一通 か二〇三〇

山中鹿渡伺書〔養目儀式の弓矢用意方〕 六月 一通 か二〇三三

赤沢助之進差図書〔別紙何の通り承済みたる旨〕 御奥元ノ役宛 六月一九日 一通 か二四五二

赤沢助之進差図書〔同 前〕 小山田菅右衛門宛 六月二五日 一通 か二四五三

御奥元ノ役伺書〔新長局押込物等の儀〕 六月 一通 か二〇六

御奥元ノ役伺書案〔新長局世帯道具御渡しの儀〕 七月 一通 か二四五四

赤沢助之進差図書〔別紙何の如く承済みたる旨〕 山中鹿渡宛 七月五日 一通 か二〇五

赤沢助之進差図書〔別紙何の如く承済み、尚一層減略すべき旨〕 御奥元ノ役宛 七月五日 一通 か二〇六

赤沢助之進差図書〔別紙何の如く承済みたる旨〕 同前宛 七月五日 一通 か二〇三七

赤沢助之進差図書〔御出生様成長の祈禱を開善寺へ申すべき旨〕 小山田菅右衛門宛 七月一六日 一通 か二四三

御産吉方占文 開善寺 (真田家宛) 七月一六日 一通 か二〇三三

御用状控〔今晩久米男子出産、殊の外丈夫の段宜しく仰せ上げられたき旨〕 (松代役人) (江戸役人宛) (七月一六日) 二通 か二四四四

御用状控〔久米男子出産、母子共に元氣の旨〕 一通 か二〇三三

小山田菅右衛門書状控〔御乳持はな御抱の件〕 赤沢助之進差宛 七月一六日 一通 か二四四六

某申上書〔御乳持候補の者、出産日・乳量・筋目の儀取調報告〕 一通 か二四四

御書取〔御七夜まで一人ツゝ詰切にて勤むべき旨〕 (赤沢助之進) 御奥元ノ役宛 一通 か二〇三三

小山田菅右衛門伺書〔御側医・御取揚の賄方、御産前後取計方ニ付先例取調〕 七月一六日	一通 か二三四	赤沢助之進差図書〔別紙の通り心得べき旨〕 小山田菅右衛門宛 七月二六日	一通 か二〇五
赤沢助之進差図書〔別紙伺の通り承済み、其向へも申渡したる旨〕 小山田菅右衛門宛 七月一六日	一通 か二〇五	赤沢助之進差図書〔別紙伺の如く承済みたる旨〕 同前宛 八月五日	一通 か二〇五
小山田菅右衛門伺書〔御取揚よそへ酒肴下されたき旨〕 七月	一通 か二〇四	御宮参祝儀御用掛名前書〔御奥元ノ役〕	一通 か二四九
矢沢将監差図書〔堀内連妻はな御出生様乳持・御末格たること心得べき旨〕 御奥元ノ役宛 七月一七日	一通 か二四三	赤沢助之進差図書〔棄松御七夜内祝の儀伺の如く承済みたる旨〕 小山田菅右衛門宛 八月二一日	一通 か二四四
伺書案〔御出生様御入料中借金之儀、其向へ仰渡されたき旨〕 (小山田菅右衛門カ) 七月一七日	二通 か二四六	赤沢助之進差図書〔御七夜内祝の節小山田菅右衛門へ祝儀物下賜の儀、伺の如く承済みたる旨〕 御奥元ノ役宛 八月二一日	一通 か二四三
赤沢助之進差図書〔御乳付・乳持の者へ酒・賄下され方、伺の如く承済みたる旨〕 小山田菅右衛門宛 七月一七日	一通 か二〇七	伺書案〔棄松御宮参代参の儀ニ付内々伺い〕 (小山田菅右衛門カ)	一通 か二四五
赤沢助之進差図書〔御問操の儀、伺の如く承済みたる旨〕 同前宛 七月一八日	一通 か二〇六	内山上総書状〔棄松御宮参ニ付御役方代参の儀承知の旨、請書〕 小山田菅右衛門宛 八月二七日	一通 か二四九
小山田菅右衛門伺書〔行燈敷等御用意物の調進を命ぜられたき旨〕 七月一八日	一通 か二〇六	申上書案〔御料理所御道具調達方取調上申〕 (御奥元ノ役)	一通 か二〇五
小山田菅右衛門伺書案〔御出生様御付御用の儀、御奥へ頼むべきやの旨〕 七月	一通 か二〇七	奥女中御用勤書	一通 か二四七
赤沢助之進差図書〔御出生様中借の儀、伺の如く承済みたる旨〕 小山田菅右衛門宛 七月一八日	一通 か二〇二	小山田菅右衛門伺書案〔棄松御箸揃の節、進物の儀〕	一通 か二四三
赤沢助之進差図書〔別紙伺の如く承済みたる旨〕 同前宛 七月一九日	一通 か二〇三	赤沢助之進差図書〔棄松不快中、女中・医師賄料は吟味方より受取るべき旨〕 御奥元ノ役宛 九月二一日	一通 か二四二
赤沢助之進差図書〔山岸助蔵御初剃勤めの節、酒肴下されの儀承済みたる旨〕 同前宛 七月二一日	一通 か二〇九	天保六年十二月日記書抜	一綴 か二〇九
小山田菅右衛門伺書〔暮目御用済みの品々先例通り御用掛へ下賜されたき旨〕 七月二三日	一通 か二〇五	御奥元ノ役伺書并附札〔雄若御宮参の儀ニ付先例取調〕 (万延元年) 正月	一通 か二〇六
恩田頼母差図書〔別紙御金出の儀申立の通り承済みたる旨〕 御奥元ノ役宛 七月二三日	一通 か二〇二	山中鹿渡伺書〔雄若百日并御箸揃内祝の儀、先例取調〕 (万延元年) 二月	一通 か二〇七

若殿様御誕ニ付為御祝儀御酒被下一巻 万延二年正月一三月

半

一綴 か一四九

○文久元年棄松卒去

御奥元メ役伺書〔碧松院〔棄松〕御守刀・御大小・御枕鎗返却の儀〕（文久元年）一一月

一通 か一四九

大十文字御鎗請取書案

一通 か一四六

申上書控〔棄松出生の節殿様よりの被進物、卒去ニ付引渡方〕

一通 か一四七

小山田菅右衛門廻状控〔奥女中被下物員数の儀相談申入〕 山岸助藏 綿内右門外一名宛 一一月一九日

一通 か一四七

御奥元メ役伺書案〔御乳持はな拝借金渡捨の儀内々伺い〕 一一月

一通 か一四六

伺書案〔同 前〕（御奥元メ役）

一通 か一四六

御腰物請取証文〔棄松卒去ニ付引渡御刀目録〕 齋藤善藏・永井市治外九名 小山田菅右衛門・山岸助藏外二名宛 文久二年五月

一通 か一四七

小山田菅右衛門伺書〔久米へ碧松院遺金五百疋下されたき旨、内々伺い〕（文久二年）六月

一通 か一四七

碧松院御遺物配分書案

一通 か一四六

かね

○文久三年かね誕生

赤沢助之進差図書〔御側女中ひさ妊身ニ付中老茂尾に御用取扱の内意を申渡すべき旨〕 御奥元メ役宛（文久三年）七月九日

一通 か一三五

山岸助藏伺書〔御側女中ひさ着帯ニ付祝儀物下され方〕 七月（二日）

一通 か一三六

赤沢助之進差図書〔伺の通り承済みたる旨〕 山岸助藏宛 七月一七日

一通 か一三九

山岸助藏伺書〔ひさ妊身ニ付御出生様御入料中借の儀〕 七月

一通 か一四〇

赤沢助之進差図書〔伺の通り承済みたる旨〕 山岸助藏宛 七月二四日

一通 か一四一

赤沢助之進差図書〔御出生様御用意物出来の儀承済み、其向へ申渡しおきたる旨〕 同前宛 八月一六日

一通 か一三六

御買物所進達書〔水桶等取揃命ぜられたるニ付寸法を報らせられたき旨〕（御奥元メ役宛） 一七日

一通 か一三三

御出生様御用意物御奥江相廻し候品覚 文久三年一〇月

一冊 か一三一

御奥元メ役申上書〔御出生様乳持・抱守の切米下され方〕 一一月（二日）

一通 か一三六

赤沢助之進差図書〔乳持・抱守切米の件申立の如く承済みたる旨〕 御奥元メ役宛 一一月一〇日

一通 か一三七

御産吉方占文写 開善寺（真田家宛） 一一月六日

一通 か一三五

包紙一

1口上覚書〔神符は清浄の水に入れて頂戴ありたき旨〕 開善寺（真田家宛） 一一月六日

一通 か一三八

2御産吉方占文 同前（同前宛） 一一月六日

一通

御奥元メ役伺書案〔ひさ産月近きニ付誕生より御七夜まで諸事取調〕（河原敬之進・山岸助藏）（一一月七日）

一通 か一三〇元

鎌原伊野右衛門差図書〔浅井佐一郎妻てうを乳持御末格となすべき旨〕 御奥元メ役宛 一一月一〇日

一通 か一三三

鎌原伊野右衛門差図書〔てう乳持ニ付切米・仕立代等を下さるべき旨〕 長谷川三郎兵衛宛 一一月一日

一通 か一三六

赤沢助之進差図書〔別紙書類を返却の旨〕 山岸助藏宛 一二月一〇日	一通 か三四四	赤沢助之進差図書〔何の如く承済みたる旨〕 同前宛 二月一〇日	一通 か三三九
赤沢助之進差図書〔油てんこ上箱出来の儀承済みたる旨〕 同前宛 一二月三日	一通 か三三〇	草間一路書状〔乳持の里扶持の儀は別段御達無きこと承知されたる旨〕 山岸助藏宛 二月一八日	一通 か三三三
赤沢助之進差図書〔御薬箱・御大小箱出来の儀承済みたる旨〕 同前宛 一二月三日	一通 か三五四	御奥元メ役伺書〔かね姫上巳初節句ニ付、被進物被下物等の儀内々伺い〕 二月(二二日カ)	一通 か三三九
赤沢助之進差図書〔御出生様湯殿炭取の儀承済みたる旨〕 同前宛 一二月三日	一通 か三五四	赤沢助之進差図書〔江府表被進被下物の分はかね姫賄料の内にて取計うべき旨〕 御奥元メ役宛 二月二一日	一通 か三三〇
御目度度覚〔医師投薬勘定書〕 文久三年一二月一三日―元治元年五月二四日	一冊 か三六〇	御奥元メ役伺書案〔暮目御用の品々返却分と御用掛りの者への下賜分との区分方〕 二月二七日	一通 か三三〇
開善寺書状〔御出生様成長の祈禱命ぜられしこと承知并初穂料受納せし旨〕 河原敬之進宛 一二月一三日	一通 か三三三	赤沢助之進差図書〔かね姫御箸揃御用意物の儀〕 山岸助藏宛 二月二八日	一通 か三三四
御奥元メ役伺書〔御出生様御初剃の者へ御酒下され方〕 一二月(一七日カ)	一通 か三三二	御奥元メ役伺書〔かね姫百日祝・御箸揃祝ニ付被進物・被下物の取計方〕 三月	一通 か三三九
伺書控〔かね姫来一五日御宮参ニ付鎮守社への参詣方〕 (山岸助藏) (元治元年正月七日)	一通 か三三二	御奥元メ役伺書〔かね姫御箸揃御用意物覚書〕 三月	三通 か三四四
御書取〔御七夜内祝の節進物方使者を取計うべき旨〕 (赤沢助之進) 山岸助藏宛 (正月一一日)	一通 か三三三	御箸揃御祝御用意物覚書	一通 か三三六
山岸助藏伺書〔御七夜御宮参ニ付御勝手方右筆の者へ被下物ありたき旨、内々伺い〕 正月	一通 か三七二	御奥元メ役伺書〔御箸揃の儀御聞済みあるも此節柄ニ付猶内々伺い〕 三月	一通 か三三五
赤沢助之進差図書〔かね姫御七夜御宮参内祝の儀承済みたる旨〕 山岸助藏宛 正月一一日	一通 か三三三	御書取〔かね姫御箸揃内祝の節、進上物使者取計方〕 御奥元メ役宛	一通 か三七七
被進金銭并献上金銭請払勘定帳 山岸助藏 文久四年正月	一冊 か三七三	御奥元メ役伺書〔行燈敷出来の儀〕 三月(二五日)	一通 か三四二
御書取〔かね姫付として女中二名御雇ニ付被下物は並方の通りたるべき旨〕 御奥元メ役宛	一通 か三七七	赤沢助之進差図書〔行燈敷の儀承済みたる旨〕 御奥元メ役宛 三月二五日	一通 か三四三
赤沢助之進差図書〔上巳初節句雛棚出来の儀伺の如く承済みたる旨〕 河原敬之進宛 二月一〇日	一通 か三三六	御書取〔原与一郎女しき、かね姫御末雇を申渡したる旨〕 御奥元メ役宛 (三月二七日カ)	一通 か三四四

横長半

横半半

かね姫様御誕生前後入用勘定帳 (文久三年) 一二月一三日―(元治元年) 四月

横長半

一綴 か二六六

赤沢助之進差図書〔伺の如く承済みたる旨〕 御奥元メ役宛 四月朔日

一通 か二三三

赤沢助之進差図書〔御箸揃御用の御膳敷出来の儀承済みたる旨〕 綿内右門宛 四月二日

一通 か二三四

御奥元メ役御答書〔御雛箱并御長棹出来の儀、御尋ニ付答申〕 四月(七日)

一通 か二三二

赤沢助之進差図書〔大の棹・ふの箱出来の儀承済みたる旨〕 御奥元メ役宛 四月七日

一通 か二三六

雛人形箱寸法書

一通 か二三三

山岸助藏申上書控〔曩目御用済みたる品々、返上分以外は掛り者共へ下されたき旨〕 四月

二通 か二三〇

御奥元メ役伺書案〔かね姫出生より御箸揃迄の入用金、臨時払切とされたき旨〕

一通 か二三五

赤沢助之進差図書〔別紙伺のかね姫入用金、都て御賄料の内にて取計うべき旨〕 御奥元メ役宛 四月二十九日

一通 か二三六

御奥元メ役伺書案〔諸色高直ニ付かね姫入用金は臨時金となされたき旨再伺い〕

一通 か二三七

御奥元メ役伺書案〔御出生様賄料ニ付減略を加えたる上は宜しく取計れたき旨〕

一通 か三三八

御勝手懸り役申上書案〔かね姫賄料凡積り報告〕 (赤沢助之進宛 四月(二四日)

一通 か三三七

御奥元メ役伺書〔かね姫小袖・簞笥等御用意物出来方〕 四月

一通 か三三〇

赤沢助之進差図書〔かね姫御用意物伺の儀、毛氈は御納戸方有合のものを御用うべき旨〕 御奥元メ役宛 五月一九日

一通 か三三九

御奥元メ役伺書〔かね姫へ端午祝儀として粽餅を進ぜられたき旨〕 五月(三日)

一通 か二三八

○元治元年綾雲院(かね)葬送

横長半

一冊 か二三三

綾雲院様御行列帳 御奥元メ役 (元治元年六月)

一通 か二三八

御葬式参列女中付添小者名前前書 (六月二七日)

一通 か二三七

御焼香順名前前書

一通 か二三二

綾雲院様付女中切米金勘定書

一綴 か二三五

綾雲院様御遺物被下覚

一綴 か二三七

横長半

御書取〔かね姫卒去により長国寺登城の旨〕 御奥元メ役宛 (六月二五日)

一通 か二九七

御書取〔かね姫出棺後、開善寺僧祈禱の取計方〕 同前宛 (六月二五日)

一通 か二九二

御奥元メ役伺書案〔かね姫葬式の節、御付女中へ沐浴下されたき旨〕 (六月二五日)

一通 か二九六

御書取〔葬送御供服装方、長国寺にての法事執行方〕 御奥元メ役宛 (六月二七日)

一通 か二九六

御奥元メ役伺書〔長国寺へ御納物の儀〕 七月(晦日)

一通 か二九五

御奥元メ役伺書〔御暇の女中へ酒賄下されたき旨〕 八月二日

一通 か二九六

赤沢助之進差図書〔伺の通り承済みたる旨〕 御奥元メ役 八月二日

一通 か三〇〇

赤沢助之進差図書〔同 前〕 同前宛 八月七日

一通 か三九六

御書取〔綾雲院法事執行方〕 同前宛 (八月二日)	一通 か二六七
御奥元ノ役伺書〔長国寺へ御納物の儀〕 吟味役宛 八月二六日	一通 か二六三
御奥元ノ役伺書〔綾雲院乳持御暇ニ付御手充被下方〕 八月(一六日カ)	一通 か二七三
御奥元ノ役伺書〔御側女中千代御暇ニ付御手充被下方〕 八月	一通 か二六九
御奥元ノ役伺書〔御奥女中御暇ニ付綾雲院賄料の内にて被下物ありたき旨〕 八月(一七日)	一通 か二七四
御奥元ノ役伺書控〔綾雲院御付女中御暇并付替の儀〕 八月(一七日)	一通 か二九〇
御奥元ノ役伺書案〔奥女中こと・乳持てう御暇ニ付被下物ありたき旨〕 八月(一七日)	一通 か二〇三
赤沢助之進差図書〔伺の通り承済みたる旨〕 御奥元ノ役宛 八月二二日	一通 か二七五
御達書〔かね姫卒去ニ付乳持てふに御暇下されしこと申渡すべき旨〕 御奥元ノ役宛 八月二三日	一通 か二七六
御奥元ノ役伺書〔老女ひさへ御遺金被下方〕 八月(二三日)	一通 か二四六
御奥元ノ役伺書〔綾雲院卒去前後の御薬礼被下方〕 八月(二三日)	一通 か二四七
赤沢助之進差図書〔御遺金・薬礼被下方、伺の通り承済みたる旨〕 御奥元ノ役宛 九月四日	一通 か二四六
御奥元ノ役伺書〔御付女中こと御暇ニ付御酒・御賄被下方〕 八月(二三日カ)	一通 か二四九
御奥元ノ役伺書〔乳持・下女御暇ニ付御酒・御賄被下方〕 八月(二三日カ)	一通 か二八〇

御奥元ノ役伺書控〔綾雲院出生より卒去まで太儀の者への御賞筋〕 八月(二三日カ)	横長半 一綴 か二六四
赤沢助之進差図書〔伺の通り承済みたる旨〕 御奥元ノ役宛 八月二五日	一通 か二四四
赤沢助之進差図書〔同 前〕 同前宛 八月二七日	一通 か二五〇
御奥元ノ役伺書〔法事執行ニ付奥女中の駕籠借入ありたき旨〕 八月	一通 か二九三
御奥元ノ役伺書〔綾雲院御大小・御守刀は元方御金奉行へ引渡すべき哉の旨〕 九月	一通 か二六三
赤沢助之進差図書〔御刀の件、伺の通り承済みたる旨〕 御奥元ノ役宛 九月四日	一通 か二六四
御達書〔綾雲院御末乙女に御末たること申渡すべき旨〕 御奥元ノ役宛 一〇月三日	一通 か二五二
○ 惠雲院様御出棺先例書抜〔万延元年四月〕	半 仮一冊 か二六三
まさ	
○ 慶応三年まさ誕生	
綿内右門伺書〔御側女中直妊身ニ付御出生様御入料中借の儀先例取調伺い、かね姫出生前後入料は金一九四兩余の旨〕 (赤沢助之進差) (慶応三年) 六月	一通 か二四四
赤沢助之進差図書〔伺の通り承済み、御勝手元ノ役へ申渡しおきたる旨〕 綿内右門宛 六月一日	一通 か二六六
赤沢助之進差図書〔御出生様小袖・簞笥出来の儀承済みたる旨〕 同前宛 七月五日	一通 か二六六
赤沢助之進差図書〔御出生様御薬通箱出来の儀承済みたる旨〕 同前宛 七月九日	一通 か二六七

御奥元メ役申上書〔御内用金報告〕 七月	一通 か二六七
十河彦次郎親類内願書〔十河彦次郎姉御奥奉公上りニ付拝借金増額なされたき旨〕 池村良太郎・寺内多宮外一名 八月	一通 か二六九三
鎌原伊野右衛門差図書〔炬燵櫓出来の儀伺の通り承済みたる旨〕 綿内右門宛 九月二二日	一通 か二六八八
鎌原伊野右衛門差図書〔新長局高目隠し外出来の儀伺の通り承済みたる旨〕 山岸助藏宛 九月二二日	一通 か二六七二
綿内右門伺書〔女子出生により御七夜までの間の詰番手配力・夜食賄方命ぜられたき旨〕 九月二七日	一通 か二六三三
鎌原伊野右衛門差図書〔伺の通り承済み夫々へ申渡し置きたる旨〕 綿内右門宛 九月二七日	一通 か二六四六
望月帰一郎差図書〔彦左衛門妹ふちを御乳持御末格となしたること心得べき旨〕 大殿様御奥元メ役宛 九月二七日	一通 か二六五七
開善寺書状〔御胎胞納吉方の儀別紙に認め差上げたる旨〕 綿内右門宛 九月二七日	一通 か二六八七
鎌原伊野右衛門差図書〔御出生様湯殿御刀掛出来の儀承済みたる旨〕 同前宛 九月二七日	一通 か二六四二
鈴木治部右衛門書状〔女子様出生ニ付治部右衛門母参上すべきところ風邪のため猶予の儀願ひ出で〕 同前宛 九月二七日	一通 か二六三三
鎌原伊野右衛門差図書〔乳持へ被下物の儀伺の如く承済みたる旨〕 福津繁人宛 九月二八日	一通 か二六五八
鎌原伊野右衛門差図書〔同前〕 綿内右門宛 九月二八日	一通 か二六五九
福津繁人・綿内右門連名伺書〔御出生様御七夜祝は先例の通りたるべき哉の旨〕 九月	一通 か二六六〇
伺書案〔まさ姫御七夜御宮参内祝の件〕	一通 か二六四四

申上書案〔まさ姫内祝ニ付諸道具取揃の件〕	一通 か二六四〇
於満佐様御宮参行列帳 綿内右門	一綴 か二七〇二
御奥元メ役伺書〔御産御用掛の者へ御七夜内祝の節、祝儀金を下されたき旨〕 一〇月	一通 か二六四三
鎌原伊野右衛門差図書〔伺の通り心得べき旨〕 福津繁人・綿内右門宛 一〇月朔日	一通 か二六三三
綿内右門伺書〔御七夜ニ付御取揚そのへ被下物ありたき旨〕 一〇月三日	一通 か二六三二
鎌原伊野右衛門差図書〔伺の通り承済み、勘定吟味役へ申渡しおきたる旨〕 綿内右門宛 一〇月三日	一通 か二六八一
鎌原伊野右衛門差図書〔新長局外三ヶ所修築の儀承済みたる旨〕 同前宛 一〇月五日	一通 か二六四九
鎌原伊野右衛門差図書〔伺の通り承済みたる旨〕 同前宛 一〇月六日	一通 か二六五九
鎌原伊野右衛門差図書〔台子立二脚・風呂敷出来の儀承済みたる旨〕 同前宛 一〇月六日	一通 か二六六〇
鎌原伊野右衛門差図書〔手桶出来の儀承済みたる旨〕 同前宛 一〇月七日	一通 か二六五九
御七夜祝儀物御仕向書〔殿様・貞松院・大御前様より御出生様への進物〕 一〇二二日	一通 か二二〇〇
綿内右門伺書〔御七夜御宮参の節、児玉九野右衛門妻へ御祝なし下されたき旨〕 一〇月	一通 か二六六一
御勝手元メ役御答書〔児玉妻への被下物の件は勘定吟味役と同意見の旨、諮問への答申〕〔鎌原伊野右衛門宛〕 一〇月二五日	一通 か二六四四
御勘定吟味役御答書〔児玉妻への被下物は満佐姫手許より内々に下されるが妥当の旨、諮問への答申〕 一〇月	一通 か二六四五

鎌原伊野右衛門差図書〔伺の通り承済みたる旨〕 綿内右門宛 一〇月二七日	一通 か二六三
鎌原伊野右衛門差図書〔まさ姫御宮参の節、使者を勤むべき旨〕 福津繁人宛 一〇月二七日	一通 か二六三
綿内右門伺書〔御誕生の節、詰合の者へ御賄の件〕 一〇月	一通 か二四七
綿内右門伺書〔御留守中なれど御出生様御刀掛出来ありたき旨〕 一一月	一通 か二四二
鎌原伊野右衛門差図書〔伺の件は満佐姫分前の内にて取計うべき旨〕 綿内右門宛 一一月八日	一通 か二六二
大日方正司伺書〔篋刀御用の品々取揃方〕 一一月	一通 か二六五
鎌原伊野右衛門差図書〔伺の通り承済み、向々へ申渡しおきたる旨〕 大日方正司宛 一一月一二日	一通 か二六五
綿内右門伺書〔養目御用の品々を取揃方〕 一一月	一通 か二六五
鎌原伊野右衛門差図書〔伺の通り承済み、向々へ申渡しおきたる旨〕 綿内右門宛 一一月一二日	一通 か二六四
綿内右門伺書〔医師河藤読卓へ薬礼を下されたき旨〕 一二月	一通 か二六三
鎌原伊野右衛門差図書〔伺の通り承済みたる旨〕 綿内右門宛 一二月晦日	一通 か二六〇
鎌原伊野右衛門差図書〔まさ姫より歳暮下さる件の伺書については朱書の通り心得べき旨〕 同前宛 (明治元年)正月八日	一通 か二四六
御奥元メ役伺書〔御仲居その奉公上りニ付御酒・御賄下されたき旨〕 二月一五日	一通 か二四四
鎌原伊野右衛門差図書〔伺の通り承済み、勘定吟味役へ申渡しおきたる旨〕 綿内右門宛 二月一五日	一通 か二七三
鎌原伊野右衛門差図書〔まさ姫小道具入簾筒出来の儀承済みたる旨〕 同前宛 閏四月五日	一通 か二六五

江府御用意物覚書	一通 か二六六
申上書案〔御誕生前後出精勤めし者への被下物の件〕 (綿内右門カ)	一通 か二五四
御用状〔まさ・よし姫への進物并伊勢代参御被を贈られしことへの礼状〕 (松代奥方役人七名カ) 江戸奥方役人二名宛 三月一二日	一通 か二四
鹿野茂手木書状〔真田幸民・貞松院等より満佐姫宛の振分金品の送付方〕 宮下孫兵衛宛 一二月一六日	一通 か二五
江戸御側役御用状〔当七月別紙の通り取計らいたるにより早速仰立られ御廻し下されたき旨〕 竹内晋平・鹿野茂手木 山中鹿渡・山岸助蔵外二名宛 七月一日	一通 か二九五
よし	
○明治元年よし誕生	
於与之様出産覚書	一通 か九五
中嶋渡浪伺書〔御側女中かつ妊身ニ付着帯祝儀并被下物の儀〕 (慶応三年)九月	一通 か九七
中嶋渡浪伺書〔かつ妊身ニ付出産前後入料取扱方〕 九月	一通 か九六
赤沢助之進差図書〔伺い承済み、御勝手元メへ申渡ししたる旨〕 中嶋渡浪宛 九月八日	一通 か九九
赤沢助之進差図書〔伺の通り承済みたる旨〕 同前宛 九月八日	一通 か九〇
鎌原伊野右衛門差図書〔同 前〕 同前宛 九月一〇日	一通 か九四
斎藤友衛書状〔今日の御祝に不参の旨〕 同前宛 九月一二日	一通 か九六

五五

御書取〔御出生様初剃は来る二七日に勤むべき旨〕 同前宛	一通か九七	鎌原伊野右衛門差図書〔御箸揃献立の儀ニ付勘定 吟味役より別紙の通り上申の旨〕 同前宛 閏四月二 七日	一通か九三
御奥元々役伺書〔御七夜祝儀の件〕 河原敬之進・ 中嶋渡浪 二月	一通か九六	中嶋渡浪伺書〔御箸揃祝儀ニ付飯米等は御賄所より 請取りたき旨〕 五月	一通か九四
鎌原伊野右衛門差図書〔伺の通り取計うべき旨〕 河原敬之進・中嶋渡浪宛 二月二四日	一通か九六	鎌原伊野右衛門差図書〔御箸揃献立の儀承済みた る旨〕 中嶋渡浪宛 五月一〇日	一通か九四
中嶋渡浪伺書〔御取揚つきへ酒肴下されたき旨〕 二月	一通か九五	鎌原伊野右衛門差図書〔御箸揃飯米の儀、郡方へ 申渡しおきたる旨〕 同前宛 六月三日	一通か九三
鎌原伊野右衛門差図書〔伺の通り承済み、勘定吟 味役へ申渡しおきたる旨〕 中嶋渡浪宛 二月二六日	一通か九五	御書取〔御用掛外の者へ御賄被下方の儀承済み委細 大殿御側納戸役へ談すべき旨〕 同前宛	一通か九三
佐々木玄又書状〔疝痛にて明日新御殿への参向なり 難き旨〕 嶋田全隆宛 三月二二日	一通か九三	新御殿御守役伺書〔湯本久次郎拝借金願出の件〕 〔鎌原伊野右衛門宛〕 六月	一通か九元
嶋田全隆書状〔今日新御殿へ出づべきところ急病に て叶はぬ旨〕 中嶋渡浪宛 三月二三日	一通か九二	南沢甚之介書状〔湯本久次郎拝借金許可ありたき 旨〕 鎌原伊野右衛門宛 六月五日	一通か九三
嶋田全隆口上書〔ただ今全快したるにより登城すべ き旨〕 〔中嶋渡浪宛カ〕 三月二三日	一通か九七	鎌原伊野右衛門差図書〔飯米省略の儀ニ付伺の趣 承済みたる旨〕 中嶋渡浪宛 七月朔日	一通か九六
松田大内蔵書状〔大殿妾服姫不快ニ付祈禱の初穂料、 槌ニ神納したる旨〕 鹿野茂手木・中嶋渡浪宛 三月 二三日	一通か九六	御側医師書状〔まさ姫病氣ニ付学校にての小銃連発 は控えられたき旨〕 嶋田全隆・佐々木玄又外二名 御守役宛 七月一日	一通か九二
中嶋渡浪御答書〔よし姫御箸揃祝儀御用意物の儀、 御尋ニ付答申〕 〔鎌原伊野右衛門宛〕 四月	一通か九三	鎌原伊野右衛門差図書〔湯本久次郎に金七兩二分、 一〇年賦の拝借金許可の旨〕 新御殿御守役宛 七月 一二日	一通か九二
鎌原伊野右衛門差図書〔別紙勘定吟味役の見込み を勘案すべき旨〕 中嶋渡浪宛 四月一二日	一通か九五	新御殿御守役伺書并差図書	一通か九二
鎌原伊野右衛門差図書〔伺の通り承済み、尤も御出 生様入料の内にて取計うべき旨〕 同前宛 閏四月八 日	一通か九二	1 封筒 鎌原伊野右衛門 新御殿御守役宛	一点 か九五
鎌原伊野右衛門差図書〔よし姫内祝献立の儀、再 度取調ふるべき旨〕 同前宛 閏四月二四日	一通か九五	2 新御殿御守役伺書〔中元ニ付医師方へ薬礼を下さ れたき旨〕 七月	一通

3 鎌原伊野右衛門差図書〔別紙同の趣承済みたる旨〕 新御殿御守役宛 七月一日 一通

嶋田全隆書状〔御二方様より中元祝儀金を下賜されしことへの礼状〕 新御殿御守役宛 七月一六日 一通 か九六〇

御側医師書状〔まさ姫病氣順症ニ付鉄砲稽古差支えなき旨外〕 同前宛 八月一八日 一通 か九七七

御側医師書状〔乳持不調ニ付控えの者用意されたき旨〕 中嶋渡浪・南沢甚之助宛 八月 一通 か九七四

中嶋渡浪伺書〔よし姫より上々様へ御仕向の儀〕 九月 一通 か九五四

新御殿御守役伺書〔まさ姫より上々様へ御仕向の儀〕 九月 一通 か九五五

竹花新介書状〔とみ奉公上りニ付迎の者・人足を来る一〇日に差遣されたき旨〕 中嶋渡浪宛 九月八日 一通 か九三三

鎌原伊野右衛門差図書〔よし姫御簾箇出来の儀承済み、普請奉行へ申渡せし旨〕 南沢甚之介宛 一〇月五日 一通 か九三三

鎌原伊野右衛門差図書〔別紙両条伺の趣見合わすべき旨〕 同前宛 一〇月五日 一通 か九三六

新御殿御守役申上書案〔大御前様付女中御暇の儀〕 一通 か九三三

書付目録 一綴 か九二

みつ

〇明治二年みつ誕生

御側医師書状〔御側女中お直、妊身の旨報告〕 御守役宛〔明治元年〕 一一月六日 一通 か九六七

御書取〔大御前様老女上席なお妊身ニ付御用取扱うべき旨〕 大日方正司宛 一通 か九六六

書状案〔御娘子御雇奉公上りの件ニ付否やの回答下されたき旨〕 一一月一〇日・二〇日 一通 か九六六

御出生様御用掛医師等名前書 一一月一九日 一通 か九五五

嶋田全隆書状〔お直妊身御用命ぜらるるも御三方の御藥御用なれば控えの者一人付けられたき旨〕 大日方正司宛 一一月二七日 一通 か九六五

御産御用掛医師人数先例書 嶋田全隆 一一月二七日 一通 か九六六

嶋田全隆書状〔医師控えの者二名付けられたき旨〕 大日方正司宛 一一月二八日 一通 か九六四

御産御用掛医師人数先例書 一通 か九六六

伺書控〔医師控の儀、時節柄として却下されたれど先例三人の振合もあるにより控一人許可ありたき旨、内々伺い〕 〔大日方正司〕 一一月二九日 一通 か九六七

鎌原伊野右衛門差図書〔着帯祝儀金・中借金・御取揚御用等の諸件承済みたる旨〕 大日方正司宛 一一月二四日 一通 か九五五

大日方正司伺書〔当節御出生様二方にて御用多ニ付根来斧右衛門娘御側女中に時御雇なされたき旨〕 一月 一通 か九〇三

鎌原伊野右衛門差図書〔別紙御側女中の件時節柄ニ付縁合用意致すべき旨〕 大日方正司宛 一一月晦日 一通 か九〇〇

鎌原伊野右衛門差図書〔御出生様入料の内五〇兩中借の儀承済み、直への被下金の儀却下、医師控えの儀先年も一人にて済みたるにより却下〕 同前宛 二月朔日 一通 か九六三

大日方正司申上書控〔医師控えの儀却下なれども大殿様の命あるにより許可されたき旨〕 一一月朔日 一通 か九六六

大日方正司伺書〔御側女中時御雇の儀却下なれども再考ありたき旨〕 一二月四日 一通 か九〇二

大日方正司司上書〔お直へ御手充金下されたき旨〕 二月	一通 か二六九	中嶋渡浪書状〔御二方様分の簞笥繰合わすべしとの 鎌原の差図に困惑の旨〕 同前宛 (月日不詳)	一通 か二九二
大日方正司司上書控〔お直着帯祝金減額の儀、大 殿様甚だ立服ニ付御請のところ伺いたき旨〕 二月 一五日	一通 か二五七	大日方正司司書〔手許の長棹修復なし下されたき 旨〕 二月三日	一通 か二六六
大日方正司司上書控〔鎌原の御請出来兼の返答を 伝えしところ大殿様なお立服にて明日対面直談なすべ しとの旨〕 二月一五日	一通 か二五三	鎌原伊野右衛門差図書〔御手充金申立の儀、先例 にはあれど時節柄却下の旨〕 大日方正司宛 二月一 六日	一通 か二九〇
大日方正司司上書控〔鎌原返答の趣申上たるところ 大殿様、他事の省略は助力するも御出生事柄は別段 と願いたき思召の旨〕 二月一六日	一通 か二五三	大日方正司司書案〔お直御手充金時柄として却下なれ ど、諸色高直・着帯祝儀等物入ニ付許可ありたき旨内 々伺い〕 二月	一通 か二七〇
大日方正司司書并附札〔大小箱・棗箱・行燈等御出 生様御用意物出来方伺い并鎌原伊野右衛門による却下 の附札〕 二月	一通 か二六七	鎌原伊野右衛門差図書〔暮目・篋刀御用の儀、時 節柄により大日方一人にて兼勤すべき旨〕 大日方正 司宛 二月一六日	一通 か二六五
大日方正司司書〔小袖簞笥・長棹出来の儀〕 二 月	一通 か二六三	大日方正司司書案〔両御用ニ付御差図あれども暮目 御用は先伺いの通り命ぜられたき旨〕	一通 か二六〇
大日方正司司書〔小袖簞笥・長棹出来の儀却下とな れど繰合わし兼のものなれば早速出来方命ぜられたき 旨再伺い〕 二月	一通 か二六二 1	鎌原伊野右衛門差図書〔暮目・篋刀御用の儀承済 み、暮目の儀は中嶋渡浪へ申渡したる旨〕 大日方正 司宛 二月二三日	一通 か二六二
御出生様御用意物品書〔小袖簞笥・行燈・襦袢・水 桶等〕	一通 か二六二 2	御書取〔なお妊身ニ付篋刀御用勤むべき旨〕 同前 宛	一通 か二六八
大日方正司書状〔別紙御出生様用意物、早急に聞き 済まされたき旨〕 鎌原伊野右衛門宛 二月二〇日	一通 か二六五	中嶋渡浪同書〔暮目御用ニ付米俵・上白米・土器・ 昆布以下諸品出来方を命ぜられたき旨〕 二月	一通 か二六七
大日方正司司上書〔御召物・夜具等の入料として金 一五〇両の中借ありたき旨〕 二月	一通 か二六三	大日方正司司書〔篋刀御用ニ付、竹・熨斗・白木台 外出来方を命ぜられたき旨〕 二月	一通 か二六六
大日方正司司書〔暮目御用に中嶋渡浪、篋刀御用に 南沢新之介を命ぜられたき旨〕 二月	一通 か二六六	申上書案〔御座間近ニ付暮目・篋刀御用意物出来方 を早急に命ぜられたき旨、内々申上〕 二月	一通 か二六九
鎌原伊野右衛門差図書〔簞笥等出来方再申立の件、 まさ姫・よし姫分にて繰合わせ、また勘定吟味方の簞 笥を用うべき旨〕 大日方正司宛 (明治二年)正月二 九日	一通 か二五三	鎌原伊野右衛門差図書〔暮目・篋刀御用両条申立 の通り承済みたること、中嶋渡浪へも申通すべき旨〕 大日方正司宛 二月二九日	一通 か二六四

御乳持女名前書

大日方正司伺書〔御出生様御大小箱・上箱外出来の儀却下となれど不可欠のものニ付再伺い〕 二月

大日方正司伺書〔御守刀掛一脚出来方〕 二月

新御殿御守役伺書〔御普請模様替并建増の儀ニ付絵図面青引の通り命ぜられたき旨〕 二月

新御殿御守役伺書〔先伺いにて却下の御膳所押入・炭部屋・廊下等の修復の許可ありたき旨〕 三月

鎌原伊野右衛門差図書〔普請伺いの儀、御膳所・炭置場の件は承済み、廊下は却下〕 大日方正司宛 三月一三日

新御殿御守役伺書〔大御前様御台所向并御産所普請建増の儀許可ありたき旨〕 三月

鎌原伊野右衛門差図書〔兵左衛門娘くに、御出生様乳持御末格命ぜられたる段心得べき旨〕 大日方正司宛 三月一三日

鎌原伊野右衛門差図書〔御普請ニ付石爐出来の儀承済みたる旨〕 同前宛 三月二一日

鎌原伊野右衛門差図書〔大御前様風呂桶・鉄炮・火受皿出来の儀承済みたる旨〕 同前宛 三月二一日

おみつ様御誕生留書 明治二年三月二四日―晦日

禰津繁人書状〔お直様産催ニ付早速参上すべきところ風邪にて叶はざる旨〕 大日方正司宛 三月二四日

鎌原伊野右衛門差図書〔御取揚ら御用掛へ御賄被下方承済みたる旨〕 同前宛 三月二四日

鎌原伊野右衛門差図書〔女中共へ酒賄被下方承済みたる旨〕 同前宛 三月二五日

御側女中名前書

一通 か三九六

一通 か三九三

一通 か三九四

一通 か三九三

一通 か三九〇

一通 か三九〇

一通 か三九二

一通 か三九四

一通 か三九三

一通 か三九六

一通 か三九三

一通 か三九五

一通 か三九六

一通 か三九七

一通 か三九四

開善寺書状〔女子出生ニ付成長祈禱修行の儀承知の旨返報〕 大日方正司宛 三月二五日

鎌原伊野右衛門差図書〔御出生様御七夜迄一人ツ、詰切勤むべき旨〕 新御殿御守役宛 三月二五日

鎌原伊野右衛門差図書〔大殿様より御出生様へ折り紙差越たる段心得べき旨〕 大日方正司宛 三月二八日

鎌原伊野右衛門差図書〔御取揚こよへ酒肴被下方申立の件、御宮参御祝の節に取計うべき旨〕 同前宛 三月二九日

鎌原伊野右衛門差図書〔御取揚へ酒肴被下方申立の儀承済み、但し御出生様分前の内にて取計うべき旨〕 同前宛 三月晦日

大日方正司伺書〔中嶋渡浪へ初刺御用命ぜられ、其節同人へ酒肴下されたき旨〕 三月

大日方正司伺書〔御出生様御宮参は先例通り御七夜祝と同日となすべき哉の旨〕 三月

大日方正司伺書〔御出生様付女中抱増の件〕 三月

御書取〔渋谷玄岳娘たか、大御前様御側御屋兼御出生様抱守命ぜられたる段心得べき旨〕 大御前様御守役宛

鎌原伊野右衛門差図書〔御出生様蚊帳金具出来の儀承済みたる旨〕 大日方正司宛 四月一四日

おみつ様御七夜御宮参諸事伺留書〔参詣次第・内祝御仕向・御用掛被下物等諸件〕 四月

御産御用掛被下物寛書

御産御用掛被下物寛書

大日方正司伺書案〔みつ姫御宮参の節の祝儀仕向・行列次第等先例取調伺い〕 四月

一通 か三九四

一通 か三九六

一通 か三九六

一通 か三九六

一通 か三九三

一通 か三九三

一通 か三九七

一通 か三九六

一通 か三九三

一通 か三九七

一通 か三九六

一通 か三九四

一通 か三九四

一綴 か三九六

大日方正司伺書案〔御七夜御宮参内祝の儀ニ付参詣方・酒肴取計方〕 (四月カ)

一通 か三六六

大日方正司申上書案〔時節柄逼迫ニ付御宮参内祝等取延の儀内々申上〕 四月二四日

一通 か三九三

大日方正司申上書案〔医師嶋田全隆への御賞筋早く取計うべきこと大殿様仰せ出されし旨申上〕

一通 か三九七

大日方正司伺書〔みつ姫簪揃内祝御用意物并入料取計方〕 五月

一通 か二六九

御書取〔簪揃内祝御用意物出来方伺の通り承済み、入料はみつ姫分前の内を以て取計うべき旨〕 大日方正司宛

一通 か二六〇

○明治二年みつ卒去

河原左京差図書〔みつ姫卒去ニ付崇除祈禱の儀開善寺へ命じしこと心得べき旨〕 大日方正司宛 五月一日

一通 か二九三

鎌原伊野右衛門差図書〔長国寺罷出の節、御給仕は御奥支配にて勤むべき旨〕 同前宛 五月一日

一通 か二九三

大日方正司伺書〔長国寺役僧参上説経ニ付茶菓昼食を給されたき旨〕 五月一日

一通 か二九〇

大日方正司伺書〔今日長国寺参上の節、茶菓の用意を命ぜられたき旨〕 五月一日

一通 か二九元

鎌原伊野右衛門差図書〔役僧賄方の儀承済みたる旨〕 大日方正司宛 五月一日

一通 か二九三

智光院様御行列帳 明治二年五月二三日

横長半

一綴 か二六三

病氣・療養

疱瘡

○弘化二年貞姫疱瘡

〔貞姫御守役書狀〕〔貞姫疱瘡中入用ニ付買物方・奥台所役人と取調、別紙二枚進達の旨〕 五郎左衛門・九左衛門 鹿野牧人・矢野唯美宛 二月二三日

一通 か二〇三

南部坂御守役伺書〔疱瘡臨時入用ニ付築地御守役より別紙の通り申来るにより処置方伺い〕 二月

一通 か二〇六

疱瘡入用勘定書 奥御役人 巳〔弘化二年〕二月

一通 か二〇四

疱瘡入用勘定書 奥御台所役人 巳年二月

一通 か二〇五

南部坂御守役御答書〔疱瘡臨時入料の見積方ニ付御尋への答申、明細手形を取集め次第伺書を差出す旨〕 三月

一通 か二〇七

南部坂御守役伺書〔嘉十郎方へ築地役人より手形印書を廻したるにより処置方伺い〕 三月

一通 か二〇三

南部坂御守役伺書〔貞姫疱瘡治療入用勘定方〕 六月

一通 か二〇一

○弘化二―四年雄若疱瘡前藥料

金子請渡証文〔雄若〔真田幸教〕 疱瘡前ニ付御同医師柴田芸庵への藥料外、巳年分〕 高田幾太 竹村金吾宛 弘化四年正月

一通 か六六

金子請渡証文〔巳年七月・一二月分、柴田への藥料〕 三沢刑部丞 高田幾太宛 弘化四年正月

一通 か六五

金子請渡メ出証文〔巳年中、柴田への菓子代・下行代〕 御台所元メ助岡沢峯左衛門 同前宛 弘化四年正月

一通 か六〇

金子請取書〔巳年中々々柴田への菓子代・下行代〕 南部坂御台所元メ酒井友左衛門 御台所宛 巳〔弘化二年〕四月―十二月

七通 か六二
か六七

金子請渡証文〔午年中、柴田への藥料外〕 高田幾太 磯田音門宛 弘化四年三月

一通 か三九

金子請渡証文〔午年七月・二二分、柴田への薬料・肴料〕 西村源藏 高田幾太宛 弘化四年三月

金子請渡ノ出証文〔午年中、柴田への差上物入料〕 岡沢峯左衛門 同前宛 弘化四年三月

金子請取書〔午年中月々柴田への菓子代并七夕・重陽・歳暮祝儀の目録金〕 酒井友左衛門 午〔弘化三年二月―未〔同四年〕正月

金子請渡証文〔未年七月・二二分、柴田への薬料〕 飯嶋与作 常田鈔太夫宛 嘉永元年

金子請渡ノ出証文〔未年中月々柴田への菓子代并供向への目録金〕 伊藤栄之進 同前宛 弘化五年正月

金子請取書〔未年中月々柴田への菓子代外〕 酒井友左衛門 未〔弘化四年〕二月―申〔嘉永元年〕正月

○

御勝手掛通達書〔よし姫種痘の節、御菓子割合代出銅算書〕 鹿野茂手木・河原敬之進外三四名宛（明治初年）六月

薬 礼

袋〔御医師堤愛郷一件〕 文久元年七月

金子請取証文〔堤愛郷への六月分下行料〕 御台所元ノ山下木之助 六月

金子請取証文〔堤愛郷供の者への下行料〕 御台所元ノ助塩野善藏 西〔文久元年〕六月

収帖〔奉礼一通・目録金外〕 堤愛郷 清水新六・宮下謙太夫外一名宛 七月―三日

御奥入料勘定書〔医師堀本一甫・堤愛郷への薬礼、御懇意坊主衆への目録金等諸入料、表方支払申立の控〕 文久元年

医師方薬礼勘定書〔堀本一甫・花岡勾当・堤愛郷分〕

○

薬種代金勘定書 富埜薬局 新御殿御奥宛

湯 治

○安政五年順操院湯治

袋〔順操院殿湯治一件、一七四九―一七六〇番在中〕 安政五年二月

御奥元ノ役伺書控〔汲湯試みニ付湯田中より取寄命ぜられた旨〕 三月一日

望月主水差図書〔順操院殿湯治の儀承済みたる旨〕 御奥元ノ役宛 三月一日

御收納郡方書状〔汲湯取寄の入樽・人足手配方問合〕 同前宛 三月一日

江戸御側役御用状〔御用状落手のこと、内々献上物への挨拶の返報〕〔馬場弥三郎・樋口旗之助〕〔山中鹿渡・山岸助蔵外一名〕宛 三月一日

御勝手方右筆書状〔女中共弁当は仕出賄や村賄の積りやの旨伺い〕 御奥元ノ役宛 三月二日

願書案〔順操院殿汲湯試みられ湯田中湯治を願われた旨〕〔御奥元ノ役カ〕 三月二日

江戸御側役御用状〔順操院殿湯治入料取扱方〕 馬場弥三郎・樋口旗之助 山中鹿渡・山岸助蔵外一名宛 三月二日

御奥元ノ役伺書〔湯治付添の鍵番の者以下へ弁当下された旨内々伺い〕 三月

松代御奥元ノ役御用状控〔順操院殿四月一日日前後湯治出立のこと并入料支払方〕 山中鹿渡・山岸助蔵外一名 馬場弥三郎・樋口旗之助宛 四月四日

横長半

順操院殿湯治御供名前書

湯治御用意物品書〔堤灯・駕籠外〕

五通 か七五四
一通 か七五

順操院御供御用狀〔旅程報告并本日湯本到着のこと、湯本状況等報告〕 綿内右門 山中鹿渡・山岸助藏宛 四月一二日

一通 か二八三

順操院書狀〔湯本へ七ツ過着、入湯場も新しく御礼申上げたき旨〕 (山中鹿渡・山岸助藏 宛 四月一二日 封筒一)

一通 か二八三

順操院御供御用狀〔順操院様始め一同至極相応にて入湯につき安慮されたき旨〕 綿内右門 同前宛 四月一四日

一通 か二八四

順操院御供御用狀〔山中らより送付の書狀・荷物落手せしこと并順操院様温泉寺参詣等の旨報告〕 同前宛 四月一六日

一通 か二八六

順操院書狀〔入湯一廻り済み順快の旨報告〕 山中鹿渡宛 四月一六日 封筒一

一通 か二八五

順操院御供御用狀〔湯坪・居間の模様、在方よりの賄の件報告〕 浦野勇右衛門 山中鹿渡・山岸助藏宛 四月一七日

一通 か二八七

順操院御供御用狀〔湯治見舞への返礼、殿様へ岩魚献上の件外〕 綿内右門 同前宛 四月一八日 包紙一

一通 か二八八

順操院御供御用狀〔入湯二廻り湯湯の日程のこと、帰路鍵番人数増申入の件〕 同前 同前宛 四月二〇日

一通 か二八九

順操院御供御用狀〔帰還日限調整の件外〕 同前 同前宛 四月二三日

一通 か二九〇

順操院御供御用狀〔二七日湯湯のこと、帰還人馬継立の件承知、鍵番到着の翌日に発足したき旨申入〕 同前 同前宛 四月二四日

一通 か二九一

順操院書狀〔竹のこ進上、近況報告〕 山中鹿渡宛 封筒一

一通 か二九二

○幸教湯治一件

廻狀〔大殿様領内湯治許可ありしにより其節御供致すべき旨〕 真田志摩・鎌原伊野右衛門外一名 井上五郎左衛門・森弘喜外七名宛 四月一六日 包紙一

一通 か二四三

大殿様御帰城道中御馬飼料勘定書 竹村慶次郎 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年六月

一綴 か二四六

。御馬昼湯代錢請取書 蔵宿本陣岡田新藏外 真田家役人宛 慶応二年四月二七日―五月三日

六通

。御馬御泊飼料請取書 大宮宿三右衛門外 慶応二年四月二七日―五月二日

五通

大殿様御帰城道中足輕往来賄代金勘定書 根井小右衛門 池田富之進・堤常之丞外二名宛 慶応二年七月

一通 か二四五

寅年大殿様御湯治道中諸入料本証文引替一紙 伊東善右衛門 辰(明治元年)三月

一通 か二四七

御勘定役差紙〔去ル卯年大殿様湯治の節の本陣修復の件ニ付尋の儀あるにより勘定所へ出頭すべき旨〕 酒井市治 湯田中村宮崎善左衛門宛 辰年八月五日 包紙一

一通 か二四五

大工賃料請取証文写 沓野村大工直藏 湯田中村御役元宛 一〇月

一通 か二四五

本陣内湯修復賃料勘定書

一通 か二四五

諸入料勘定立覚書

一通 か二四八

中俣一平書狀〔御湯治近日ニ付御多忙と推察のこと并医師への薬礼支払方〕 宮下謙太夫宛 四月一〇日

一通 か二五四

御書取〔来ル一三日湯元御発駕、同夕御帰城の旨〕 御奥元メ役宛

一通 か二五〇

幸教病氣一件

服部敬順書狀〔殿様病氣の治療法ニ付篠原よりの問合わせへの返答〕 篠原良意宛 (安政元年カ) 一二月五日	一通	か三〇五
江戸奥方役人御用狀〔殿様病氣平穩の由、御前様・貞松院様御安心の旨、返報〕 竹内晋平・小野肇外二名 常田鏐太夫・磯田音門外二名宛 一二月二七日	一通	か一七六
鹿野茂手木書狀〔殿様病中慰物のため金五両落手の上、浅草辺にて調達したる旨〕 高山内蔵進宛 一二月二七日	一通	か三〇一
御慰物品々目録 (鹿野茂手木) (高山内蔵進宛) 一二月二七日	一通	か三〇二
書狀別紙〔御命じのチャルメラ・ヒハボン調達なし得ざりし旨、勘返付〕 (同前カ) (同前宛カ) 二七日	一通	か三〇三
松代御側役御用狀〔服部への書狀二通、篠原より服部への文通共届けられたきこと、御容躰書は御用番家老へも見せられたき旨、勘返付〕 山寺源太夫・磯田音門・高山内蔵進 伊藤環宛 (安政二年カ) 正月六日・一日	一通	か三〇四
松代御側役御用狀〔篠原認めたる御容躰書を服部へ届けられたき旨、勘返付〕 同前 同前宛 正月六日	一通	か三〇五
書狀 并諸品落手書〔封狀四通・服沙・風呂敷〕 服部家 真田家御使宛 正月一〇日	一通	か三〇六
江戸御側頭取御用狀〔病中慰物ヲルルを加勢屋太七より購入の件、服部敬順書狀を送付の件外〕 伊藤環 山寺源太夫・磯田音門・高山内蔵進宛 正月一日	一通	か三〇七
服部敬順披露狀〔年頭祝詞、なお其後の御容躰伺いたき旨〕 山寺源太夫・磯田音門外一名宛 正月七日	一通	か三〇八
服部敬順書狀〔年頭祝詞、殿様面部浮腫出来の件ニ付伊藤環に所見を話しおきたる旨〕 同前宛 正月七日	一通	か三〇九

書狀別紙〔旧臘より痘瘡流行その外多事により年賀狀遅延せる無礼の詫狀〕 服部敬順 同前宛 正月五日	一通	か三〇一〇
服部敬順書狀〔殿様病狀と投棄経過の確認返報〕 篠原良意宛 正月一六日	一通	か三〇一〇
服部敬順披露狀〔殿様病氣全快ニ付当八日床払祝儀の節、江戸屋敷にて諸品拝領の礼狀〕 山寺源太夫・磯田音門外一名宛 二月一日	一通	か三〇一〇
御前様御守役御用狀〔殿様順快、月代刺りにも至りし由御前様へ申上げたところ御安心なされし旨〕 竹内晋平・鹿野茂手木 山寺源太夫・磯田音門外一名宛 (安政二年カ) 正月四日	一通	か三〇一〇
御前様御守役御用狀〔殿様病狀を御前様に申上げたこと、更に容躰の程を聞かれたき旨〕 同前 同前宛 正月六日	一通	か三〇一〇
貞松院様御守役御用狀〔殿様病氣順快の由承知、貞松院への歳暮祝儀への返礼狀〕 小野肇・谷口弥右衛門 同前宛 正月六日	一通	か三〇一〇
貞松院様御守役御用狀〔山寺・磯田ら宛の年賀狀〕 同前 同前宛 正月七日	一通	か三〇一〇
貞松院様御守役御用狀〔殿様順快月代刺りにも至りし由、貞松院様へ申し上げたところ御歎びの旨〕 同前 常田鏐太夫・山寺源太夫外二名宛 正月七日	一通	か三〇一〇
貞松院様御守役御用狀〔殿様病中慰物として貞松院より松梅鉢植外を進ぜらる旨〕 同前 山寺源太夫・磯田音門外一名宛 正月七日	一通	か三〇一〇
鹿野茂手木書狀〔病中慰物びわぼんの図入説明〕 高山内蔵進宛 正月一四日	一通	か三〇一〇
御前様御守役御用狀〔殿様順快、二月一〇日有卦入の祝儀の件〕 竹内晋平・鹿野茂手木 山寺源太夫・磯田音門外一名宛 正月二二日	一通	か三〇一〇

貞松院様御守役御用状〔殿様順快恐悦の旨〕 小 野肇・谷口弥右衛門 同前宛 正月二三日	一通 か 六元
御前様御守役御用状〔殿様順快恐悦并八丁堀奥方 〔松平定猷室真田氏〕への御見舞よろしく取計いたる 旨〕 竹内晋平・鹿野茂手木 同前宛 正月二四日	一通 か 六元
御前様御守役御用状〔殿様二月八日床揚内祝の由、 御前様も御歎ひの旨〕 同前 同前宛 二月三日	一通 か 三〇
御側役申上書案〔御床揚当日、御側の者への御酒被 下方〕 (安政二年カ) 正月二七日	一通 か 五五
御側役申上書案〔御床揚当日、江戸表にての御酒被 下方〕 正月二七日	一通 か 五五
御側役申上書〔御床揚により医師服部敬順へ金三百 正下賜ありたき旨〕 正月二八日	一通 か 五五
御側役申上書〔医師二名に褒賞ありたき旨〕 正月 申上書案〔御床揚内祝当日、諸方への進物方〕 (御 側役カ) 正月	一通 か 六三
御側役申上書案〔御床揚祝儀下賜金の配分方〕	一通 か 五七
御床揚祝儀被下物入料勘定書	一通 か 六四
御床揚祝儀被下物先例書〔文政二年度、御用席へ の吸物・酒肴の配分一覽〕	一通 か 五九
御床揚祝儀次第書案	一通 か 六二
○	
成沢縫殿右衛門進達書〔御容躰書認の儀ニ付別紙 神文を申付おきたる旨〕 文化七年九月三日	一通 か 六元
葬 送	
感応院 (真田幸貫)	
拝借金請取証文〔感応院遺骸在所入御供ニ付、拝借 金三百兩請取りたる旨〕 根来芳太郎 西村源藏宛 嘉永五年六月一七日	一通 か 一七五
拝借金請取証文〔同前〕 玉川仁太郎 同前宛 嘉 永五年六月一七日	一通 か 一七六
拝借金請取証文〔同前〕 前田量平 同前宛 嘉永 五年六月	一通 か 一七九
拝借金請取証文〔同前〕 清水新六 同前宛 嘉永 五年六月	一通 か 一七〇
拝借金請取証文〔同前〕 中村伴治 同前宛 嘉永 五年六月	一通 か 一七二
拝借金請取証文〔同前〕 館廉太夫 同前宛 嘉永 五年六月	一通 か 一七三
拝借金請取証文〔同前〕 団野金三郎 同前宛 嘉 永五年六月	一通 か 一七三
拝借金請取証文〔同前〕 田中佐左衛門 同前宛 嘉永五年六月	一通 か 一七四
○嘉永五年感応院葬送	
袋〔感応院様御葬式一件、二〇七七〜二〇八六番在 中〕 嘉永五年六月	一点、か 二〇八
山田兵衛書状〔御葬式当日、御手方中間一人は見習 の者にて差支えなき哉の旨問合〕 水道方宛 六月一 九日	一通 か 二〇六
長国寺真田家廟所図 御普請方 壬子年六月	一葉 か 二〇三
長国寺堂舎間取図	一葉 か 二〇八
本堂ノ御廟所迄御行列帳 御目付	一冊 か 二〇八
横長美	

御葬式御行列帳 御目付	横長半	一冊 か二八四
乾徳院様御葬式御行列帳写 長国寺副事 真田家	横長半	一冊 か二八五
御目付禰津直秩宛 子年七月		
御着輿之図 御目付		一葉 か二七七
御着輿之図 御目付		一葉 か二七六
御葬式御埋葬之図 御目付		一葉 か二七九
御刀番申上書〔御替鎗寸法書の通り、葬式の節の油単を在所にて調製されたき旨〕 六月		一通 か二四一四
御勝手元ノ役御答書〔諸道具白油単出来の儀御尋への答申、御行列添鎗の寸法等江府へ問合されたき旨外〕 六月一二日		一通 か二四二〇
小山田老岐書状〔長国寺にての御用意物、白油単の儀外処置方〕 望月主水宛 六月一二日		一通 か二四三
勘定吟味役御答書〔御替鎗・白油単出来方、御尋への答申〕 六月一六日		一通 か二四三
勘定吟味役申上書〔御台弓白油単は在所にて調製を命ぜられたき旨〕 六月一六日		一通 か二四三
河原舎人書状〔別紙御替鎗・白油単出来方、宜しく取計われたき旨〕 小山田老岐宛 六月一六日		一通 か二四五
御刀番申上書〔御枕鎗白練油単出来方、在所へ命ぜられたき旨〕 六月一七日		一通 か二四七
御枕鎗翰寸法書〔御刀番カ〕		一通 か二四九
河原舎人書状〔枕鎗白油単出来方、宜しく取計われたき旨〕 小山田老岐宛 六月一七日		一通 か二四六
河原舎人書状〔御着輿の節、馬喰町より長国寺への行列方〕 同前宛 六月一七日		一通 か二四六
○万延元年慧雲院葬送		
慧雲院〔雄若〕		
御奥元ノ役伺書〔雄若不快ニ付医師・御側の者へ被下物ありたき旨〕 四月二二日		一通 か五七
御奥元ノ役伺書〔雄若入棺沐浴の儀ニ付御側役人拝礼方〕 四月二五日		一通 か五七
小山田老岐差図書〔入棺拝礼の儀承済みたる旨〕 山中鹿渡宛 四月二五日		一通 か五二
小山田老岐差図書〔別紙伺の通り心得べき旨〕 同前宛 四月二五日		一通 か五二
小山田采女差図書〔同前〕 山岸助蔵宛 四月二五日		一通 か五二
御書取〔雄若入棺の節、奥女中にて相勤むる者の名前を報らすべき旨〕 御奥元ノ役宛〔四月二五日〕		一通 か五二
小山田采女差図書〔開善寺へ祈禱を命じたる段心得べき旨〕 山岸助蔵宛 四月二七日		一通 か五二
小山田老岐差図書〔葬送の節、奥女中三人へ被下物の儀承済みたる旨〕 山中鹿渡宛 四月二八日		一通 か五〇
御奥元ノ役伺書控〔葬送後、位牌飾置・打敷・簀仕立の儀〕 四月二八日		一通 か五六
小山田老岐差図書〔位牌飾置等の儀承済みたる旨〕 山岸助蔵宛 四月二九日		一通 か五九
御書取〔出家一人御奥に差置、読経の節に霊前へ案内すべき旨〕 御奥元ノ役宛		一通 か五九
御奥元ノ役伺書〔慧雲院様法事の節、御役方并御奥支配の者長国寺へ詰めたき旨〕 五月二日		一通 か五三
山中鹿渡伺書〔葬式の節着服の儀〕 五月四日		一通 か五四

山中鹿渡伺書〔葬式の節長袴着用の儀〕 五月四日	一通か 五三	御奥元メ役伺書并附札〔初職は武具方へ返却との命なれど御遺物として取計いたし旨〕 (七月八日)	一通か 五六
御書取〔慧雲院様法事の節、御前様・貞松院様の香を勤むべき旨〕 御奥元メ役宛 (五月四日)	一通か 五三	瑤璣院御遺物膳部覚書	一通か 五三
小山田老岐差図書〔別紙伺の通りたるべき旨〕 山中鹿渡宛 五月八日	一通か 五三	小山田老岐差図書〔馬場介作妻らへの被下物の儀承済みたる旨〕 御奥元メ役宛 七月二十四日	一通か 五八
表御納戸役書状〔雄若様不快中の薬代金上納されたき旨〕 御奥元メ役宛 五月一八日	一通か 五三	御奥元メ役伺書并附札〔雄若様実母久米への遺金被下方〕 八月(三日)	一通か 五三
小山田老岐差図書〔雄若様卒去ニ付、枕鎗・初職を武具方へ引渡すべき旨〕 山中鹿渡宛 五月二二日	一通か 五三	山岸助藏書状〔御奥支配分の御遺物取調の件ニ付自分存念伝達〕 山中鹿渡宛 八月五日	一通か 五五
小山田老岐差図書〔御膳部箱差出の儀、伺の如く承済みたるニ付御普請方と申談すべき旨〕 御奥元メ役宛 六月六日	一通か 五〇	山中鹿渡書状〔雄若様卒去前後太儀の者への御賞筋の件ニ付自分存念伝達〕 山岸助藏・綿内右門宛 八月五日	一通か 五六
御奥元メ役伺書〔長国寺への御納物并被下物の儀〕 六月(一一日)	一通か 五九	御奥元メ役伺書案〔卒去前後太儀の者への御賞筋の儀〕 八月(一一日)	一通か 五四
小山田老岐差図書〔長国寺へ御納物外の儀承済み、尤も金百足御添の儀は見合わすべき旨〕 山中鹿渡宛 六月一五日	一通か 五三	御奥元メ役伺書并附札〔同前〕 八月(一一日)	一通か 五〇
小山田老岐差図書〔伺の如く承済みたる旨〕 同前宛 六月一八日	一通か 五〇	御側女中被下物覚書〔幾野・ひさ・久米ら太儀の者への御賞 大らう一箱ッ、〕 (八月二日)	一通か 五六
御奥元メ役伺書并附札〔乳持かつ御暇ニ付被下物の儀〕 六月(一六日)	一通か 五七	御奥元メ役申上書〔雄若様御遺物、再度取調上申〕 八月	一通か 五四
御達書〔乳持かつに暇を遣すことを申渡すべき旨〕 御奥元メ役宛 六月二二日	一通か 五六	小山田老岐差図書〔遺物配分の件、別紙再調の通り取計うべき旨〕 御奥元メ役宛 八月一三日	一通か 五三
小山田老岐書状〔省略中ニ付御末若菜御暇の儀、同役申談し報告すべき旨〕 同前宛 六月二二日	一通か 五三	赤沢助之進差図書〔久米への遺金被下方伺の儀、附札の通り心得べき旨〕 同前宛 八月一三日	一通か 五三
御奥元メ役申上書〔雄若様葬送ニ付長国寺への納物、伺の通り取計いたる旨復命〕 六月	一通か 五三	御奥元メ役伺書〔御遺物被下の分、差出方は御役方にて取計うべき哉の旨〕 八月(一六日)	一通か 五七
御奥元メ役伺書并附札〔雄若様御大小・守刀は御側御納戸 御金奉行のいづれに引渡すべき哉の旨〕 (七月八日)	一通か 五八	赤沢助之進差図書〔遺物差出取計方、伺の通り承済みたる旨〕 御奥元メ役宛 八月二一日	一通か 五八

赤沢助之進差図書〔雄若様出生前後入料金御払の儀承済み 其向へ申渡したる旨〕 山中鹿渡宛 九月二二日

一通 か 毛二

御勝手元ノ役申上書〔卒去前後太儀の向への御賞筋ニ付素案上申〕 一二月

一通 か 毛九

小山田壹岐差図書〔別紙伺は附札の通り心得べき旨〕 御奥元ノ役宛 一二月二六日

一通 か 毛一

綾雲院（かね）〔「誕生・かね」五一頁〕

智光院（みつ）

○明治二年みつ卒去一件

鎌原伊野右衛門差図書〔表使らへの白帷子出来の儀承済みたる旨〕 大日方正司宛 五月一九日

一通 か 二六三

鎌原伊野右衛門差図書〔蒲団出来の儀御納戸役へ申渡しおきたる旨〕 同前宛 五月二〇日

一通 か 二六四

御物見役書状〔智光院様二三日出棺の旨〕 同前宛 五月二一日

一通 か 二六三

大日方正司申上書〔みつ姫遺骸葬送ニ付御式帳・行列帳を渡されたき旨〕 五月二一日

一通 か 二六〇

鎌原伊野右衛門差図書〔御側女中駕籠拜借の儀承済みたる旨〕 新御殿御守役宛 五月二二日

一通 か 二六三

大日方正司伺書〔智光院様牌前への御備御膳米請取りたき旨〕 五月

一通 か 二六五

鎌原伊野右衛門差図書〔位牌台机出来の儀承済みたる旨〕 大日方正司宛 五月二三日

一通 か 二六元

智光院様御葬式御行列帳 直照（大日方正司） 明治二年五月二三日

一綴 か 二六〇

智光院様御行列帳

横長半

一綴 か 二六三

御葬送御先詰人数書

五通 か 二六三

長国寺本堂絵図 明治二年五月二三日

一鋪 か 二六七

御殿出棺順路図

一鋪 か 二六六

長国寺境内堂舎絵図

一鋪 か 二六五

智光院様葬送次第書

一通 か 二六三

御棺寸法書

二通 か 二六七

河原左京差図書〔智光院様葬式埋葬済みたる段大御前様へ申上ぐべき旨〕 新御殿御守役宛 五月二三日

一通 か 二四五

大日方正司伺書〔智光院様牌前への御備御膳米請取りたき旨〕 五月二八日

一通 か 二六七

鎌原伊野右衛門差図書〔別紙伺の趣は去ル二二日に承済みの由申渡したる旨〕 大日方正司宛 五月二八日

一通 か 二六三

新御殿御守役進達書〔智光院様四九日迄の間、奥女中長国寺へ拝礼のため物持人足一人廻されたき旨〕 御普請奉行宛 五月二八日

一通 か 二六八

大日方正司伺書〔おみつ様長国寺にて沐浴の節茶菓を下されたき旨〕 五月

一通 か 二六四

智光院葬送関係雑書付

九通 か 二六元

智光院様御忌法事料請取証文 長国寺副寺 西村源兵衛宛 明治二年七月五日

一通 か 二七五

智光院様御忌法事料請渡証文 西村源兵衛 池田富之進・堤常之丞外五名宛 明治二年九月

一通 か 二七四

御奥元ノ役伺書控〔長国寺へ御納物の儀ニ付御箱出来方〕

一通 か 二六三

鎌原伊野右衛門差図書〔校蓋箱出来の儀承済みたる旨〕 祿津刑左衛門宛 七月八日	一通 か二六八
御書取〔おみつ様卒去ニ付、乳持くに御暇の段申渡すべき旨〕 新御殿御守役宛 七月九日	一通 か二六四
乳持御手充金請渡証文〔乳持くに御用手充金〕 窪田友之助 池田富之進・堤常之丞外五名宛 明治二年八月	一通 か二六四
新御殿御守役伺書〔智光院様御遺物下されたき旨内々伺い〕 七月	一通 か二六九
智光院御遺物配分関係書付	か二七
1 大日方正司書状〔智光院様遺物、鍵番以下諸役人への配分の件〕 中嶋渡浪宛 七月二三日	一通
2 中嶋渡浪書状〔前件処置方〕 大日方正司宛 七月二二日	一通
3 大日方正司申上書〔前件処置方ニ付宜しく御差図ありたき旨〕 (鎌原伊野右衛門宛カ) 九月二三日	一通
4 中嶋渡浪書状〔前件の趣成り難きとの意向の旨〕 大日方正司宛 九月二四日	一通
御奥元メ役進達書〔智光院霊前献備諸品の目録、先例通り引渡したる旨申送り〕 御吟味役宛 八月一六日	一通 か二六三

文聡院 (真田幸教)

○明治二年文聡院卒去一件

書状断簡〔御答返上したるにより落手されたき旨〕 一〇月二二日	一通 か二七九
申上書〔御庭方職人ら大殿様病氣平癒祈願のため諏訪社へ御札献上したき存念持ちおる旨〕 一〇月二三日	一通 か二七四

奥村権之丞書状〔文聡院様御統柄・御忌掛は別紙の通りの旨〕 興津権右衛門宛 一〇月二二日	一通 か二七三
榎田弥惣兵衛書状〔御幕一張、御棺前へ進ぜられたるニ付宜しく御備下されたき旨〕 御側御納戸役宛 一〇月二四日	一通 か二七五
榎田弥惣兵衛書状〔各様并御奥女中へ下されたる御品廻すにより宜しく取計れたき旨〕 井上五郎左衛門宛 一〇月二四日	一通 か二七六
金児忠兵衛書状〔洋剣不用となり御戻し、槌に落手したる旨〕 磯田小藤太宛 二四日	一通 か二七七
御出葬法式品目 長国寺 明治二年一〇月	包紙一
初七日忌追福勤行次序 同前 明治二年一〇月	包紙一
御答書控〔文聡院様御葬式入料ニ付諮問への答申、御買上物は二商人の積書見合わせの上、一筆毎に引訳買上ぐべき旨〕 一十一月一四日	一通 か二七九
申上書〔大殿様卒去ニ付和田宿長并十左衛門らより御機嫌伺の献上ありし旨〕 蘭溪 (赤沢助之助) 一十一月二六日	一通 か二八四
申上書〔大殿様卒去ニ付東江部村莊左衛門より香料献上ありし旨〕 庸 (鈴木内蔵允) (明治三年)正月一八日	一通 か二八三

○葬式施行

郡政副主事伺書〔文聡院様新年葬并法事ニ付座頭書女へ御施行被下方〕 (明治二年)一二月	一綴 か二八七
御施行物頂戴願書〔御新葬ニ付地座頭・盲女共分〕 座元城稲・清一外四四名 郡奉行所宛 明治二年一月	一通 か二八五
御施行物頂戴願書〔地座頭分〕 座元城稲・林栄外一〇名 同前宛 明治二年一月	一通 か二八九

御施行物頂戴願書〔他所座頭分〕 座頭城稲・他所座頭哥野一外四名 同前宛 明治二年十一月 一通 か六四六

御施行物頂戴願書〔初七日法事ニ付地座頭・盲女共分〕 座元城稲・清一外四名 同前宛 明治二年十一月 一通 か六五三

御施行物頂戴願書〔地座頭分〕 座元城稲・城常外一〇名 同前宛 明治二年十一月 一通 か六五三

御施行物頂戴願書〔他所座頭分〕 座元城稲・他所座頭慶満外四名 同前宛 明治二年十一月 一通 か六五三

御施行物頂戴願書〔三五日法事ニ付地座頭・盲女共分〕 座元城稲・清一外四名 同前宛 明治二年十一月 一通 か六五三

御施行物頂戴願書〔地座頭分〕 座元城稲・城常外一〇名 同前宛 明治二年十一月 一通 か六五三

御施行物頂戴願書〔他所座頭分〕 座元城稲・他所座頭慶満外四名 同前宛 明治二年十一月 一通 か六五三

○明治三年文聡院百ヶ日法事

長国寺副寺伺書〔文聡院様百ヶ日法事御霊供方〕 市場源七郎宛 正月二三日 一通 か三六二

長国寺副寺伺書〔法事執行ニ付詰所火鉢外庫裏入料を送られたき旨〕 同前宛 正月 一通 か三六三

長国寺副寺伺書〔真木一五駄・上白米五俵下されたき旨〕 同前宛 正月二三日 一通 か三六三

議事御答書〔詰合役人の件諮問への答申、感応院様先例に朱書簡略の通りにて然るべき旨〕 正月 一通 か六五七

金井美濃輔御答書〔法事詰役人減略方、別紙書拔に朱書の程にて然るべき旨〕 麗水 正月二五日 一通 か六五九

○

文聡院様葬式御用掛御賞筋伺

1 竹内新七申上書〔去ル巳年文聡院様葬式に出精の者共へ賞与ありたき旨〕 一〇月 一通 か三七六

2 文聡院様葬儀出精者賞与積書〔宮沢源之丞・宮沢常馬外四名分〕 一通

佐藤伊与之進伺書控〔文聡院様葬式ニ付白川枳ら御賞筋の儀〕 一通 か三七七

佐藤伊与之進伺書控〔文聡院様御葬式の節、御用掛相動たる者御賞筋の儀〕 横長半 一綴 か三七〇

文聡院様葬送御用掛役人覚書 一通 か三七九

山崎孝友申上書〔文聡院様葬送御用掛勤めたる鎌原伊野右衛門外二名、今以って御賞無きにより勘弁ありたき旨、内々申上〕 壬申〔明治五年〕八月 一通 か三七六

御遺物

○春光院御遺金

袋〔春光院様御遺金御寄付請取証文、一三七〇〜一三七三番在中〕 享和三年 一点 か三六九

御茶湯料寄付金請取証文 蓮乗寺 小山田平之進宛 享和三年十一月二六日 包紙一 一通 か三七〇

御茶湯料寄付金請取証文 長国寺 同前宛 享和三年十一月二六日 包紙一 一通 か三七一

御茶湯料寄付金請取証文 江戸麻布盛徳寺 同前宛 享和三年十一月二六日 包紙一 一通 か三七二

通達書〔三ヶ寺より請取書差出たるニ付御納戸に保管すべき旨〕 (小山田平之進カ) 一一月二九日 一通 か三七三

○真珠院御遺物

金子請取証文〔鬼子母神宮殿売揚代金〕 山内唯七宛 午〔文政五年〕七月一七日	万屋新助	包紙二	一通	か二〇九
燈明料寺納証文 盛徳寺 西村角南宛 文政五年八月		包紙一	一通	か二〇四
月牌料寺納証文 同前 同前宛 文政五年八月		包紙一	一通	か二〇四
御遺物寺納証文 長国寺副寺 西村角南・山越平角宛 午年八月晦日		包紙一	三通	か二〇二
御遺物寺納証文 蓮葉院 西村角南宛 文政五年九月六日		包紙一	一通	か二〇三
御遺物寺納証文 高野山蓮花定院代金剛院・遍照心院 同前宛 文政五年九月		包紙一	一通	か二〇三
神具神納証文〔真鍮花活・香炉を鬼子母神前に納むべき旨〕 蓮葉寺 同前宛 午年九月			一通	か二〇〇
○感応院・真月院御遺物配分一件				
袋〔御遺物配分一件評議書付、一七〇四〜一七一六番在中〕 (嘉永六年カ) 一一月一二日			一点	か二七四
東御殿御側御納戸役伺書〔奥女中五人へ御遺物下され御暇ありたき旨〕 七月二十七日			一通	か二七五
小山田菅右衛門御答書〔奥女中への御遺金の件、先例取調答申〕 望月主水宛 七月二十七日			一通	か二七〇
勘定吟味役御答書〔奥女中への遺物配分・御暇の件答申、在所表と打合わせるべき旨〕 七月二十七日			一通	か二七〇
東御殿御側御納戸役申上書〔奥女中勤年数取調報告〕 七月二十七日			一通	か二七二
勘定吟味役御答書〔奥女中への遺金員数の件答申〕 七月			一通	か二七六

(西村角南書状)〔南部坂屋敷惣女中履歴取調書〕 久保九十郎宛 七月			一通	か二七八
御書添之伺書〔東御殿女中への御遺物・御暇の件、御側御納戸・御勘定吟味役の書面の如く取計うべき旨〕 (望月主水宛) 七月二十七日			一通	か二七二
御勝手元メ役等伺書〔奥女中への遺金配分の件、配分下案・先例書〕 飯嶋楠左衛門・磯田音門外三名 八月			一通	か二七九
御遺物金勘定帳目録 □右衛門 伊藤環・竹内晋平宛 丑〔嘉永六年〕一一月			一通	か二七五
感応院様・真月院様御遺物覚 (嘉永六年カ)	横長半		一綴	か二七五
東御殿御側役申上書〔御遺物金配分方取調一紙差上ぐる旨〕 一一月			一通	か二七三
望月主水書状〔御遺物金配分ニ付兩帳清書して差上ぐる旨〕 真田志摩宛 一一月六日	包紙一		一通	か二七四
東御殿御側役伺書〔御遺物配分に調落の長谷川藤蔵に帯地一筋を下されたき旨〕 (安政元年カ) 正月			一通	か二七六
法 事				
○天保八年法事施行				
金児丈助伺書〔天真院法事ニ付座頭施物頂戴を願いたる旨〕 (天保八年) 八月			一通	か二四九
御買物役伺書〔法事施行ニ付、下白米一斗余を給すべき旨〕 八月			一通	か二四三
恩田頼母差函書〔施物の儀伺の通りの旨〕 金児丈助宛 八月			一通	か二四〇
御施行物頂戴願書〔真田家法事ニ付座頭・盲女へ施物・扶持米を頂戴したき旨〕 座元岩一外四名 郡奉行所宛 天保八年八月			三通	か二四二

金児丈助伺書〔円明院法事ニ付施行の件〕（天保八年）一二月	二通 か四八	計監御答書〔前件諮問への答申、計政副主事答申への意見具申〕 正月二二日	一通 か三〇七
金児丈助伺書〔同前、他所座頭へ施物の儀〕 一二月	一通 か四九	理事御答書〔前件諮問への答申、諸家使者・詰合役人への御賄被下方〕 正月二二日	一通 か三〇八
御買物役伺書〔法事施行ニ付、下白米一斗余を給すべき旨〕 一二月	一通 か四〇〇	少参事申上書〔法事供養料等の儀ニ付諸有司答申に基づき意見具申〕（金井麗水カ）（真田志摩宛） 正月二三日	一通 か三六九
御施行物頂戴願書 座元岩一 外四六名 郡奉行所宛 天保八年一二月	三通 か四三二	申送覚書〔法会以後の処置、別紙少参事見込の通りたるべきかの旨〕	一通 か三八四
感応院様御百ヶ日法事之節、長国寺詰役人人数書（嘉永五年九月カ）	一通 か元六	盛徳寺役僧口上書〔明日の法事執行方届書〕 御吟味役所宛 午年二月二六日	一通 か三八四
○明治三年清操院・大雲院法事			
包紙〔清操院様・大雲院様御法会書類、二七九九・二八一四番在中〕 明治三年二月	一点 か三九	柘植彦六申上書〔清操院法事当日諸入料・代香人名前・詰役人名前の報告〕 二月二七日	一通 か二六〇
盛徳寺役僧口上書〔来月七日大雲院（真田幸良）二七回忌相当の旨〕 御吟味役所宛 午（明治三年）正月	一通 か元三	柘植彦六書状〔法会の節、白米被下方別紙の通り差支え無き旨〕 金井麗水宛 二月二七日	一通 か二八〇
盛徳寺役僧口上書〔来月二七日清操院（真田幸實側室寿嘉）二三回忌相当の旨〕 同前宛 午年正月	一通 か元三	文久四年清操院様十七回忌法会留書	半 仮一冊 か二六〇
望月帰一郎書状〔別紙法事の件ニ付柘植彦六申立の趣を勘弁ありたき旨〕 桜山（真田志摩）宛 正月九日	一通 か元〇	慶応二年大雲院様二十三回忌法会留書	半 仮一冊 か二六〇
○			
柘植彦六申上書〔両院法事の件、早急に評議を諸方に命ぜられたき旨〕 正月九日	一通 か元二	御書取〔来ル二六日松寿院（真田信政側室高橋氏）一五〇回忌法事執行方〕 御奥元メ役宛（万延元年六月カ）	一通 か六元
計政副主事御答書〔法事の件御尋への答申、今般改革ニ付供養料減略方〕 正月	一通 か元六	惠雲院様御五十日之節、御側向被下物覚書（万延元年カ）	一通 か四四
法事供養料等先例書〔元治元年感応院一三回忌より慶応二年真松院五〇回忌までの分〕（計政副主事カ）	一通 か元五	真月院様法事供養料請渡証文 柳遊亀尾 池田富之進・堤常之丞外五名宛 明治二年八月	一綴 か三七五
		。真月院様十七回忌法事供養料請取証文 長国寺副寺 柳遊亀尾宛 明治二年八月二一日	一通
		真田家一族法名覚書	一通 か三七一

春光院様葬送遠忌法事料覚書〔享和三年—文政二年分〕

一通 か三四七

書狀〔明日法事ニ付詰女中乗物は桜井より手配の筈ニ付宜しく取計れたき旨〕 三人 同役宛 七月四日

一通 か三四三

〔丸山源五左衛門書狀〕〔法事調帳は其時々御用番より在所御用番へ廻したる旨報告〕 畑権兵衛宛 五日

一通 か三四六

廟所

高野山月牌料請渡証文〔瑤徽院・麗香院殿位牌建立ニ付高野山蓮華定院へ月牌料納入〕 小川多次 三井九郎左衛門・佐藤軍治宛 天明六年五月

一通 か二六六

包紙〔下谷広徳寺境中御霊供膳腕等焼失一件書付、一一九八—一二〇〇番在中〕 寛政九年三月五日

一点 か二七七

桃源院殿霊供膳腕目錄 梅雲院 二月一八日

一通 か二九八

梅雲院願書〔焼失の桃源院の膳部等、別紙の通り渡されたき旨〕 真田家留守居宛 二月二七日

一通 か二九六

霊供膳腕落手書 梅雲院納所 小林源右衛門宛 已〔寛政九年〕三月三日

一通 か三〇〇

江戸御留守居役申上書〔高野山蓮花定院焼失ニ付、幕府に届出づべきや否やの件調査報告〕〔真田家執政方宛〕 文化二年五月一日

一通 か七五

包紙〔大蓮院様御廟所之儀ニ付信州上田芳泉寺へ差出候書類、一一六一・一一六二番在中〕

一点 か二六〇

芳泉寺返答書〔真田信之夫人廟所の往古寺号・石碑文面御尋への回答〕 真田家役所宛 文政六年二月

一通 か二六六

大蓮院殿位牌文字并寸法書

二通 か二六三

大蓮院殿石碑図

一葉 か二六二

その他

家老書狀〔葬送御用意物取計方〕 真田志摩・望月主水 御用番家老宛 三月八日

一通 か三四二

大熊衛士申上書〔御実母死去の御機嫌伺いとして大莫寺以下より献土ありし旨〕 董 九月二日

一通 か三三三

御奥元メ役伺書控〔御葬式の節御供の者共へ弁當を給されたき旨〕 一〇日

一通 か三四九

長国寺登城次第書 嘉永元年八月

一通 か三六六

奥向

晴姫

○弘化二年御引移

申送り狀控〔晴姫真田家へ引移りの次第、引移り以後の御用勤の者名前、報知〕〔真田家〕〔高松松平家宛〕 一〇月一八日

一通 か三五五

晴姫様付御用掛名前書

一通 か三五六

真田家家老達書〔引移りの節、真田家惣容より祝儀物あること晴姫方へ伝達すべき旨〕〔真田家留守居宛カ〕 一〇月二一日

一通 か三五四

真田家留守居書狀控〔松平家服忌により晴姫引移りを逗留の名目にてなす旨、承知返報外〕 津田軫〔松平家宛〕

一通 か二六三

松平家御城付問合書并下札控〔逗留の名目にて引取の先例照会外諸件問合并回答〕〔古郡孫藏〕〔津田軫宛カ〕

一通 か二六五

真田家家老申渡書写〔奥女中関野外への宛行・引移御用勤仕についての申渡書五件分の留書〕

一通 か二五九

松平家御引移御用掛名前書

一通 か二五七

晴姫様付女中等名前書	一通 か二五〇四
御引移祝儀御仕向書	一通 か二五九六
御引移道順書	一通 か二五〇〇
長局部屋割書	一通 か二五九六
長局湯殿御貸道具品書	一通 か二五〇二
長局三部屋御渡道具品書	一通 か二五〇三
初雛祝儀御仕向書〔駒野カ〕 〔弘化三年二月二十六日三月二日〕	一通 か二五九〇
松平讃岐守様着府祝儀御仕向書	一通 か二五九二
○嘉永六年婚姻	
消息〔鉄漿式は結納の節にてよろしかるべきこと、先例調査〕 いそ崎 駒野宛	一通 か二五九二
鉄漿式祝儀御目録	一通 か二五九三
御書取〔駒野、婚姻御用掛命ぜられし旨〕 小山田菅右衛門宛 四月一五日	一通 か二五〇六
松平家婚姻御用掛名前書 八月一二日	一通 か二五〇七
御書取〔婚姻の次第を晴姫へ申上ぐべき旨〕 晴姫様御守役宛 〔一二月〕	一通 か二五九七
家老申渡書〔駒野以下に婚禮手充下される旨〕 駒野・関野外二名宛 一二月	一通 か二五九八
御書取〔婚禮給仕女中人数の件、宜しく取計うべき旨〕 小山田菅右衛門宛	一通 か二五〇八
婚禮祝儀下賜金留書〔御側役人・女中らへの下賜金〕 嘉永七年三月一六日	一綴 か二五九九

婚禮祝儀下賜金覚書 三月一六日	一通 か二六〇九
婚禮祝儀下賜金覚書 〔磯崎カ〕	一通 か二六〇〇
婚禮祝儀御目録	二通 か二五五五
晴姫消息	包紙一 か二五五三
1 消息案〔年頭祝詞〕 はる 母宛	一通
2 消息案〔婚禮無事済みしこと、御祝の品々目録の通り進する旨〕 はる 母宛	一通
3 消息案〔同前〕 はる 母宛	一通
袋〔御前様御有卦祝儀到来御書付、一六三六〇一六三八番在中〕 安政二年二月	一点 か二六五五
御前様御有卦入覚帳 安政二年二月一〇日	一冊 か二六六六
ふの字尽福引の目録	一通 か二六七〇
消息案〔ふの字尽の品々贈られしことへの礼状〕 〔晴姫カ〕	一通 か二六六六
御前様申年中御賄料請渡一紙勘定書 山寺源太夫・磯田音門外三名 水井市治・佐藤伊与之進外一名宛 文久二年三月	一綴 か二七五五
。御前様月割金請取証文 鹿野茂手木 高田幾太外宛 申〔万延元年〕正月一二月	一〇通
。御前様御賄料請取証文〔来年分賄料、申年仕切金、未年分差継物代残金〕 同前 斎藤友衛宛 申年一〇月・一二月	二通

○文久二年松代入部

祝儀物代金勘定書〔御前様入部時の奥女中への小袖・反物類代金〕 中俣一平 宮下謙太夫宛 戊辰(文久二年)一〇月	一通 か二六五	鎌原伊野右衛門差図書〔別紙勘定吟味役見込の趣にて再考すべき旨〕 綿内右門宛 二月二六日	一通 か二六七
祝儀物配分書〔殿様より奥女中への小袖類被下物〕	一通 か二六六	御奥元ノ役申上書〔上置は旧来の分にて使用可能、行燈は新調が必要の旨再申立〕 二月	一通 か二六九
御奥元ノ役伺書〔御前様入部のため矢代宿へ出向きたる奥女中に昼夕兩度の賄いありたき旨〕 一〇月	一通 か六〇九	鎌原伊野右衛門差図書〔別紙伺の品は御借入にて間合わすべき旨〕 綿内右門宛 二月二六日	一通 か二六六
御奥元ノ役書状案〔同前の件認可ニ付、矢代宿本陣へその旨伝達されたき旨〕 御郡方宛 一二月	一通 か六〇〇	御奥元ノ役伺書〔大御前様居住により御守役所以下の仮囲をなされたき旨〕 二月	一通 か二六九
御前様在所入 餞別御仕向書〔高松松平家〕	一通 か三三六	御勘定吟味役御答書〔御役所仮囲の件、必要なき旨〕 二月二九日	一通 か二七〇
御前様被為入候ニ付品々御用意物覚 御奥元ノ役	一綴 か六七	鎌原伊野右衛門差図書〔別紙伺の件、勘定吟味役見込の趣にて再考すべき旨〕 綿内右門宛 二月二九日	一通 か二七五
御前様御城着之次第書	二通 か六七	鎌原伊野右衛門差図書〔伺の趣は勘定吟味役見込の程を勘案すべき旨〕 同前宛 二月二九日	一通 か二七四
御前様御城着之次第書案	一通 か六七	鎌原伊野右衛門差図書〔行燈新調の件、御手許一張分は承済み、外並行燈は繰合なすべき旨〕 同前宛 二月二九日	一通 か二九三
○明治元年松代入部		鎌原伊野右衛門差図書〔鍋台・瓦火鉢出来の儀承済みたること、尤も勘定吟味役へ申渡したるニ付心得べき旨〕 同前宛 二月二九日	一通 か二六八
大御前様御殿ノ新御殿江御着輿之御式 御供御守役	一綴 か七五	新御殿御奥支配申上書〔御奥長局夜廻り蠟燭、長局建増により増加されたき旨〕 三月	一通 か二六〇
大御前様御殿ノ新御殿江御着輿之御式写 御奥元ノ役	一綴 か七五	新御殿御守役伺書〔夜廻りのため蠟燭増加の件、別紙の通り申立ニ付聞済ましなされたき旨〕 三月	一通 か二五三
松代城殿舎絵図	一鋪 か九四	御書取〔蠟燭増加の儀伺の如く承済みたる旨〕 新御殿御守役宛	一通 か二五二
御目通家中名前書	一通 か九四		
御目通家中名前前書	一通 か九四		
長国寺御靈屋御参詣次第書	一綴 か七七		
御奥元ノ役伺書〔大御前様入部ニ付行燈・上置出来方を申渡されたき旨〕 二月	一通 か二六九		
御勘定吟味役御答書〔行燈・上置出来方の件ニ付、有合わすの品にて済まざるや御奥元ノ役へ再考を促されたき旨〕 二月二六日	一通 か二六〇		
		真田家触書〔貞松院・大御前様在所入ニ付見送方〕 (明治元年)二月二三日	一通 か二六二

御用状案〔貞松院・大御前様江府発興ニ付松代着御礼次第〕
御用状〔御二方無事着興されし上は宜しく取計れたき旨〕 三人 五人宛 二月晦日
伺書類草案〔大御前様新御殿へ着興ニ付、新御殿仮囲普請方〕
御奥元メ役伺書〔御末時御雇への被下物の儀〕 二月
河原敬之進書状〔別紙御奥同役申立の件ニ付心得違恐入りたる旨〕 鎌原伊野右衛門宛 二月二日
御奥元メ役伺書并附札〔大御前様入部ニ付上番徒士等増員の件〕 二月
御奥元メ役伺書〔鍵番等人数増員の件再考ありたき旨〕 二月
鎌原伊野右衛門差図書〔鍵番増員の件承済みの旨〕 御奥元メ役宛 三月朔日
御達書〔奥女中役替にて大御前様付となりしを申渡すべき旨〕 御奥元メ役宛 三月朔日
御達書〔とも外二名、役替にて大御前様付となりしを申渡すべき旨〕 同前宛 三月朔日
御書取〔役替の奥女中、被下物は従前の通りの旨〕 同前宛
御書取〔佐藤兵助女、大御前様御雇ニ付被下物は並方の通りの旨〕 大御前様御守役宛
奥女中名前書
鎌原伊野右衛門差図書〔大御前様着興の御機嫌伺いを江戸より申来りしを申上ぐべき旨〕 大御前様御守役宛 三月七日

一通 か 六六
一通 か 六二
一通 か 五三
一通 か 六三
一通 か 六九
一通 か 六〇
一通 か 六一
一通 か 六二
一通 か 六三
一通 か 六〇
一通 か 六二
一通 か 六三
一通 か 六九
一通 か 九二
一通 か 九〇

新御殿御守役申上書〔増田助之丞養女、御側御雇ニ付拝借金許されたき旨〕 三月
鎌原伊野右衛門差図書〔別紙申立の件、半金拝借承済みの旨〕 新御殿御守役宛 三月一四日
鎌原伊野右衛門差図書〔真田幸民内海警衛御台場預り免除の幕命ありしを大御前様へ申上ぐべき旨〕 大御前様御守役宛 三月一四日
新御殿御守役伺書〔鍵番・使番等増員されたき旨〕 三月
鎌原伊野右衛門差図書〔別紙上番増員の件、許可ならざる旨外〕 新御殿御守役宛 三月一七日
鎌原伊野右衛門差図書〔別紙伺の通り承済みたる旨〕 同前宛 三月一七日
宮下孫兵衛書状〔殿様より大御前様へ広田御師献上の熨斗進せらる旨〕 同前宛 三月一十九日
鎌原伊野右衛門差図書〔寝所蚊帳金具出来の件、承済みたる旨〕 同前宛 四月四日
鎌原伊野右衛門差図書〔奥女中の年中被下物員数、調査上申すべき旨〕 中嶋渡浪宛 四月六日
望月婦一郎差図書〔飯山表へ真田家より援兵派遣の段、大御前様へ申上ぐべき旨〕 大御前様御守役宛 四月一三日
御達書〔奥老女付御末常盤に御暇下されしこと申渡すべき旨〕 御守役宛 閏四月六日
玉川左門差図書〔小林喜兵衛姉とめ、大御前様御末に御雇の段心得べき旨〕 南沢甚之介宛 閏四月六日
堀内市三郎書状〔御末御雇の件ニ付被下物員数書差上たるにより落手されたき旨〕 同前宛 閏四月八日

一通 か 六六
一通 か 六七
一通 か 六三
一通 か 六五
一通 か 六四
一通 か 六八
一通 か 六三
一通 か 六〇
一通 か 七〇
一通 か 六九
一通 か 六九
一通 か 六三
一通 か 三六
一通 か 三九

御前様御守役御用状〔御前様より松代殿様への年頭祝詞〕竹内晋平・鹿野茂手木 山寺源太夫・磯田音門外一名宛 正月朔日	一通 か三五八
山越右馬允書状〔大御前様明日供揃にて寺社参詣の旨〕 烟権兵衛・玉川一学宛 三月一二日	一通 か三九四
久保極人書状〔御前様へ御膳差上の儀手配されたるやの旨〕 赤沢助之進宛 三月二〇日	一通 か二〇九
近習役御用状〔殿様矢代宿まで到着、御前様へ鮠一〇尾進ぜらる旨〕 奥津権右衛門 鹿野茂手木宛 三月二一日	一通 か二〇六
馬場介作書状〔御届の儀は今日御退出へ差出す旨〕 山岸助藏宛 三月二四日	一通 か二〇八
御書取〔御留守中は一人ツ、泊りを勤むべき旨〕 御奥元ノ役・御前様御守役宛	一通 か二〇三
使者口上書〔増之助様を松平隠岐守躰養子となす件ニ付、殿様より晴姫様へ相談方申入〕 御使高嶋清兵衛	二通 か二六六
貞松院	
○文久三年松代入部	
貞松院様御一件帳〔御奥元ノ役〕 文久三年正月一 四月	一冊 か二〇六 横長半
御奥元ノ役御書〔取調物の御用紙を渡されたき旨〕 正月	一通 か二〇四
御奥元ノ役御書〔貞松院様入部ニ付御用紙の件許可ありたき旨〕 正月〔二七日〕	一通 か二〇五
赤沢助之進差図書〔御用紙の件承済みたる旨〕 御奥元ノ役宛 二月二一日	一通 か二〇六
上番人数并御用意道具覚書〔御奥元ノ役〕 〔三月一一日〕	一通 か二〇六

御居風呂場御用意物覚書 三月八日	一通 か二〇八
御奥御用意物覚書	一通 か二〇三
御膳所御用意物覚書	一通 か二〇九
御台所御用意物覚書	一通 か二〇八
長局部屋道具調帳	二冊 か二〇三 横長半
御書取〔貞松院様着日祝儀は御前様の折と同様たるべき旨〕 御奥元ノ役宛 〔三月一五日〕	一通 か二〇六
献立〔貞松院様御着與御膳座之次第〕	一冊 か二〇四 横長美
御書取〔貞松院様着日の御式并別紙図面を心得べき旨〕 御奥元ノ役宛 〔三月一七日〕	一通 か二〇七
貞松院様御着與之御式 御奥元ノ役	半 一冊 か二〇六
貞松院様御着與祝儀次第書	一通 か二〇五
松代城殿舎絵図	一鋪 か二〇一
御目通家中名前書	一通 か二〇三
御目通家中名前書	一通 か二〇四
貞松院御守役御用状〔時候見舞として内々献上の干鰯、貞松院様へ慥に届けたる旨、返礼状〕 馬場弥三郎 小山田菅右衛門・山岸助藏外三名宛 二月二八日	一通 か二〇五
貞松院御守役御用状〔貞松院様一二日当地発興ニ付宜しく取計われたき旨〕 〔小野肇カ〕 四人宛 三月七日	一通 か二〇六
貞松院御守役御用状〔書状送り状〕 馬場弥三郎 五人宛 三月八日	一通 か二〇七
貞松院御守役御用状〔別紙の通り御先荷物差出たるニ付宜しく取計われたき旨〕 同前 五人宛 三月九日	二通 か二〇五

貞松院御守役御用狀〔道中混雜にて御先荷の松代着も案せらるる旨〕 小野肇 四人宛 三月十一日	一通 か二〇七
貞松院御守役御用狀〔書状送り状〕 馬場弥三郎 四人宛 三月十二日	一通 か二〇七
貞松院御守役御用狀〔書状送り状〕 同前 四人宛 三月十七日	一通 か二〇九
赤沢助之進差図書〔別紙末文の趣は振合ある儀や否や進達すべき旨〕 御奥元ノ役宛 三月十八日	一通 か二〇七
御書取〔貞松院様仮住居御錠口外張紙の件〕 同前 三月二十五日	一通 か二〇六
御奥元ノ役伺書〔貞松院様御庭方道具調えられたき旨〕 三月二十五日	一通 か二〇九
御庭方御用意物覚書〔緞・鋤・箒外〕 杖右衛門 赤沢助之進差図書〔別紙伺の如く承済みたる旨〕 御奥元ノ役宛 三月二十六日	一通 か二〇七
御奥元ノ役伺書案〔御奥帳付・鍵番の者へ賄下されたき旨〕 三月二十八日	一通 か二〇九
御奥御用意物覚書〔手拭掛・炭取・じりん・舛等〕 御書取〔貞松院御着以後は御門潜の方を用うべき旨〕 御奥元ノ役宛	一通 か二〇九
御奥拝借金年賦上納方覚書 雑書付	一通 か二〇九
貞松院御守役御用狀〔松代城にて殿様年頭慶賀の段貞松院に申上、同院も目出たく思召の旨〕 小野肇・谷口弥右衛門・山寺源太夫・磯田音門外一名宛 (安政二年カ) 正月七日	一通 か二七四
貞松院御守役御用狀〔去年中御慰みとして貸下されたる道中記を返却の旨〕 同前 同前宛 正月十五日	一通 か三三九
御用狀別紙〔順操院母方の叔父藤田久平は高家大友の知行所にて庄屋を勤めおる旨、一二三九番の別紙〕 (同前) (同前宛) 正月十五日	一通 か三三〇
貞松院御守役御用狀〔順操院忌中ニ付御菓子料金百足取計うべき旨〕 同前 同前宛 正月十五日	一通 か三三二
貞松院御守役御用狀〔御祝誕内祝ニ付使者を以つて祝儀を進められたることへの返礼状〕 同前 同前宛 正月十五日	一通 か三三三
御側役御用狀〔殿様病氣快愈、また八丁堀御前様病氣回復のこと承知の旨、勘返付〕 山寺源太夫・高山内蔵進外一名 小野肇・谷口弥右衛門宛 (安政二年カ) 三月二日・九日	一通 か三三六
御側役御用狀〔今般御判物名代を以て頂戴有難きこと貞松院へ仰上げられたき旨外、勘返付〕 同前 同前宛 三月一日・一八日	一通 か三三三
御用狀別紙〔貞松院御供揃にて狂言見物を楽しみたる旨、二四三三番勘返別紙〕 小野肇・谷口弥右衛門・山寺源太夫・高山内蔵進外一名宛 三月一八日	一通 か三三七
御側役御用狀〔寒暖不順ニ付殿様病状やや優れずも御案じに及ばざること貞松院へ仰上げられたき旨、勘返付〕 高山内蔵進 小野肇・谷口弥右衛門宛 三月一八日	一通 か三三三
貞松院御守役御用狀〔貞松院昨日川崎大師へ参詣の旨〕 小野肇・谷口弥右衛門 山寺源太夫・高山内蔵進外一名宛 三月二十八日	一通 か三三六

真田信濃守書狀〔初春祝詞への返書〕 〔正月〕 貞松院宛	一通 か六七三	1 婚禮祝儀目録（りう姫カ） 貞松院宛	包紙一 一通
真田信濃守書狀〔地震見舞への返書〕 貞松院宛 同前宛 四月八日	一通 か六七三	2 消息〔婚禮挨拶状、祝儀目録進ずる旨〕 （りう姫カ） 貞松院宛	一通
山寺源太夫書狀案〔御発駕献上物の披露方〕 真田志摩宛 五月一三日	一通 か三三八	3 消息〔暑中見舞〕 りう 祖母（貞松院）宛	一通
広田正陽披露狀〔重陽祝儀の祓大麻・金米曆外を貞松院へ献する旨〕 馬場弥三郎・石倉藤右衛門宛 九月吉日	一通 か三九六	包紙〔真月院（真田幸貫室）様御草、二七四三〜二七四五番在中〕	一点 か三九三
鈴木十兵衛等連署狀断簡〔貞松院当領分通行の節、馳走無用の趣承知の返報〕 鈴木十兵衛・大野木助左衛門外二名 宮下主鈴外宛 〔慶応元年カ〕正月二五日	一通 か三六三	消息〔年頭祝詞〕 真月院（貞松院）宛	包紙一 一通 か三九三
消息案〔日柄よろしく引移り婚儀滞りなく済みし旨、婚礼挨拶状〕 てい（貞松院）父（柳沢保泰）宛 〔天保六年一二月カ〕	一通 か三七四六	消息〔先日父上入来にて品々賜わりしことへの礼状〕 和可 千寿宛	一通 か三九三
消息〔婚儀万端整いたること目出度き旨返報〕 甲斐守（柳沢保泰）定宛	一通 か三七五	消息案〔八朔祝儀への返礼状〕 母（貞松院）叔母、柳沢光被室とせ宛	包紙一 一通 か三七七
消息〔同 前〕 わか 定宛	一通 か三七四	消息〔年頭祝詞〕 あい	包紙一 一通 か三九三
消息案〔築地様より此程中の祝儀として反物頂戴、御前様よりも御礼申付けられし旨、御礼吹聴〕 母宛	一通 か三七四一	消息〔年頭祝詞〕 珠光院（貞姫、松平定猷室）	包紙一 一通 か三七五
消息〔年頭祝詞、返報〕 郡山（柳沢保泰カ）定宛	一通 か三七六	側室	
消息〔年頭祝詞〕 甲斐守（柳沢保申カ）貞松院宛	一通 か三七四	○安政四年お久貫切一件	
消息〔柳沢氏の無事城着を献ぶ貞松院よりの見舞状への返礼状〕 甲斐守（柳沢保申カ）貞松院宛 （九月）	二通 か三七七	江戸御側役御用状〔お久貫切の件ニ付同人は了承し梓の奉公を望みたる旨〕 竹内晋平・鹿野茂手木 山中鹿渡・山岸助藏外一名宛 八月一二日	一通 か三七三
消息〔年頭祝詞〕 唯心 貞松院宛	一通 か三七六	江戸御側役御用状〔お久親山本要左衛門へ岡田新兵衛を以て懸合たるところ了承せし旨〕 同前 同前 同前 八月一五日	一通 か三七三
貞松院宛りう姫消息	包紙一 一通 か三七四〇	江戸御側役御用状〔山本要左衛門より別紙到来ニ付挨拶方指示されきたき旨〕 同前 同前宛 八月二一日	一通 か三七四
		松代御奥元メ役御用状〔二二日付御用状の趣承知、要左衛門の望みを探られたき旨〕 （山中鹿渡・山岸助藏外一名カ） 竹内晋平・鹿野茂手木宛 八月晦日	一通 か三七五

江戸御側役御用状〔要左衛門望みは扶持米支給の旨〕 一名宛 九月六日 竹内晋平・鹿野茂手木 山中鹿渡・山岸助蔵外	一通 か二七	松代御奥元メ役御用状案〔久米御暇ニ付閑所手形、親土屋宇兵衛へ被下金等の件〕 （小山田菅右衛門・山岸助蔵外カ） （馬場弥三郎宛カ） （九月二十六日）	一通 か六三
江戸御側役御用状〔要左衛門お久貫切承知ニ付、金二〇兩・一生の内二人扶持支給のこと、この趣お久にも伝達されたい旨〕 同前 同前宛 一〇月二一日	一通 か二七	江戸御側役御用状〔久米親元への引渡方・五〇兩被下金の件〕 馬場弥三郎 小山田菅右衛門・山岸助蔵外二名宛 一〇月七日	一通 か六二
御用状別紙〔当金・二人扶持の儀は御手元金より支出の旨〕 （同前） （同前宛） （巳年）一〇月二八日	一通 か二七	江戸御側役御用状〔奥女中着物に模様物は見合わせとすべきも未だ治定せざる旨〕 鹿野茂手木・馬場弥三郎外一名 同前宛 一〇月七日	一通 か六三
家老申渡書控〔金二〇兩・玄米二人扶持を贈らるる旨〕 山本要左衛門宛 一〇月二一日	一通 か二七	反物代金勘定書 幾久屋伝兵衛 久米宛 戊午一〇月七日	一通 か六〇
山本要左衛門分扶持米金員数覚書	一通 か二八	久米御暇一件伺書留〔御暇出立ニ付酒肴被下方、人馬・駕籠手配方外〕 御奥元メ役	一通 か六七
御用状案〔御参府の節其表にて兩人御抱の件〕 （松代御奥元メ役カ） （江戸御側役宛カ）	一通 か二八	土屋宇兵衛・久米連名請書写〔久米手充金下賜にて永の御暇ニ付以後厄介をかけざる旨〕 真田家御奥役人宛 文久二年十一月	一通 か六三
御奥元メ役申上書〔当四月御貫切ニ付、ひさ親山本要左衛門・くめ親土屋宇兵衛への金米下され方〕 （安政五年・カ）七月	一通 か二六	江戸御側役御用状〔久米御暇ニ付閑所手形渡し方・道中賄い方〕 馬場弥三郎 山岸助蔵・綿内右門外二名宛 十一月八日	一通 か六五
扶持米代金勘定書〔山本要左衛門・土屋宇兵衛分〕 松本賢吾 安政六年七月	一通 か二六	内密御用状〔久米御暇の節所持衣類を収公したるを同人憤慨し、江戸中評判にせんと存念の由〕 （同前） （同前宛） 十二月八日	一通 か六六
御奥元メ役願書〔ひさ・久米兩人への払方滞分を成し下されたい旨〕 御側御納戸役宛 申（万延元年）十二月	一通 か二五	松代御奥元メ役御用状案〔久米衣類収公の件〕 馬場弥三郎宛 十一月二〇日	一通 か六一
金子請渡証文〔ひさ・久米への被下金〕 山岸助蔵 宮下謙太夫宛 万延元年十二月二七日	一通 か二五	松代御奥元メ役御用状案〔久米衣類収公の件は懸念なき旨〕 （同前宛）	一通 か六八
山本要左衛門願書写〔暮方難渋ニ付金百兩の合力を聞済まされたい旨〕 真田家役人宛 元治元年二月四日	一通 か二七	松代御奥元メ役御用状案〔久米一行江戸着ニ付御証文は松代表へ返進されたい旨〕 （同前宛）	一通 か六七
山本要左衛門披露状〔真田氏無事在着への祝詞〕 同前宛 三月五日	一通 か三七	御奥元メ役伺書〔奥女中出府ニ付下女一人に拝借金ありたき旨〕 一〇月	一通 か六四
○文久二年久米御暇一件			

赤沢助之進差図書〔別紙伺の通り承済み、逗留中は御台所賄と心得べき旨〕 御奥元メ役宛 一〇月二二日

竹花新助願書〔奥女中出府付添の自分娘、御用済み次第返されたき旨〕 桜井与平宛 十一月二〇日

久米御暇一件諸書付留 九月一―一〇月

雑書付

○

殿様御側役申上書控〔順操院格式取立ニ付、殿様より切米金御増ある旨〕 伊藤環・高山内蔵進 七月一日

殿様御側役申上書控〔前件出精ニ付貞松院女中近野へ褒賞ありたき旨〕 同前 七月一日

奥女中

小山田老岐差図書〔御二方松代入部御用意ニ付御供御奥支配方人数の件〕 小山田菅右衛門宛 〔文久二年カ〕九月一―八日

〔姓不詳〕伴治書状〔御二方入部御内用意の件田中万作へ仰下されたき旨〕 御奥元メ役宛 九月一九日

矢沢将監差図書〔吉川万助娘きを御次御雇となしたる旨〕 同前宛 九月二一日

斎藤友衛書状〔女中御抱の件ニ付堀内太一郎・田中万作娘へ打診ありたき旨〕 内林平蔵宛 九月二二日

彌津三十郎書状〔娘病氣、また用意調わさるにより奉公差上延引の旨〕 同前宛 九月二三日

御奥元メ役伺書〔永差立の者の家族婦女子の内、御小姓仰付けられたる折の席順の件〕 九月

伺書案〔奥女中御抱の儀差支ニ付御内意成し下されたき旨〕 〔御奥元メ役カ〕

赤沢助之進差図書〔御奥支配立婦出府の手充は御省略年限中ニ付願の如くはならざる旨〕 御奥元メ役宛 一〇月六日

○拝借・被下物

御奥元メ役申上書案〔綾雲院卒去前後骨折の奥女中へ被下物ありたき旨〕 〔慶応元年カ〕三月

御奥元メ役伺書案〔奥女中病氣下宿の節の被下物の件評議上申〕 四月

山岸助蔵伺書〔十河彦次郎拝借金願出の件〕 四月

御奥元メ役伺書〔同 前〕 四月

御書取〔十河彦次郎娘千代、御側御雇ニ付被下物あるべき旨〕 御奥元メ役宛

御奥元メ役伺書〔高橋伝治娘御側御雇により拝借金願出の件〕 四月

御書取〔高橋伝治娘うた、御側御雇ニ付被下物あるべき旨〕 御奥元メ役宛

御奥元メ役申上書〔高橋伝治拝借金歎願の儀ニ付内々申上〕 五月

御奥元メ役伺書〔奥女中奉公上リニ付酒肴下されたき旨〕 五月二日

御奥元メ役伺書〔同 前〕 五月

御奥元メ役伺書〔鎮目実之助拝借金願出の件〕 五月

御奥元メ役伺書案〔同 前〕

廻牒〔女中御賞筋の儀ニ付部屋住居の者は御用多きことを勘考すべき旨〕 小山田菅右衛門 山岸助蔵・綿内石門外一名宛 一九日

一通 か三二

二通 か六五

一綴 か六八

五通 か六四

一通 か六〇

一通 か六〇

一通 か三三

一通 か三三

一通 か三三

一通 か三三

一通 か三三

一通 か三三

一通 か三三

一通 か三三

四通 か二三

一通 か二六

一通 か二七

一通 か二五

一通 か二三

一通 か二六

一通 か二七

一通 か二五

一通 か二四

一通 か二三

二通 か二二

二通 か二六

御側時御雇女中被下物代金勘定書〔根来斧右衛門娘みち御雇中の切米・扶持米・薪炭等月々被下物代金〕 新御殿御奥支配添役

袋〔奥女中関係書付、一六六〇一六九番在中〕
慶応三年七月

女中御雇被仰出留書〔慶応元年一二年分〕 卯年七月二日

岸太五之丞娘奉公一件留書 七月

女中奉公人名前書

女中奉公人名前書

女中奉公人名前書

女中着服法度写〔谷口弥右衛門〕

女中奉公持参品々覚書

御目付書状〔奥女中出所年齢取調書を披見したる旨返報〕 新御殿御守役宛 六月二十九日

うら野願書〔病身老年により御暇下されたき旨〕
四月二十八日

御書取〔堀内連娘のい、順操院御付となるにより被下物は並の通りたるべき旨〕 御奥元々役宛

碓氷峠関所手形

○万延元年関所手形調達一件

御奥元々役申上書控〔順操院并奥女中立帰出府ニ付関所手形調達方要請〕 (赤沢助之進宛) 八月

碓氷関所女手形願書控〔女上下九人、松代より江戸までの旅、碓氷峠関所手形の申請〕 (真田幸教) 松平丹波守宛 万延元年八月

一綴 か二〇〇

一点 か二五

一綴 か二六

一通 か二六

二綴 か二七

一綴 か二九

一通 か二三

一通 か二〇〇

一通 か二〇三

一通 か二〇元

一通 か三七

一通 か三五

一通 か三九

一通 か二〇〇

包紙〔碓氷関所手形調達一件書付、四九三〇五〇〇番在中〕 万延元年

松本松平家用人書状〔松平家より真田家に手形・返書を進すべき旨〕 西郷莊右衛門・林箭的 寺内友右衛門・小山田菅右衛門外一名宛 八月二七日

松本松平家老書状〔真田家に関所手形を調達する旨〕 林監物・西郷新兵衛外二名 矢沢将監・小山田老岐外三名宛 八月二七日

松平光則書状〔碓氷関所女手形一通を進する旨〕
真田信濃守〔幸教〕宛 八月二七日

松本松平家用人書状〔手形調達ニ付、松平家への進物への返礼状〕 西郷莊右衛門・林箭的 寺内友右衛門・小山田菅右衛門外一名宛 九月八日

松本松平家用人書状〔手形調達ニ付、取扱役への進物への返礼状〕 同前 同前宛 九月八日

松本松平家老書状〔手形調達ニ付、真田家よりの書状の趣を披露すべき旨返報〕 林監物・西郷新兵衛外二名 矢沢将監・小山田老岐外三名宛 九月八日

松平光則書状〔手形調達ニ付真田幸教よりの書状への返報〕 真田信濃守宛 九月八日

○慶応三年関所手形調達一件

包紙〔碓氷関所手形調達一件書付、五〇七〇五一一番在中〕 慶応三年

松本松平家用人書状〔関所手形并松平家よりの返書を送付の旨〕 稲村左近右衛門・畔田弥右衛門、谷口弥右衛門・山中鹿渡外一名宛 正月一〇日

松本松平家用人書状〔松平家への進物の返礼状〕 同前 同前宛 三月二〇日

松本松平家用人書状〔手形取扱役への進物の返礼状〕 同前 同前宛 三月二〇日

一通 か四九三

二通 か四九四

二通 か四九七

一通 か四九六

一通 か五〇〇

一通 か四九三

一通 か四九六

一通 か四九六

一点 か五〇六

一綴 か五〇七

一通 か五〇八

一通 か五〇九

松本松平家用人書狀〔真田家よりの手形調達一件の礼状・進物への返礼状〕 同前 同前宛 三月二〇日 一通 か 五〇

真田家江戸用人御用状〔正月中松本松平家よりの返書を松代側へ返却すべきところ見当らず迷惑の旨外〕 烟権兵衛・津田転 谷口弥右衛門・山中鹿渡外 一名宛 三月一五月 四通 か 五二

○慶応三年関所手形調達一件

包紙〔碓氷関所手形調達一件書付、五〇二・五〇五番在中〕 慶応三年 一点 か 五二

松本松平家用人書狀〔関所手形松平家よりの返書を送付の旨〕 稲村左近右衛門・畔田弥右衛門 谷口弥右衛門・山中鹿渡外一名宛 六月一日 包紙一 一通 か 五〇四

松本松平家老書狀〔手形調達の旨〕 野々山四郎左衛門・近藤三左衛門外五名 鎌原伊野右衛門・赤沢助之進外三名宛 六月一日 包紙一 一通 か 五〇三

松平光則書狀〔関所女手形一通相認め進ずる旨〕 真田信濃守〔幸民〕宛 六月一日 一通 か 五〇二

真田家江戸用人御用状〔手形一件の松平家よりの返書を松代表へ返却するにつき落手されたき旨〕 烟権兵衛・津田転 谷口弥右衛門・山中鹿渡外一名宛 七月一九日 二通 か 五〇五

包紙〔碓氷関所手形調達一件書付、四八九・四九一番在中〕 卯年〔慶応三年カ〕 一点 か 五〇八

松本松平家用人書狀〔関所手形松本家よりの返書を送付の旨〕 稲村左近右衛門・畔田弥右衛門 谷口弥右衛門・山中鹿渡外一名宛 六月二一日 包紙一 一通 か 五〇九

松本松平家老書狀〔関所手形を調達の旨〕 野々山四郎左衛門・近藤三左衛門外五名 鎌原伊野右衛門・赤沢助之進外四名宛 六月二〇日 包紙一 一通 か 五〇九

松平光則書狀〔関所女手形一通相認め進ずる旨〕 真田信濃守〔幸民〕宛 六月二一日 包紙一 一通 か 五〇九

真田家江戸用人御用状〔松平家よりの返書を当方に廻され殿様の御覽に入れたること、返礼状は当地にて取計うべきこと承知の旨〕 烟権兵衛・津田転 山中鹿渡・横田甚五左衛門宛 七月三日 一通 か 五〇九

真田家松代用人御用状〔松平家への返礼状の件再返報、また玉川左門下女御府へ付関所手形願の件〕 山中鹿渡 烟権兵衛・津田転宛 七月一六日 一通 か 五〇九

碓氷関所女手形願書控〔女上下四人、内尼二人江戸より松代まで通行〕 玉川左門〔松本松平家宛〕 順操院出府一件諸書付留〔順操院母病氣ニ付出府の件、同人并付添の者関所手形調達の件外〕 御奥元ノ役 九月 一通 か 六二

御奥元ノ役伺書〔奥女中出立ニ付、順操院御付に成されたき旨〕 三月 一通 か 六〇四

松本松平家老書狀〔真田氏御暇にて在着への祝詞〕 中柴縫殿助・林監物外二名 小山田沓岐・河原舍人宛 七月七日 一通 か 四九五

奥向賄

金子上納証文〔世子真田信弘の江戸拝借米の返済方〕 大日方佐五右衛門・近藤郷左衛門 星野五兵衛・竹内勘右衛門宛 宝永二年 一通 か 三六八

金子上納証文〔世子拝借返納米の内、夙宿への拝借米とせし分の年賦返済代金上納方〕 同前 同前宛 宝永二年 二月二九日 一通 か 三六九

金子上納証文〔同前〕 高野権右衛門 馬場与惣右衛門・木内清八外一名宛 宝永三年 二月二二日 一通 か 三五〇

金子上納証文〔世子拝借米・御手廻駕籠扶持米駄賃金〕 近藤郷左衛門・河原喜右衛門 竹内勘右衛門・馬場与惣右衛門宛 宝永四年 二月二九日 一通 か 三五一

金子上納証文〔夙宿年賦返済代金〕 高野権右衛門 同前宛 宝永四年 二月 一通 か 三三三

金子請取証文〔鼠宿村八左衛門拝借金の年賦返済金〕 近藤郷左衛門・河原善右衛門外一名 木内清八・馬場与惣右衛門外一名宛 宝永三年二月二十九日	一通 か二五三
○万延元—元治元年詰中御用書類	
金子請取証文〔たばこ入代金〕 松本賢吾 月岡万里宛 八月	一通 か二五四
金子請取証文〔綿裂・御箱・瀬古等代金〕 扇屋文吉 宮下様御取次衆中宛 九月五日	一通 か二五三
金子請取証文〔ごろふくたばこ入代金〕 橋屋 酉〔文久元年カ〕九月七日	一通 か二五二
金子請取証文〔松みどり御買物代金〕 むさし屋兼吉 九月七日	一通 か二五四
金子請取証文〔足袋代金〕 駿河屋 十一月四日	一通 か二五一
山田見龍書狀〔拝借金一〇両請取りたる旨〕 河原敬之進宛 一二月二六日	一通 か二五三
祝儀進物覚書 正月二日	一通 か二五七
金子請取証文〔火のし・かけ針等代金〕 名古屋久二郎 正月五日	二通 か二五五
金子請取証文〔中李・針箱代金〕 黒多屋太兵衛 正月五日	一通 か二五六
金子請取証文〔反物代金〕 ひたち屋 戌〔文久二年カ〕二月一二日	一通 か二五四
金子請取証文〔硯箱等諸道具代金〕 藤木喜兵衛 二月一二日	一通 か二六三
金子請取証文〔紅毛更紗代金〕 小蘭田屋忠右衛門 二月一二日	一通 か二五二
金子請取証文〔彫丁・水丁代金〕 木爪屋重兵衛 戌〔文久二年カ〕二月一三日	一通 か二六一
金子請取証文〔煎茶代金〕 花菱屋太市郎 二月一日	一通 か二五三
金子請取証文〔両畑石・硯石代金〕 高しま久治郎 二月一九日	一通 か二六三
金子請取証文〔羽織代金〕 万屋七兵衛 中俣一平宛 子〔元治元年カ〕九月晦日	一通 か二六七
猪口盃注文書控	一通 か二六一
雑書付	五通 か二六九
○	
殿様月割金仕切金請渡勘定書 長谷川三郎兵衛・齋藤友衛外一名 水井市治・平村吉之助外一名宛 元治元年三月	一綴 か二六九
。殿様月割金請取証文 宮下謙太夫 長谷川三郎兵衛宛 文久三年正月—二月	一三通 か二六九
。殿様亥年分仕切金請取証文 同前 同前宛 文久三年—二月	一通 か二六九
御菓子代金勘定書 寅〔慶応二年カ〕一〇月一九日	二通 か二六四
辰年御台所諸色入料仕上勘定書 近藤権内 池田富之進・堤常之丞外五名宛 明治二年四月	一通 か二七〇
真田造次郎止宿入料請渡証文 馬場広人 岡野敬一郎宛 明治三年—二月二九日	一通 か二七三
御手元献上物請取証文〔杉皮七丸〕 竹寿新介・西村半六 小山田久米宛 庚午〔明治三年〕—二月	一通 か二七九
元御台所元々御答書〔午年欠村・合薬村人員へ御賄代料被下方〕 壬申〔明治五年〕七月	一通 か二七九
松本賢吾願書写〔真晴院〔晴姫〕御買上物料払残引負の儀〕 一月	一通 か二六六

御普請方書状〔御入料巨燵檣は奥坊主へ相渡、当方には無き旨返報〕 御郡方宛 二月二八日	一通 か三七七	呉服代金請取書 後藤屋宇吉 巳〔安政四年〕六月	三通 か三六七
小山田菅右衛門書状〔畑権兵衛よりの金子入書状御届の旨〕 倉田三之丞宛 三月一三日	一通 か二四〇	呉服代金勘定書〔後藤屋宇吉より買上分〕 閏五月一六日	一通 か三六六
御菓子盛交品書 蟹屋和三郎 三月	一通 か二七三	呉服値札	一四枚 か三六九
御料理代銀積り書 売茶亭又兵衛 三月	二通 か二七〇	呉服仕立見積書 板屋賀助 御奥役所宛 元治元年三月	一通 か三六四
赤沢助之進差図書〔順操院殿石燵の儀、伺の如く承済みたる旨〕 御奥元メ役宛 五月一九日	一通 か三三三	呉服仕立手間人数覚書〔戊辰七月一二月分〕 子年一二月	一通 か二四〇
両御奥御勝手掛申上書〔御奥使番足輕休息所修復されたき旨〕 〔元治元年カ〕五月	一通 か三〇四	呉服代金勘定書 板屋賀助 表御納戸役所宛 明治元年二月	一通 か一四四
御奥元メ役・御守役御答書〔御奥使番休息所の件、諮問への答申〕 〔元治元年カ〕五月	一通 か三〇三	消息〔御奥衣服の調方〕 なつ 父宛	一通 か一〇三
〔柳安喜書状〕〔暮御賞申立のこと来ル一五日限となすべき由、御勝手方より差図の旨〕 御奥元メ役宛 一〇月八日	一通 か二三三	御奥呉服員数覚書	一通 か一〇九
諸口金銭清算勘定書	二通 か二七九	御奥呉服員数覚書	一通 か一〇三
○		御奥呉服代銀勘定書	二通 か一〇〇
御奥元メ役同書〔鍵番の者立婦出府ニ付被下物の件〕 〔綿内右門〕 四月	一通 か二四九	坊主衆	一通 か一〇〇
御奥元メ役同書〔同前〕 七月	一通 か二四九	坊主衆着服・結髪願一件	一通 か二五九
恩田頼母差図書〔別紙伺の通り承済みたる旨〕 綿内右門宛 七月二九日	一通 か二四九	赤沢助之進進達書〔坊主衆袴着用の儀承済みたる旨〕 御用番宛 三月二二日	一通 か二四九
呉服		御目付御答書〔茶道坊主袴着用・結髪の際ニ付御尋への答申〕 六月	一通 か二五〇
呉服寸法書 安政三年	七通 か五元	禰津神平御答書〔同右一件、御目付の見解に同意の旨答申〕 六月八日	一通 か二五二
御奥呉服注文書付見本切地 〔安政四年〕閏五月九日一二七日	三通 か三六六	金井美濃輔御答書〔同右一件、袴は暫く着用、また被髪にて然るべき旨答申〕 六月	一通 か二三三

廻牒〔別紙答申により暫くのうち平常袴着用のみ
許可然るべき旨存念伝達〕 大熊衛士 鎌原伊野右衛
門・河原左京外二名宛 六月一日

大熊衛士書状〔同右一件、別紙の通り評議したる旨〕
御用番宛 六月十七日

大熊衛士書状〔評議書類返却の上指示ありたき旨〕
望月婦一郎宛 八月二六日

廻牒〔朝政復古により坊主・医師還俗の由なれば当
藩にても改正あるべき旨〕 董(大熊衛士) 桜山(真
田志摩)・澁水(鎌原伊野右衛門) 外三名宛 一〇月五
日

奥方役人用状

伊藤環添状〔御状一封進ぜらるるニ付落手されたき
旨、勘返付〕 高山内蔵進宛 二月二五日・三月二日
同七日

伊藤環注進状〔昨日閣老鎌倉へ遠乗、見物群集した
る旨〕 三月二日

御用状送付目録〔書状六封送付ニ付、各人へ配られ
たき旨〕 久保極人 中俣一平宛 (元治元年頃) 六月
二三日

御奥元ノ役書状〔殿様へ寒中伺として松代奥方役人
御側女中より内献上ニ付金子を取集め送られたき旨〕
山岸助藏・大日方正司外一名 宮下権兵衛・榎田弥
惣兵衛外四名宛 二月二八日

包紙一

御側御納戸役書状〔殿様への寒中献上ニ付金三朱を
送付する旨〕 (宮下権兵衛・榎田弥惣兵衛外四名)
(山岸助藏・大日方正司外一名宛) 正月一日

中嶋渡浪書状〔新御殿引渡方、御不快ニ付延引のこ
と承知されど貞松院発興の節の内談の通り山本常馬
を名代にて請取られたき旨〕 山本権平宛 (慶応元
年カ) 二月一日

中嶋渡浪書状〔御殿引渡請取方この上の延引はなる
まじき旨申入〕 同前宛 二月二日

大殿様御側役返札〔暑中見舞の書状の趣、大殿様へ
達したる旨〕 興津権右衛門・磯田小藤太外二名 畑
権兵衛・津田転宛 六月十八日

江戸屋敷

屋敷替

老中申渡書〔真田・渋谷・近藤の屋敷地三万相對替
許可の旨〕 安藤信成 真田幸弘宛 寛政八年七月六
日

包紙二

包紙〔三崎下屋敷と深川屋敷相對替ニ付近藤・渡辺
様御請取証文、二六・一六・二六・二五番在中〕

屋敷地相對替口入札金請取証文 深川霊岸寺地中
安養院内卜齋 真田家留守居鈴木弥左衛門・渡辺友右
衛門宛 寛政八年七月八日

一通 か二五

相對替屋敷地代金引料請取証文〔近藤家深川屋敷
四五〇坪の内三〇〇坪と真田家三崎屋敷の内三〇〇坪
との相對替に伴う引料金七〇兩〕 近藤彦八郎 同前
宛 寛政八年七月九日

一通 か二九

屋敷地引渡証文 近藤彦八郎内上田平次 鈴木弥左
衛門・渡辺友右衛門外一名宛 寛政八年七月九日

包紙一

屋敷地請取証文 同前 同前宛 寛政八年七月一〇
日

一通 か二七

深川屋敷守屋引渡挨拶料落手書 河田半左衛門
行田屋茂平治宛 七月九日

一通 か二三

屋敷借請規定書〔近藤家小松町拝領屋敷を一〇ヶ年
借地・年二兩の礼金の約定〕 鈴木弥左衛門・渡辺友
右衛門外一名 上田平次宛 寛政八年八月二三日

一通 か二六

〔近藤家用人書状〕〔深川屋敷間敷改め、地代金落手
等、早急にす旨〕 勝田政二郎 鈴木弥左衛門宛
八月二四日

一通 か二三

〔近藤家用人書狀〕〔真田家三崎屋敷田修復の節、近藤家分までなされしことへの礼狀〕恒部忠右衛門・勝田政次郎 鈴木弥左衛門宛 二月二日	一通	か三六四	深川拝領屋敷内借規定書 近藤彦八郎 窪田三郎左衛門・三沢万右衛門外一名宛 文化三年九月	一通	か三六
名前書〔小石川鷹匠町地引団七地面之内、矢嶋敬藏〕	一通	か三六五	深川拝領屋敷内借規定書控 窪田三郎左衛門・三沢万右衛門外一名 近藤家上田平治宛 文化三年九月	一通	か三六元
借地礼金請取証文 近藤彦八郎 真田家深川屋敷留守居久保左十郎宛 寛政九年七月	一通	か三六八	包紙〔三崎御屋敷と深川小松町相對替証文、二六三・二六三三五番在中〕	一点	か三六三
屋敷替差添金子請取証文〔真田家三崎屋敷切坪と自分拝領深川屋敷と相對替ニ付差添金三兩請取りたる旨〕石場市三郎 真田家窪田三郎左衛門・久保左十郎宛 文化七年五月	一通	か三四	屋敷地請取証文 松波幸右衛門内林安兵衛 真田家石川新八・樋口莊司外一名宛 文政三年五月二二日	一通	か三四
屋敷替差添金子請取証文〔同前ニ付差添金三五兩請取りたる旨〕近藤彦八郎 同前宛 文化七年九月	一通	か三四	屋敷地引渡証文〔真田三崎屋敷切坪と松波築地屋敷・石場深川屋敷との三方相對替〕石場主膳内三浦忠司 同前宛 文政三年五月二二日	一通	か三五
屋敷地相對替規定書〔真田・曲淵・池田の三方相對屋敷替と差添金授受の規定〕曲淵家用人鈴木順平・山村九右衛門 津田転・藤田繁之丞外一名宛 嘉永四年	一通	か三三	草野半右衛門書狀〔相馬家麻布中屋敷と真田家深川屋敷との替地の件、在所より不同意申越ニ付先方へ返答されたる旨〕文政二年七月二九日	一通	か三六〇
津田転申上書〔曲淵家用人入来にて別紙規定書を取替わしたる旨〕六月二八日	一通	か三三	草野半右衛門書狀〔屋敷替断わりの件、甚左衛門へも申入れたる旨〕〔菅沼弥右衛門宛〕八月六日	一通	か三六〇
包紙〔渋谷縫殿助様御下屋敷深川小松町与三崎御下屋敷御相對替ニ付証文三通、二六三・二六三二番在中〕	一点	か三三〇	老中申渡書〔真田家赤坂南部坂屋敷、芝金杉へ替地の旨〕〔稻葉正邦〕〔真田幸民宛〕〔慶応三年一月二二日〕	一通	か三三
屋敷地引渡証文 渋谷家用人河田半左衛門・田臥左平治 鈴木弥左衛門・渡辺友右衛門外一名宛 寛政八年七月九日	一通	か三三	御用廻狀写〔大名諸家江戸屋敷召上の旨、東京府判府事よりの命伝達〕植村家留守居 真田・柳沢外九家留守居宛 〔明治元年〕八月	一通	か三三
屋敷地請取証文〔真田家三崎下屋敷切坪二千坪請取りたる旨〕同前 同前宛 寛政八年七月一〇日	一通	か三三	御用廻狀写〔屋敷拝領の願書認方〕同前 同前宛 八月二六日	一通	か三三
屋敷替差添金子請取証文〔屋敷相對替に伴う添金五〇〇兩請取りたる旨〕同前 同前宛 寛政八年七月八日	一通	か三三	抱屋敷		
包紙〔近藤彦八郎様御拝領屋敷御借地年限明ニ付、猶又当寅々来亥年迄拾々年之間御借繼証文、二六二八・二六二九番在中〕	一点	か三三七	永坂御抱屋敷年貢金請取証文 今井町地親五左衛門・十兵衛 御貽所宛 寛政七年五月四日	一通	か三四
			渡辺友右衛門寛書〔永坂抱屋敷年貢金請渡方、別紙証文の通り以後構わさる旨〕〔真田家宛〕辰年二月	一通	か三四五

3 赤坂溜池常湊組合姓名高付書 赤坂溜池常湊出銀取集廻狀	一通	か三五七
1 御用廻狀「二五七三―1に同文」 真田・三浦・ 吉川留守居 土岐主税・岡部外記外二七名用人宛 五月二五日	一通	
2 御書付写「二五七三―2に同文」 御普請方下奉 行・同改役 子年五月	一通	
3 赤坂溜池常湊組合姓名高付書 組合年番中廻狀「廻狀四通に仕立て差出したる旨」 真田留守居池村文兵衛 三浦・吉川留守居宛 五月 二七日	一通	か三五七
袋「赤坂溜池常湊出銀取集一卷書付、二五八〇―二 五八四番在中」 寛政四年	一点	か三五九
御高違御屋敷替等之御書付	か三六一	
1 石川新八進達書「寛政四年六月常湊出銀の件、 高違等の分の出銀清算勘定ニ付幕府より示達方の報 告」 六月五日	一通	
2 赤坂溜池常湊出銀高届出証文「田中鉄之丞出銀 分 屋敷替にて石崎方より納入の旨」 石崎甚左衛 門内門奈文治 寛政四年五月	一通	
3 赤坂溜池常湊出銀高届出証文「高違の旨」 山 田兵助内鈴木九十九 寛政四年五月晦日	一通	
4 赤坂溜池常湊出銀高届出証文「改名の旨」 宮 重久右衛門内小林惣治 寛政四年五月	一通	
5 赤坂溜池常湊出銀高届出証文「改名の旨」 寛 勘右衛門内野田清太夫 鈴木弥左衛門・池村与兵衛 宛 寛政四年五月晦日	一通	
6 赤坂溜池常湊出銀高届出証文 三浦勘右衛門内 鈴木清藏 寛政四年五月晦日	一通	
7 赤坂溜池常湊出銀高届出証文「改名の旨」 諏 訪庄右衛門内蔭山長兵衛 寛政四年五月晦日	一通	
過銀差引勘定一件書付 寛政四年六月	一通	か三五六
1 赤坂溜池常湊御出銀過銀之分割返差引元帳 菅沼九左衛門 寛政四年六月	一綴	横長半
2 過銀割返請取書 石崎甚左衛門内門奈文治 菅 沼九左衛門宛 六月七日	一通	
3 過銀割返請取書 山田兵助内鈴木九十九 同前 宛 子年六月七日	一通	
4 山田兵助用人書狀「高違ニ付過銀割返され請取 りたる旨、礼狀」 鈴木九十九 池村与兵衛宛 六 月七日	一通	
5 石崎甚左衛門用人書狀「同 前」 門奈文次 同前宛 六月七日	一通	
6 寛勘右衛門用人書狀「改名ニ付元帳・請取切手 書替のこと承知の旨」 野田清太夫 同前宛 六月 七日	一通	
7 三浦勘右衛門用人書狀「同 前」 鈴木清藏 同前宛 六月七日	一通	
8 宮重久右衛門用人書狀「同 前」 小林惣治 同前宛 六月七日	一通	
9 諏訪庄右衛門用人書狀「同 前」 蔭山長兵 衛 同前宛 六月七日	一通	
常湊出銀方書付請取目録「御書付・姓名高付帳・ 日記・総図外」 三浦丈之助内木村恒次・佐野兵左衛 門 真田右京大夫内関田庄助宛 寛政四年六月	一通	包紙二
常湊出銀方書付入日記 寛政四年六月	一綴	か三六四
麻布辺武家屋敷絵図	一鋪	か三六〇

赤坂溜池常湊、出銀請取証文（真田家出銀分、銀二
五〇匁請取り上納したる旨） 水野日向守内福城弥惣 包紙一 一通 一四九四
治（真田家宛） 寛政九年二月

赤坂溜池常浚出銀請取証文
左衛門 寛政一一年二月
三浦長門守内竹岡林
包紙一
一通 か一四七三

赤坂溜池常浚出銀請取証文 同前 寛政一二年二月
包紙一 一通 か一四九五

赤坂溜池常湊出銀請取証文 八田競 望月權之進 包紙一 一通 か一四九六宛 享和元年四月

赤坂溜池常湊出銀請取証文
惣次 文化三年
水野日向守内福城弥
包紙一
一通 か一四七三

赤坂溜池常浚出銀請取証文 同前 文化六年二月 包紙一 一通 一四七

赤坂溜池常浚出銀請取証文 同前 文化九年二月 包紙一
一七 一通 か二五二

赤坂溜池常湊出銀請取証文 興津權右衛門 渡辺
清右衛門宛 文化一三年閏八月二三日 包紙一
一通 一七六三

赤坂溜池常湊出銀請取証文
三治 文化一四年六月一六日
松平日向守内内山利
包紙一
一通 一七三

赤坂溜池常湊出銀請取証文 水野日向守内竹本左
門 文政四年六月一八日 包紙一 一通 か二七四

赤坂溜池常湊出銀請取証文
松平日向守内岩佐林
包紙一
一通 一八三

赤坂溜池常湊出銀請取証文
三浦長門守内岡本与
包紙一
一通 か三四七

その他

組合道造普請金請取証文〔麻布谷町組合、道造・
下水修復普請金〕請負人鳥羽屋彦七・証人紀伊国屋
善九郎 真田家役人宛 文化六年七月四日 包紙三
一通 か二四七七

三浦和泉守御抱同心寺嶋才輔誓書〔屋敷境ニ付、以後異議を唱へざる旨〕
〔札〕 真田家寺沢祐右衛門宛
包紙四
文化七年四月
一通
か七七

真田家留守居伺書〔真田屋敷類焼失却ニ付困米なし
難き旨〕 鈴木弥左衛門（幕府勘定奉行宛） 文化八
年九月二十四日 包紙二一通か二三

三崎下屋敷辻番所組合関係書付 文政三年五月 包紙二 三八三

1幕府辻番掛役人申入書〔真田三崎屋敷、辻番所組合に入らざること承知ありたき旨〕御徒目付・御小人目付（真田家宛）辰年五月

一通

2 蒔田又三郎書狀「三崎屋敷組合入り無きこと承知の旨」 石川新八・小松文治宛 五月二九日 包紙一通

3 伊内源太郎書状〔辻番掛より書付落手の上、頂戴
物の儀取調べられたき旨〕 小松文治宛 五月二九
日 一通

南部坂御屋敷組合辻番人給金并諸入料勘定書
根村熊五郎 片岡弘人宛 慶応二年一月 一通 三六

柘植嘉右衛門申上書〔永田町御添屋敷番人交替の件〕鎌原伊野右衛門・大熊衛士宛 八月二日 一通 か三七三

表御用人御答書案〔外國人、下屋敷等へ來訪の節
取計方御尋ニ付、留守居・勘定吟味ら一同評議の上答
申〕五月 一通 二三六

火元注進狀〔火元は駿河台鈴木町旗本高井土佐守屋
敷の旨〕源藏 四日 一通 か三九三

屋敷損壊届書案〔真田江戸屋敷、去月二五日の風雨による被害状況の上申〕（真田家留守居）（幕府宛）

一通か五九

交際

為御知事オシラセゴト

○文久三年

高松松平家用人書狀〔年頭祝詞〕 稲田數馬・入谷八之進 玉川左門宛 正月四月	一通か 四四
高松松平家用人書狀〔真田家奥方在所入への祝詞〕 同前 同前宛 正月四月	一通か 四五
飯山本多家家老書狀〔本多竹山病氣ニ付湯治の旨報知〕 本多助之進・本多作十郎 真田志摩・鎌原伊野右衛門 外一名宛 三月一九日	一通か 三三
郡山柳沢家用人書狀〔柳沢家真華院、当地発足の旨報知〕 稲野寛右衛門・萩原直右衛門 石川新八・畑権兵衛宛 三月	一通か 三六
郡山柳沢家用人書狀〔真華院発途を祝せる真田家書狀への返礼狀〕 同前 同前宛 四月三日	一通か 三六
薦野土方家留守居書狀〔土方家、浪士一人御預り中ニ付使者方御断の旨申入〕 高橋八郎 真田家留守居宛 四月一五日	一通か 三六
〔敦賀酒井家用人書狀〕〔酒井忠毗、若年寄に任ぜられし旨報知〕 三浦堅司・榎本十郎右衛門 真田家留守居宛 四月二八日	一通か 三三
福山松前家用人書狀〔松前崇広、寺社奉行に任ぜられし旨報知〕 嶋田興・遠藤又右衛門 津田転・玉川一学宛 四月二八日	一通か 四四
牛久山山口家奉廻狀写〔山口家江戸家族在所入の旨報知〕 野岡伝兵衛・青木織右衛門 (真田家外宛) 四月二八日	一通か 四五
肥後細川家留守居書狀〔当春細川家、將軍参内供奉を祝せし真田家書狀への返礼狀〕 清田新兵衛 津田転・玉川一学宛 四月	一通か 三九
肥後細川家留守居書狀〔細川家顯光院ら当地発足を祝せし真田家書狀への返礼狀〕 同前 同前宛 四月	一通か 三四

来書目次記〔四月一六日―二九日分〕

高松松平家用人書狀〔松平頼聰の石清水行幸供奉を祝せし真田家書狀への返礼狀〕 吉田寛右衛門 石川新八・畑権兵衛宛 五月二日	一通か 四三
佐倉堀田家留守居書狀〔此度変革ニ付、堀田見山在所入の旨報知〕 金子文蔵・長 量平 真田家留守居宛 五月三日	一通か 三六
高松松平家用人書狀〔真田家よりの端午祝詞への返礼狀〕 吉田寛右衛門 石川新八・畑権兵衛宛 五月六日	一通か 三三
浜松井上家用人書狀〔井上正直病氣への真田家見舞狀の返礼狀〕 松倉文右衛門・奥山寛之進外一名 石川新八・畑権兵衛宛 五月七日	一通か 三七
吉田松平家留守居書狀〔松平信古義大叔母、戸沢家より離縁の旨報知〕 池田久兵衛・御柄孫左衛門 津田転・玉川一学宛 五月九日	一通か 三七
新庄戸沢家留守居書狀〔戸沢正実室、先頃より不快付離縁せし旨報知〕 中尾勘藏 同前宛 五月九日	一通か 三七
小田原大久保家留守居書狀〔真田家無事在着への祝詞〕 小山左十郎・松下良左衛門 津田転宛 五月一〇日	一通か 三七
宮川堀田家留守居書狀〔堀田加賀守、今夕死去せし旨報知〕 岡崎左藏 真田家留守居宛 五月一二日	一通か 三六
小笠原図書頭用人書狀〔小笠原長行、急御用ニ付帰府せし旨報知〕 青木吳平・水野忠古 津田転・玉川一学宛 五月一二日	一通か 三六
松平左金吾用人書狀〔左金吾叔父左吉、松平隠岐守一門の家来となりし旨報知〕 村田与助・野村鐵平 同前宛 五月一二日	一通か 三七
彦根井伊家用人書狀〔井伊家親徳院三三回忌法事執行方報知〕 吉岡隼丞 石川新八・畑権兵衛宛 五月一五日	一通か 三五

〔小松一柳家留守居書狀〕〔外國軍艦横濱到来ニ付、真田家横濱警衛にあたりし旨の真田家書狀への返報〕近藤茂平治 津田軫・玉川一学宛 五月 一通か三七

〔小松一柳家留守居書狀〕〔真田家貞松院在所入の旨の真田家書狀への返報〕 同前 同前宛 五月 一通か三七

〔高田輔原家留守居書狀〕〔真田氏、屋敷修復ニ付南部坂下屋敷に移居せる旨、承知返報〕 安松七之助同前宛 五月 一通か三七

井上銃之助用人書狀〔真田氏不快ニ付在所養生を幕府より許可されし旨、承知返報〕 石塚長平・伊東橋弥 同前宛 五月 一通か四〇

桑名松平家老書狀〔松平家法事執行方報知〕吉村外記 小山田老岐宛 五月 一通か二六

大垣戸田家留守居書狀〔戸田家法事執行方報知〕桑山豊三郎 津田軫宛 五月 一通か二七

〔土浦土屋家留守居書狀〕〔土屋氏、本所下屋敷へ移居の旨報知〕 上田五兵衛・鈴木小市郎 津田軫・玉川一学宛 五月 一通か二七

亀山松平家用人書狀〔松平信篤病氣容体変わりなき旨、真田家よりの問合わせへの返報〕 長塩孫右衛門・太田男吏外一名 石川新八・畑権兵衛宛 五月 一通か三七

高松松平家用人書狀〔暑中見舞〕 入谷八之進玉川左門宛 六月五日 一通か三六

高松松平家用人書狀〔暑中見舞〕 稲田数馬 玉川左門宛 六月六日 一通か三七

〔彦根井伊家用人書狀〕〔暑中見舞〕 戸塚左太夫小山田老岐・恩田頼母外三名宛 六月一日 一通か三六

福山阿部家留守居書狀〔阿部正方、来る二四日上京発途の旨報知〕 服部貞太 津田軫・玉川一学宛 六月二日 一通か三六

横須賀西尾家留守居書狀〔西尾家御預り人命せられ府内警衛免ぜられし旨報知〕 加納元右衛門 真田家留守居宛 六月二日 一通か三二

平戸松浦家用人書狀〔松浦家法事執行方報知〕 松野太郎右衛門 座間百人・畑権兵衛宛 六月二日 一通か四〇

福山阿部家留守居書狀〔阿部正方不快ニ付上京延引の旨報知〕 服部貞太 津田軫・玉川一学宛 六月二三日 一通か三六

高松松平家用人書狀〔松平家法事への真田家よりの見舞への返礼狀〕 吉田寛右衛門 石川新八・畑権兵衛宛 六月二三日 一通か四二

飯田堀家留守居書狀〔堀信義、寺社奉行命ぜられし旨報知〕 館野欽平 津田軫・玉川一学宛 六月二四日 一通か三六

棚倉松平家用人書狀〔松平家、府内昼夜廻り命ぜられし旨報知〕 三宅矢柄介・石川重右衛門 真田家用人宛 六月二五日 一通か三二

金沢米倉家奉廻狀写〔米倉昌信、丹後守と改名せし旨報知〕 増田朔右衛門・高木林兵衛〔真田家外宛〕 六月二八日 一通か三六

高松松平家用人書狀〔松平家常諦院在所入の節、真田家より錢別贈与への返礼狀〕 吉田寛右衛門 石川新八・畑権兵衛宛 六月二九日 一通か四二

三田九鬼家留守居書狀〔真田氏横濱警衛のため出府せしも病氣により帰邑せし旨、承知返報〕 江口鈎三郎 津田軫・玉川一学宛 六月 一通か三三

府内松平家用人書狀〔同 前〕 中里甚平・太田相馬 石川新八・畑権兵衛宛 六月 一通か三三

〔勝山三浦家用人書狀〕〔朽木家よりの奉廻狀順達すべき旨〕 大須賀守衛・嶋山十右衛門 真田家用人宛 七月二日 一通か三六

福知山朽木家奉廻状写〔朽木家、江戸屋敷数人少な ニ付交際方断の旨申入〕 榊原熊次郎・河瀬早太外二 名〔真田家外宛〕 六月	一通 かん 2
吉田伊達家留守居書状〔伊達宗孝病氣により参府 延引を幕府に届出し旨報知〕 奥村源五右衛門 真田 家留守居宛 六月	一通 かん
熊本新田細川家留守居書状〔細川家、幕府より御 預人を命ぜられし旨報知〕 平野岩之丞 真田家留守 居宛 六月	一通 かん
龜山松平家用人書状〔松平家家族の帰邑を祝せし 真田家書状への返礼状〕 長塩弥右衛門・太田男吏 石川新八・畑権兵衛宛 六月	一通 かん
矢田松平家留守居書状〔松平家家族の帰邑を祝せ し真田家書状への返礼状〕 増尾新兵衛・酒井清兵衛 真田家留守居宛 六月	一通 かん
宮津本庄家留守居書状〔松平家五ヶ年儉約施行ニ 付江戸表交際方省略の旨申入〕 沢村又七郎 真田家 留守居宛 六月	一通 かん
松平与次郎留守居書状〔松平家家族の帰邑を祝せし 真田家書状への返礼状〕 天野猪惣太・横田実 真田 家留守居宛 六月	一通 かん
岸和田岡部家留守居書状〔岡部氏に邑中は江戸表 交際方省略の旨申入〕 竹内鎌三郎・岡部要人 津田 転・玉川一学宛 六月	一通 かん
宮川堀田家留守居書状〔岩城駒之助忌明の旨報知〕 岡崎左蔵 真田家留守居宛 七月三日	一通 かん
宮川堀田家留守居書状〔岩城駒之助、老中奉書を 以つて登城を命ぜられし旨報知〕 同前 同前宛 七 月三日	一通 かん
淀稲葉家留守居書状〔稲葉正邦、従四位侍従に叙 任の旨報知〕 長崎新作 同前宛 七月四日	一通 かん
宮川堀田家留守居書状〔岩城駒之助、堀田家相統 して三四郎と改名せし旨報知〕 岡崎左蔵 真田家留 守居宛 七月六日	一通 かん
小城鍋嶋家留守居書状〔七夕祝詞〕 小野宅右衛 門 津田転・玉川一学宛 七月七日	一通 かん
高松松平家用人書状〔真田家よりの七夕祝詞への 返礼状〕 吉田寛右衛門 石川新八・畑権兵衛宛 七月七日	一通 かん
浅野伊賀守用人書状〔浅野氏祐、大目付に任ぜら れし旨報知〕 佐々木直衛・中村武兵衛外一名 津田 転・玉川一学宛 七月一日	一通 かん
湯長谷内藤家留守居書状〔真田家江戸詰家臣在所 へ引払うべき旨、承知返報〕 土田三郎兵衛 真田家 留守居宛 七月一日	一通 かん
湯長谷内藤家留守居書状〔真田家、幕府より相談 方に預るため出府を命ぜられし旨、承知返報〕 同前 同前宛 七月一日	一通 かん
湯長谷内藤家留守居書状〔真田家、病氣の故を以 つて出府有免の願書を提出せし旨、承知返報〕 同前 同前宛 七月一日	一通 かん
加賀前田家留守居書状〔前田家法事執行方報知〕 加須屋十左衛門・太田勘左衛門 真田家留守居宛 七月	一通 かん
櫛羅永井家留守居書状〔永井家、内海警衛中江戸 表交際方断の旨申入〕 岸権兵衛 真田家留守居宛 七月	一通 かん
八木但馬守用人書状〔八木補職京都より帰府せし 旨報知〕 坂本正一・仙石弥左衛門外二名 津田転・ 玉川一学宛 七月	一通 かん
龜田岩城家留守居書状〔岩城家、中川口警固を命 ぜられし旨報知〕 大館勝惣司・国分逸平 真田家留 守居宛 八月二七日	一通 かん

大岡権之助用人書狀〔権之助父死去ニ付定式服忌の旨報知〕 高谷元之進・川田市十郎外二名 真田家留守居宛 八月二十九日 一通か 三五

高崎松平家奉廻狀〔松平家、内海警衛命ぜられし旨報知〕 深井虎之助・浅井隼馬 (真田家外宛) 八月二十八日 一通か 三五九

足守木下家留守居書狀〔真田家、家族・家臣を在所に引払うべき旨、承知返報〕 上村繁 真田家留守居宛 八月 一通か 三六〇

鳥羽稲垣家留守居書狀〔同 前〕 鈴木仲右衛門 同前宛 八月 一通か 三六八

鳥羽稲垣家留守居書狀〔真田氏、参府の幕命に対し病氣有免叶いし旨、承知返報〕 同前 同前宛 八月 一通か 三七

矢田松平家留守居書狀〔松平家幕府より拝領米ありしを祝せる真田家書狀への返礼狀〕 増尾新兵衛・酒井清兵衛 同前宛 八月 一通か 三五四

榊原越中守留守居書狀〔真田家、家族・家臣を在所に引払い江戸表交際方省略の旨、承知返報〕 高津伝右衛門 同前宛 八月 一通か 三六三

八木但馬守用人書狀〔八木補職の帰府を祝せし真田家書狀への返礼狀〕 坂木正一・仙石弥左衛門 津田・玉川一学宛 八月 一通か 三六六

〔飯田堀家留守居書狀〕〔堀親義の寺社奉行任命を祝せし真田家書狀への返礼狀〕 館野欽平 同前宛 九月一日 一通か 三五五

〔丸岡有馬家用人書狀〕〔有馬家法事執行方報知〕 新谷与太夫・草野正記 石川新八・畑権兵衛宛 九月一日 一通か 三五五

龜山松平家用人書狀〔松平信篤病氣により老中御免の旨報知〕 長塩弥右衛門・太田男史 石川新八・岡本清一郎宛 九月五日 一通か 三六九

勢州藤堂家留守居書狀〔真田家厳重儉約のため家臣を在所へ引払うべき旨、承知返報〕 山崎弥平太・松岡橋四郎 真田家留守居宛 九月 一通か 三五二

小浜酒井家留守居書狀〔酒井家アメリカ人宿所警固を命ぜられしを祝せる真田家書狀への返礼狀〕 成田作右衛門・三井宇右衛門 津田・松宛 九月 一通か 三五六

高田榊原家留守居書狀〔榊原家法事の節、真田家見舞への返礼狀〕 鶴見八左衛門・上田志摩 同前宛 九月 一通か 三五〇

庄内酒井家留守居書狀〔酒井家法事執行方報知〕 黒田揖兵衛・黒川一郎外一名 同前宛 九月 一通か 三五九

横須賀西尾家留守居書狀〔西尾鑑之助、初の月並御礼を祝せし真田家書狀への返礼狀〕 加納元右衛門 真田家留守居宛 九月 一通か 三六四

畑権兵衛進達書〔九月一日より晦日までの御広式帳・高松家奉札を進達の旨〕 寺内友右衛門・谷口弥右衛門外一名宛 十一月七日 一通か 三六一

中村相馬家留守居書狀〔相馬家法事執行報知〕 村津貞兵衛・藤田又右衛門 津田・玉川一学宛 十二月 一通か 三六三

○慶応元年

勝山小笠原家側用人書狀〔真田氏、京都に赴き天機伺いたるのち帰邑すべき旨、承知返報〕 松井志津馬・黒柳大六 字敷元之丞宛 二月一日 一通か 三六六

飯野保科家用人書狀〔真田氏参内、朝廷の賞詞を受けし旨、承知返報〕 瀬下内蔵太・本田澁右衛門 字敷元之丞・春原織右衛門宛 二月二六日 一通か 三六四

〔峯山京極家用人書狀〕〔同 前〕 (不明) 春原織右衛門外一名宛 二月二七日 一通か 三六二

糸魚川松平家側役書狀〔同 前〕 加藤欽之丞・綾部平輔 真田家留守居宛 二月 一通か 三六三

○慶応二年

浅尾蒔田家留守居書狀〔在所備中浅尾の騒動鎮定のため出張の件、老中まで届出し旨報知〕 井和錦蔵・矢吹善之進外一名 玉川一学・北沢職之助宛 四月二一日	一通 か 一四〇
久留里黒田家留守居書狀〔同氏伊勢守、剃髪して松閣と改名せし旨報知〕 鶴見一学 真田家留守居宛 四月二二日	一通 か 一四二
小幡松平家留守居書狀〔当月五日着坂、城入交替滞なく済みし旨報知〕 馬淵左兵衛・矢野市右衛門 玉川一学・北沢職之助宛 四月二三日	一通 か 一四四
高取植村家留守居書狀〔拝領屋敷引渡しニ付使者方断の旨申入〕 早川太忠 津田転・玉川一学宛 四月二四日	一通 か 一四六
龜山石川家留守居書狀〔同氏淡成斎、閑翁と改名せし旨報知〕 松井久兵衛・松井祐助 玉川一学・北沢職之助宛 四月二六日	一通 か 一四八
福嶋板倉家留守居書狀〔内膳正病氣ニ付家督相続を願出し旨報知〕 馬淵清助 同前宛 四月二七日	一通 か 一五〇
本多駒之助用人書狀〔駒之助、今日家督御礼済みし旨報知〕 井筆次郎・新井豊輔外一名 同前宛 四月二九日	一通 か 一五二
松平出雲守留守居書狀〔松平康正京都見廻役命ぜられたる旨報知〕 竹中十左衛門 同前宛 四月	一通 か 一五三
安中板倉家留守居書狀〔毛利大膳父子裁判ニ付御預人を芸州表へ送るべきを命ぜられし旨報知〕 田辺潤之助 真田家留守居宛 四月	一通 か 一五五
福嶋板倉家留守居書狀〔板倉家、家督相続許可ありし旨報知〕 馬淵清助 玉川一学・北沢職之助宛 五月二日	一通 か 一五七
沼田土岐家人書狀〔酒井飛弾守女、縁組不調となりし旨報知〕 工藤十一兵衛・正木又兵衛外四名 畑権兵衛・津田転宛 五月三日	一通 か 一五九

諸西林家奉廻狀〔肥後守に禁門の變の折の行賞ありし旨報知〕 北爪貢・崎山求太夫 (真田家外宛) 五月四日	一通 か 一六三
(高松松平家用人書狀)〔端午祝詞〕 三笠平兵衛 畑権兵衛・津田転宛 五月五日	一通 か 一六五
松平鐵吉用人書狀〔家督相続許可ありし旨報知〕 野崎作右衛門・広瀬周平 玉川一学・喜多沢職之助宛 五月六日	一通 か 一六七
(岡中川家留守居書狀)〔修理大夫女と広橋大納言嫡男との縁組の件ニ付相談申入〕 長塩主馬介 玉川一学・北沢職之助宛 五月	一通 か 一六九
一ノ関田村家留守居書狀〔田村家、常盤橋御門番命ぜられし旨報知〕 小原慶太郎 真田家留守居宛 五月七日	一通 か 一七一
広瀬松平家留守居書狀〔松平家、神田橋御門番命ぜられし旨報知〕 永田三千太郎 玉川一学・北沢職之助宛 五月七日	一通 か 一七三
西尾松平家用人書狀〔主水正病氣により寺社奉行御役御免を願出し旨報知〕 南八右衛門・沢田司馬 紀外一名 同前宛 五月九日	一通 か 一七五
小幡松平家留守居書狀〔御預人毛利淡路家来差送りし旨報知〕 本日より使者方引請の旨報知 永野文蔵 同前宛 五月一〇日	一通 か 一七九
加賀前田家人書狀〔前田慶寧、宰相拝任を命ぜられし旨報知〕 加須屋十左衛門・恒川新左衛門外一名 真田家留守居宛 五月一〇日	一通 か 一八三
安中板倉家留守居書狀〔御預人、一昨日品川を出帆せし旨報知〕 田辺潤之助 玉川一学・北沢職之助宛 五月一〇日	一通 か 一八五
忍松平家留守居書狀〔同家織部正奥方危篤の旨〕 伊藤作之右衛門・佐藤得場之助 同前宛 五月一三日	一通 か 一八九

松山板倉家用人書狀〔真田家信州の内で八千石加増の件への祝詞〕 谷小一右衛門・磯村惣右衛門外一名 烟権兵衛・津田転宛 五月一三日 一通か一五

松山酒井家留守居書狀〔紀伊守親類死去ニ付服忌の旨〕 田口周助・田口盛太郎 玉川一学・北沢職之助宛 五月一四日 一通か一四

〔犬山成瀬家留守居書狀〕〔隼人正親類死去ニ付服忌の旨〕 浅岡此七 同前宛 五月一四日 一通か一五

西尾松平家用人書狀〔主水正病氣ニ付御役御免の旨〕 南八右衛門・沢田司馬紀外一名 同前宛 五月一四日 一通か一六

福嶋板倉家留守居書狀〔板倉家督相統の登城御礼、首尾よく済みたる旨〕 馬淵清助 同前宛 五月一五日 一通か一六

盛岡南部家留守居書狀〔美濃守女、此度出府し麻布下屋敷へ入りし旨〕 加嶋加録・横田隼之助 真田家留守居宛 五月一七日 一通か一七

新庄戸沢家留守居書狀〔戸沢家、將軍征長進発中の留守居警衛を命ぜられし旨〕 波多野治右衛門・近藤治米 北沢職之助宛 五月一九日 一通か一七

浜松井上家側用人書狀〔河内守、常盤橋御門内拝領屋敷へ移るべき旨〕 寺田弥一左衛門・大橋広太外一名 烟権兵衛・津田転宛 五月二〇日 一通か一七

大垣戸田家留守居書狀〔戸田家、当七月より京都警衛命ぜられし旨〕 鳥居伝 北沢職之助宛 五月二六日 一通か一六

〔高松松平家用人書狀〕〔讃岐守御用ニ付明日登城を命ぜられし旨〕 三笠平兵衛 烟権兵衛・津田転宛 五月二六日 一通か一六

〔小城鍋嶋家留守居書狀〕〔欽八郎親類死去ニ付服忌の旨〕 持永治兵衛 玉川一学・北沢職之助宛 五月二七日 一通か一五

西尾松平家留守居書狀〔主水正、西丸大手御門番を命ぜられし旨〕 南八右衛門・沢田司馬紀外一名 同前宛 五月二七日 一通か一五

広瀬松平家留守居書狀〔佐渡守再縁許可ありし旨〕 永田三千太郎 同前宛 五月二七日 一通か一六

鹿嶋鍋嶋家留守居書狀〔備中守親類死去ニ付服忌の旨〕 立石権右衛門 真田家留守居宛 五月二七日 一通か一六

宇和嶋伊達家用人書狀〔遠江守親類死去ニ付服忌の旨〕 信田本左衛門・沢田源三郎外二名 烟権兵衛・津田転宛 五月二七日 一通か一六

佐倉堀田家留守居書狀〔相模守妹縁組許可ありし旨〕 長量平・野村弥五右衛門 真田家留守居宛 五月二七日 一通か一六

吉田松平家留守居書狀〔刑部大輔大叔母再縁許可ありし旨〕 鋤柄孫左衛門・岩上九兵衛外一名 玉川一学・北沢職之助宛 五月二七日 一通か一七

長岡牧野家留守居書狀〔備前守西丸大手御門番免ぜられし旨〕 洪森三郎 北沢職之助宛 五月二七日 一通か一七

〔高松松平家用人書狀〕〔讃岐守養妹縁組許可ありし旨〕 三笠平兵衛 烟権兵衛・津田転宛 五月二七日 一通か一七

〔高松松平家用人書狀〕〔同 前〕 同前 同前宛 五月二七日 一通か一六

龜山松平家用人書狀〔松平家大手御門番を命ぜられし旨〕 酒井小隼太・太田男史外一名 真田家用人宛 五月二八日 一通か一五

浜松井上家側用人書狀〔真田家無事京着への祝詞〕 寺田弥一左衛門・大橋広太外一名 烟権兵衛・津田転宛 五月二八日 一通か一六

〔高須松平家留守居書狀〕〔松平家法事執行方〕 山田良右衛門・関泉音 玉川一学・北沢職之助宛 五月 一通か一六

島原松平家中老書狀〔松平家法事執行方〕 富永十左衛門 畑権兵衛・津田転宛 五月	一通か一六
高崎松平家奉廻狀写〔松平家法事執行方〕 深井虎之助・豊嶋源太左衛門〔真田家外宛〕 五月	一通か一四
小浜酒井家留守居書狀〔遠嶋の水戸天狗党の者、酒井家御預りとなりし旨〕 成田作右衛門・三井宇右衛門 北沢職之助宛 五月	一通か一八
飯田堀家留守居書狀〔石見守大坂表警衛命ぜられ当地発足の旨〕 飯野弘之介 玉川一学・北沢職之助宛 五月	一通か一七
安中板倉家留守居書狀〔板倉家法事執行方〕 田辺潤之助 同前宛 五月	一通か一五
忍松平家留守居書狀〔同家織部正奥方葬儀執行方〕 伊藤作之右衛門・佐藤得場之助 同前宛 五月	一通か一六
鳥取池田家留守居書狀〔因幡守庶子、此度奥方養嫡子となすべき許可ありし旨〕 洞龍之輔 真田家留守居宛 五月	一通か一七
桑名松平家用人書狀〔越中守に京地関門築造の行賞ありし旨〕 牧善次郎 玉川左門宛 五月	一通か一五
桑名松平家用人書狀〔真田保薦家督祝儀ニ付、松平家珠光院より答礼として干鯛進献の旨〕 首藤忠兵衛・小森九郎右衛門 畑権兵衛・津田転宛 五月	一通か一五
沼田土岐家用人書狀〔山城守病氣ニ付三田下屋敷へ移居の件許可ありし旨〕 工藤十一兵衛・正木又兵衛外四名 畑権兵衛宛 六月一日	一通か一三
勝田綱吉用人書狀〔登城召ありしが病氣により名代差出したる旨〕 原彦五郎 蟻川功宛 六月四日	一通か一四
田安家臣書狀〔真田幸民昇進御礼済みたるニ付田安家より祝儀目録進ぜらる旨〕 星野啓次郎・高橋孫右衛門 玉川一学・北沢職之助宛 六月五日	一通か一三

勝田綱吉用人書狀〔勝田家督相続許可ありし旨〕 原彦五郎 蟻川功宛 六月五日	一通か一五
松平鉄吉用人書狀〔鐵吉御番入命ぜられし旨〕 野崎作右衛門・広瀬周平 津田転・玉川一学宛 六月一日	一通か三〇
川越松平家用人書狀〔周防守妾服の男子死去の旨〕 三宅矢柄介・小池幸三郎 畑権兵衛宛 六月二日	一通か一九
沼田土岐家用人書狀〔山城守病氣回復ニ付出勤届けをなせし旨〕 工藤十一兵衛・正木又兵衛外四名 同前宛 六月二日	一通か二三
忍松平家留守居書狀〔親類死去ニ付服忌の旨〕 伊藤作之右衛門・佐藤得場之助 玉川一学・北沢職之助宛 六月一日	一通か三九
長岡牧野家留守居書狀〔備前守將軍進発随従を命ぜられし旨〕 洪森三郎 北沢職之助宛 六月一日	一通か三五
稲葉兵部少輔用人書狀〔稲葉正巳、若年寄格海軍御用引請取扱命ぜられし旨〕 山田織衛・桂猪之助 津田転・玉川一学宛 六月一日	一通か三七
川越松平家用人書狀〔松平家、奥州白川へ所替命ぜられし旨〕 三宅矢柄介・小池幸三郎 畑権兵衛宛 六月一日	一通か三五
花房近江守用人書狀〔秩父不穩のため岩鼻陣屋出兵命ぜられし旨〕 石原宗祐・小野伝兵衛 玉川一学・北沢職之助宛 六月一日	一通か三七
沼津水野家留守居書狀〔出羽守將軍進発の随従命ぜられし旨〕 都筑新之丞 北沢職之助宛 六月一日	一通か二三
福山阿部家留守居書狀〔同姓阿部正外処罰ニ付差控伺書を提出せし旨〕 渡辺三太平・服部貞吉 玉川一学・北沢職之助宛 六月二日	一通か三九
岡野雄之丞用人書狀〔暑中見舞〕 野中又三郎・小柳為右衛門外一名 同前宛 六月二日	一通か三五

〔膳所本多家側役書狀〕〔時候見舞進物の添狀〕
岡井慎平・沢許見 真田家側役宛 六月二二日 一通 か 一六

泉本多家中老書狀〔能登守若年寄を命ぜられし旨〕
本笠楊藏・星野寛兵衛 烟権兵衛宛 六月二二日 一通 か 二六

浜松井上家側用人書狀〔真田家よりの暑中見舞への返礼狀〕 寺田弥一左衛門・大橋広太外一名 烟権兵衛・津田転宛 六月二三日 一通 か 二四

米沢上杉家留守居書狀〔上杉家、出羽国預所三万石を込高にて拝受せし旨〕 高津隼人・片桐藤右衛門 真田家留守居宛 六月二五日 一通 か 一六

〔肥前鍋嶋家用人書狀〕〔肥前守女、園家と婚姻許可ありし旨〕 葉山野内・城山九郎左衛門 烟権兵衛・津田転宛 六月二五日 一通 か 三四

小浜酒井家留守居書狀〔若狭守將軍進発の随從を命ぜられし旨〕 成田作右衛門・三井宇右衛門 北沢幟之助宛 六月二七日 一通 か 一七

膳所本多家留守居書狀〔主膳正將軍進発の随從を命ぜられし旨〕 福田雄八郎・八住平之進 同前宛 六月二七日 一通 か 二九

宮川堀田家留守居書狀〔堀田家、田安御門番を命ぜられし旨〕 岡崎左藏 玉川一学・北沢幟之助宛 六月二八日 一通 か 二二

岡崎本多家奉廻狀〔本多家、大手御門番を命ぜられし旨〕〔伊奈市左衛門・若尾莊左衛門（真田家外宛） 六月二八日 一通 か 二六

岡崎本多家留守居書狀〔本多家、大手御門番を命ぜられし旨〕 大野十郎左衛門・木戸太郎左衛門外一名 玉川一学・北沢幟之助宛 六月二八日 一通 か 三七

刈屋土井家留守居書狀〔土井家、竹橋御門番を命ぜられし旨〕 山中本右衛門 同前宛 六月二九日 一通 か 二五

〔館山稲葉家留守居書狀〕〔稲葉正巳御役御免ニ付浜町屋敷へ移居の旨〕 高橋文平 真田家留守居宛 六月 一通 か 一六

刈屋土井家留守居書狀〔土井利善養子縁組・隠居の件相談申入〕 山中本右衛門 玉川一学・北沢幟之助宛 六月 一通 か 二〇

三日市柳沢家留守居書狀〔暑中見舞〕 田村五郎左衛門 同前宛 六月 一通 か 二二

山崎本多家留守居書狀〔本多家、大坂城京橋口定番命ぜられし旨〕 名嶋四郎兵衛 北沢幟之助宛 六月 一通 か 二九

〔小城鍋嶋家留守居書狀〕〔暑中見舞〕 持永治兵衛 玉川一学・北沢幟之助宛 六月 一通 か 三一

〔小松平家留守居書狀〕〔松平信古大叔母と婚姻の旨〕 永田三千太郎 同前宛 六月 一通 か 三三

吉田松平家留守居書狀〔松平信古大叔母と松平直巳と婚姻の旨〕 鋤柄孫右衛門・岩上九兵衛外一名 同前宛 六月 一通 か 三三

忍松平家留守居書狀〔松平家京都警衛命ぜられ当地発途の旨〕 伊藤作右衛門・佐藤得場之助 同前宛 六月 一通 か 三六

戸川主馬助留守居書狀〔暑中見舞〕 磯井雄司 真田家留守居宛 六月 一通 か 三八

稲垣安太郎用人書狀〔住居破損のため本家信濃守屋敷に移居の旨〕 深谷改吾 蟻川功宛 六月 一通 か 三〇

鹿嶋鍋嶋家留守居書狀〔暑中見舞〕 立石権右衛門 真田家留守居宛 六月 一通 か 三一

鳥取池田家留守居書狀〔真田家、内海警衛御免なされし旨、承知返報〕 洞龍之輔 同前宛 六月 一通 か 三三

津山松平家留守居書狀〔三河守將軍進発隨從を命ぜられ国元出馬の旨〕 栗原玉城・徳山米造 同前宛 六月 一通 か 三三

峯山京極家留守居書狀〔主膳正、四国勢取締のため芸州表出張命ぜられし旨〕 八木伝兵衛 津田転・玉川一学宛 六月 一通 か 三四

（今尾竹腰家留守居書狀）〔暑中見舞〕 松浦一馬 真田家留守居宛 六月	一通か三五
西尾松平家用人書狀〔松平乗秩、和泉守と改名せし旨〕南八右衛門・今井衛守外一名 玉川一学・北沢職之助宛 六月	一通か三六
日出木下家留守居書狀〔暑中見舞〕 一宮松兵衛 真田家留守居宛 六月	一通か三六
小笠原老岐守用人書狀〔老岐守、九州勢指揮のため芸州表を出帆せし旨〕 青木呉平・水野忠吉 烟権兵衛・津田転宛 六月	一通か三〇
石谷安芸守用人書狀〔石谷家法事執行方〕 高田恒藏・成富喜平多 玉川一学・北沢職之助宛 六月	一通か三三
宇和嶋伊達家用人書狀〔暑中見舞〕 信田奎左衛門・沢田源三郎外二名 烟権兵衛・津田転宛 六月	一通か三三
小倉小笠原家留守居書狀〔小笠原家法事執行方〕 宇佐美新 北沢職之助宛 六月	一通か三四
林田建部家老書狀〔暑中見舞〕 小山新八郎 玉川左門宛 六月	一通か三六
阿部詮吉郎用人書狀〔詮吉郎將軍進発随従を命ぜられし旨〕 竹内喜太夫・富田太郎外三名 津田転・玉川一学宛 七月一日	一通か三七
（高松松平家用人書狀）〔讃岐守征長援軍のため上ノ関へ急速出兵を命ぜられし旨〕 三笠平兵衛 烟権兵衛・津田転宛 七月一日	一通か三六
府内松平家用人書狀〔左衛門尉登城にて役儀御礼済みし旨〕 中里甚太夫・宮滝三郎右衛門 同前宛 七月一日	一通か三六
沼田土岐家用人書狀〔山城守病後の御礼済みし旨〕 工藤十一兵衛・正木又兵衛外四名 同前宛 七月一日	一通か二五
高嶋諏訪家用人書狀〔因幡守、内桜田御門番命ぜられし旨〕 矢嶋伝左衛門・松井小左衛門 同前宛 七月一日	一通か二二
小諸牧野家留守居書狀〔遠江守征長進発のため松代領通行時、馳走方無用の旨申入〕 檜垣左織 玉川一学・北沢職之助宛 七月二日	一通か二七
高嶋諏訪家留守居書狀〔因幡守増上寺警衛免ぜられし旨〕 松井小左衛門・諏訪四郎兵衛 北沢職之助宛 七月二日	一通か二七
中村相馬家留守居書狀〔相馬家法事執行方〕 村津貞兵衛・藤田又兵衛 玉川一学宛 七月五日	一通か二三
白河松平家用人書狀〔周防守親類死去ニ付服忌の旨〕 三宅矢柄介・小池幸三郎 烟権兵衛宛 七月五日	一通か二四
白河松平家用人書狀〔周防守忌中なれど出征を命ぜられし旨〕 三宅矢柄介・小池幸三郎 烟権兵衛宛 七月五日	一通か二三
新庄戸沢家留守居書狀〔中務大輔西九大手御門番を命ぜられし旨〕 波多野治右衛門・近藤治米 北沢職之助宛 七月五日	一通か二五
鍋嶋頼之助用人書狀〔鍋嶋家法事執行方〕 谷口兵右衛門・度井銃五郎 玉川一学宛 七月六日	一通か二四
松平直三郎用人書狀〔直三郎將軍進発随従を命ぜられし旨〕 小川左平太・彦坂作治外四名 玉川一学・北沢職之助宛 七月六日	一通か二三
（小城鍋嶋家留守居書狀）〔七夕祝詞〕 持永治兵衛 同前宛 七月七日	一通か二五
（高松松平家用人書狀）〔七夕祝詞〕 三笠平兵衛 烟権兵衛・津田転宛 七月七日	一通か二五
泉本多家用人書狀〔能登守無事発足せし旨、真田家よりの問合わせへの返報〕 桑原政右衛門・宮沢清右衛門 同前宛 七月七日	一通か二六

〔高松松平家用人書狀〕〔讃岐守上ノ関援兵のため大坂を出帆せし旨〕 三笠平兵衛 同前宛 七月九日

○慶応三年

斎藤佐渡守用人書狀〔佐渡守親類死去ニ付服忌の旨〕 武藤太左衛門・武藤権左衛門外四名 玉川一学・北沢職之助宛 七月一〇日

〔高松松平家用人書狀〕〔端午祝詞〕 三笠平兵衛 畑権兵衛・津田転宛 五月五日

林田建部家家老書狀〔三二郎叔父緯五郎、土井大隅守へ養子の件 幕府へ届書を進達せし旨〕 小山新八郎 玉川左門宛 七月一六日

彦根井伊家用人書狀〔井伊家法事執行方〕 犬塚求之介 同前宛 五月一日

〔高松松平家用人書狀〕〔征長派兵ニ付松平大炊家来は御預替となりし旨〕 三笠平兵衛 畑権兵衛・津田転宛 七月一八日

川越松平家用人書狀〔周防守會計総裁を命ぜられし旨〕 田原信右衛門・左右田重藏 畑権兵衛宛 五月二日

小倉小笠原家留守居書狀〔小笠原家征長進発中、江戸表交際方省略申入〕 宇佐美新 北沢職之助宛 七月

浜松井上家側用人書狀〔河内守に將軍宣下御用掛の行賞ありし旨〕 寺田弥一左衛門・永田権六外一名 畑権兵衛・津田転宛 五月一二日

加賀前田家用人書狀〔前田家、征長中の京都警衛命ぜられ当地発途の旨〕 加須屋十左衛門・恒川新左衛門 真田家留守居宛 七月

〔高松松平家用人書狀〕〔松平家勝姫婚姻御礼の登城を命ぜられし旨〕 三笠平兵衛 同前宛 五月一四日

古河土井家留守居書狀〔大炊頭女、大岡家より離縁の旨〕 赤見貞 玉川一学・北沢職之助宛 七月

〔高松松平家用人書狀〕〔勝姫婚姻御礼済みし旨〕 同前 同前宛 五月五日

小浜酒井家留守居書狀〔若狭守將軍進発随従を命ぜられし旨〕 成田作右衛門・三井宇右衛門 北沢職之助宛 七月

沼田土岐家用人書狀〔土岐家督御礼済みし旨〕 正木又兵衛・工藤十一兵衛外四名 同前宛 五月一日

膳所本多家留守居書狀〔主膳正將軍随従にて当地発足の旨〕 福田雄八郎・八住平之進 同前宛 七月

松山松平家留守居書狀〔松平家嫡孫千松死去の旨〕 梯渡・相田六左衛門 玉川一学・北沢職之助宛 五月一七日

松本松平家家老連署狀〔丹波守大坂出陣より今日帰城したる旨〕 野々山四郎左衛門・近藤三左衛門外五名 真田志摩・鎌原伊野右衛門外三名宛 十一月一五日

福山松前家用人書狀〔志摩守御咎御免の旨〕 田崎与兵衛・久下琢巳 畑権兵衛・北沢職之助宛 五月二四日

松平光則書狀〔大坂出陣より休息のため昨日帰城したる旨〕 真田信濃守宛 十一月一六日

高嶋諏訪家用人書狀〔因幡守養女縁組許可ありし旨〕 牛山助之進・渡辺三左衛門 真田家用人宛 五月二八日

真田幸民書狀控〔丹波守休息のため帰城せし旨、承知返報〕 松平丹波守宛 十一月一九日

松山板倉家用人書狀〔板倉家京都屋敷替地の旨〕 谷小一右衛門・伊藤恭輔外一名 畑権兵衛・津田転宛 五月二八日

佐倉堀田家留守居書狀〔堀田家内海警衛命ぜられし旨〕 野村弥五右衛門・依田七郎 真田家留守居宛 五月二八日	一通 か 四三六	〔福知山朽木家用人書狀〕〔朽木家法事への真田家見舞への返礼狀〕 朽木丹下・師多治見外一名 同前宛 六月五日	一通 か 四四〇
〔桑名松平家用人書狀〕〔越中守、京都にて老中用向取扱を命ぜられし旨〕 久徳小兵衛・牧善次郎 真田志摩・玉川左門宛 五月	一通 か 四三九	郡山柳沢家用人書狀〔真田家よりの安否問合への返礼狀〕 萩原直右衛門・田沢武右衛門 同前宛 六月五日	一通 か 四四三
会津松平家留守居書狀〔肥後守参議に任ぜられし旨〕 右沢民衛・柏崎才一外一名 真田家留守居宛 五月	一通 か 四三三	郡山柳沢家用人書狀〔甲斐守今日着府の旨〕 同前 同前宛 六月五日	一通 か 四四四
宇和嶋伊達家用人書狀〔遠江守頭痛により惣髮許可されし旨〕 信田奎左衛門・沢田三郎外二名 畑権兵衛・津田転宛 五月	一通 か 四三三	牧野土佐守家奉烟狀写〔土佐守目付に任ぜられし旨〕 岩佐十郎・古沢兼太郎外一名 六月一二日	一通 か 四三二
姫路酒井家留守居書狀〔酒井家内海警衛命ぜられし旨〕 杉源左衛門・浦野忠右衛門 玉川一学・北沢職之助宛 五月	一通 か 四三五	〔桑名松平家用人書狀〕〔松平家法事執行方〕 久徳小兵衛・牧善次郎 真田志摩宛 六月	一通 か 四四〇
郡山柳沢家用人書狀〔甲斐守来月三日参勤着府予定の旨〕 萩原直右衛門・田沢武右衛門 畑権兵衛・津田転宛 五月	一通 か 四三七	〔福知山朽木家用人書狀〕〔朽木家法事執行方〕 朽木丹下・師多治見外一名 畑権兵衛・津田転宛 六月	一通 か 四四六
松山松平家留守居書狀〔松平家葬儀執行方〕 梯渡・相田六左衛門 玉川一学・北沢職之助宛 五月	一通 か 四三〇	〔長岡牧野家留守居書狀〕〔備前守病氣隠居の件、真田家へ相談申入〕 楠本五左衛門・仙同弥市郎 座間百人・伊藤環外一名宛 六月	一通 か 四三九
松山板倉家用人書狀〔伊賀守妾腹万之進京着せし旨〕 谷小一右衛門・伊藤恭輔外一名 畑権兵衛・津田転宛 五月	一通 か 四四四	田安家家臣書狀〔屋敷手狭ニ付使者方断申入〕 星野啓次郎・桑山清十郎 玉川一学・北沢職之助宛 九月七日	一通 か 四四六
岡崎本多家用人書狀〔本多家法事執行方〕 菅尾莊左衛門・浅尾茂兵衛外一名 同前宛 五月	一通 か 四三九	真田家留守居書狀案〔京都にて老中板倉勝静より命ぜられしニ付、真田幸民来ル幾日上京すべき旨〕 一〇月	一通 か 四四四
花房越中守用人書狀〔舍弟外記の花房家養子の件許可ありし旨〕 神馬貢・相場九郎兵衛 玉川一学・北沢職之助宛 六月三日	一通 か 四四四	小倉小笠原家留守居書狀〔右京大夫死去時の真田家見舞への返礼狀〕 勝野兵馬・二木頼母 玉川一学・北沢職之助宛 十一月	一通 か 四三七
郡山柳沢家用人書狀〔甲斐守参勤着府延引の旨〕 萩原直右衛門・田沢武右衛門 畑権兵衛・津田転宛 六月三日	一通 か 四三二	神原越中守留守居書狀〔真田家内海警衛命ぜられし旨、承知返報〕 高津伝右衛門 真田家留守居宛 十一月	一通 か 四五四
		彦根井伊家用人書狀〔寒中見舞〕 大塚求之助 畑権兵衛・津田転宛 一二月二一日	一通 か 四三二

田安家大臣書狀〔田安家臣の転任の件報知〕 星 一包紙 一通か八三
 野啓次郎・桑山清太郎 玉川一学・北沢幟之助宛 二月二八日
 小田原大久保家留守居書狀〔加賀守甲府出張中の江戸表交際方〕 郡権之助 同前宛 二月二九日 一通か八三
 横須賀西尾家留守居書狀〔所領損毛高一万六千石余を老中へ届出し旨〕 潮田常吉・加納岩馬 真田家留守居宛 二月二九日 一通か八三
 (高松松平家用人書狀)〔松平志摩父死去の旨〕 三笠平兵衛 畑権兵衛・津田転宛 二月晦日 一通か八四
 浅野美作守用人書狀〔展敷普請出来ニ付使者方引請の旨〕 佐々木直兵衛・小嶋敬止郎外一名 玉川一学・北沢幟之助宛 二月晦日 一通か八六
 (大垣戸田家留守居書狀)〔采女正大坂取締のため留守中交際方省略申入〕 相羽辰之進 玉川一学宛 二月 一通か八三
 福山松前家留守居書狀〔松前家縁組に対する真田家祝詞への返礼狀〕 嶋田興 同前宛 二月 一通か八四
 井上志摩守用人書狀〔志摩守慶事に対する真田家祝詞への返礼狀〕 角皆角藏・小林拾藏外三名 玉川一学・北沢幟之助宛 二月 一通か八四
 小倉小笠原家留守居書狀〔真田家内海警衛命ぜられ芝陣屋敷下賜の旨 承知返報〕 勝野兵馬・二本頼母 同前宛 二月 一通か三五元
 庄内酒井家留守居書狀〔同 前〕 大野与一右衛門 岡田五十馬外一名 玉川一学宛 二月 一通か八五
 出石仙石家留守居書狀〔京地派兵ニ付江戸表交際方省略申入〕 平尾吉右衛門 同前宛 二月 一通か八六
 (高嶋諏訪家用人書狀)〔因幡守養女離縁の旨〕 矢嶋伝左衛門・山中十左衛門 真田家用人宛 二月 一通か三五元

小笠原老岐守用人書狀〔寒中見舞、返報〕 青木 吳平・水野忠右衛門 畑権兵衛・津田転宛 二月 一通か三五〇
 某家使者口上書〔同氏伊織、御目見願書提出ニ付殿中向万端頼入〕 (真田家宛) 卯年 一通か三七九
 ○明治元年
 (小城鍋岐家留守居書狀)〔年頭祝詞〕 持永治兵衛 玉川一学・北沢幟之助宛 正月一日 一通か八〇
 彦根井伊家用人書狀〔同 前〕 犬塚求之介 畑権兵衛 津田転宛 正月一日 一通か八六
 島原松平家中老書狀〔同 前〕 富永十左衛門 同前宛 正月二日 一通か八六
 (福知山朽木家用人書狀)〔同 前〕 朽木丹下・河瀬早太外一名 同前宛 正月二日 一通か八一
 岡崎本多家用人書狀〔美濃守持病ニ付同氏平八郎、召に応じて上坂すべき旨〕 小柳津助兵衛・浅尾藤兵衛外一名 同前宛 正月二日 一通か八三
 (高松松平家用人書狀)〔真田家よりの年頭祝詞への返礼狀〕 三笠平兵衛 同前宛 正月三日 一通か八三
 高田榊原家留守居書狀〔式部大輔召によって上坂せし旨〕 鶴見八左衛門・岡嶋但見 玉川一学・北沢幟之助宛 正月五日 一通か八〇
 新庄戸沢家留守居書狀〔戸沢家西丸大手御門番命ぜられし旨〕 波多野治右衛門・近藤治米 玉川一学宛 正月七日 一通か三五四
 (高松松平家用人書狀)〔讃岐守より若菜の祝儀〕 三笠平兵衛 畑権兵衛・津田転宛 正月七日 一通か二五七
 (高松松平家用人書狀)〔玄蕃頭より若菜の祝儀〕 同前 同前宛 正月七日 一通か二五三
 (高松松平家用人書狀)〔真田家よりの若菜祝儀への返礼狀〕 同前 同前宛 正月七日 一通か二五三

〔宇和嶋伊達家用人書狀〕〔若菜の祝儀〕 沢田源三郎・矢嶋兎毛外一名 同前宛 正月七日	一通 か二五四
府内松平家用人書狀〔松平近説、遠慮御免登城すべき幕命ありし旨〕 中里甚太夫・木戸孫九郎 同前宛 正月一五日	一通 か二五七
〔宇和嶋伊達家用人書狀〕〔真田幸民の奉書にて西丸登城は何用か承りたき旨〕 沢田源三郎・矢嶋兎毛外一名 同前宛 正月一九日	一通 か二五八
〔高松松平家用人書狀〕〔同 前〕 三笠平兵衛 同前宛 正月一九日	一通 か二五九
〔郡山柳沢家用人書狀〕〔同 前〕 田沢武石衛門 同前宛 正月一九日	一通 か二六〇
〔福知山朽木家用人書狀〕〔同 前〕 朽木丹下・河崎六左衛門外一名 同前宛 正月一九日	一通 か二六一
府内松平家用人書狀〔同 前〕 中里甚太夫・木戸孫九郎 同前宛 正月一九日	一通 か二六三
笠間牧野家留守居書狀〔越中守大坂より帰府せし旨〕 石田義右衛門・小出代蔵 玉川一学・北沢職之助宛 正月一九日	一通 か二六五
加藤下総守用人書狀〔加藤正重父死去ニ付定式服忌の旨〕 伊東左兵衛・喜多川貞三 同前宛 正月一九日	一通 か二五七
井上志摩守用人書狀〔井上正武持病により寄合肝煎免ぜられし旨〕 角皆角蔵・小林拾蔵外三名 同前宛 正月二〇日	一通 か二四九
〔浜松井上家用人書狀〕〔井上正武帰邑に対する真田家見舞への返礼状〕 永田権六・岩淵啓右衛門外三名 畑権兵衛・津田転宛 正月二〇日	一通 か二五〇
棚倉阿部家用人書狀〔真田幸民、幕府より甲府城代に任せられし旨 承知返報〕 永沼六太夫・三雲理兵衛外六名 同前宛 正月二二日	一通 か二五九
〔浜松井上家用人書狀〕〔同 前〕 永田権六・岩淵啓右衛門外三名 同前宛 正月二二日	一通 か二五四
〔下館石川家用人書狀〕〔同 前〕 大須賀長右衛門・高崎大左衛門 真田留守居宛 正月二二日	一通 か二五三
加納永井家留守居書狀〔同 前〕 小嶋左源太・小山政蔵 玉川一学宛 正月二二日	一通 か二五七
〔西条松平家用人書狀〕〔同 前〕 秋山甚左衛門 畑権兵衛・津田転宛 正月二三日	一通 か二五三
〔大垣戸田家留守居書狀〕〔京都参手衆よりの召に応じて采女正上京すべき旨〕 相羽辰之進 玉川一学宛 正月二三日	一通 か八五
長岡牧野家奉廻状写〔駿河守大坂より帰府、以前の通り御客様方引請の旨〕 保地九郎右衛門・柿本五左衛門 正月二三日	一通 か六二
高嶋諏訪家用人書狀〔真田家内海警衛御免、芝陣屋地返上の旨 承知返報〕 矢嶋伝左衛門・渡辺三左衛門外三名 畑権兵衛・津田転宛 正月二四日	一通 か二五三
〔西条松平家用人書狀〕〔真田幸民甲府城代御免の旨 承知返報〕 儀我蔵人 同前宛 正月二五日	一通 か七六
西尾松平家留守居書狀〔真田幸民甲府城代に任せられし旨 承知返報〕 関八右衛門・今井直枝外一名 玉川一学・北沢職之助宛 正月二六日	一通 か二五七
田野口松平家土頭書狀〔真田幸民甲府城代御免の旨 承知返報〕 梅村周治・角南金太夫 真田家留守居宛 正月二六日	一通 か七五
安中板倉家留守居書狀〔板倉家、和田倉御門番を免ぜられし旨〕 田辺潤之助 玉川一学・北沢職之助宛 正月二六日	一通 か四八
高力主計頭用人書狀〔主計頭陸軍奉行並を命ぜられ今日帰府せし旨〕 日高正兵衛・長崎要人外二名 同前宛 正月二七日	一通 か七〇

加納永井家留守居書狀〔真田幸民、内願の通り甲府城代免ぜられし旨、承知返報〕 小嶋左源太・小山政藏 玉川一学宛 正月二七日
 (福知山朽木家用人書狀)〔同前〕 朽木丹下・河瀬早太外一名 畑権兵衛・津田転宛 正月二七日
 川越松平家用人書狀〔同前〕 田原伝右衛門・小池晋外一名 同前宛 正月二八日
 高力主計頭用人書狀〔主計頭勤仕並寄合命ぜられし旨〕 日高正兵衛・長崎要人外二名 玉川一学・北沢職之助宛 正月二八日
 出石仙石家留守居書狀〔仙石家家族在所入り当地発足の旨〕 平尾吉右衛門 玉川一学宛 正月二八日
 某書狀〔先日(の)書付進上、序の節に返却されたき旨〕 正月二八日
 松本松平家留守居書狀〔松本家桜沢警衛命ぜられ、碓氷関所警衛免ぜられし旨〕 平山奎左衛門・渡辺作左衛門 玉川一学・北沢職之助宛 正月二九日
 広瀬松平家留守居書狀〔松平家四ッ谷御門番命ぜられし旨〕 永田三千太郎 同前宛 正月二九日
 高田榊原家留守居書狀〔越後幕領三万七千石余、榊原預所となりし旨〕 鶴見八左衛門・岡嶋但見 玉川一学宛 正月二九日
 西尾松平家留守居書狀〔真田幸民、内願の通り甲府城代免ぜられし旨、承知返報〕 今井直枝 同前宛 正月二九日
 松平筑前守用人書狀〔同前〕 竹中十左衛門 同前宛 正月二九日
 沼田土岐家用人書狀〔同前〕 正木又兵衛・加藤兵衛外三名 畑権兵衛・津田転宛 正月二九日
 府内松平家用人書狀〔年頭祝詞〕 中里甚太夫・木戸孫九郎 同前宛 正月

一通 か二四八七
 一通 か二四九一
 一通 か二五三四
 一通 か二五九
 一通 か二七四
 一通 か二八七
 一通 か二五〇
 一通 か二七三
 一通 か二五五
 一通 か二五五
 一通 か二五五
 一通 か二五五

(小野一柳家用人書狀)〔真田家よりの年頭祝詞への返礼狀〕 森 龜 同前宛 正月
 三日市柳沢家留守居書狀〔年頭祝詞〕 田村五郎左衛門・田村鉄五郎 玉川一学・北沢職之助宛 正月
 中村相馬家留守居書狀〔年頭祝詞〕 村津貞兵衛 同前宛 正月
 刈屋土井家留守居書狀〔年頭祝詞〕 山中本右衛門 同前宛 正月
 吉田伊達家留守居書狀〔年頭祝詞、返礼狀〕 奥村源五右衛門 玉川一学宛 正月
 (大垣戸田家留守居書狀)〔年頭祝詞〕 相羽辰之進 同前宛 正月
 半井大膳大夫用人書狀〔年頭祝詞〕 津田右内 津田転・玉川一学宛 正月
 弘前津輕家留守居書狀〔年頭祝詞、返礼狀〕 比良野助太郎・大石鉄太郎 真田家留守居宛 正月
 (仙台伊達家留守居書狀)〔年頭祝詞〕 入生田席之助 同前宛 正月
 (下館石川家用人書狀)〔年頭祝詞〕 大須賀長右衛門・高崎丈左衛門 同前宛 正月
 柳河立花家留守居書狀〔真田家、旧冬内海警衛のため御台場預り命ぜられし旨、承知返報〕 高留義作・宮崎邦之丞 玉川一学宛 正月
 柳河立花家留守居書狀〔真田家、旧冬南部坂下屋敷差上、芝之金杉の地并家作手当金拝領の旨、承知返報〕 同前 同前宛 正月
 小松一柳家留守居書狀〔同前〕 近藤茂平治 同前宛 正月
 小倉小笠原家留守居書狀〔同前〕 勝野兵馬・二木頼母 玉川一学・北沢職之助宛 正月

一通 か二五九
 一通 か二五〇
 一通 か二八九
 一通 か二五九
 一通 か二五九
 一通 か二五九
 一通 か二五九
 一通 か二五九
 一通 か二五九
 一通 か二五九
 一通 か二五九
 一通 か二五九

中村相馬家留守居書狀〔真田家、内海警衛命ぜられ芝陣屋地下賜の旨、承知返報〕 宛 正月	村津貞兵衛 同前	一通 か二五八
小松一柳家留守居書狀〔同前〕 川一学宛 正月	近藤茂平治 玉	一通 か二五三
小笠原老岐守用人書狀〔真田家、御用の儀にて奉書到来の旨、承知返報〕 津田転宛 正月	水野忠右衛門 畑権兵衛・	一通 か二六四
小諸牧野家留守居書狀〔真田幸民甲府城代に任せられし旨、承知返報〕 稲垣左藏 玉川一学宛 正月		一通 か二七九
小田原大久保家留守居書狀〔同前〕 同前宛 正月	郡権之助	一通 か二八〇
庄内酒井家留守居書狀〔同前〕 ・岡田五十馬外一名 同前宛 正月	大野与一右衛門	一通 か二九三
小浜酒井家留守居書狀〔同前〕 三井宇右衛門 同前宛 正月	成田作右衛門・	一通 か二九四
福島板倉家留守居書狀〔同前〕 宛 正月	馬淵清助 同前	一通 か二九〇
田野口松平家士頭書狀〔同前〕 金太夫 同前宛 正月	梅村周治・角南	一通 か二九〇五
三日市柳沢家留守居書狀〔同前〕 門・田村鉄五郎 同前宛 正月	田村五郎右衛	一通 か二九六
佐野堀田家留守居書狀〔同前〕 宛 正月	永野又藏 同前	一通 か二九三
泉本多家留守居書狀〔同前〕 前宛 正月	石井武右衛門 同	一通 か二九四
横須賀西尾家留守居書狀〔同前〕 納岩馬 真田家留守居宛 正月	潮田常吉・加	一通 か二九一
飯野保科家留守居書狀〔同前〕 門 同前宛 正月	大出十郎右衛	一通 か二九八
杵築松平家留守居書狀〔同前〕 田湊 同前宛 正月	金子庄次郎・吉	一通 か二九二
飯山本多家留守居書狀〔同前〕 宛 正月	浅野平馬 同前	一通 か二九一
湯長谷内藤家留守居書狀〔真田幸民、内願の通り甲府城代御免の旨、承知返報〕 宛 正月	土田三郎兵衛 同前	一通 か二九五
須坂堀家留守居書狀〔同前〕 兵衛 同前宛 正月	丸山極人・浦野慶	一通 か二七七
杵築松平家留守居書狀〔同前〕 田湊 同前宛 正月	金子庄次郎・吉	一通 か二九三
宮川堀田家留守居書狀〔同前〕 正月	岡崎左藏 同前宛	一通 か二九六
横須賀西尾家留守居書狀〔同前〕 岩馬 同前宛 正月	潮田常吉・加納	一通 か二九七
飯山本多家留守居書狀〔同前〕 宛 正月	浅野平馬 同前	一通 か二九五
新庄戸沢家留守居書狀〔同前〕 ・近藤治米 玉川一学宛 正月	波多野治右衛門	一通 か二九〇
福島板倉家留守居書狀〔同前〕 宛 正月	馬淵清助 同前	一通 か二九八
佐野堀田家留守居書狀〔同前〕 宛 正月	永野又藏 同前	一通 か二九四
三日市柳沢家留守居書狀〔同前〕 門・田村鉄五郎 同前宛 正月	田村五郎左衛	一通 か二九八
松山酒井家留守居書狀〔同前〕 前宛 正月	田口盛太郎 同	一通 か二九八

岡崎本多家用人書狀〔同前〕 伊奈市左衛門・大野十郎左衛門 煙權兵衛・津田軫宛 正月	一通 か三五三
(西条松平家用人書狀)〔真田家、内海警衛御免にて芝陣屋地返上の旨、承知返報〕 儀我藏人 同前宛 正月	一通 か二四八九
峯山京極家用人書狀〔同前〕 辻八太郎・柴崎七郎兵衛 同前宛 正月	一通 か二五三二
岡崎本多家用人書狀〔同前〕 伊奈市左衛門・大野十郎左衛門 同前宛 正月	一通 か二五三三
小田原大久保家留守居書狀〔加賀守甲府城代御免にて在着の旨〕 郡權之助 玉川一学・北沢幟之助宛 正月	一通 か七五八
黒羽大関家用人書狀〔肥後守病氣により出府延引有免ありし旨〕 佐藤官太夫・風野六之丞 同前宛 正月	一通 か二五五五
黒羽大関家用人書狀〔肥後守容体悪く急養子願出の件、相談方申入〕 同前 同前宛 正月	一通 か七六三
黒羽大関家用人書狀〔肥後守危篤の旨〕 同前 同前宛 正月	一通 か七六七
小倉小笠原家留守居書狀〔小笠原家遺領相続の節、真田家使者祝詞への返礼状〕 勝野兵馬・二木頼母 同前宛 正月	一通 か三五〇
福山阿部家留守居書狀〔主計頭、石州路出張中より脚氣煩い容体輕からざる旨〕 渡辺三太夫・服部貞吉 玉川一学宛 正月	一通 か三五五
福山阿部家留守居書狀〔主計頭病氣重体ニ付急養子相談方申入〕 同前 同前宛 正月	一通 か三五八
福山阿部家留守居書狀〔主計頭病氣重体の旨〕 同前 同前宛 正月	一通 か三四四
出石仙石家留守居書狀〔仙石家婚姻の節の真田家祝詞への返礼状〕 平尾吉右衛門 同前宛 正月	一通 か三五四

真田家文書目録 真田家

新庄戸沢家留守居書狀〔戸沢家西丸御門番命ぜられし節の真田家祝詞への返礼状〕 波多野治右衛門・近藤治米 同前宛 正月	一通 か二四二二
井上越中守用人書狀〔越中守寄合肝煎命ぜられし節の真田家祝詞への返礼状〕 植松祐左衛門・麻生与助外二名 同前宛 正月	一通 か八七七
中村相馬家留守居書狀〔相馬家法事の節の真田家見舞への返礼状〕 村津貞兵衛 北沢幟之助宛 正月	一通 か三五四
龜山松平家用人書狀〔圖書頭前髪取の節の真田家祝詞への返礼状〕 下河原弥次兵衛・太田男吏外一名 煙權兵衛・津田軫宛 正月	一通 か七六
府内松平家用人書狀〔左衛門尉遠慮御免の節の真田家祝詞への返礼状〕 中里甚太夫・木戸孫九郎 同前宛 正月	一通 か七六三
府内松平家用人書狀〔松平家法事執行方〕 同前 同前宛 正月	一通 か二五五〇
村上内藤家用人書狀〔内藤信民此度紀伊守と改名せし旨〕 内藤鏗吉郎・久米半藏 同前宛 二月一日	一通 か七七一
壬生鳥居家臣書狀〔真田幸民甲府城代御免の旨、承知返報〕 山口志兵衛 真田家留守居宛 二月一日	一通 か七六
(浜松井上家用人書狀)〔同前〕 岩渕啓右衛門・松下修右衛門外二名 煙權兵衛・津田軫宛 二月二日	一通 か七七一
与板井伊家用人書狀〔右京亮出府にて真田領通行時の馳走方への謝辞〕 高橋六郎・佐野吉右衛門外三名 同前宛 二月三日	一通 か七六
前橋松平家留守居書狀〔大和守朝廷の召により上京の旨〕 三上雄之進・岩倉弥右衛門 真田家留守居宛 二月三日	一通 か七六
高田榊原家留守居書狀〔下屋敷出火にて差控伺を提出せしが有免されし旨〕 鶴見八左衛門・岡嶋但見 玉川一学宛 二月五日	一通 か七六

某書狀「屋敷引渡の件、板倉家の誤まりニ付、別紙奉札を返上の旨」 二月七日	一通か八四〇	笠間牧野家留守居書狀「越中守大坂城代を免ぜられし旨」 吉田義右衛門・小出代蔵 玉川一学・北沢職之助宛 二月二〇日	一通か八八二
高嶋諏訪家用人書狀「諏訪家分知許可ありし旨」 渡辺三左衛門・山中十左衛門 真田家用人宛 二月八日	一通か八六九	小諸牧野家留守居書狀「京都より鎮撫使下向、在所動揺のため帰邑すべき旨」 稲垣左織 同前宛 二月二〇日	一通か八八三
小幡松平家奉廻狀写「撰津守帰邑すべき旨」 林半右衛門・菅沼重右衛門 二月一三日	一通か八〇〇	大聖寺前田家用人書狀「江戸屋敷詰人数少なニ付交際方省略申入」 丹羽榮太郎・岡田孫市郎 畑権兵衛・津田転宛 二月二〇日	一通か八四四
彦根井伊家用人書狀「掃部頭病氣のため在所にて養生の件、朝廷より許可、この由老中へ届出し旨」 犬塚求之介 畑権兵衛・津田転宛 二月一六日	一通か八〇二	棚倉阿部家用人書狀「阿部家、陸奥国にて三万石の預所を命ぜられし旨」 永沼六太夫・西村吉太夫 同前宛 二月二〇日	一通か八七七
(川越松平家用人書狀)「奥方浜丁屋敷へ移居の旨」 左右田重蔵・山崎忠兵衛 同前宛 二月一六日	一通か三五五	府内松平家用人書狀「左衛門尉、若年寄免ぜられし節の真田家見舞への返礼狀」 中里甚太夫・吉田敬蔵 同前宛 二月二一日	一通か八五五
田安家家臣書狀「水野伊勢守、因幡守と改名の旨」 星野啓次郎・桑山清十郎 玉川一学・北沢職之助宛 二月一七日	一通か八七七	高嶋諏訪家用人書狀「真田幸民、朝廷の召により当地発足の旨、承知返報」 渡辺三左衛門・松井小左衛門外一名 同前宛 二月二一日	一通か八五二
岸和田岡部家留守居書狀「筑前守大坂市中取締命ぜられ当地発足の旨」 竹内多橋 同前宛 二月一七日	一通か八七九	浜松井上家側用人書狀「同前」 寺田弥一右衛門・岩淵啓右衛門外二名 同前宛 二月二一日	一通か八七〇
佐倉堀田家留守居書狀「相模守内願によりて甲府城代免ぜられし旨」 野村弥五郎右衛門・依田七郎 真田家留守居宛 二月一八日	一通か八六六	(高松松平家用人書狀)「同前」 三笠平兵衛 同前宛 二月二一日	一通か八六六
佐倉堀田家留守居書狀「相模守雉子橋御門番免ぜられし旨」 同前 同前宛 二月一八日	一通か八六三	岡崎本多家用人書狀「同前」 浅尾藤兵衛・伊奈市右衛門外一名 同前宛 二月二一日	一通か八六元
須坂堀家留守居書狀「内蔵頭死去、堀家は叔父恭之進相続の旨」 丸山極人・浦野慶兵衛 同前宛 二月一八日	一通か八八四	(福知山朽木家用人書狀)「同前」 朽木丹下・河瀬早太外一名 同前宛 二月二一日	一通か八八三
浜松井上家側用人書狀「不容易の時節ニ付河内守当地発足帰邑の旨」 寺田弥一左衛門・岩淵啓右衛門外三名 畑権兵衛・津田転宛 二月一八日	一通か八七〇	板倉万之進用人書狀「同前」 伊藤泰輔・依田織衛 同前宛 二月二一日	一通か八八三
半井大膳大夫用人書狀「大膳大夫任官御礼のため上京参内すべき旨」 伴田右内・中山虎男 津田転・玉川一学宛 二月一九日	一通か八七九	沼田土岐家用人書狀「同前」 正木又兵衛・加藤兵衛外三名 同前宛 二月二一日	一通か八八四

府内松平家用人書状〔同前〕 敬藏 同前宛 二月二二日	中里甚太夫・吉田	一通か八五
(郡山柳沢家用人書状)〔同前〕 同前宛 二月二二日	田沢武右衛門	一通か八七
(宇和嶋伊達家用人書状)〔同前〕 同前宛 二月二二日	矢嶋兎毛・徳	一通か八三
小田原大久保家留守居書状〔同前〕 門・郡權之助 玉川一学宛 二月二二日	松下良左衛門	一通か八五
中津奥平家留守居書状〔同前〕 星野平八 同前宛 二月二二日	荒尾利右衛門・	一通か八六
下館石川家留守居書状〔同前〕 田家留守居宛 二月二二日	山崎九十九 真	一通か八七
龜山松平家用人書状〔同前〕 太田男吏外一名 畑權兵衛・津田転宛 二月二二日	下河原弥次兵衛・	一通か八四
浜松井上家側用人書状〔河内守在所取締のため当地発足せし旨〕 寺田弥一左衛門・岩瀨啓右衛門外二名 同前宛 二月二二日	寺田弥一左衛門・	一通か八六
田野口松平家留守居書状〔領分へ勅使先番と号して押寄すにより騒動、よつて帰邑すべき旨〕 真田家留守居宛 二月二三日	佐藤佐	一通か八九
沼田土岐家用人書状〔軍人正、在所取締のため当地発足すべき旨〕 權兵衛・津田転宛 二月二三日	加藤兵衛外三名 畑	一通か八三
府内松平家用人書状〔真田家貞松院・右京大夫奥方在所入のため発足の旨、承知返報〕 吉田敬藏 同前宛 二月二三日	中里甚太夫・	一通か八二
岡崎本多家用人書状〔同前〕 市左衛門外一名 同前宛 二月二四日	浅尾藤兵衛・伊奈	一通か八六
浜松井上家側用人書状〔同前〕 岩瀨啓右衛門外二名 同前宛 二月二四日	寺田弥一右衛門・	一通か八三

高嶋諏訪家用人書状〔同前〕 井小左衛門外一名 同前宛 二月二四日	渡辺三左衛門・松	一通か九一
(郡山柳沢家用人書状)〔同前〕 同前宛 二月二四日	田沢武右衛門	一通か八五
黒川柳沢家留守居書状〔同前〕 転・玉川一学宛 二月二四日	斎藤武司 津田	一通か八九
中村相馬家留守居書状〔同前〕 玉川一学宛 二月二四日	藤田又右衛門	一通か九七
小田原大久保家留守居書状〔同前〕 門・郡權之助 同前宛 二月二四日	松下良左衛門	一通か八七
小田原大久保家留守居書状〔大久保家族在所入のため発足すべき旨〕 同前宛 二月二五日	同前 同前宛 二月二五日	一通か八四
新庄戸沢家留守居書状〔西丸大手御門番、撤兵持場となりしたため戸沢家の門番御免の旨〕 同前宛 二月二五日	近藤治	一通か八五
中津奥平家留守居書状〔美作守此度上京すべき旨〕 荒尾利右衛門・星野平八 同前宛 二月二五日	同前宛 二月二五日	一通か八六
(村松堀家留守居書状)〔左京亮在所取締のため帰邑すべき旨〕 同前宛 二月二五日	治外記 玉川一学・北沢職之助宛 二	一通か八四
府内松平家用人書状〔八代洲岸御役屋敷、作事奉行に引渡せし旨〕 津田転宛 二月二五日	中里甚太夫・吉田敬藏 畑權兵衛	一通か八九
(高松松平家用人書状)〔高松城は土佐藩へ引渡しとなり讃岐守以下寺院にて謹慎の旨〕 同前宛 二月二六日	三笠平兵衛	一通か八五
与板井伊家奉廻状写〔右京亮朝命により上京すべき旨〕 高橋六郎・土田柿介 二月二六日	同前宛 二月二六日	一通か八六
(桑名松平家用人書状)〔主人築地下屋敷に閉居せしが此度深川靈岸寺へ移居の旨〕 摩・望月婦一郎宛 二月二七日	久徳小兵衛 真田志	一通か八八

廣瀬松平家留守居書狀〔佐渡守神田橋御門番御免の旨〕 永田三千太郎 玉川一学・北沢職之助宛 二月二十八日	一通か七三	三草丹羽家留守居書狀〔真田幸民内願によりて甲府城代免ぜられし旨、承知返報〕 那須金右衛門 玉川一学宛 二月	一通か七三
〔高松松平家用人書狀〕〔真田家貞松院らの旅行の安否問合わせ〕 三笠平兵衛 畑権兵衛・津田軫宛 二月二十八日	一通か八六	姫路酒井家留守居書狀〔同前〕 村上源右衛門 玉川一学・北沢職之助宛 二月	一通か七九
〔高松松平家用人書狀〕〔同前問合、これは玄蕃頭常諦院よりの申越の旨〕 同前 同前宛 二月二十八日	一通か八七	三春秋田家留守居書狀〔同前〕 吉見連藏 真田家留守居宛 二月	一通か七五
〔小諸牧野家用人書狀〕〔別紙達書、写留めの後順達せし旨〕 河合六郎・島居兵左衛門外一名 谷口弥右衛門・中山鹿渡外二名宛 二月二十九日 包紙一	一通か四七	安志小笠原家留守居書狀〔同前〕 原口伴七 同前宛 二月	一通か六七
高嶋諏訪家用人書狀〔別紙東山道総督府より達書を順達の旨〕 安間弥五左衛門・浜八郎兵衛外一名 同前宛 二月晦日 包紙一	一通か四六	盛岡南部家留守居書狀〔同前〕 加嶋加録・横田隼之助 同前宛 二月	一通か八五
〔平戸松浦家用人書狀〕〔真田家旧冬内海警衛のため陣屋地拝領の旨、承知返報〕 本沢甚兵衛 畑権兵衛・津田軫宛 二月	一通か七五	飯野保科家留守居書狀〔同前〕 大出十郎右衛門 同前宛 二月	一通か六六
松本松平家留守居書狀〔同前〕 飯沼熹兵衛・平山左衛門外一名 玉川一学宛 二月	一通か六八	龜山松平家用人書狀〔同前〕 下河原孫次兵衛・太田男吏外一名 畑権兵衛・津田軫宛 二月	一通か三七
延岡内藤家留守居書狀〔同前〕 成瀬老之進 同前宛 二月	一通か三五	〔郡山柳沢家用人書狀〕〔真田家内海警衛免ぜられし旨、承知返報〕 田沢武右衛門 同前宛 二月	一通か七四
〔郡山柳沢家用人書狀〕〔真田幸民甲府城代命ぜられし旨、承知返報〕 田沢武右衛門 畑権兵衛・津田軫宛 二月	一通か七五	〔福知山朽木家用人書狀〕〔同前〕 朽木丹下・河瀬早太外一名 同前宛 二月	一通か七九
〔小野一柳家用人書狀〕〔同前〕 森 亀 同前宛 二月	一通か七四	三草丹羽家留守居書狀〔真田家朝命にて上京すべき旨、承知返報〕 那須金右衛門 真田家留守居宛 二月	一通か八四
上ノ山松平家留守居書狀〔同前〕 仁科大之助 真田家留守居宛 二月	一通か七三	杵築松平家留守居書狀〔同前〕 金子庄次郎・吉田湊 同前宛 二月	一通か八〇
安志小笠原家留守居書狀〔同前〕 原口伴七 同前宛 二月	一通か六八	新庄戸沢家留守居書狀〔同前〕 近藤治米 玉川一学宛 二月	一通か八三
		吉田伊達家留守居書狀〔同前〕 奥村源五右衛門 同前宛 二月	一通か八六
		〔西条松平家用人書狀〕〔同前〕 寺田七郎左衛門 畑権兵衛・津田軫宛 二月	一通か八八

〔平戸松浦家用人書狀〕〔江戸屋敷人数少なニ付交際方省略申入〕 本沢甚兵衛 烟権兵衛宛 二月 一通か七〇

〔小野一柳家用人書狀〕〔旧冬对馬守上坂の節の真田家祝詞への返礼状〕 森 亀 烟権兵衛・津田転宛 二月 一通か七三

〔宇和嶋伊達家用人書狀〕〔真田家よりの歳暮祝儀の返礼状〕 沢田源三郎・矢嶋兎毛外一名 同前宛 二月 一通か八七

〔峯山京極家用人書狀〕〔主膳正病氣により若年寄免ぜられし旨〕 美濃部直記 同前宛 二月 一通か三六

〔富山前田家留守居書狀〕〔江戸屋敷詰人引弘ニ付交際方断申入〕 浅尾嘉左衛門・浦上判五右衛門 真田家留守居宛 二月 一通か六三

〔秋月黒田家留守居書狀〕〔黒田自笑庵死去の節の真田家見舞への返礼状〕 町田平藏 同前宛 二月 一通か九五

〔二本松丹羽家留守居書狀〕〔左京大夫当地発足帰邑の旨〕 和田要人・星峽間 同前宛 二月 一通か九六

〔彦根井伊家留守居書狀〕〔屋敷玄関ノ切、交際方省略申入〕 富田権兵衛・山中運平 同前宛 二月 一通か八三

〔仙台伊達家留守居書狀〕〔同前〕 大童信太夫・入生田希之助 同前宛 二月 一通か八三

〔唐津小笠原家留守居書狀〕〔同前〕 林小源太 玉川一学・北沢幟之助宛 二月 一通か六六

〔加賀前田家留守居書狀〕〔前田家家族帰邑真田領通行の際、馳走方断の旨申入〕 富永左太郎・多田綱之介 同前宛 二月 一通か八五

〔浅尾蒔田家留守居書狀〕〔在所表不容易ニ付相模守当地発足の旨〕 小倉左太夫・高田筑母 同前宛 二月 一通か七〇

〔大山成瀬家留守居書狀〕〔今般御一新ニ付成瀬家、朝廷より藩屏の列に加えられし旨〕 浅岡此七 同前宛 二月 一通か八四

〔中村相馬家留守居書狀〕〔因幡守帰邑、江戸交際方省略申入〕 藤田又右衛門 同前宛 二月 一通か八七

〔大聖寺前田家奉廻状写〕〔朝命により前田姓に復せし旨〕 丹羽栄太郎・岡田弥市郎 二月 一通か八五

〔真田家留守居書狀案〕〔主人朝廷の召により当地発足上京の旨〕 (二月) 一通か八三

〔笹山青山家留守居書狀〕〔左京大夫上京の儀、老中より許可ありし旨〕 赤見為右衛門 真田家留守居宛 三月一日 一通か八〇

〔上田藤井家老書狀〕〔伊賀守上京発足の旨〕 藤井直記・大嶋平太夫外二名 真田志摩・鎌原伊野右衛門宛 三月二〇日 一通か三九

〔黒川柳沢家留守居書狀〕〔伊勢守在所へ発足すべき旨〕 斎藤武司 津田転・玉川一学宛 三月二四日 一通か二六

〔肥前鍋嶋家留守居書狀〕〔当时形勢ニ付江戸詰家来を国元へ引弘うべき旨〕 佐藤文平 玉川一学・北沢幟之助宛 三月 一通か二五

〔尾張徳川家信地取締方書狀〕〔天朝御料信地取締方よりの状箱上書の件ニ付相談方申入〕 堀田権九郎・千村附助 烟権兵衛・谷口弥右衛門外五名宛 四月九日 一通か三五

〔小諸牧野家留守居書狀〕〔遠江守帰邑、江戸重役・留守居方にて万事相談に預りたき旨申入〕 山本伴右衛門 真田家留守居宛 四月一〇日 一通か四六

〔柳原家使者口上手控〕〔柳原重姫大宮御所出勤、梅の井と称すべき旨〕 真田家宛 四月一四日 一通か五三

〔上ノ山松平家用人書狀〕〔松本戸田家よりの廻状順達の旨〕 戸祭十郎左衛門・大井吉次郎 真田家用人宛 四月一八日 一通か三六

（須坂堀家用人書狀）〔真田家よりの廻狀落手、本多家へ巡達せし旨〕 駒沢勘左衛門・清須勇馬 樋口旗之助・畑権兵衛外四名宛 四月一九日	一通 か 三〇元
佐倉堀田家留守居書狀〔江戸詰家来、在所へ引払うべき旨〕 野村弥五右衛門 真田家留守居宛 四月二〇日	一通 か 三四
（大聖寺前田家京都留守居書狀）〔前田利鸞、病氣のところ今日着京せし旨〕 佐分孫三・小栗勇馬 真田家留守居宛 四月二一日	一通 か 四〇
高松松平家臣書狀〔松平頼聰謹慎免ぜられ官位復せし旨〕 北原直左衛門 真田家留守居宛 四月二五日	一通 か 四五
田野口大給家使者口上書〔縫殿頭、別紙の通り命ぜられたる三付万事真田家と申談したき旨〕 沢路齡助（真田家宛）	一通 か 七六 1
御沙汰書写〔信越侵入の賊徒追討の旨〕 大給縫殿頭宛 四月二九日	一通 か 七六 2
小田原大久保家留守居書狀〔江戸詰家来、在所へ引払うべき旨〕 松下良左衛門・郡権兵衛 玉川一学宛 四月	一通 か 元二
（小城鍋嶋家留守居書狀）〔同前〕 持永治兵衛 玉川一学・北沢職之助宛 四月	一通 か 元二
柳川立花家留守居書狀〔同前〕 高島義作 同前宛 四月	一通 か 三〇
福山松前家用人書狀〔同前〕 嶋田興 畑権兵衛・津田転宛 四月	一通 か 元六
（飯田堀家京都留守居書狀）〔美濃守掃邑ニ付在京中懇意への謝礼〕 淡路藤橋 真田家留守居宛 四月	一通 か 四三
花房近江守用人書狀〔在所取締のため当地発足の旨〕 天利伊右衛門・吉田官兵衛 玉川一学・北沢職之助宛 四月	一通 か 三〇
諸家奉廻狀留書〔當時形勢不容易ニ付掃邑、江戸交際方断の旨、松平の称号を廢し本姓に復する旨等、奉廻狀一四通分〕 三月一四月	一綴 か 三七
滝川三九郎用人書狀〔滝川家跡目の件ニ付相談申入〕 中村彈右衛門 玉川一学宛 閏四月七日	一通 か 二九七
御城書〔江戸城中諸有司の任免等留書〕（幕府役人カ）（真田家宛） 閏四月一日一六日	一綴 か 三一
（中津奥平家京都留守居書狀）〔美作守、天機を伺うべく今日京着せし旨〕 富士野彦右衛門 真田家留守居宛 閏四月一九日	一通 か 四七
（小浜酒井家京都留守居書狀）〔酒井家京都屋敷三条神泉花町に引移しし旨〕 佐橋邦衛・河村専八郎 真田家留守居宛 閏四月二七日	一通 か 四七
小浜酒井家留守居書狀〔江戸詰家来在所へ引払うべき旨〕 成田作右衛門・三井宇右衛門 玉川一学・北沢職之助宛 閏四月	一通 か 二九元
（阿波蜂須賀家京都留守居書狀）〔阿波守議定となり從二位權中納言に叙任されし旨〕 合田左源次・弗榮次郎外一名 真田家留守居宛 閏四月	一通 か 四〇
（狭山北条家京都留守居書狀）〔相模守宮中にて褒詞・賜物ありし旨〕 朝比奈清 同前宛 閏四月	一通 か 四一
（吉田伊達家京都留守居書狀）〔伊達家相統の件相談方申入〕 五嶋甚兵衛 同前宛 閏四月	一通 か 四九
（久居藤堂家京都留守居書狀）〔佐渡守掃邑ニ付在京中懇意への謝礼〕 青木藤太・柘植平太夫 同前宛 閏四月	一通 か 四三
（久居藤堂家京都留守居書狀）〔藤堂家昨日中京取締りの任を免除されし旨〕 同前 同前宛 五月一日	一通 か 四四
（高嶋諏訪家京都留守居書狀）〔因幡守隱居家督相統許可ありし旨〕 林魯兵衛 同前宛 五月二四日	一通 か 三三

須坂堀家用人書狀〔東山道総督府より堀家に紋付小旗を渡されし旨〕 駒沢武左衛門 真田志摩・鎌原伊野右衛門宛 五月二五日

一通 か 三〇

〔長州毛利家京都留守居書狀〕〔毛利家御沙汰により今日上京・西本願寺へ到着せし旨〕 寺田鞆三 真田家留守居宛 五月二九日

一通 か 三三

〔吉田伊達家京都留守居書狀〕〔二門伊達錦之助を掣養子となすべき旨〕 五嶋甚兵衛 同前宛 五月

一通 か 四九

高嶋諏訪家留守居書狀〔因幡守病氣ニ付隠居願ひ京都表にて提出せし旨〕 諏訪四郎兵衛 座間百人・津田転宛 六月一日

一通 か 三五

高嶋諏訪家留守居書狀〔諏訪家督相続許可ありし旨〕 同前 畑権兵衛・津田転宛 六月七日

一通 か 三六

龍岡大給家用人書狀〔大給家田野口陣屋、龍岡と改称せし旨〕 川村恒右衛門・原田直助外一名 真田家用人宛 六月一四日

一通 か 三七

〔吉田伊達家京都留守居書狀〕〔上京せしも当地不案内ニ付万事相談に預りたき旨頼入〕 五嶋甚兵衛 真田家留守居宛 六月一四日

一通 か 三九

〔高嶋諏訪家側役書狀〕〔諏訪家相続の際の真田家祝詞への返礼狀〕 矢嶋全之進・今井恵助 中俣一平・宮下孫兵衛宛 六月一七日

一通 か 三八

高嶋諏訪家用人書狀〔同前〕 矢嶋伝左衛門・浜八郎兵衛外七名 畑権兵衛・谷口弥右衛門外四名宛 六月一七日

一通 か 四一

〔対馬宗家京都留守居書狀〕〔対馬守、朝鮮国御用ニ付従四位少將に叙任されし旨〕 大嶋友之允・扇源左衛門 真田家留守居宛 六月二九日

一通 か 三六

〔柳川立花家京都留守居書狀〕〔立花家庶子主太郎を嫡子として太政官に届出し旨〕 宮崎邦之助・富士谷小六兵衛 真田家留守居宛 六月

一通 か 三七

〔吉田伊達家京都留守居書狀〕〔伊達京都旅館手狭ニ付、使者方引請は三条の留守居方にてなすべき旨〕 五嶋甚兵衛 真田家留守居宛 六月

一通 か 三二

小諸牧野家使者口上書〔真田家、大総督より大隊旗拝領への祝詞〕 本間九郎

包紙一

一通 か 七三

〔龍岡大給家京都留守居書狀〕〔縫殿頭今朝発足帰邑せし旨〕 海保三藏 北沢職之助・長谷川平次郎宛 七月四日

一通 か 三三

〔中津奥平家京都留守居書狀〕〔美作守無事帰邑せし旨〕 富士野彦右衛門 真田家留守居宛 七月六日

一通 か 三五

長谷川平次郎申上書〔諏訪家より使者口上を以て進物ありし旨〕 〔真田家執政方宛〕 七月一七日

一通 か 三四

赤沢助之進添狀〔別紙諸家奉礼一七通外進上すべき旨〕 御用番宛 七月二〇日

一通 か 三三

龍岡大給家用人書狀〔縫殿頭京都より帰着、真田家と万事相談に預りたき旨申入〕 川村恒右衛門・鈴木角右衛門外二名 真田家用人宛 七月二三日

包紙一

一通 か 七三

筑前黒田家外奉廻狀写〔朝命により留守居役廃止、京地に公務所を設けし旨〕 北沢職之助 〔真田家執政方宛〕 七月二九日

一通 か 六三

〔宇和嶋伊達家京都留守居書狀〕〔七夕祝儀〕 木原半兵衛 北沢職之助宛 七月

一通 か 三五

〔狭山北条家京都留守居書狀〕〔相模守河内国天領取締り免除になりし旨〕 朝比奈清 真田家留守居宛 七月

一通 か 三四

〔吉田伊達家京都留守居書狀〕〔若狭守多病ニ付家督相続の件相談申入〕 五嶋甚兵衛 真田家留守居宛 七月

一通 か 三六

高松松平家大臣書狀〔留守居役廃止ニ付松平家公務所・公務人名前報知〕 北原李左衛門・一井新吾 真田家留守居宛 七月

一通 か 三〇

高松松平家公務人書狀「松平家京地本陣を妙頭寺に移せし旨」 鈴木藤馬・竹内多門 真田家留守居宛 八月一日	一通 かん九
飯山本多家家老書狀「豊後守隠居・家督相続許可なりし旨」 本多十郎右衛門・本多助之進外一名 鎌原伊野右衛門・赤沢助之進外二名宛 八月四日	一通 かん四
（飯山本多家京都留守居書狀）「豊後守死去せし旨」 中島小一郎 真田家留守居宛 八月四日	一通 かん四
（松本戸田家京都留守居書狀）「丹波守今日上京、光徳寺旅宿へ着きたる旨」 関左右衛門・加藤修理 真田家留守居宛 八月九日	一通 かん七
高松松平家公務人書狀「讃岐守、崇徳天皇神靈遷還御用掛を命ぜられし旨」 鈴木藤馬・竹内多門外一名 真田家留守居宛 八月十三日	一通 かん六
高松松平家公務人書狀「同姓左近死去せし旨」 同前 同前宛 八月十三日	一通 かん六
龍岡大給家用人書狀「大給家書狀に対する真田家返状への再返礼状」 川村恒右衛門・鈴木角右衛門外二名 畑権兵衛・谷口弥右衛門外三名宛 八月十八日	一通 かん七
（宇和嶋伊達家用人書狀）「真田家大坂屋敷へ温徳院遺物を送りたる旨」 大和田隼人・矢嶋兎毛外一名 真田家用人宛 八月二十七日	一通 かん六
（郡山柳沢家用人書狀）「柳沢家幸橋内上屋敷、御用ニ付差上たる旨」 田沢武右衛門 畑権兵衛・津田転宛 八月	一通 かん二
（阿波蜂須賀家京都留守居書狀）「阿波守船にて品川へ到着せし旨」 合田左源次・武谷列外一名 真田家留守居宛 八月	一通 かん五
岩村田内藤家使者口上書「志摩守天機伺うために上京すべき旨」 高野翁助 八月	一通 かん三
（宇和嶋伊達家京都留守居書狀）「真田家よりの暑中見舞への礼状」 木原半兵衛・安戸次郎兵衛 真田家用人宛 九月	一通 かん六
高松松平家家家臣書狀「讃岐守崇徳神靈御用済み狩衣拝領せし旨」 一井新吾・吉本清助 真田家公用人宛 一〇月	一通 かん八
土佐山内家家臣書狀「景翁養女、加藤家との縁組許可ありし旨」 山川久太夫 同前宛 一〇月	一通 かん八
長州毛利家家臣書狀「毛利宰相、左近衛権中将兼任、叙従三位の旨」 大津四郎右衛門・坪井宗右衛門 同前宛 一〇月	一通 かん八
長州毛利家家臣書狀「宰相帰国御暇により当地発足せし旨」 同前 同前宛 一〇月	一通 かん二
延岡内藤家家臣書狀「備後守海路無事在着せし旨」 千葉新左衛門 同前宛 一〇月	一通 かん三
延岡内藤家家臣書狀「内藤家、公議人・公用人を新たに任命したる旨」 同前 同前宛 一〇月	一通 かん三
高遠内藤家家臣書狀「若狭守掃部許可ありしこと、滞京中の好誼への謝礼」 星野藩 同前宛 一〇月	一通 かん五
高遠内藤家家臣書狀「若狭守来ル二三日当地発足の旨」 同前 同前宛 一〇月	一通 かん四
宇和嶋伊達家家臣書狀「遠江守帰国許可ありし旨」 木原半兵衛・安戸次郎兵衛 松代用人宛 一〇月	一通 かん九
宇和嶋伊達家家臣書狀「遠江守無事帰国発足せし旨」 同前 北沢職之助・長谷川平次郎宛 一〇月	一通 かん七
赤沢助之進添状「別紙一〇月分諸家奉札一通進上の旨」 御用番宛 一一月二日	一通 かん八
宇和嶋伊達家家臣書狀「真田家よりの使者への返礼進物添状」 八木志津馬 玉川一学宛 一一月七日	一通 かん三
小諸藩土書狀「牧野氏謹慎免除にて出府したるにより来月三日迄の内に来駕ありたき旨」 真木力多・中山左橋 高山敬之丞宛 一一月二十八日	一通 かん四

明治二年

宇和嶋藩役人書狀〔真田幸民東京発途ニ付伊達家へ暇乞をなしたき旨、承知返報〕金子孫之允 久保極人・横田弥惣兵衛宛 三月一八日

一通 か三六

小諸藩役人書狀〔牧野康清、版籍奉還許可され小諸藩知事に任ぜられし旨〕稲垣此面・牧野一学 松代藩参政宛 二月一日

一通 か三三

館藩公用人書狀〔真田幸教死去の旨、承知返報〕蠣崎衛守・嶋田興 松代藩公用人宛 二月

一通 か三二

高松藩公用人書狀〔松平家息女、大原家への縁組の件相談申入〕伊藤甚三郎 同前宛 二月

一通 か三九

小諸藩公用人書狀〔寒中見舞〕相浦千兵衛 同前宛 二月

一通 か三六

明治三年

小諸藩公用人書狀〔年頭祝詞〕相浦千兵衛 松代藩公用人宛 正月一日

一通 か三七

館林藩公用人書狀〔年頭祝詞〕増田真夫・杉本弘平 同前宛 正月一日

一通 か三三

大洲藩知事書狀〔年頭祝詞〕加藤泰秋 松代藩知事宛 正月二日

一通 か三五

大洲藩公用人書狀〔年頭祝詞〕窪田文彦 松代藩公用人宛 正月

一通 か三〇

丸岡藩公用人書狀〔真田幸教死去の旨、承知返報〕菊池采男 松代藩家令宛 正月

一通 か三八

松代藩参事書狀案〔当藩集会の節に森井氏出張ありし旨外〕草馬一路・市場源七郎外二名 高須藩青山宛 四月

一通 か三三

岡部弥五左衛門書狀〔当二〇日事件済みたるニ付真田知事より内使派遣ありたしとの件〕相沢龍太郎宛 九月晦日

一通 か三五

宇和嶋藩役人書狀〔真田家より知事・万寿君への進物への返礼狀〕梶田倍哉・高間越三郎外三名 師岡源兵衛・久保極人宛 閏一〇月二〇日

一通 か四五

彦根井伊家

奥山六左衛門披露狀〔自分彦根表へ罷上るべき旨〕座間百人・石川新八外二名宛 四月二六日

一通 か四〇

戸塚左太夫披露狀〔同前〕小山田老岐・恩田頼母外三名宛 五月二七日

一通 か四三

宇津木兵庫披露狀〔暑中見舞〕小山田老岐・小山田采女宛 六月五日

一通 か三五

松平倉之介披露狀〔暑中見舞〕小山田老岐・恩田頼母外三名宛 六月五日

一通 か三九

西郷縫殿披露狀〔暑中見舞〕恩田頼母・小山田采女外一名宛 六月五日

一通 か三六

新野小太郎等連署披露狀〔暑中見舞〕鎌原石見・真田志摩外三名宛 六月五日

一通 か三七

井伊家老連署披露狀〔暑中見舞〕木俣土佐・新野左馬助外四名 恩田頼母・河原舍人外一名宛 六月六日

一通 か四〇

中野三季介披露狀〔暑中見舞〕鎌原石見・小山田老岐外四名宛 六月六日

一通 か四二

井伊家老連署披露狀〔暑中見舞〕横地佐平太・広瀬郷左衛門外二名 恩田頼母・河原舍人宛 六月六日

一通 か四三

〔井伊家中老連署披露狀〕〔寒中見舞〕奥山織之助・木俣多宮外二名 小山田老岐・真田志摩外三名宛 二月一二日

一通 か八三

桑名松平家

○桑翁公看病出府一件

包紙〔案翁公不快ニ付臨時出府一件書付〕 文政一 二年正月一二月	一点 か一五五
真田幸貫御書付〔実父母看病の件、格合取調べ申遣 すべき旨〕	一通 か一五五
鎌原伯耆添状〔参府にて案翁公との対面の儀ニ付御 書付を送付 宜しく取調べられたき旨〕 矢沢監物・ 小山田采女宛 二月一四日	一通 か一五九
〔神原孫之丞用人書状〕〔先例見当らず、猶賢慮さ れたき旨〕 座間百人宛 正月一〇日	一通 か一五七 封筒一
座間百人申上書〔看病出府一件、諸方へ例格問合中 なる旨報告〕 二月一〇日	一通 か一五七 一 2
座間百人伺書〔幕府への願書提出方ニ付伺い〕 二 月一〇日	一通 か一五七 一 3
座間百人申上書〔看病出府願書提出ニ付、別紙先例 入手、老中公用人迄内意伺いたる旨〕 二月一一日	一通 か一五七 一 4
座間百人申上書〔案翁公との対面の件ニ付大沢氏へ の問合結果の報告〕 二月一一日	一通 か一五七 一 5
実父看病臨時出府先例書〔文化五年、松平紀伊守家 の幕府宛内應問合書并御書取写〕	一通 か一五七 一 6
小山田采女添状〔御対面の儀ニ付座間百人提出の書 面六通を送る旨〕 御用番宛 二月一七日	一通 か一五八
座間百人申上書〔不時出府にて実父看病の類例は見 出せず、猶詮議をなす旨〕 二月一六日	一通 か一五九
実父看病臨時出府先例書〔安永文化年間の戸田・ 前田家外の先例〕	一通 か一五六
実父看病臨時出府先例書〔文化十三年、幕府大目 付宛問合書并御書取写〕	一通 か一五〇

真田幸弘願書并附札写〔病氣不快のため江戸森宗 乙の療治を受けたく此節出府致したき旨〕〔幕府老 中宛〕〔明和六年〕三月一一日	一通 か一五三
内藤政民願書并附札写〔病氣療治のため臨時出府 したき旨〕〔文化九年〕三月九日	一通 か一五三
小笠原忠固願書并附札写〔同 前〕 丑〔文政一 二年カ〕正月九日	一通 か一五二
真田幸貫願書案〔在邑中持病差発、療治のため臨時 出府した旨〕〔幕府老中宛〕〔文政一二年〕二月	一通 か一五四
江戸家老添状〔出府願書下案・先例書を送付の旨〕 矢沢監物・小山田采女 鎌原伯耆・大熊長門外一名 宛 二月一七日	一通 か一五九
案翁公使者心接留書〔出府看病は成り難き儀ニ付、 真田家よりの願書提出は見合わせられたき旨外〕 二 月一六日	一通 か一五八
真田家留守居伺書〔病氣療治のための参府願書提出 の件、内應伺い〕〔老中水野忠成宛〕〔二月一六日〕	一通 か一五七 一 1
老中御書取〔参勤伺い差図以前に出府願書を提出し て苦しからざる旨〕〔水野忠成〕〔真田家宛〕〔二 月一七日〕	一通 か一五七 一 2
小松義兵衛申上書〔水野家より昨日提出の書面と御 書取とを受取りし旨〕 二月一七日	一通 か一五七 一 3
御参府当日式次第書	一綴 か一五六 袋紙一
御普請方申上書〔福嶋屋人足取調報告〕 二月	一通 か一五六 一 2
真田家江戸屋敷絵図	一通 か一五六 一 3

鹿野茂手木書狀〔桑名松平家へ紐解祝儀進献の件ニ付文久三年お初様の先例取調報告〕 石倉藤右衛門宛 三月八日

松平家息女紐解祝儀進物覚書

松平家万之丞・お初元服祝儀進物覚書 申年一月二二日

松平家老奉札留書〔松平家法事執行方報知并真田家表用人の進物方上申の留〕 一〇月一七日

松平家御用所書役書狀〔類焼一件ニ付御囲板料進献の挨拶は京都表へ申上の上にて取扱うべき旨返報〕 真田家御用所書役宛 一二月八日

郡山柳沢家

○柳沢保光

包紙〔保光公書狀〕

柳沢保光書狀〔借覧の典籍返上、御礼の肴ととも落手されたき旨〕 右京大夫〔真田幸弘〕宛〔寛政頃〕七月二五日

柳沢保光書狀〔松平河内守・保科越前守・柳沢伊賀守ら真田家来訪の件 承知せし旨〕〔真田幸弘宛カ〕九月九日

柳沢保光書狀〔残暑見舞、御詠返上の旨〕 真田右京大夫宛

断簡

○真華院

柳沢家用人書狀〔真華院八月下旬より脚気ニ付施薬の旨〕 稲野寛右衛門・萩原直右衛門 畑権兵衛宛〔文久頃〕十一月一四日

柳沢家用人書狀〔真華院病狀悪化、京医師ら病薬調進の旨〕 村上十学 真田家用人宛 一二月一七日

柳沢家用人書狀〔真華院容鉢書送付の旨〕 同前 同前宛 一二月一八日

御容鉢書写 医師青木宗牛・福井豊後守外六名〔柳沢家宛〕 一二月一三日

柳沢家留守居方書役書狀〔真田家にて来年遠忌の方あるやの旨問合〕 真田家留守居方書役宛〔慶応三年カ〕一二月一一日

柳沢家用人書狀〔歳暮祝儀〕 膳善太兵衛・鞍岡文次右衛門外一名 畑権兵衛・杉田九八郎宛 一二月二二日

柳沢家過去帖〔安永四―明治三年〕

高松松平家

○入部錢別

袋〔戊ノ年御入部御餞別被進被下留帳、子年御国御発駕留〕〔嘉永三―五年〕

小川町御入部ニ付御上品被下進物覚 嘉永三年四月―五月

消息〔近日御発駕にて自分御供のこと、晴姫よりの被下物への返礼〕 村岡 駒野宛

御供女中被下物覚

御供女中名前書

小川町御着之節のとめ 亥〔嘉永四年〕五月 御国御発駕ニ付進物覚 子〔嘉永五年〕五月

一通 か二七九

一通 か二七〇

一通 か二七二

一通 か二七三

一通 か三〇三

一綴 か七八

一点 か二〇八

一冊 か二〇九

一通 か二〇九

一通 か二〇九

一通 か二〇九

一綴 か二〇九

御着之節進物覚
御着之節進物覚

一綴 か三〇九三
一通 か三〇九五

○ 松平家中老連署披露状〔暑中見舞〕 三宅十太夫・笠井次郎右衛門 玉川左門宛 六月五日

一通 か四〇八

松平家中老披露状〔暑中見舞〕 入谷小平 玉川左門宛 六月六日

一通 か四〇九

松平家中老披露状〔暑中見舞〕 芦沢水之助 小山田老岐宛 六月九日

一通 か四一〇

松平家中老披露状〔暑中見舞〕 白井監物 小山田老岐 六年九日

一通 か四一七

松平家用人披露状〔暑中見舞〕 山口隼人 小山田老岐宛 六月九日

一通 か四一五

松平家用人披露状〔暑中見舞〕 宮本權太夫 小山田老岐宛 六月九日

一通 か四一六

婚礼祝儀御仕向書〔松平家衛姫縁組ニ付真田家よりの進物目録〕

一通 か二二六

宇和嶋伊達家

○ 伊達家用人書状〔真田家よりの寒中見舞への返礼状〕 沢田源三郎・矢嶋兎毛外一名 畑権兵衛・津田転宛

一通 か八七三

長谷川平次郎申上書〔伊達家より礼物ありし旨〕 七月二八日

一通 か二六三

○ 伊達家江戸引払一件

〔伊達家用人書状〕〔伊達家江戸引払ニ付、通達類は国元へ寄せられたき旨〕 矢嶋兎毛・徳田大吉 畑権兵衛・津田転宛 (明治元年)二月

一通 か七六六

表用人伺書〔両家通達類の授受は京都屋敷にてなしたき旨〕 (真田家執政宛) 二月

一通 か七四三

小幡内膳添状〔伊達家よりの申入の件ニ付、別紙伺書を宜しく考慮されたき旨〕 御用番宛 二月晦日

一通 か七三三

高野広馬御答書〔伊達家より申入の件、表用人の見解に同意の旨、諮問への答申〕 三月七日

一通 か六五五

金井美濃輔御答書〔高野広馬申立に同意の旨〕 三月一日

一通 か七三〇

表用人御答書〔通達類の授受は京地にてなすが妥当の旨〕 三月

一通 か七三二

廻牒〔伊達家申入一件ニ付向々より別紙の通り答申、各々方の意見聞かされたき旨〕 鎌原伊野右衛門 真田志摩・望月掃一郎宛 三月一日

一通 か七三三

○

真田幸民書状案〔管下騷擾一件ニ付朝廷への周旋方依頼〕 (伊達宗城宛) (明治三年カ)十一月

一通 か七二一

伊達家御用所書役書状〔今般桜田出雲在府したる旨、真田家よりの問合わせへの返報〕 真田家御用所書役宛 一二月四日

一通 か二九八七

水戸家使者送迎礼紛議一件

御取次役届書〔水戸家使者との紛議次第報告〕 中村元尾 表御用人宛 (安政五年)五月

一通 か二九八

御取次役届書〔御三家使者送迎礼先例調査報告〕 (安政五年)六月

一通 か二九七

元御取次役届書〔去年一二月水戸家使者来訪の節、開門せしは門番の心得違ひの旨〕 坂口登 五月

一通 か二九八

御三家使者送迎礼先例書 御取次役

一通 か二九八

真田家留守居書狀控〔送迎礼紛議ニ付水戸家への善処頼入〕 玉川一学 中村道順宛 五月 一通 か三六〇

水戸家御城付書狀〔紛議一件ニ付返答次第にては尾張・紀伊家とも申合わすべき旨〕 横山甚右衛門 真田信濃守宛 五月 一通 か三六一

中村道順書狀〔水戸家御城付より別紙回答ありし旨〕 玉川一学宛 五月二五日 包紙一 一通 か三六二

真田家留守居問合書并下札〔三家使者来訪・帰還時の正門開閉方先例照会并回答〕 (庄内酒井家留守居宛) 一通 か三六三

真田家留守居問合書并下札〔同前〕 (小倉小笠原家留守居宛) 一通 か三六四

真田家留守居問合書并下札〔同前〕 (中津奥平家留守居宛) 一通 か三六五

真田家留守居問合書并下札〔同前〕 (高田榊原家留守居宛) 一通 か三六六

真田家留守居問合書并下札〔同前〕 (大垣戸田家留守居宛) 一通 か三六七

真田家留守居問合書并下札〔同前〕 (小田原大久保家留守居宛) 一通 か三六八

真田家留守居問合書并下札〔同前〕 (郡山柳沢家留守居宛) 一通 か三六九

諸家御三家使者送迎礼先例書 (真田家留守居〔表用人宛]) 一通 か三七〇

表用人伺書〔諸家先例調査報告、水戸家への返答方伺い〕 (執政方宛) 六月 一通 か三五五

その他

石川新八書狀〔日光惠乗院の年頭献上御札、以後断わるべき旨承知返報〕 金井左仲宛 (文化九年)二月二〇日 包紙一 一通 か二三一

惠乗院書狀〔東照宮御札献上の旨〕 石川新八・鈴木弥左衛門宛 (文化九年)正月二〇日 一通 か二三二

(姓不詳)本之助覚書〔献上御札、留守居より断を申入れたる旨〕 文化一二年 一通 か二三三

武器代料請取証文控 真田家留守居座間百人 島原松平家用人島田平学宛 文政九年六月 一通 か七〇一

武器代料金子目録 (島原松平家) (真田家宛) (文政九年六月) 包紙一 一通 か七〇二

真田家書狀留書〔町会所買糶出精ニ付幕府より拝領物ありしを祝せる池田播磨守・立田主水正宛書狀外四通分〕 (安政五年)一二月 一綴 か三六

内山彦次郎披露狀〔暑中見舞〕 宮下兵馬宛 六月一五日 包紙一 一通 か三六三

内山彦次郎書狀〔暑中見舞〕 宮下兵馬宛 六月一五日 一通 か三六四

内山彦次郎口上書〔出府せしところ御勘定格命ぜられ御目見拝領物ありし旨〕 (文久元年カ)六月 一通 か三六五

龍王院堯忍書狀〔真田家よりの進物への返礼狀〕 真田信濃守宛 (文久頃)四月一八日 一通 か三六六

龍王院堯忍奉札〔新宮安泰、真田家よりの進物への返礼狀〕 真田信濃守宛 四月一八日 一通 か四四七

龍光院山貞書狀〔例年の通り御霊屋へ葛粉献備いたす旨〕 真田信濃守宛 四月一八日 一通 か四四八

加藤出羽守書狀〔暑中見舞〕 伊予大洲藩主加藤泰祉 真田信濃守(幸教)宛 六月六日 一通 か四四五

田原三宅家留守居書狀〔御日合の件承知の旨〕 八木木八 玉川一学宛 (慶応頃)一二月八日 包紙一 一通 か三九七

田原三宅家留守居書狀〔備後守真田氏と同道登城の旨〕 八木木八 同前宛 一二月一二日 一通 か三九七

玉川一学書状〔三宅家より別紙の通り申し越したる旨〕 津田転宛 二月一二日	一通 か二九七
若山莊吉用人書状〔莊吉不快により参上取り止めたき旨〕 柴田吉弥 畑権兵衛・津田転宛（慶応三年カ）四月九日	一通 か二六九
畑権兵衛書状〔若山氏開講延期の旨〕 御側御納戸宛 四月一日	一通 か二七〇
高野広馬書状〔若山氏病死ニ付香奠方〕 津田転宛 七月二二日	一通 か二七〇
真田志摩書状〔若山氏の香奠の儀、宜しく取計うべき旨〕 津田転宛 七月二二日	一通 か二七〇
広田筑後披露状〔吉例元旦祈禱祝儀物献上の旨〕 畑権兵衛・津田転宛 正月	一通 か二七三
蓮花定院書状断簡 海心 二月五日	一通 か四二
〔管沼九左衛門書状〕〔亀井家使者一件不調法、執成方願入れ〕 津田転宛（明治元年カ）二月七日	一通 か八六
真田靱負用人書状〔靱負、川支えにて明日着府の旨〕 玉川一学・北沢職之助宛 二月二八日	一通 か二七四
御留守居同書〔林伊太郎よりの進物返礼方〕 四月 中村道務書状〔父道順同様に紋服拝領ありたき旨〕 北沢職之助宛 五月一二日	一通 か二六 一通 か三〇六
西条松平家御用所書役書状〔松平家法事の本地院は初代頼純嫡子頼雄のこと、真田家よりの問合への返報〕 真田家御用所書役宛 五月一四日	一通 か二七五
金子借用証文 新発田藩金子銃之輔 松代藩三井芳次宛 五月一九日	一通 か七〇
浅田宗泊用人書状〔宗泊参上の刻限の報知〕 樋口順泰 玉川一学宛 五月二四日	一通 か二七七

大法院泰猷書状〔真田家表用人中への暑中見舞〕 谷口弥右衛門・寺内友右衛門外三名宛 六月一八日	一通 か四六
某書状〔別紙文面、御上へ知らせざるは先方の趣意なるやの旨〕 八月九日	一通 か四七
佐山八十次郎用人書状〔八十次郎出立日限は前以つて報知せぬ旨返報〕 矢部守助 玉川一学宛 一〇月二四日	一通 か二九一
黒川柳沢家留守居書状〔眼病快方に向いたること、真田家より寒中見舞進献の日限の件〕 斎藤武司 玉川一学宛 一二月九日	一通 か二九一
中野鉄藏披露状〔寒中見舞〕 小山田孝岐・真田志摩外二名宛 一二月一二日	一通 か四二
竹中正藏謁見次第書	一通 か三六五
進達覚書〔平岡莊七・鵜殿周次郎外二名、御書相勤め引取たる旨〕 桑名理内・奥村小文吾	一通 か八五
書状包紙 土岐五郎右衛門・戸田惣兵衛 竹内源兵衛宛	一点 か四三
留守居	
信州仁礼宿問屋歟願書〔堀家領訴訟一件ニ付寺社方留役への礼物贈進のため、江戸留守居方へ金子送付されたき旨〕 問屋政左衛門・伝之丞外五名 郡奉行所宛 天保二年一二月	一通 か七三
幕府表坊主書状〔日光廿日名代は月代御免の後御勤の旨〕 関久円 玉川一学・北沢職之助宛（慶応三年頃）正月七日	一通 か二九六
幕府表坊主書状〔日光廿日名代は宮原弾正大弼の旨〕 徳力孝益・関久円 同前宛 二月七日	一通 か二九六
玉川一学書状〔中津奥平家との使者取交の際の接遇方〕 畑権兵衛・津田転宛 八月二三日	一通 か二七六

留守居廻状〔惣督宮増上寺着館ニ付御機嫌伺い参上方〕 小倉小笠原家勝野兵馬・二本頼母 高並八軒 包紙一綴 か三六二

様留守居宛 (明治元年) 四月一六日
玉川一学書状〔二十四藩集会ニ付金子時拝借願入れ〕 柘植彦六宛 (明治二年) 二月二日 一通 か三七七

玉川一学書状〔臨時集会ニ付金一〇兩時拝借願入れ〕 同前宛 (明治二年) 二月八日 一通 か三七九

玉川一学書状〔今日の集会費用として金一〇兩の時拝借願入れ〕 同前宛 (明治二年) 二月一六日 一通 か三八〇

玉川一学書状〔久留米藩類役帰藩ニ付、送別集会のため金子三〇兩拝借したき旨〕 同前宛 (明治三年) 正月一二日 一通 か三七六

雑書付 一通 か三九二

表用人

表用人申上書控〔大殿様より京都香奠献上使者の件、殿様使者とは別人を以てすべき旨〕 (慶応三年) 正月 一通 か元七

玉川一学書状〔前件、奥平家にては殿様・大殿様使者とも在京留守居の兼勤を以てなすとの由、勘考ありたき旨〕 畑権兵衛・津田転宛 正月二八日 一通 か元七

表用人申上書控〔京都香奠使者は大殿様・殿様とも長谷川深美の兼勤にて然るべき旨、奥平家にては同様の由〕 正月 一通 か元五

山中鹿渡書状〔年始挨拶并此度の騒動に心痛しおる旨〕 畑権兵衛・津田転宛 (明治元年) 正月二日 二通 か八三

真田志摩書状〔別紙の趣、御役方より申上ぐべき旨〕 畑権兵衛宛 四月一〇日 一通 か元五

山越右馬允書状〔餞別贈進方〕 畑権兵衛・津田転宛 四月一〇日 一通 か元七

畑権兵衛書状〔要用路旅取調の件〕 津田転宛 一〇日 一通 か三七〇

真田志摩書状〔先刻の書類、評議掛紙の通り取計うべき旨〕 津田転宛 一〇月一四日 一通 か三六八

野中良左衛門書状〔当一八日此表帰着したること、詰中厚恩への礼状〕 津田転宛 二月二五日 一通 か三〇九

畑権兵衛書状〔幕府老中への御配等のこと、坊主衆への酒・賄被下方〕 津田転宛 二九日 一通 か三〇〇

津田転書状〔別紙御三方精進日変更になりたる旨〕 玉川一学宛 三月二六日 一通 か三〇一

高野広馬書状〔幕臣安井仲平の経歴の件返報〕 津田転宛 三月二七日 一通 か三〇八

御座敷見廻役申上書〔火鉢・焚炭の用意方〕 富岡啓蔵・福沢市兵衛 五月 一通 か三〇三

玉川左門差図書〔別紙の通り御達ある由ニ付、掛り役人と相談のうえ見込を申すべき旨〕 津田転宛 五月二日 一通 か三〇五

表用人申上書案〔下小使役兼表御用人物書の者、勤方の件〕 五月・六月 二通 か三〇元

勤 役

幕 令

触

大目付廻状写〔東叡山・景樹院廟所へ將軍參詣ニ付諸大名行列勅方〕 酒井撰津守・真田豊後守外六名宛
(天保四年)二月六日

一通 か二七五

同席触廻状写〔勅使への御返答ニ付諸大名登城方〕
戸田・小笠原家留守居 真田・内藤外一家留守居宛
(天保頃)三月一日

一通 か七一

同席触廻状写〔松平越前守女死去ニ付將軍慎しみの旨〕 酒井・柳沢家留守居 真田・内藤家留守居宛
(天保頃)一月二日

一通 か七三

老中達書写〔米月中老中・若年寄鎌倉遠馬の件〕
(阿部正弘) 幕府寺社奉行・大目付外宛 二月一六日

一通 か五七

長州征討諸向御達書写 元治元年八月

一通 か一三七

触書写〔備中国賊徒鎮定方〕 五月二一日

一通 か三〇一

○慶応二年

同席触廻状写〔平岡丹波守屋敷修復ニ付内玄關にて取次の旨〕 牧野・諏訪家留守居 戸田・真田外四家留守居宛 五月二六日

包紙一
一通 か六

同席触廻状写〔海陸軍両奉行供方の服裝変更の旨〕
同前 同前宛 六月三日

包紙一
一通 か七

同席触廻状写〔保科弾正忠若年寄任命の旨〕 同前
真田・内藤外一家留守居宛 六月五日

包紙一
一通 か八

同席触廻状写〔稲葉美濃守座順、伯耆守次たるべき旨〕 戸沢・牧野家留守居 戸田・真田外四家留守居宛 六月七日

包紙一
一通 か九

同席触廻状写〔平岡屋敷修復出来ニ付、廻勤取次を表玄關にてなす旨〕 諏訪・牧野家留守居 同前宛 六月八日

包紙一
一通 か一〇

同席用廻状写〔將軍征長留守中の暑中御機嫌伺いの件〕 牧野家留守居 六月八日

包紙一
一通 か二

同席触廻状写〔陸軍三兵の抜刀隊は西洋式法たる旨〕 諏訪・牧野家留守居 真田・秋田外四家留守居宛 六月九日

包紙一
一通 か三

同席触廻状写〔松平縫殿頭老中格命ぜられし旨〕
本多・諏訪家留守居 真田・内藤外二家留守居宛 六月二〇日

包紙一
一通 か三

同席触廻状写〔登城供連方・征長準備方〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 七月一日

包紙一
一通 か四

同席触廻状写〔水野出羽守加判の列命ぜられし旨〕
戸沢・堀田家留守居 真田・秋田外二家留守居宛 七月二〇日

包紙一
一通 か五

同席触廻状写〔松平伯耆守御役御免の旨〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・秋田外四家留守居宛 八月三日

包紙一
一通 か七

同席触廻状写〔当月祝典献上使者方〕 同前 真田・秋田外二家留守居宛 八月三日

包紙一
一通 か八

同席触廻状写〔大関肥後守若年寄任命の旨〕 同前
同前宛 八月五日

包紙一
一通 か九

同席触廻状写〔將軍不例ニ付惣出仕の旨〕 同前
真田・西尾外一家留守居 八月一〇日

包紙一
一通 か一〇

同席用廻状写〔將軍不例ニ付山王社祈禱の件〕
柳沢家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 八月一日

包紙一
一通 か三

同席触廻状写〔將軍不例ニ付御機嫌同出仕日割〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・秋田外四家留守居宛 八月二二日 包紙一 一通か三

同席用廻状写〔山王社祈禱の件〕 田口周助・渡辺平兵衛外一名 上田満・加納元右衛門外一〇名宛 八月二二日 包紙一 一通か三

同席用廻状写〔帝鑑問席大名の城中坊主部屋定式借用の件〕 諏訪・柳沢外二家留守居 牧野・真田外七家留守居宛 八月一三日 包紙一 一通か三

同席用廻状写〔坊主部屋定式借用の件〕 同前 戸沢・戸田外二家留守居宛 八月一五日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔松平弾正忠若年寄任命の旨〕 諏訪・本多家留守居 真田・西尾外二家留守居宛 八月一 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔將軍不例御機嫌同出仕日割〕 戸沢・諏訪家留守居 真田・西尾外一家留守居宛 八月一 包紙一 一通か三

同席用廻状写〔征長留守中の機嫌同出仕の件〕 諏訪・柳沢外二家留守居 堀田・戸田外六家留守居宛 八月二二日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔將軍不例により惣出仕の旨〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・西尾外一家留守居宛 八月二五日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔將軍死去、一橋中納言相統の旨等〕 老中御書付七通分写 同前 真田・西尾外一家留守居宛 八月二六日 包紙一 一通か三

同席用廻状写〔一橋中納言相統ニ付機嫌同の件〕 同前 真田・西尾外二家留守居宛 八月二六日 包紙一 一通か三

同席用廻状写〔將軍死去後の殿中作法申合、他席大名と面会致すまじき旨〕 諏訪・柳沢家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 八月二六日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔前將軍家茂遺骸増上寺へ葬送の旨〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・西尾外二家留守居宛 八月二八日 包紙一 一通か三

同席用廻状写〔供進省略の件〕 諏訪・柳沢家留守居 真田・西尾外一家留守居宛 八月二八日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔前將軍靈棺出迎方〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・西尾外二家留守居宛 八月二九日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔中陰なれど銃隊訓練は再開すべき旨〕 同前 真田・秋田外六家留守居宛 八月二九日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔靈棺出迎時装束方〕 諏訪・本多家留守居 真田・内藤外二家留守居宛 九月二日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔前將軍遺骸発城日限〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・秋田外四家留守居宛 九月三日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔花山院前右府死去ニ付鳴物停止の旨〕 同前 真田・西尾外二家留守居宛 九月四日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔御機嫌同のため明日惣出仕の旨〕 同前 真田・西尾外一家留守居宛 九月六日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔御機嫌同献上方〕 同前 真田・秋田外四家留守居宛 九月八日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔和宮らへの御機嫌同献上方〕 同前 真田・西尾外二家留守居宛 九月九日 包紙一 一通か三

同席用廻状写〔代替誓詞ニ付願書提出方〕 諏訪・柳沢家留守居 真田・秋田外三家留守居宛 九月一二日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔御機嫌同出仕日割〕 諏訪・戸沢留守居 真田・西尾外二家留守居宛 九月一三日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔前將軍出棺、葬送規定等老中御書付三通分写〕 同前 同前宛 九月一八日 包紙一 一通か三

同席触廻状写〔前將軍葬送規定〕 諏訪・堀田家留守居 真田・内藤家留守居宛 九月二二日	包紙一	一通か	哭
同席触廻状写〔前將軍法事執行方、使者装束・通路・供連・日割等〕 相馬・堀田外四家留守居 真田・内藤外二家留守居宛 九月二二日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔前將軍出棺刻限変更の旨〕 本多・諏訪家留守居 真田・内藤外二家留守居宛 九月二二日	包紙一	一通か	哭
同席触廻状写〔増上寺法事日割〕 堀田・諏訪家留守居 真田・土岐外三家留守居宛 九月二五日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔和宮への献上方〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・西尾外二家留守居宛 一〇月一日	包紙一	一通か	𠂔
同席用廻状写〔御膳中機嫌伺使者派遣方〕 諏訪家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 一〇月一日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔松平縫殿頭上京の節、諸家よりの使者無用の旨〕 戸沢・諏訪家留守居 真田・西尾外二家留守居宛 一〇月八日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔將軍への献上方〕 同前 真田・内藤外一家留守居宛 一〇月八日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔法事終了ニ付増上寺下乗下馬所もとの通りの旨〕 諏訪・本多家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 一〇月一二日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔中陰明ニ付惣出仕の旨〕 諏訪・戸沢家留守居 同前宛 一〇月一三日	包紙一	一通か	𠂔
同席触急廻状写〔明日四ツ時惣出仕の旨〕 同前 真田・西尾外一家留守居宛 一〇月一八日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔増上寺参詣日割〕 同前 同前宛 一〇月一九日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔和宮院号の儀ニ付、先に交付せし書付に誤まりあるにより返却すべき旨〕 同前 真田・秋田外三家留守居宛 一〇月二〇日	包紙一	一通か	𠂔

同席触廻状写〔和宮院号は静寛院の旨〕 同前 同前宛 一〇月二〇日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔武器類関所通行のための印鑑提出方〕 戸沢・柳沢家留守居 同前宛 一〇月二二日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔徳川慶喜相統并除服宣下参内ニ付祝儀惣出仕の旨〕 諏訪・戸沢家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 一〇月二三日	包紙一	一通か	𠂔
同席用廻状写〔代替御礼登城方〕 諏訪家留守居 戸田・真田外六家留守居宛 一〇月二五日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔代替御礼登城の節、供廻り規定〕 戸沢・諏訪家留守居 真田・秋田外三家留守居宛 一〇月二七日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔小笠原老岐守老中任命の旨〕 同前 真田・秋田外二家留守居宛 一〇月九日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔和宮、静寛院宮と称する旨〕 同前 真田・内藤外一家留守居宛 一二月九日	包紙一	一通か	𠂔
○慶応三年			
同席触廻状写〔松平民部大輔、清水家相統の旨〕 牧野・諏訪家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 正月六日	包紙一	一通か	𠂔
大目付廻状〔稲葉兵部少輔、叙四品兵部大輔と改名の旨〕（真田家外留守居宛） 正月一二日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔新帝踐祚祝儀の惣出仕の旨〕 諏訪・牧野家留守居 戸田・真田外四家留守居宛 正月一六日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔天皇崩御普請停止なれど仮普請は許可の旨〕 同前 同前宛 二月四日	包紙一	一通か	𠂔
同席触廻状写〔銃隊訓練発炮の解禁日〕 二月 大目付廻状写〔將軍大坂城発途京都帰還の旨、孝明天皇法事香奠献上方〕 二月一八日	包紙一	一通か	𠂔

大目付廻状写〔松平縫殿頭陸軍総裁任命の旨外〕 二月二十九日	包紙一	一通	か六
大目付廻状写〔將軍大坂城発途京都帰還の旨〕 三月二日	包紙一	一通	か七
同席触廻状写〔物出仕の節乗馬・武器携帯規定〕 諏訪・牧野家留守居 真田・内藤外一家留守居宛 三月一日	包紙一	一通	か三
大目付廻状写〔年寄藤山に向後贈物あるべき旨〕 三月	包紙一	一通	か六
同席触廻状写〔年寄藤山、野村と改名の旨〕 諏訪 ・戸沢家留守居 真田・西尾外二家留守居宛 三月一日	包紙一	一通	か六
同席触廻状写〔將軍宣下祝儀惣出仕の旨〕 諏訪・ 牧野家留守居 戸田・真田外四家留守居宛 三月一日	包紙一	一通	か三
同席触廻状写〔將軍宣下祝儀拝謁方〕 同前 同前 宛 三月一日	包紙一	一通	か三
同席触廻状写〔増上寺参詣方〕 諏訪・戸沢家留守 居 真田・秋田外四家留守居宛 三月一日	包紙一	一通	か六
大目付廻状写〔御馬下賜請取方、御馬献上方〕 三 月一日	包紙一	一通	か六
同席触廻状写〔永井玄蕃頭京都にて若年寄格を命ぜ られし旨〕 諏訪・牧野家留守居 真田・内藤外一家 留守居宛 三月二日	包紙一	一通	か七
同席触廻状写〔同 前并京地在任中は江戸屋敷へ の御礼方断の旨〕 同前 戸田・真田外四家留守居宛 三月二日	包紙一	一通	か三
大目付廻状写〔昭徳院靈前への燈籠献備方、関八州 威鉄炮証文の件〕 三月二日	包紙一	一通	か六
真田志摩書状〔同席触廻状・大目付廻状の写を進達 の旨、七五〇九二番付属〕 御用番宛 四月一日	包紙一	一通	か六

大目付廻状写〔將軍大坂発途京都帰還の旨〕 四月 一二日	包紙一	一通	か三
同席触廻状写〔国喪鳴物停止解禁の旨〕 諏訪・牧野 家留守居 真田・秋田外四家留守居宛 四月一日	包紙一	一通	か三
同席触廻状写〔昭徳院正一位太政大臣贈官位宣下の 旨〕 諏訪・柳沢家留守居 同前宛 七月二日	包紙一	一通	か六
触書写〔將軍慶喜任内大臣の祝儀惣出仕の旨〕 九 月	封筒一	二通	か六
大目付廻状写〔江戸開市は来年三月九日迄延期すべ き旨〕 二月二三日	包紙一	一通	か二五
大目付廻状写〔御三家・兩卿と諸大名との路頭礼節 改訂の旨〕 二月九日	包紙一	一通	か二三
同席用廻状写〔諏訪因幡守・松平中務大輔ら申合別 紙廻達ニ付、見込の有無を回答されべき旨〕 諏訪・ 松平外四家留守居 真田・小笠原外四家留守居宛 一 二月一日	包紙一	一通	か三五
真田家返答書案〔市中強盜横行ニ付取締筋見込返答 すべき旨、廻状の趣承知、見込特に無し尚仰合わされ べき旨〕		一通	か三七
同席用廻状写〔松平伊賀守、本多豊後守ら御門番を 命ぜられし旨〕 松平家留守居 真田・松平外三家留 守居宛 二月一日	包紙一	一通	か二四
○			
触書写〔在府万石以上・交替寄合明日登城あるべき 旨〕 正月一日		一通	か三七
畑権兵衛書状〔同席触到来ニ付写進達、御用番へ進 覽されべき旨〕 津田転宛 一日		一通	か三七
飯山本多家用人書状〔東京城にて去月二九日発布 の触廻状請取たる旨〕 本多内記・浅野平馬外一名 畑権兵衛・谷口弥右衛門 外三名宛 八月一日	包紙一	一通	か二七

勤番

御門番

大手御門番御讓書請取証文 神原家関口郡司 真田家池村与兵衛宛 寛政二年六月一四日	包紙三	一通	か二四三
江戸町奉行申渡書〔大手御門番の節、紛入者一件不念の旨〕〔村上義礼〕真田家番頭池田波江外九名宛〔寛政一〇年三月二五日〕	包紙一	一通	か二七一
池村与兵衛申上書〔町奉行村上の下にて別紙申渡ありしこと、他家にも同様申渡ありし旨〕 三月二五日	包紙一	一通	か二七二
大手御門番御讓書請取証文 奥平家福知新左衛門真田家石川新八宛 寛政一〇年八月二二日	包紙二	一通	か二四四
阿部正倫伺書・老中御書取写〔大手門番中の出火出勤は若年寄の指図のみにて可なる哉の旨〕〔老中安藤信成宛〕 享和元年一〇月二二日	包紙一	一通	か二四五
老中御書付写〔門番大名の中間不作法戒飭〕〔松平信明〕 大目付宛 享和元年一二月	包紙一	一通	か二四六
真田幸專伺書并附札〔大手御門番中、屋敷近火の節は三丁火消差出すして不苦哉の旨〕〔老中青山忠裕宛〕 文化二年六月二二日	包紙一	一通	か二七〇
大手御門番御讓書請取証文 柳沢家町田多代 真田家津田善左衛門宛 文化二年八月二二日	包紙二	一通	か二四五
西丸大手御門番被仰合帳請取証文 島原松平家川口長兵衛 同前宛 文化三年六月二四日	包紙三	一通	か二四六
真田幸專伺書并附札〔大手御門番中、屋敷近火の節は三丁火消差出すして不苦哉の旨〕〔老中宛〕 文化四年六月二五日	包紙一	一通	か二四七
西丸御門番被仰合書并下札〔門番内代規定申合〕〔真田家〕〔姫路酒井家宛〕 文化四年六月	包紙二	一通	か二四九

大手御門番被仰合書并下札〔同 前〕〔真田家〕 六月	包紙一	一通	か二四〇
真田幸專伺書并附札〔三丁火消差出の件〕〔老中青山忠裕宛〕 文化六年九月一八日	包紙二	一通	か二四七
大手御門番御讓帳請取証文 神原家柴田定右衛門〔真田家留守居宛〕 文化七年六月二二日	包紙二	一通	か二四七
老中奉書〔大手御門番勤仕を命ぜられし旨〕 松平信明・牧野忠精外一名 真田幸專宛 文化九年五月一六日	包紙一	一通	か二七三
老中申渡書〔服忌により大手御門番免除〕 真田幸專宛 文化一二年	包紙二	一通	か二四九
老中奉書〔西丸大手御門番、酒井河内守の代わり小笠原大膳大夫となりし旨〕 松平信明・牧野忠精外三名 真田幸專宛 文化一三年二月二日	包紙一	一通	か二七四
大手御門番被仰合書 〔真田家〕 二月	包紙一	一通	か二七一
真田幸專伺書并附札〔西丸門番なれど持病により出火時は嫡男を出馬させたまき旨〕〔老中青山忠裕宛〕 文化一三年四月一三日	包紙三	一通	か二四六
西丸大手御門番被仰合帳請取証文 浜田松平家梅田八郎兵衛 真田家石川新八宛 文化一三年五月朔日	包紙一	一通	か二四六
真田幸專伺書并附札〔三丁火消差出の件〕〔老中牧野忠精宛〕 文化一三年二月二九日	包紙一	一通	か二四六
真田幸專伺書并附札〔持病ニ付出火時嫡男出馬の件〕〔老中酒井忠進宛〕 文化一四年七月九日	包紙一	一通	か二七三
真田幸專伺書并附札〔三丁火消差出の件〕〔同前〕 文化一四年七月二一日	包紙一	一通	か二七一
真田幸專伺書并附札〔持病ニ付出火時嫡男出馬の件〕〔老中大久保忠真宛〕 文政二年八月一七日	包紙一	一通	か二〇六
真田幸專伺書并附札〔三丁火消差出の件〕〔同前〕 文政二年八月二二日	包紙二	一通	か二七三

真田幸專伺書并附札〔同 前〕（老中松平乗寛宛）（文政六年カ）六月一六日	包紙一	一通	か二七九
真田幸專伺書并附札〔持病ニ付火時嫡男出馬の件〕（同前宛）文政六年六月一七日	包紙一	一通	か二〇七
包紙〔御三家御三卿路頭礼節問合書付、一六二〇、一六三二番在中〕文政一〇年間六月		一点	か二六〇
真田家留守居問合書并附札〔真田家大手御門番にて出火出馬の節の田安家行列との路頭礼〕座間百人（田安家宛）文政八年八月	包紙二	一通	か二六二
（田安家右筆書状）〔路頭礼問合ニ付別紙附札の通りたるべきこと、一橋・清水両家にも通達せし旨〕望月孫兵衛 座間百人宛 八月二十四日		二通	か二六三
真田家留守居問合書并附札〔出火出馬時の田安家との路頭礼〕座間百人（田安家宛）三月		一通	か二六三
田安家右筆書状〔別紙問合の件、一橋・清水両家も了承したる旨〕山口清左衛門 座間百人宛 四月一三日		一通	か二六四
真田家留守居問合書并附札〔出火出馬時の尾張家との路頭礼〕座間百人（尾張家宛）三月		一通	か二六五
（成瀬家留守居書状）〔先日問合の件紙面の通りにて差障り無き旨〕大久保某 座間百人宛 三月二一日		一通	か二六六
真田家留守居問合書并附札〔出火出馬時の紀伊家との路頭礼〕座間百人（紀伊家宛）四月	包紙一	一通	か二六七
真田家留守居問合書并附札〔出火出馬時の水戸家との路頭礼〕同前（水戸家宛）四月	包紙一	一通	か二六八
真田家留守居問合書并附札〔出火出馬時の尾張家との路頭礼〕同前（尾張家宛）七月		一通	か二六九
（成瀬家留守居書状）〔附札の通りたること、紀伊・水戸家へも通達せし旨〕大久保某 座間百人宛 八月九日		一通	か二七〇

真田家文書目録 勤役

真田家留守居問合書并附札〔出火出馬時の水戸家との路頭礼〕座間百人（水戸家宛）文政一〇年七月	包紙一	一通	か二七一
封筒		一点	か二七二
大手御門番御讓帳請取証文 榊原家蟹江十曹（真田家留守居宛）文政一二年六月一四日	包紙二	一通	か二七三
老中申渡書〔久能山東照宮外修復御用ニ付大手御門番を免ぜられし旨〕真田幸貫宛 天保四年	包紙一	一通	か二七四
真田家留守居問合書案〔出火出馬時の輪王寺との路頭礼〕座間百人（常照院宛）九月		一通	か二七五
真田家留守居伺書并附札〔俟約ニ付大手御番所詰家来の着服を改変したき旨〕同前（幕府目付羽太左京宛）一二月	包紙一	一通	か二七六
羽太左京用人書状〔別紙伺書、附札済みニ付落手されたき旨〕樋口範右衛門 座間百人宛 三月七日		一通	か二七七
真田家留守居願書案〔真田氏上京ニ付西九大手御門番免ぜられたき旨〕（幕府宛）		一通	か二七八
その他			
大目付達書〔東叡山御成跡固を勤むべき旨〕井上利泰・伊藤忠移外二名 真田幸專宛 文化九年正月九日	包紙二	一通	か二七九
大目付達書〔跡固の儀延引となりし旨〕同前宛 文化九年正月九日	包紙一	一通	か二八〇
大目付達書〔大乗院門跡両山参詣ニ付老中御書付を達する旨〕井上利泰・伊藤忠移外三名 同前宛 文化九年三月四日	包紙二	一通	か二八一
老中御書付写〔東叡山・増上寺諸門固人数書〕大目付宛 三月		一通	か二八二
老中御書付写〔東叡山・増上寺諸門番大名名前書〕大目付宛		一通	か二八三

真田家留守居伺書并附札〔末姫・喜代姫参宮ニ付屋敷門前警護方〕座間百人〔幕府目付羽太左京宛〕包紙二
文政一二年九月七日 一通 か二七六

兵部省達書〔米国公使参朝ニ付道筋警衛方〕松代藩宛 一〇月七日 一通 か二四四

海防

老中御書取〔訓練時、甲冑使用方〕〔大久保忠真〕包紙一
〔真田家宛〕文政八年九月二日 一通 か二五二

真田幸教伺書并附札〔英艦渡来警衛のため出府すれども不快ニ付帰邑したき旨〕〔老中宛〕文久三年四月一五日 包紙一
一通 か二七〇

老中御書取〔横浜表にて浪士乱妨ニ付、神奈川奉行指示にて警衛すべき旨〕〔松平信義〕真田幸教宛 包紙二
文久三年四月一六日 一通 か二五三

於長崎異人応接之次第写〔元治元年〕八月一二日 一綴 か三七六

真田幸民伺書案〔此度上京の幕命あれど真田家内海警衛中ニ付、重役を名代上京となすべきやの旨〕〔老中宛〕〔慶応三年カ〕一二月 一通 か二七三

申送り状〔内海警衛御免ニ付、諸家への使者・奉札差出方相談申入〕〔真田家留守居〕〔真田家表用人宛〕二月二六日 一通 か二四四

供奉

日光供奉

日光社参一件文書目録

一通 か二七五

幕府大目付達書〔日光社参ニ付御用掛の者の拝借金返納延期の旨〕真田家留守居宛 天保一三年一二月二三日 一綴 か二七七

真田家日光供奉道中条目〔衣服・馬具・鎗印等規定〕 一通 か二七九

御書取〔岩槻・古河・宇都宮・日光の本陣・下宿箇所付、幕命の伝達〕〔真田家家老〕〔九月〕〔九月〕 二通 か二七八

御書取〔参詣昼休後は拍子木にて供揃をなすべき旨、幕命の伝達〕 同前宛 〔二月一七日〕 一通 か二七九

御書取〔若殿様日光社参時の人馬手配方〕〔同前宛〕 一通 か二八〇

御書取〔日光御供向菅笠取揃方〕〔福津刑左衛門宛〕 一通 か二八一

御書取〔日光参向御供の下目付に拝借金ある旨〕御目付宛 一通 か二八二

御達書〔日光御供の者、諸道具運搬方〕〔真田家家老〕御供御目付宛 〔天保一四年〕二月二日 一通 か二八三

御達書〔幕府触書写、日雇賃銀・一季居奉公人雇用規定〕 同前宛 二月 一通 か二八四

御書取〔日光宿坊内にての御用人側役以下の着服方を日光御供向へ申通すべき旨〕〔福津刑左衛門宛〕〔三月〕 一通 か二八五

御書取〔日光宿坊内にては御用人側役は旅装束のまゝにて御用を勤むべき旨〕 同前宛 一通 か二八六

御書取〔日光道中下座敷持は手明中間の内へ命ずべき旨〕 御書請奉行宛 天保一四年三月一九日 一通 か二八七

御書取〔行列帳の記載変更の件〕〔福津刑左衛門宛〕 一通 か二八八

御書取〔滝野川村御人数立場、図面の通り心得べき旨〕 同前宛 一通 か二八九

御書取〔此度は大切御用ニ付火の番殊に嚴重となす
べき旨〕 同前宛
御書取〔火の番勤方条目〕 同前宛
御書取〔道中本陣・日光宿坊の間割心得方〕 同前
宛
御書取〔道中夜廻りの提灯受渡し方〕 同前宛
御書取〔道中具足櫃・荷物差札認方〕 同前宛
御書取〔賄札・蠟燭・杓草鞋札交付方并蠟燭等代金
勘定書〕 同前宛
御書取〔御供向笠桐油・看板類受渡し方并菅笠代金
勘定書〕 同前宛
御書取〔日光宿割・人馬取扱方ニ付伺の通り心得べ
き旨〕 高田幾太・禰津刑左衛門宛
御書取〔小役の者道中木綿紋付羽織着用法〕 同前
宛
御書取〔道中看板類・駕籠人足・鍵持は自分用意た
るべき旨〕 禰津刑左衛門宛
御書取〔道中馬被下方ニ付、下目付へ本馬二足分の
代料を下さる旨〕 御目付宛
御書取〔御借人又供へは弁当袋の支給は無き旨〕
禰津刑左衛門宛
御書取〔御供足輕・通日雇等に駄馬の飼料を下さる
旨〕 高田幾太・禰津刑左衛門宛
御書取〔日光御供向へ南部坂御台所にて賄札を渡す
旨〕 禰津刑左衛門宛
真田図書差図書〔岩槻・古河宿出役の下目付に手充
金下さる段申渡すべき旨〕 禰津刑左衛門宛 四月九
日

一通 か一七〇
一通 か一七二
一通 か一七三
一通 か一七四
一綴 か一七五
一綴 か一七六
一通 か一七七
一通 か一七八
一通 か一七九
一通 か一八〇
一通 か一八一
一通 か一八二
一通 か一八三
一通 か一八四

御書取〔御供下座見・押以下の者へ旅中太儀の賞詞
を申渡すべき旨〕 御目付宛
御達書〔殿様に対し留守中辛勞との上意ありし由、
御供向へ演説あるべき旨〕 同前宛 四月二〇日
御達書〔道中荷物買目・髪結銭の件〕 御供御目付
宛 四月
御達書〔下目付有賀忠左衛門に宇都宮出役を申渡す
べき旨〕 御目付宛 四月六日
御書取〔御供下目付へ息合梅を下さる旨〕 禰津刑
左衛門宛
真田図書差図書〔明後日南部坂屋敷にて御先三品御
手廻行列足並を仰出さる旨〕 同前宛 四月八日
御達書〔下目付へ岩槻・古河宿への出役を申渡すべ
き旨〕 御目付宛 四月九日
御書取〔道中安全懐中守札頂戴方〕 禰津刑左衛門
宛
御書取〔日光宿坊内の御用人側役以下の着服は猶又
袴を用うべき旨〕 同前宛
御書取〔日光飯橋内は下馬・笠脱の段、御供向へ申
通すべき旨〕 同前宛
御書取〔日光御供向、明日より旅装にて御用勤むる
も勝手次第の旨〕 同前宛 四月一日
御書取〔日光御供向、明日南部坂屋敷へ揃うべき旨〕
同前宛 四月一日
御達書〔明日供揃にて発駕の旨〕 御供御目付宛
四月一日
御達書〔休泊時の拍子木打方〕 同前宛 四月

一通 か一八五
一通 か一八六
一通 か一八七
一通 か一八八
一通 か一八九
一通 か一八〇
一通 か一八一
一通 か一八二
一通 か一八三
一通 か一八四
一通 か一八五
一通 か一八六
一通 か一八七
一通 か一八八

御書取〔道中休息所・御用向人名の件、別紙の通り御供中へ申通すべき旨〕 福津刑左衛門宛

一通 か一八九

道中休息箇所付（幕府）（真田家宛） 四月
道中休息所御用百姓名前書

一通 か一八〇
一通 か一八三

御書取〔日光道中御供の足輕の者共へ心得方を申渡しおきたる旨〕 福津刑左衛門宛

一通 か一八三

御書取〔日光道中に関する申立は今月一〇日迄になすべき旨〕 同前宛

一通 か一八三

御書取〔道中蠟燭・香草鞋不用の分、代料下さる旨〕 同前宛 五月四日

一通 か一八四

御書取〔下目付有賀忠左衛門へ日光出役ニ付、馬賃・御賄下さる由を申渡すべき旨〕 同前宛 五月

一通 か一八五

御書取〔人馬掛荒井・池田兩名日光殘荷物取扱ニ付、下され物ある由を申渡すべき旨〕 同前宛 五月二〇日

一通 か一八六

御達書〔日光道中時出精の下目付外へ頂戴物ある由を申渡すべき旨〕 御供御目付宛 六月三日

一通 か一八七

御書取〔日光道中時出精の下目付柳沢佐忠治へ頂戴物ある由を申渡すべき旨〕 御目付宛 六月九日

一通 か一八六

御達書〔福嶋屋庄五郎へ道中日雇出精ニ付御手充金ある由申渡すべき旨〕 御供御目付宛 六月九日

一通 か一八八

○
文政度最樹院法事供奉旧記拔書（水野家）（真田家宛） 天保四年二月二〇日

一通 か一七六

真田幸貫請書控〔將軍參詣時供奉勤むる旨〕（大目付須田盛昭宛） 二月八日

一綴 か一七七

最樹院法事次第書

一通 か一七六

御手伝

御普請金

真田家留守居伺書并附札〔禁裏築地入用金献上方〕 鈴木弥左衛門（勘定奉行久世氏広宛） 天明八年一月

包紙一
一通 か一八三
1

真田家留守居伺書〔築地入用金員数〕 同前（同前宛） 天明八年二月

包紙一
一通 か一八三
2

○

御普請金請取証文 井上家飯嶋右門・茂呂隆右衛門外一名 真田家矢野源八宛 寛政七年二月三日

包紙一
一通 か一八九

御普請金請取証文 同前 同前宛 寛政八年三月二日

包紙一
一通 か一八九

御普請金請取証文 同前 真田家矢野源八・三井寿一郎宛 寛政八年六月二日

包紙一
一通 か一八九

御普請金請取証文 同前 真田家三井寿一郎宛 寛政八年九月一日

包紙一
一通 か一八九

御普請金請取証文 同前 同前宛 寛政八年二月二六日

包紙一
一通 か一八九

久能山東照宮

袋〔久能御宮其外所々御修復御用被蒙仰候一件書付、一八三四一八五九番在中〕 天保四年同五年

一点 か一八三

真田家留守居御聞置書〔真田家勝手向難波ニ付別紙伺書の通りにて聞済まされたき旨〕 座間百人（老中水野忠成宛） 九月二〇日

一通 か一八〇
1

真田家留守居伺書〔御宮普請金上納、三度割賦としたい旨〕 同前（同前宛） 九月二〇日

一通 か一八〇
2

老中御書取〔書面内意の趣、承知の旨〕 〔真田家宛〕	一通	か一八四 —3
真田家留守居伺書并附札〔御宮普請金上納、三度割賦としたき旨〕 座間百人〔幕府勘定奉行宛カ〕 九月二〇日	一通	か一八四
勘定奉行口達覚書〔御用金上納方、初納日数の遅延は以後の例となるまじき旨〕 〔土方勝政〕 〔真田家宛〕 〔九月二〇日カ〕	一通	か一八五
老中申渡書〔佐竹右京大夫・久世鎌吉、東照宮修復命ぜられたる旨〕 真田幸貫宛 天保四年	一通	か一八二
久世・真田家留守居連名伺書并附札〔贈物進呈方〕 久世家榊原儀太夫・真田家小松儀兵衛〔勘定奉行宛〕 九月二十九日	一通	か一八四
勘定奉行御書取〔御宮修復御用取扱は水野忠成の旨〕 〔真田家宛〕	一通	か一八五
勘定奉行御書取〔修復御用掛り勘定奉行・作事奉行・目付名前書〕 〔同前宛〕	一通	か一八七
勘定奉行御書取〔修復御用掛り勘定組頭以下名前書〕 〔同前宛〕	一通	か一八六
勘定奉行御書取〔修復御用掛り御徒目付以下名前書〕 〔同前宛〕	一通	か一八五
勘定奉行御書取〔修復御用掛り疊奉行以下名前書〕 〔同前宛〕	一通	か一八五
勘定奉行御書取〔作事方役人矢野權之進、手代より披官助へ転任せる旨〕 〔同前宛〕	一通	か一八五
真田家留守居伺書并附札〔修復御用掛りの真田家来人数書上方 諸家高並に准じたき旨 内慮伺い〕 座間百人〔勘定奉行宛〕 一〇月七日	一通	か一八六
賜物伺之覚〔老中・若年寄より勘定方・作事方下役迄への贈物員数〕 座間百人 一〇月一〇日	一冊	か一八四

美

真田家留守居伺書并附札〔普請金蓮池金蔵への上納方〕 座間百人〔勘定奉行宛〕 十一月一六日	一通	か一八七
久世・真田家留守居連名伺書并附札〔贈物進呈方、仙石家先例の通りにて然るべきやの旨〕 榊原儀太夫・座間百人〔同前宛〕 十一月一六日	一通	か一八三
諸方賜物進呈方覚書〔勘定奉行〕 〔久世・真田家宛〕	一通	か一八三
真田家留守居伺書并附札〔修復御用掛り真田家来八名書上〕 座間百人〔勘定奉行宛〕 十一月一六日	一通	か一八四
真田家留守居伺書并附札〔修復御用掛り真田家来の件〕 同前〔同前宛〕 十一月一六日	一通	か一八四
賜物伺之覚 小松儀兵衛〔同前宛〕 十二月二四日	一冊	か一八五
真田家留守居伺書并附札〔普請金蓮池御金蔵への上納方〕 小松儀兵衛〔同前宛〕 〔天保五年〕正月一八日	一通	か一八六
老中申渡書〔真田家臣矢沢監物以下八名登城すべき旨〕 〔松平康任〕 〔真田幸貫宛〕 二月二十九日	一通	か一八五 —1
老中御書取〔家来病気の者は代人を出すべき旨〕 〔同前〕 〔同前宛〕 〔二月二十九日〕	一通	か一八五 —2
久世・真田家留守居連名伺書并附札〔後の贈物の件〕 榊原儀太夫・座間百人 二月二十九日	一通	か一八七
勘定奉行御書取〔上納金の納証文認方〕 土方勝政 〔真田家宛〕	一通	か一八四
上納金高書付案 〔土方勝政〕 〔真田家宛〕 午〔天保五〕年二月	一通	か一八四
勘定奉行御書取〔上納金員数〕 〔同前〕 〔同前宛〕 午〔天保五〕年二月	一通	か一八五
勘定奉行御書取〔納証文認方〕 〔同前〕 〔同前宛〕	一通	か一八五

美

勘定奉行御書取〔納証文認方〕（同前）（同前宛）

一通 か一八五

拝領・献上・見舞

御馬拝領目録（幕府） 真田弾正大弼宛 文政五年三月二日

包紙二 一通 か七一

真田家留守居伺書〔雉子引替献上の儀ニ付内慮伺い〕 座間百人（老中宛） 文政八年一月五日

包紙二 一通 か五三

老中御書取〔献上物引替の儀、表立伺うべき旨〕（真田家宛）（文政八年一月二日）

一通 か五三

御用状〔献上雉子を蕎麦に引替の件外〕 北沢源次兵衛 岩下左源太・岡嶋莊藏宛 一二月五日

一通 か三三五

老中返札〔西丸炎上の節、御機嫌伺への返札〕 松平豊前守 真田信濃守宛 文久三年六月一八日

包紙二 一通 か七〇八

老中返札〔年頭祝儀太刀・馬代献上への返札〕 井上河内守 同前宛 文久四年正月二日

包紙一 一通 か二四三

老中返札〔寒中御機嫌伺への返札〕 牧野備前守 同前宛 元治元年二月二三日

一通 か七四

老中返札〔八朔祝儀献上物への返札〕 松平伯耆守 同前宛 慶応元年八月四日

包紙一 一通 か二〇八

老中返札〔年頭祝儀献上物への返札〕 水野和泉守 同前宛 慶応二年正月二日

包紙一 一通 か三六五

新帝踐祚祝儀飛札例文（中津奥平家）

一通 か二九一

公儀拝借金請取証文〔松代城外焼失ニ付〕 真田伊豆守 細田弥三郎・中川吉左衛門外二名宛 享保二年七月

包紙三 一通 か三二三

諸大名金子配分書

一通 か八六

役儀

被仰出書〔真田幸貫老中就任ニ付公儀・諸家に対し礼節を重んずべき旨〕（真田家家老）（真田家中宛）（天保一二年）七月

一通 か四九

御袖裏覚書（真田幸貫） 寅（天保一三年）正月朔日

小折本 一冊 か四三

御袖裏覚書（同前） 正月六日

小折本 一冊 か四六

御袖裏覚書（同前） 正月七日

小折本 一冊 か四七

御袖裏覚書（同前） 正月八日

小折本 一冊 か四八

御袖裏覚書（同前） 正月九日

小折本 一冊 か四九

御袖裏覚書（同前） 正月一〇日

小折本 一冊 か五〇

御袖裏覚書（同前） 正月一日

小折本 一冊 か五一

御袖裏覚書（同前） 正月二日

小折本 一冊 か五二

御袖裏覚書（同前） 正月三日朝

小折本 一冊 か五三

御袖裏覚書（同前） 正月一三日

小折本 一冊 か五四

御袖裏覚書（同前） 正月一五日

小折本 一冊 か五五

御袖裏覚書（同前） 正月一六日

小折本 一冊 か五六

御袖裏覚書（同前） 正月一七日

小折本 一冊 か五七

御袖裏覚書（同前） 正月一八日

小折本 一冊 か五八

御袖裏覚書（同前） 正月一九日

小折本 一冊 か五九

御袖裏覚書（同前） 正月二〇日

小折本 一冊 か六〇

御袖裏覚書（同前） 正月二一日

小折本 一冊 か六一

御袖裏覚書（同前） 正月二二日

小折本 一冊 か六二

御袖裏覚書 (同前)	正月二三日	小折本	一冊	か一四三
御袖裏覚書 (同前)	正月二四日	小折本	一冊	か一四四
御袖裏覚書 (同前)	正月二五日	小折本	一冊	か一四五
御袖裏覚書 (同前)	正月二九日	小折本	一冊	か一四六
御袖裏覚書 (同前)	正月晦日	小折本	一冊	か一四七
御袖裏覚書 (同前)	三月二日	小折本	一冊	か一四八
御袖裏覚書 (同前)	三月一七日	小折本	一冊	か一四九
御袖裏覚書 (同前)	三月一八日	小折本	一冊	か一五〇
御袖裏覚書 (同前)	三月二六日	小折本	一冊	か一五一
御袖裏覚書 [文恭院廟名代参詣] (同前)		小折本	一冊	か一五二

十藩触頭

松本戸田家人用書状 [真田幸民、朝廷より信濃国触頭を命ぜられし旨、承知返報] 稲村左近右衛門・西郷新兵衛外七名 谷口弥右衛門・山中鹿渡外二名宛 (明治元年)二月一七日	包紙一	一通	か一	五
松本戸田家人用書状 [京都より伝達の書付の趣承知の旨] 同前 (明治元年)二月一七日	包紙一	一通	か二	五
高嶋諏訪家人用書状 [真田幸民信州触頭任命の旨、承知返報] 両角文右衛門・鶴飼伝右衛門外二名 同前宛 (明治元年)二月一八日	包紙一	一通	か一	七
高嶋諏訪家人用書状 [京都より伝達の趣承知の旨] 同前 (明治元年)二月一八日	包紙一	一通	か二	七
高遠内藤家人用書状 [信州触頭任命の件] 神谷真左衛門・竹田七郎右衛門外一名 同前宛 二月一八日	包紙一	一通	か一	七

真田家文書目録 勤役

高遠内藤家人用書状 [京都より伝達の件] 同前 同前宛 二月一八日	包紙一	一通	か一	七
上田藤井家人用書状 [信州触頭任命の件] 中根次郎右衛門・藤井司外三名 同前宛 二月一九日	包紙一	一通	か一	九
上田藤井家人用書状 [京都より伝達の件] 同前 同前宛 二月一九日	包紙一	一通	か二	九
信州触頭御歛諸家使者入来留書 (表用人力) (明治元年)二月一九日―二九日		二綴	か二	九
(飯田堀家老書状) [信州触頭任命の件] 安富勘右衛門 鎌原伊野右衛門・大熊衛士宛 (明治元年)三月一五日		一通	か三	三
真田家人用書状案 [真田幸民信州触頭任命に対する祝詞への返礼状] 畑権兵衛・宮下主鈴外一名 仙石家人用宛		一通	か七	
表用人伺書 [信州触頭・大隊旗幟領ニ付諸家祝詞への返礼の件] (明治元年)二月二三日		三通	か三	

甲府城代

真田家人用廻状 [真田幸民、朝廷より甲府城代命ぜられし旨] 畑権兵衛・谷口弥右衛門外三名 本多・堀外一家用宛 (明治元年)七月八日	包紙一	一通	か四	三
飯山本多家人用書状 [廻状返却の旨] 本多内記・葉若治部左衛門 畑権兵衛・谷口弥右衛門宛 七月九日	包紙一	一通	か四	三
真田家人用廻状 [真田幸民甲府城代免ぜられし旨] 畑権兵衛・谷口弥右衛門外二名 本多・堀外一家用宛 (明治元年)七月一八日	包紙一	一通	か五	六
被仰出書写 [真田幸民、越後進撃のため甲府城代免ぜられし旨] (朝廷) 真田幸民宛		一通	か五	六

口上書写〔真田幸民の尽力に満足の旨〕（朝廷）
（真田幸民宛）

一通 か 五
一 3

飯山本多家用人書状〔廻状返却の旨〕 本多内記
・葉若治部左衛門外一名 畑権兵衛・谷口弥右衛門宛
七月一九日

一通 か 五
一 4

真田家用人廻状〔落合宿社家小野丹波を総督府より
探索の旨〕 谷口弥右衛門・窪田慎六外二名 本多・
堀家用人宛（明治元年）三月一〇日

包紙一

一通 か 六

飯山本多家用人書状〔右廻状返却の旨〕 中嶋森
之助・本多内記外二名宛 谷口弥右衛門・山中鹿渡外
二名宛（明治元年）三月一〇日

包紙一

一通 か 三

須坂堀家用人書状〔真田家廻状、本多家へ廻達せし
旨〕 駒沢勘左衛門 同前宛 三月二一日

包紙一

一通 か 六

御沙汰書〔内藤志摩守家来四人、市橋下総守へ御預
替の旨〕 行政官 真田信濃守宛 三月

一通 か 云
五

御沙汰書〔真田家御預りの内藤家臣大原秋次、御構
無きニ付帰藩せしむべき旨〕 行政官（真田幸民宛）
三月

一通 か 云
五

道中先触写〔戊辰戦争、北越方面派兵関係〕 辰
（明治元年）四月

一通 か 四
六

大隊旗拝領祝儀諸家入来留書（表用人）（明治
元年）四月二九日―閏四月一八日

二通 か 三
〇

東山道総督府印鑑

六通 か 七
元

刻付急御用廻状写〔榎本釜次郎ら鑑船にて脱走の
旨〕 鑓守府弁事 真田・津輕外二〇家留守居宛
（明治元年）八月

包紙一

一通 か 五
〇

表用人伺書〔下筋派兵ニ付諏訪家よりの礼物への返
礼の件〕（明治元年）二月二三日

一通 か 三
三

諏訪家礼物代料勘定書 表用人 二月二三日

一通 か 三
三

表用人申上書〔飯山城援兵ニ付本多家よりの礼物へ
の返礼の件〕（明治元年）二月二三日

一通 か 三
五

鎌原伊野右衛門差函書〔別紙伺の趣承知、松本・飯
山等の使者への被下物は見合わすべき旨〕 表用人宛
（明治二年カ）三月一三日

一通 か 三
五

堀新九郎披露状〔年頭祝詞〕 竹内晋平・伊藤環宛
正月二日

一通 か 四
七

大法院泰猷披露状〔同前〕 真田家用人宛 正月五
日

一通 か 八
五

大法院泰猷書状〔用人宛年頭祝詞〕 畑権兵衛・津
田転宛 正月五日

一通 か 八
四

仙石久利書状〔暑中見舞〕 真田信濃守宛 六月二
日

一通 か 二
五

大沢甚之丞書状〔中元見舞への返礼状〕 石川新八
・畑権兵衛宛 七月二日

一通 か 三
六

信濃国
松代

真田家文書目録（その二）解題

文書の伝来と特色

文書の伝来 本目録には真田家文書のうちの書付型史料を収録した。この書付型史料をも含め当館所蔵真田家文書全体の伝来およびその関連史料の所在については『史料館所蔵史料目録第二八集・真田家文書（その一）』の解題を参照されたい。

真田家文書目録「その一」には簿冊型史料を収録したのに対し、今回の真田家文書目録「その二」以降の目録には書付型史料を配していくものである。真田家文書中の書付型史料は推定二万点が伝来し、本目録にはそのうち三千点を収めた。

書付型史料の全体は基本的に目録「その一」で用いられた分類項目に従って順次、目録化していくものであり、目録は全部で六〇七分冊となし最後に「補遺編」を設ける予定でいる。そして今回の目録にはこの分類項目のうち大項目の『領知』『真田家』『勤役』『預所』『役儀』を中項目に改変して含む）に配列されるべき史料を収めた。

本文書の特徴

本目録収載史料は総て書付型史料である。そしてその大半は幕末期のものであるが、凡そ大名家において日常的に作成され授受されたであろう史料の殆んどが、時の流れによる選別・廃棄に遭うことなく総体として今日に伝存したものである。それは大名家の文書的世界の自然な姿というものをありのままに伝えているものであって、本文書の一番大きな特色はこの点にあると言えるであろう。本文書はその作成事情から見て、1幕藩関係史料、2藩際史料、3藩内史料の三つに大別される（以下、本解題の説明において『内ゴジック』は大項目、『『明朝は中項目を示す。またハ』内の仮名と数字は史料の整理番号を示す）。

1幕藩関係史料、これは幕府と松代藩真田家との間で授受された文書およびその写・控である。『領知』『規式』『勤役』の項に多く見られる

ものであり、領知朱印状・老中奉書の他、幕府よりの達書・触書の類、そして真田家の側より提出する伺書・問合書などが大部分を占める。2藩際史料、これは専ら江戸において真田家と他大名家との間で授受された文書群である。『慶事』『奥向』『江戸屋敷』『交際』等の項目に収められている。その中心をなすのは『交際』の項に配した留守居書状で、大名諸家が自家の動静一般を留守居を通じて他家に報知していく挨拶状・吹聴状の性格を有するものである。この種の史料は他大名家においても当然に作成授受されていたものであるが、原史料の伝存は今のところこの真田家文書以外には目に触れない。内容的にも興味深いものがあり、その量的な豊富さと併せて貴重である。

藩際史料としてはこの外に真田家と姻戚関係をもつ諸家との間で婚姻や養子縁組に關して作成授受されたもの、五節句の贈答・吉凶挨拶を内容とするものが残されている。また真田家が直面した個別的事案を巡ってその先例旧格を他家に照会した際に作成されたもの、江戸屋敷を巡る他家との相對替や辻番所組合など諸種組合に關係した史料等が見られる。

3藩内史料、松代藩内部で作成授受されたもので本文書の大半を占めるものである。本目録収載分の藩内史料は『真田家』の項に配した真田家の奥向史料であり、婚姻吉凶關係史料を中心にした大名の日常的な私的生活に由来するものである。それら史料の殆んどは安政期以降幕末明治初年のものであり、料紙は多く宿紙を用いた粗雑なもの、内容もまた一見したところでは瑣末単調なもの、反覆に終始している。しかし振り返って見れば、それ故にこその他の大名家文書にあつてはいつれもが処分され消滅してしまったと思われるものなのであり、今となつては外に類例を見ない貴重な文書群であると言えるのではないであらうか。本目録収載の今一つの藩内史料の群は參勤出府・上洛等に關する道中入料の勘定書類である。それは供侍への馬銀等の支給、荷物運搬の人馬賃金の請渡方、宿入料の支払などに関する金銭授受の証文から、最終決算の仕上勘定書に至る關係書類が個別勘定項目毎に一括袋綴の形式を以て伝存している。

書付型史料の内容は一般に断片的なものである。その書付が語ろうとしている歴史的事実についての内容をよりよく理解するためには目録「その一」に収められた簿冊型史料と対照することが不可欠であり、簿冊型史料に特有の状況説明的な記述を踏まえることによって始めて書付型史料の内容は系統的に把握することが出来るであらう。

その意味で書付型史料は、それだけでは歴史的事実の全貌を示し得ない消極的不充分な性格のものと云えるかも知れない。しかし他面、書付型史料は当該社会の中で実際に授受され機能した「生」の史料であるという事実にも同時に留意されなければならない。そのことは、歴史研究にとってのいわゆる第一次史料確認の問題に止まらず、それが「生」の史料であるが故に当時の文書存在の具体的な姿を我々に直接に知らしめてくれるところにその一層大きな意義を有するものと言うべきであろう。即ちその料紙が如何に粗末であろうとも、記載内容が不分明で断片的であろうとも、正にそのようなものとして当該社会で授受されていたという事実を我々に示してくれるのである。実際本文書『誕生』の項などに見られる奥方役人の伺書の類は大半が宿紙であり、余りに粗末なものの故に草案・控と見まがうばかりなのであるが、これが家老よりの回答書と共に一括して返進されているという残存形態（例えば「か九六五・か二三四六」等）よりして、これらは疑いもなく正文であることを知るのである。我々はこのような文書それ自体の姿、そしてまたその残存形態について、幕末期の真田家奥向の具体的な局面——財政状態の程度・御産という事柄の位置づけ方・文書事務の遂行のあり方等々——を直観することが出来るのである。

書付型史料の掛替のない価値とはこのようなものではないかと考えられる。

史料の表題について

近世の書付型史料の史料名称については領知朱印状・御内書・老中奉書などの幾つかのものを除いて未確定のものが多い。本目録においては整理の必要からこれら諸史料に統一的な史料名称を付与していった。以下、本目録で採用した史料名称の主要なものについて説明を加えておきたい。

（幕藩関係史料）

老中返札 『拝領・献上・見舞』の項目に多いものである。老中の花押・日付を有して老中奉書と外見的形状を同じくし、通例「御状令披見候」に始まり「紙面之趣、可達上聞候」に終わる文言を備えた文書である。老中奉書が特定の幕命の伝達機能を有するのに対して、これは大

名より献上見舞などのあった際その受領確認の意を込めた返礼状としての性格をもっている。「老中返札」の名称については『史料館所蔵史料目録第一五集・土屋家文書目録解題』を参照されたい。

老中申渡書 これは次に事例を掲げるような類型の文書である。

(裏端書(筆貫))

「真田伊豆守江」

真田伊豆守

久能 御宮其外井三州大樹寺・松応寺・鳳来寺・瀧山 御宮 御霊屋等御修復御用被 仰付候付、大手御門番被成御免候

(『勤番』(か一四七九)、天保四年七月二五日)

奉書紙横半截の切紙を用い、宛所が文書袖下部にあり、以下幕命が記される。日付は一般に記されない。差出者も文面に現われないが通常は幕府老中より伝達されるものである。

本型の文書の名称はこれまでのところ一定していない。『大日本古文書・伊達家文書』は「老中口上書」(同文書番号二二九八号など)あるいは「老中申渡書」(二〇三五号など)とし、伊知地鉄男『日本古文書学提要』は「老中口上書」の名称を採り(同書下巻七五二頁)、前掲『土屋家文書目録』では「老中御書付」と呼んでいる。

江戸時代当時の本型文書に対する呼称は、その文書包紙の上り書文言などよりして「御書付」であったと判断される。但し幕府発給の文書一般を見た場合「御書付」の用語の範囲は余りに広く、本型文書の類型性を特定する文書名称とするには不十分であるように思われる。次に「口上書」について見るに、幕府の一般的な触書の内に「口上覚」と称するものが別にある(『御触書寛保集成』一二四〇・一七五九号、『御当家令条』四三一・四六九号など)。それは本型の文書とは様式も用途も異にするものであり、それとの関連で「口上書」という用語は疑義を生じるものであるから避けるのが賢明であると考ええる。最後に「申渡書」について検討すれば、当時本型文書を相手方の大名なりに伝達する際、この伝達する行為を「申渡」と呼んでいた事実が認められる(『御触書寛保集成』一〇一一・一〇一二・一三八八号など、『柳営日次記』にも「老中列座伊豆

守申渡之一「戸田采女正殿於御役宅申渡」などの記載を見る。右の事実に基づき本目録においては本型の文書に対して「老中申渡書」の名称を用いることとする。

御書取 これも幕府老中などより交付される達書の一類型をなすものである。「御書取」は達書の中でも最も軽い性格のものと思われ、公式的にはなく内意を伝達するのに用いられる。例えば大名家の側が幕府に対して表立って伺書や願書を提出する際、これに先立って関係の老中（月番老中や勝手掛老中、又は特定の御手伝普請等の御用掛の老中）に当該文書提出の可否を問う「内慮伺い」をなす。また表立って伺いをなす程のこともない事柄について内慮伺いがなされる。このような場合、大名家はその留守居を以って内慮伺書を関係老中に提出するのであり、それへの回答として交付されるのが「御書取」である。事例を掲げておこう。

文久三年一〇月、この年真田幸教は通常の参勤時期よりも臨時に二ヶ月早く出府している。これについて参勤御礼の献上物の提出時期を如何とすべきかの内慮伺いを、真田家留守居は月番老中の井上正直の下に提出し、井上は次の「御書取」を以って回答している。

此節着府候とも参勤御礼願は十二月中旬頃差出候様可仕候事

（『参勤・上京』『参勤』（か七一七）、文久三年一〇月二八日）

「御書取」は簡便な内意伝達書として老中以外でも交付しており、『御手伝』の項には幕府勘定奉行の「御書取」が多数含まれている。

大目付廻状 これは『幕令』の項に見えるもので、幕府の「触」の伝達を媒介する中心文書である。「大目付廻状」は次に掲げるような様式をもつ。

大目付様御廻状写

土井大炊頭殿御渡候御書付写老通相達候間、被得其意、無遅滞順達、留る伊藤河内守方並可被相返候、以上

十月十日

大目付

松平豊後守殿

松平陸奥守殿

（九名分中略）

織田左衛門佐殿

右留守居

大目付江

冬春之内は火之元等之ため火附盜賊改組之もの繁々相廻、怪敷者見請候は武士屋敷江も附入候而召捕候様申渡候間、武家・町方共弥入念可申付候（中略）若町奉行、火附盜賊改組之者より相尋候品等も有之候へ、早速相糺、引渡候様可致候
右之趣、向々江寄々可有通達候事

（真田家文書簿冊「公儀被仰出御触書留帳」〔あ五六五―三〕、文化九年十月十一日条）

右の史料のうち「大目付江」と記された箇所以後が本来の幕府の触書であり『御触書天保集成』六四九八号に収められたものと同文の、火付・盜賊の武家屋敷内での捕縛に関する幕令である。右の触書の通達手続きは、老中土井利厚が触書を大目付伊藤忠移に渡し、伊藤は廻達の便に従って区分けされた大名群ごとに（その留守居を宛所にして）右触書の写しを添えた廻状を発する。廻状を伝達された各大名の留守居はこれを写し留め、廻状宛所の大名の名の下に承付を記し（通常は「奉」の一字を記す）順達していくものである。

「大目付廻状」という場合、これを狭義にとつて右史料の大目付が作成した添廻状のみを指し、本来の触文を「老中御書付」と呼ぶ場合もあるが、右に掲げた事例でも冒頭の語句に見られる通り、一般的には「老中御書付」を含む史料の総体を「大目付廻状」と意識していたものと思われる。よって本目録においても「大目付廻状」の名称を右のような広義に採って用いることとする。

同席触廻状 これも幕府の触を媒介伝達するもので、次の如き様式を有している。

御同席触廻状写

以廻状致啓上候、只今大御目付駒井甲斐守様〔駒井朝温〕之御廻状を以、〔老中、松平康直〕松平周防守様御渡候御書付写迄通就到来、則写致廻達候、早々御順達從御留、治右衛門方江御返却可被下候以上

七月廿日

戸沢中務大輔内

近藤治米

波多野治右衛門

堀田相模守内

野村弥五右衛門

長量平

真田信濃守様

御留守居中様

秋田万之助様

御留守居中様

加藤能登守様

御留守居中様

堀田豊前守様

御留守居中様

大目付江

〔水野忠誠〕水野出羽守事去ル十三日於大坂表、加判之列被仰付候、此段向々江可被達候

七月

右は昨夜中、戸沢中務大輔様衆る差付到来ニ付、加藤能登守様衆江順達仕候

七月廿一日

北沢 幟之助

〔幕令〕（「か一五」、慶応二年七月）

右の史料の全体は、その文面から明らかな通り真田家留守居の北沢幟之助が到来した同席触廻状を写し取り、これを真田家執政方の下に送付してきたものである。

さて「同席触廻状」の伝達手続きは老中より触文（「大目付」以下の部分）が大目付に交付され、大目付は諸大名の殿席（江戸城中の控間）の区分に従って、各殿席ごとに二家（二家以上の場合もある）の留守居に対して触文の書付の写を伝達する。受けとった二家の留守居は連名の廻状を作成し、これを同じ殿席の大名諸家の留守居を宛所にして廻達していくものである。右事例の廻状は帝鑑間席に廻達されたものである（廻状宛所に見えない帝鑑間大名家に対しては同様の廻状が別途に数通作成されて送付されたものと思われる）。同様の行為が帝鑑間以外の諸殿席においても行われ、こうして幕府の触が全大名に通達されるという仕組みを採る。「同席触廻状」において伝達される幕命は一般に小事であり『御触書集成』にも収載されないようなものばかりである。そしてまたそれ故に、その発布手続きも随意的、便宜的であり「大目付廻状」のような発布手続き上の安定性を得ていないことを付言しておこう。

本目録における表題表記において右の類型の文書を「同席触廻状写」とした。この場合文書の作成者は厳密に言うならば、この写しを作成し送付した北沢幟之助とすべきではあるが、限られた目録のスペースでは廻状そのものの授受関係を示す方が適切と考えて後者を表記したことをお断りする。この種の複合された史料の表題表記法はなお検討されるべきであろう。

さて、この「同席触廻状」と形状が類似して性格のやや異なるものがある。幕府の触の遵行ではなくして、同席中の年番等の世話役の留守居が特定の事案に関して老中・大目付に打診して得た回答や、自発的に判断して決めた事柄を「同席触廻状」と同様の形式と手続きを以って廻達していくものである。これは「同席用廻状」という独自の呼称を有している。

伺書并附札 大名家の側より幕府老中に対して、特定事案についての要望をなしたり、事柄の可否を問うのに用いられるのが「伺書」である。「伺書」は差出者の別に従って二種に分かれたれ、一つは真田家留守居伺書であり、今一つは真田家当主伺書である。本目録に収められた

史料の範囲内では前者は老中への「内慮伺い」に多く用いられ、表立った伺いには後者の用いられる点が指摘されよう。「伺書」について今一つ重要なことは、これに貼付された「附札」の存在である。この「附札」は老中の回答書で、当該事案に対する幕府の公式的意思を表現するものである。それ故に許可の「附札」を貼付された「伺書」は単に伺いをなした事実を示すのみならず、当該問題についての幕府の了承を獲得したという証拠効力を独自に付け加えているのである（『土屋家文書目録解題』参照）。従って本目録の表題表記においては「附札」の存在を明示して「（差出者）伺書并附札」の形でなした。より精確には「（差出者）伺書并老中何某附札」とすべきではあるが煩瑣に亘るので省略し、回答附札の差出者は「伺書」の宛所人名で示唆するに止めた。

「伺書并附札」に準じるものに「願書并附札」「問合書并附札」「御聞置書并附札」等がある。これらは当該文書の包紙上ワ書に記載するところを参考にして名称を付与した。

（藩際史料）

留守居書状 大名間の連絡・交渉を担当するのは主に大名諸家の江戸留守居役である。従って藩際史料は大部分が留守居関係史料、特に留守居間で授受される書状である。この留守居同士の書状は養子相続・婚姻等の特定の事柄を巡って種々の連絡のために作成・授受されるのは勿論であるが、その他に一群の顕著な特性を有する留守居書状が存在する。即ち各大名家に日常的に発生する吉凶や役儀などに関する事柄を、その懇意の大名諸家に対して自発的に報知していく挨拶状の性格を有するものである。従ってこの型の書状による報知は「オシラセ御知事」と呼ばれる。この型の書状の特性の第二はそれが留守居の「奉札」として作成・授受されるということである。右の型の書状の通達に際しては、留守居はあくまでも当該大名家の大名の侍臣たる立場を明確にしてこれに関与するのであり、留守居が大名の意命を奉じて当該書状を通達する旨の奉命文言を明瞭に備えることがその様式上の特徴となるのである。この種の留守居書状は本目録『交際』『為御知事』の項に収められている。次にその中より事例を掲げる。

（裏端書）（幸民）
「真田保鷹様ニ而

（広孝）
蒔田相模守内

玉川一学様
 北沢職之助様
 坪和 錦蔵
 矢吹善之進

高田 筑母

以 手紙啓上仕候、然は相模守在所備中国浅尾近辺に長州浪士之由凡式百人程押来り、領内井山宝福寺に屯集、夫より御寺山に楯籠り致発炮候に付、為召捕人数差向候所及戦争、尚追々注進有之、相模守儀於京地、松平肥後守様（容保）に願済之上、手人数召連去ル十五日在所表に被出張候旨、以急飛申越候に付、御用番松平周防守様（康直）に不取敢家来之者に御届被差出候、右為御知被申上度、此段各様迄自私共宜得貴意旨、被申付越如是御座候、以上

四月二一日

『交際』『為御知事』（か一四〇）、慶応二年）

右は蒔田家（備中浅尾一万石）の留守居より真田家留守居に宛てたもので、内容は慶応二年の第二次長州戦争の前哨戦とも言うべき長州浪士立石孫一郎一派の浅尾藩領での騷擾に対し、その鎮定のために蒔田広孝が京を発して在所へ向った旨を報知したものである。

本目録に収めた留守居書状を報知内容の面から見ると、右のような事件情報の外、冠婚葬祭・服忌・家督相続・官位叙任・役成・賞罰・領知加増・登城召・勤役・参勤就封・屋敷替・屋敷玄関来客応接方などを挙げる事が出来るであろう。その他五節句の祝詞、また特殊なものとして婚姻（或は急養子）についての相談方申入といったものもある。吉凶・幕命を中心にして大名家に発生する事項の巨細・多岐に亘っている。

次にこの留守居書状の様式上の特徴を列挙するならば以下の通りである。一、史料の形状は切紙ないし切続紙で、料紙は一般に粗末なもので時に宿紙が用いられる。二、差出・宛所は文結ではなく端裏に記載する。いわゆる「裏端書」（中村直勝『日本古文書学』下巻、二〇八頁）の形を採る。三、封式としては糊封が用いられるが封紙を略し書状の袖の上半分を用いて糊付けをなす形式である。外見的には切封と類似の形式である。四、書面は通常「以手紙致啓上候」を書出しとして本文へと続き、止め文言は「以上」として礼語を用いない。五、文中に主人たる

大名の意を奉じた旨の奉命文言を有する。右事例では「宜得貴意旨被申付越」がそれである。六、本型の留守居書状では事実上、宛所の留守居もまた相手方大名の執次者として指定されている。従ってこの書状は「披露状」の性格も兼有している。形式的に見た場合、「各様迄」云々がこれを示していると言えるであろう。七、本型書状の通達は留守居の専管事項ではなく、その大名間に深い由縁関係のあるものについては特に「用人」（更には「家老」）がこれに与っている。八、報知の形式として、自家に発生した事柄そのものを報ずるのではなく、右の事柄を幕府に届出た旨を報ずるという間接的形式が多く見られる。先に掲げた事例でも蒔田が在所に発向した件を老中松平康直まで届出た旨を報知するという形を採っている。以上が真田家文書の内に見られる奉札型の留守居書状の内容上・様式上の共通する特徴である。

さて本目録における留守居書状に関する表題表記について、各々その頭に藩名と大名家名を組み合わせたものを記して、当該大名家を明示し、例えば「姫路酒井家留守居書状」の如き形を採ることとした。用人書状・家老書状についても同様である。次にこの類型の書状は大名家からのみならず旗本諸家よりも真田家にもたらされている。そこで先づこれら旗本諸家の書状の差出者の役職名が問題となるのであるが、旗本の場合には大名の『武鑑』の様な家臣役職名の検索の便を得るものが少ない。そこで本目録ではこれら書状の差出者、即ち旗本諸家の涉外担当者を一律に「用人」の呼称で示すこととした（但し交代寄合の旗本については「留守居」の称を用いた）。また当該用人の属する旗本の表記についてであるが、旗本については知行所名をその苗字に冠していくのも益のあることと考えられず、史料に現われるままに官途名を以って個々の旗本を特定することとした。そこで旗本諸家よりの来状については、例えば「花房近江守用人書状」のような体裁を採ることとした。しかしながらこの旗本よりの来状の名称についてはなお検討の余地があるものと考ええる。

（藩内史料）

伺書と家老差図書

藩内史料の「伺書」と「家老差図書」は先の幕藩関係史料の「伺書并附札」に対応するものである。事例を次に掲げる。
これは真田幸教の女子まさ・よし二人分の施薬についての、御側医師への薬札支払方に関する一連の史料である。

(A) (封筒上ワ書)

「新御殿

御守役中

鎌原伊野右衛門

〔御薬礼御聞濟 辰中元〕

(B) (裏端書)

「御医師江御薬礼被下之義伺

新御殿御守役」

於満左様

於与し様江御薬四百八拾毫貼差上

一、金三両貳分

嶋田 全隆

於満左様江御薬百七拾三貼差上

一、金老兩毫分

阿藤 俊卓

右之通中元ニ付御薬礼被下置候様仕度奉存候、尤御金出之義は御兩方様御入料之内を以取斗可申奉存候、御聞濟被成下候様仕度此段奉伺候以上

七月

(C) (裏端書)

「新御殿

御守役中

鎌原伊野右衛門」

別紙伺之趣承済候、以上

七月十四日

(『誕生』『よし』〔か九六五〕、明治元年七月)

右史料は後二者の文書が封筒(A)に収められて三点一括で伝存している。これは「伺書」と「家老差図書」の授受のあり様を端的に示し

ており、新御殿御守役は中元藥札の件について家老鎌原宛に伺書(B)を提出し、鎌原はこの回答文書たる「家老差図書」(C)を認めて伺書と共に封筒に入れて返進している訳である。この他『誕生』「かね」(か一三四六)番文書においては二通の「伺書」と一通の「家老差図書」が糊付によって残存しており、二件の「伺書」に対して糊付の「家老差図書」を以って一括許可し返進したものと思われる。また「伺書」に「附札」を貼付して回答を与えている事例もあり(『葬送』「慧雲院」(か五六七)等)、「伺書」に対する回答の形式は真田家文書にあっては区々である。「伺書」と回答書の存在は多くの場合は分断されていてその対応が明瞭でない。本目録においては復原を試みているが自ら限界のあることをお断わりする。

さてこの「伺書」に対する回答書の史料名称についてであるが、その当時の本型文書の一般的呼称は「手紙」であった様である。見られる如く書状形式を備えた文書であるからその呼称も充分に首肯しうるものである。しかしながら「手紙」ないし「書状」の名称は余りに漠然としていて本型文書の機能の独自性、文言内容の定型性を特定しえない憾みがある。そこで本型文書が家老より交付される行為が如何ように意識され呼ばれていたかを検討するに「御聞濟御、差、図、有之」(『於可年様御出生、御卒去迄之御一件』(う三五〇))、「伺之通御、差、図、有之」(『雄若様御出生一件』(う三三三))という表現が見出される。そこで右の表現を根拠としてこの回答書の名称を「家老差図書」とし、本目録の表題表記においては「(家老人名) 差図書」の形を採ることとした。

御書取 これは示達文書の一類型で次の通りの簡略な形式を有するものである。

(裏端書)
「御奥(元ノ役)」

於かね様御出棺跡、御祈禱開善寺罷出候節、茶部屋口、致出入候様同寺江可被申越候

一、右罷出候節、万端碧松院様之通可被相心得候

(『誕生』「かね、綾雲院葬送」(か一二九一)、元治元年六月二五日)

差出者・日付が略され宛所が端裏に僅かに記されるのみである。右文書を指して簿冊『於可年様御出生、御卒去迄之御一件』(う三五〇)元

治元年六月条には「御用番御書取を以左之通」とあるので、本類型の文書の名称を「御書取」とする。差出者は家老であるが、同一事案（例えば御産や葬送）に限定しても、当該問題の御用掛の家老・御勝手掛の家老・御用番（月番）の家老らが入り組んで交付しているようで、個々の文書について差出者の人名を特定するのは困難である。

幕府老中の「御書取」は大名家よりの内慮伺いへの非公公式の回答書としての性格を有したが、真田家家老の「御書取」は回答書ではなく独自の命令示達書であるという点で異なる。しかし示達の内容は小事であり、簡略な形式であるということも併せて彼等の「御書取」は共通性を有しているとも言えよう。「御書取」という呼称自体が、口頭示達の文字化という程度の軽さを含意するものであろうか。

御達書 これもまた家老よりの命令示達文書であるが、「御書取」とは様式上区別されるべき類型の文書である。

（端裏付箋）
「御奥元メ役」

小頭 浅井佐一郎妻
てふ

於かね様御卒去付、御暇被下候、其段可被申渡候

八月廿三日

御奥元メ役中

〔誕生〕「かね」（か二二七六）、元治元年八月二三日）

この類型の文書は日付を有して宛所が端裏だけではなく文書奥に明記されるということ、そして今一つ特徴的なことは料紙が白地であるということである。真田家文書の料紙は一般に粗末なもので、「家老差図書」であれ「御書取」であれ宿紙が殆んどである。しかし本型の文書には白地の紙が用いられており、日付の明記・奥宛所の様式とも併せて本型文書が一段重い性格のものであることを示していると言える。本型文書の当時の呼称については未だこれを見出し得ないが、ここではその名称として「御達書」の語を用いることとする。

申上書と御答書　ここに「申上書」「御答書」と名づけたものは各々次に掲げるもので、その文書端裏の上ヲ書文言が「申上」で止められるものである。

(A) 「御内用御金出之儀申上」
(裏端書)

御奥元メ役

覚

一、金三兩貳分式朱、錢百貳文

右之通御内用相成候ニ付、其向江被仰渡相廻り候様被成下度奉存候、此段御内々申上候、以上

七月

御奥元メ役

〔誕生〕「まさ」〔か一六九七〕、慶応三年七月

(B) 「諸御道具白御油単等之儀ニ付申上」
(裏端書)

六月十二日

御勝手元メ

諸御道具白御油単等御出来之義御尋御座候所、御刀番伺書面之内、御添鎗御油単之儀御道具御在所_ニ御廻しニ相成候得は、御在所_ニ而寸法取候様被仰渡可被成下候（中略）宮下兵馬申談同意ニ付此段申上候、尚御勘弁可被成下候、以上

六月十二日

〔葬送〕「感応院」〔か二四一〇〕、嘉永五年六月

「申上書」(A)と名づけた類型の文書の機能は種々であり、1先の「伺書」と実質的に差異のないもの、2特定事案の要望について「伺書」よりも要請の意思の強さを示したもの、3「伺書」の付属文書として当該事案の先例等を調査報告したもの、4一般的な報告書、等々の性格を有している。今これらの諸性格を厳密に区分して各々に別個の文書名称を付与するのは困難であり、徒に混乱を招くだけであると判断したので、暫くこれらを一括して「申上書」とするに止めた。

一方「御答書」(B)と名づけたものもやはり「申上書」の一類型である。しかし本型文書の場合にはこれに独立の文書名称を付与すべき顕著な特性がある。それは本型文書が特定の諮問を前提にして作成された答申書として規定されるということである。本目録に収めた文書の範圍内で言うならば、誕生・規式等の個々の事案について関係役人より伺書が家老の下に提出された際、それが新規の施策であつたり多額の金銭的支出を伴うものの場合には、当該家老は勘定方役人などにその可否を諮問する。それに対する答申書が即ちここに「御答書」と名づけたものである。

御用状 真田家では松代役人と江戸役人等の間で次のような様式を有する文書を授受している。

(封筒上ツ書)
「御用」

山寺源太夫様

高山内蔵進様

小野 肇

谷口弥右衛門

春暖之節御座候得共 殿様益御機嫌能被成御座恐悦至極御儀奉存候、当春 貞松院様ニ_茂益御機嫌能被成御座恐悦至極奉存候、

昨日は大師江 御参詣被遊(中略) 御帰殿後何之御碍_茂不被為在恐悦至極奉存候、(中略) 明便ニ付此段早々得貴意候、可然様被仰上可被下候、各様愈御安泰御勤可被成、珍重奉存、切角時候御自愛專一可被下候、以上

三月廿八日

弥右衛門
肇

(山寺)
源太夫様

(磯田)
音 門様

(高山)
内蔵進様

〔奥向〕「貞松院」(八か二四三八)、(安政二年カ)三月二十八日

右文書の小野・谷口は貞松院御守役、宛所の山寺外二名は藩主幸教の御側役である（巻末「真田家役人略譜」参照）。本型文書にあっては差出・宛所は一般に連名形式を採る。そこにこの文書の普通の書状と異なる公式的性格がある訳であり、このように各役人がその役職に基づく公式的立場で隔地間の事務伝達に用いるものが「御用状」である。その名称についてはその封筒上ワ書に「御用」の文字を有する外、この種の書状を指して「御用状拝見仕候」等の用語が見えている。

御仕向書 これは『慶事』や『交際』の頃などに見えるもので祝儀進物の覚書である。

（包紙上ワ書）
「慶応二寅ノとし

四月廿七日御祝ニ付

御双方様仕向書

二通入

衛姫様鉄漿初ニ付

一、御衛様が 御赤飯御重一組

右京大夫様へ 干たい 一折

一、御晴様 御同断

一、保磨様 御同断

一、讃岐守様より 鳴ちりめん 一反

御晴様へ 御鉢盛

一、玄蕃頭様が 御すし 一鉢
一、常諦院様が 粕ていら 一折
一、玉姫様が 粕ていら 一折
一、御衛様が 御肴 一籠

〔原文横一段並記〕

『慶事』『鉄漿式』（か一三六一）、慶応二年四月二七日）

右は慶応二年四月に高松松平家の衛姫の鉄漿初の儀式があった際の、真田家と松平家との祝儀物贈答を記した「御仕向書」二通の内の一つで、松平家の讃岐守（頼聰）、玄蕃頭（頼胤、頼聰父）、衛姫ら松平家総容より真田家総容へ向けた祝儀物の披露覚書である。因みに松平家は幸

教夫人晴の実家である。

以上に掲げたものが本目録で採用した史料名称の基本的なものである。それ以外の個々の史料についても見られる如く随時その名称を付与していったが、最初にも述べた通り近世史料の名称は未だ確定された部分が少なく、従って本目録における名称も多く恣意的であるとの譏りを免れぬところでもあろう。しかしこれらについても試行錯誤の繰り返しの中で漸時その改善を計っていきたいと考える。大方の御批判をこい願う次第である（これについて笠谷「近世史料の『名称』付与の問題点——『史料館報』第三号——」を参照して頂ければ幸いである）。

文書の配列と概要

先にも述べたように本目録以下の書付型史料の目録化にあたっては第二八集の真田家文書目録（簿冊編——以下『簿冊編目録』と略称）の分類方式を基本的に踏襲している。但し書付が一括して残存している場合にはその伝来形状を尊重して一括のままに配列した。従って内容的にやや異質なものが各分類項目に混入することになるが、この点は御了解頂きたい。

以下文書の概要を述べるが、その具体的な内容は個々の文書表題の下に内容摘記をしてあるのでそれに譲り、ここでは各文書の年代推定の根拠と、その時代背景の概略を記すに止める（『内ゴジック』は大項目、『明朝』は中項目、『』は小項目を示す）。

『領知』

『領知』には領知朱印状・領知目録の写と、明治期の家禄の請取証文を取めた。前者はその包紙上ワ書に「天明七年六月十九日御判物御改之節、松平和泉守様〔乗宗、寺社奉行〕被差出候扣」とあり、將軍家齊の代替わり朱印発布の際に作成されて幕府に提出されたもの

の控であることを知る。『預所』、預所関係の史料は文政五年の預所更新に伴うものの外は雜件が少数あるのみである。『簿冊編目録』では『預所』は大項目として立てたが本目録ではこの位置に収める。

『真田家』

藩主ならびにその家族を中心とする家関係の史料を集めた。『相統』、後掲「真田家歴代略系表」に見られる通り真田家は近世後期には幸専・幸貫・幸民と養子による家督継承が相次いでいる。従って「相統」「養子」の項に収めた史料は右の養子によ

真田氏上京関係年表

- 元治元年 6.14 京都南門の警衛を命ぜられ真田幸教松代
 発
 6.28 入京、仏光寺宿陣 7.5 参内
 7.19 禁門の変、幸教参内して禁裏守衛
 8.10 真田家、大坂伝法川口の警衛を幕府より
 命ぜられる 9.5 参内、禁門の変平
 定の功を賞され、天盃・物を賜う 9.9
 参内、重陽の節句
 慶応元年 2.14 大坂警衛を解かれて上京 2.19 幸教
 参内、天盃・物を賜う 2.21 京都発
 3.4 帰藩 6.25 幸教出府、罹病
 " 2年 3.9 幸教隠居、幸民養子相続 3.10 幕府
 より京都警衛を命ぜられる 4.22 江戸
 発 5.9 入京、朔平門警衛 7.23
 参内 8.3 幸民京都発 8.16 帰
 藩(藩兵は京都駐留) 9.26 京都藩兵
 帰藩 12.3 幸民出府
 " 3年 10.14 大政奉還、幕府、諸大名の京都召集を命
 ず、幸民罹病にて召に応ぜず
 明治元年 2.21 朝廷の召に応じて上京すべく幸民江戸を
 発して松代に帰る、上京なし得ず
 12.19 幸民上京のため松代発
 " 2年 1.5 入京 1.14 参内 2.29 幸民、賀
 茂行幸に供奉、賞詞を受ける

(典拠：真田家文書「御在京中日記」〔あ3384〕、「大坂日記」
 〔あ3385〕、「御目付日記」〔い 117〕、『維新史料綱要』、『松
 代町史』)

る家督相続に関するものとして分かち難く結びついているものである。「慶応二年相統一件」は同じく養子相続に関するものであるが史料が纏まって存在するので一項目を設けた。当時の藩主真田幸教は病弱であったこと、加えて幕末の激動期を乗り越えていくため真田家は慶応二年三月、宇和嶋伊達家より伊達宗城の次男保暦(幸民)を養嗣子として迎えた。これはその折の一件史料である。幸民は三月九日に幕府より家督の許可が下ったのも、翌一〇日には京都警衛を命ぜられ四月に上京していく。またこの上京中の五月一〇日に従五位下信濃守に叙任されている。従って本件史料には右の上京・官位叙任に関係するものも併せ含まれている。

『参勤・上京』、ここには藩主の参勤交代等に伴なう道中諸入料の勘定書を中心に収めてある。「雄若参府」の雄若は真田幸貫の嫡孫で、夭折した幸良と側室の順操院(俗名ちえ、江戸医村上松園女)との間に設けられた幸教である。松代に誕生し、弘化元年二月の父幸良の死を受けて出府している。「上京」、文久三年四月一七日の幕令により一〇万石以上大名は輪番で三ヶ月の京都守衛が課されることとなる。真田氏は右の幕令に基づき元治元年・慶応二年に出兵上京して宮中諸門の警衛に当たっている。真田氏の上京と参内の経過については上掲の年表に記す通りである。慶応三年一〇月には大政奉還の議を巡って幕府より上京を命ぜられたが幸民病気の故を以ってこれに応ぜず、また戊辰戦争の開始と共に朝廷より上京の命を受けたが信州方面不穏のために果たされず、戦争終結後の明治元年一二月末に松代を発して翌二年正月に上京・参内している。

『夫人等出入国』には幸教夫人らの江戸と松代の往復道中に要した諸入料の勘定書を収めた。文久二年閏八月の参勤交

代緩和令に基づいて江戸在住の大名妻子の帰国が許可された。これにより真田家では同年一二月に幸教夫人晴が、翌三年三月には幸教義母の貞松院が松代入りをしている。そして文久三年八月政変による参勤交代復旧令に伴なって妻子の江戸還住が命ぜられ、晴は元治元年一二月、貞松院は慶応元年正月にそれぞれ出府する。更に戊辰戦争最中の明治元年二月に二人は揃って再度在所入りをしている。この明治元年入部の折りには、家督は幸教より幸民に移っているために晴は「大御前様」の称で史料に現われている。本項関連の史料はまた『奥向』の「晴姫」「貞松院」、「交際」「為御知事」等にあるので参照されたい。

『規式』の「登城」「供立・行列」は藩主の江戸における供立や江戸城内での作法規定を巡るもので、幕府諸有司との応答文書と真田家内部での評議文書・通達書の類が含まれている。「参内一件」は先述の『上京』と関わるもので、幸教の元治元年の上京の折、九月五日に徳川慶喜・松平定敬・大久保忠礼らと共に参内し、禁門の変に際しての鎮静方の功を賞せられている。本項史料はその時の参内と参内後の公家衆への挨拶廻勤の作法に関するものである。幸教は更に同月九日の重陽の節句にも参内している。「御供立減略一件」は幸教夫人と貞松院らの供立減略に関する評議史料である。年代は記されていないがそこに見える役職名―計政副主事・監察・議事・理事―は明治二年一二月より翌三年九月の期間の藩職制に相当するものであり(『松代町史』上巻五一〇頁参照)、二月付の本件史料は従って明治三年のものとして推定される。

『慶事』には真田家や高松松平家の子女の婚姻・鉄漿式等に関するものを収めた。但し幸教夫人晴の婚儀史料は『奥向』『晴姫』に纏めたので参照されたい。

『誕生』には真田家子女の誕生前後の儀式・事務諸般についての史料が配列されている。「雄若」「豊松」「棄松」「かね」「まさ」「よし」「みつ」の七人分の史料があるが、その内容はいづれもほぼ定型化されたものである。即ち、正室・側室の妊身が御側医より告知されると、先づ御産御用掛として家老一名・御奥元メ役より一名が各々選任される。そしてこの両者の間の伺いと差図の形で御産諸件が決定され遂行されていく。御産の経過に従って、着帯祝儀、御取揚・御抱守・御乳持の者の任命、出産御用意物の調製、詰番の手配、安産祈禱、出産当日の諸件、暮目御用、御七夜御宮参祝儀、御用掛諸役人・奥女中等への褒賞、御箸揃祝儀、初節句祝儀、等々の諸事項が継起していく。なお誕生した子女の多くは出生間もなくして早世するものであり、これら誕生関係史料は「御出生を卒去迄一件」という形で卒去・葬送関係史料を含み

込んでいる。ここでは史料存在の一件性を尊重してそのまま本項に収めている。

『病氣・療養』、『湯治』には安政五年の順操院の湯田中温泉への湯治史料が纏まったものとしてある。順操院は幸教の実母、夭折した幸良の側室である。湯治旅行は慰安の一時であろう、予定の期日を日一日と延ばして湯田中を去り難く思う彼女らの心情をこれらの史料は物語っている。「幸教病氣一件」の史料の年代は明らかでないが、その御用状の連名役人を見るに、貞松院付の役人が小野肇・谷口弥右衛門、正室付が竹内晋平・鹿野茂手木、藩主付が常田鏐太夫・山寺源太夫・磯田音門・高山内藏進である。後掲「真田家役人略譜」によればこれら役人の揃うのは幸教の時代であり、谷口・鹿野がそれぞれ貞松院様御守役・御前様御守役に就くのが安政元年三月、他方で山寺が殿様御側役を離れるのが翌二年一月であり本件史料はこの期間のものとなる。この時期に幸教が病臥していることは「家老日記扣」（い一〇一七）安政二年正月・二月条）などでも確認される。よって本件史料の一二月は安政元年、正月・二月は同二年のものと推定される。猶この時期の御用状のうち、貞松院その人に主として関わるものは『奥向』『貞松院』の内に列ねたので参看されたい。

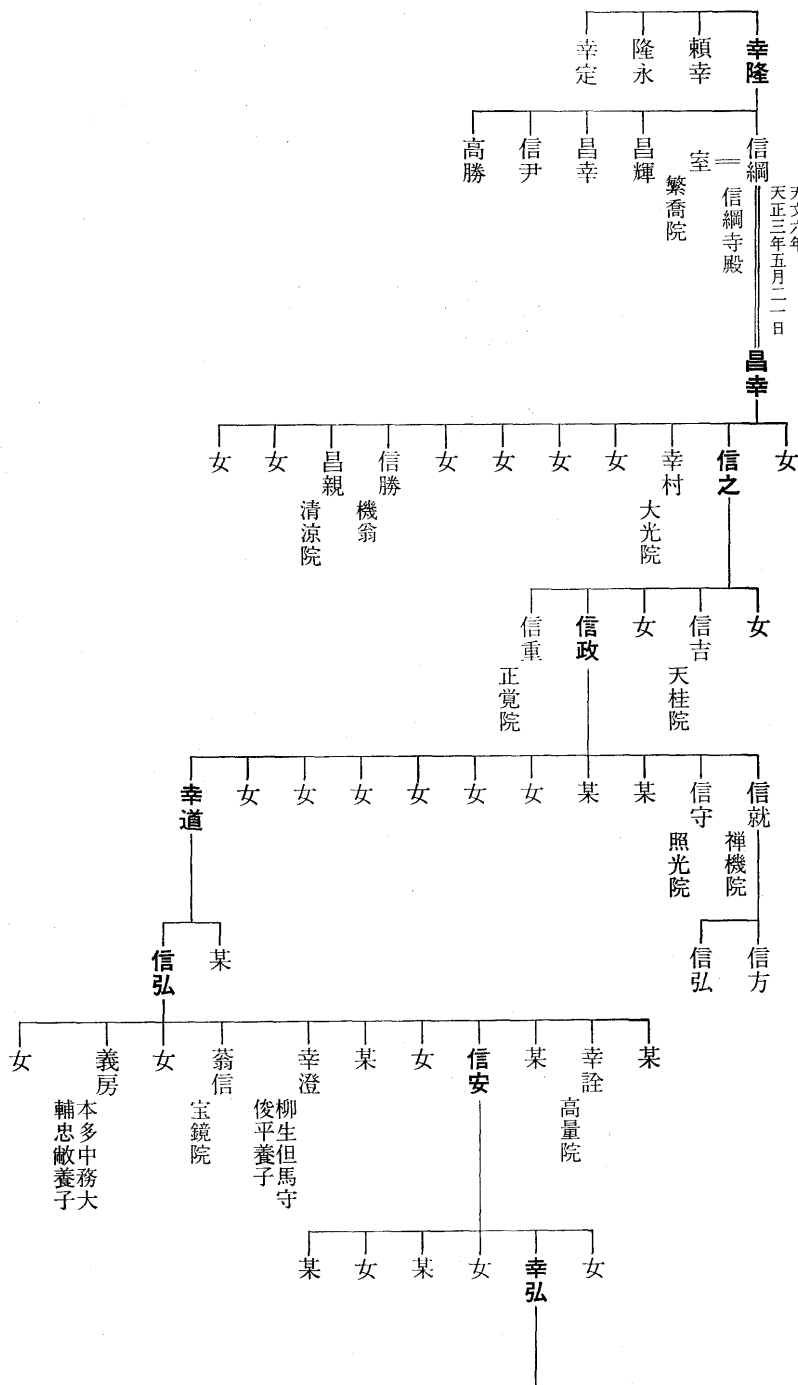
『葬送』には真田家当主ならびに子女の葬儀に関する史料を収めている。これについては先述したように、誕生直後に卒去していった子女の分については卒去・葬送関係史料が『誕生』の項に一括して配されている。そのうち葬送史料として纏まったものは「綾雲院（かね）」のみであるが、碧松院（兼松）・智光院（みつ）についても卒去前後の史料が含まれている。

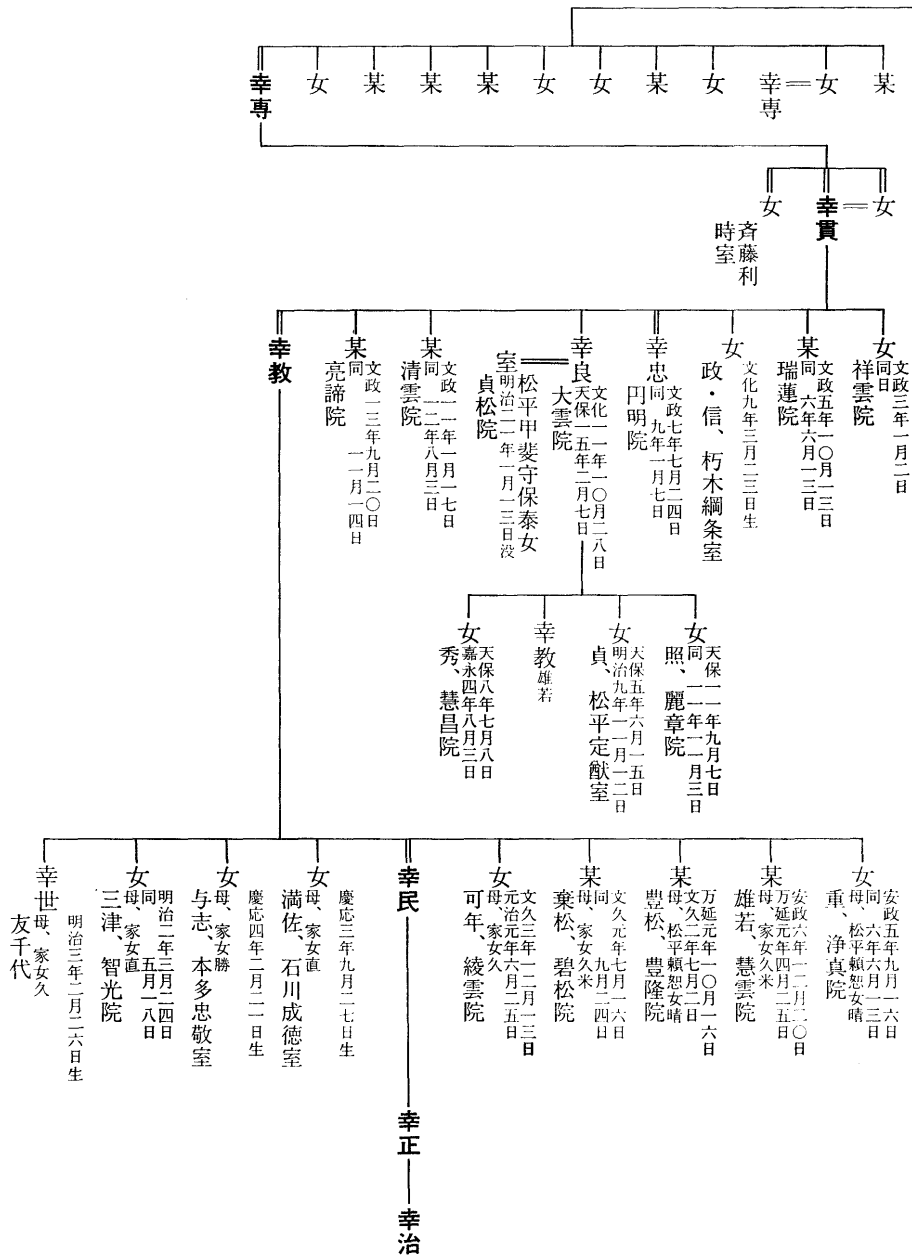
『奥向』、『晴姫』は幸教夫人晴（高松松平氏）の婚儀と松代入りに関する史料が中心になっている。晴姫の婚儀について注意すべきは、それが松平家より真田家への引移りと婚姻の二段より成っており、前者が弘化二年十一月、後者が嘉永六年十二月とその間に八年の隔りのあることである。本項との関連では『夫人等出入国』、『交際』『為御知事』『高松松平家』等の項を参照されたい。

『貞松院』、貞松院は俗名が定、郡山の柳沢保泰の女で天保六年二月に真田幸良（幸貴嫡男）の夫人となる。そして幸良が弘化元年二月に没したのち彼女は落飾して貞松院と改めている。幸良は夭折して真田家当主に就くことがなく、その子幸教が祖父幸貫の跡を襲うことになる。この幸教は先述した通り貞松院の実子ではなかったが、幸教の代となっても貞松院はその嫡母としての丁重な待遇を得、長寿を全うして明治二十一年正月一三日に六七歳で亡くなっている。さて本項には貞松院の松代入りに関するもの、御用状、消息の類が収められている。御用

真田家系図

天文六年
天正三年五月二日





真田家文書目錄(その二) 解題
真田家歴代略系表

1 この略系表は、真田幸長氏蔵「御系譜稿」をもとに、歴代当主の系譜事項をまとめたものである。
2 表の作成にあたっては、改名や叙任の年月日を他の史料によって補ったほかは、すべて「御系譜稿」の記載に従った。

信のぶ	幸のゆき	信のぶ	信のぶ	昌のまさ	幸のゆき	当主(実名)
弘	道	政	之	幸	隆	実父 実母
真田信就 六男 小野氏 祥福院	高橋氏 松寿院	信之 信之室	昌幸 昌幸室	幸隆 幸隆室	幸隆	誕生 幼名・初名
寛文一〇年二月一二日	明暦三年三月三日 右衛門 信房(正徳元年一月二三日改)	慶長 百助 仙之助	永禄九年 源三郎 信幸	天文一六年 源五郎 喜兵衛	永正一〇年 小田郎 幸綱	襲封 隱居
享保一二年七月一日	明暦四年六月一日	明暦二年一〇月晦日	明暦二年一〇月晦日 致仕 一当齊		天文二〇年二月一日 剃髮 一徳齊	叙任
藏人 出羽守(享保二年二月一日) 伊豆守(享保二年七月九日) 彈正忠(享保五年七月二日)	伊豆守(寛文九年一月五日)	内記	伊豆守(文禄二年九月朔日) 侍從	安房守	彈正忠	夫人
松平右京大夫頼純女 清岸院殿知峰日登大姉	伊達遠江守宗利女 享保一八年七月五日 法雲院殿慈栄元光尼禪師	稻垣摂津守重綱女(離縁)	徳川家康養女(本多中務大輔忠勝女) 大連院殿英誉皓月大禅定尼	菊亭右大臣晴季女(山之手殿) 慶長一八年六月三日 寒松院殿宝月妙鑑大姉	河原丹波守隆正姉 天正二〇年五月二〇日 泰雲院殿喜山理慶大姉	家女
藤田氏 冷台院 前田氏 智岸院 美和	遠藤氏 妙雲院	小野氏 高橋氏 松寿院 某氏 某氏 某氏 法性院				逝去 享年
元文元年 一二月二六日 六七才	享保一二年 五月二七日 七一才	明暦四年 二月五日 六二才	万活元年 一〇月一七日 九三才	慶長一六年 六月四日 六五才	天正二年 五月一九日 六二才	諡号
乾徳院殿 龍岳一雲大居士	真常院殿 金山一提大居士	円陽院殿 威良一中大居士	大鋒院殿 徹蔵一当大居士	一翁千雪大居士 (長谷寺殿)	一徳齊殿 月峰良心大庵主	

信 安	幸 弘	幸 專	幸 貫	幸 教	幸 民
信弘 藤田氏 冷台院	信安 伊東氏 慈眼院	井伊掃部頭直幸 (天明五年十一月四日養子トナル) 坂本氏 智貞院	松平樂翁定信 (文化二年七月養子トナル) 次男 中井氏 貞順院	真田豊後守幸良 村上氏 順操院	伊達遠江守宗城 次男 (慶応二年三月九日養子トナル) 某氏
正徳四年八月一八日 小次郎 豊之助	元文五年正月二日 豊松 幸豊 (天明元年五月改)	明和七年 順介	寛政三年九月二日 次郎 幸善 (文政七年二月一日改)	天保六年二月一日 雄若 幸孝 (嘉永三年三月二日改)	嘉永三年四月一七日
元文二年二月一八日	宝暦二年六月一日 寛政一〇年八月二日致仕	寛政一〇年八月二日 文政六年六月二日致仕	文政六年八月二日 隱居 嘉永五年五月六日遂翁	嘉永五年五月六日 慶応二年三月九日	慶応二年三月九日 明治二年六月二四日 松代藩知事
豊後守 (元文元年二月一六日) 伊豆守 (延享元年六月八日)	伊豆守 (宝暦五年二月一八日) 彈正大弼 (天明八年四月五日) 右京大夫 (寛政二年四月一八日)	彈正大弼 (天明七年二月一八日) 伊豆守 (文化元年九月〇日) 彈正忠 (文化三年五月六日)	豊後守 (文化一三年二月) 信濃守 (天保八年五月六日) 伊豆守	信濃守 (嘉永二年二月) 伊豆守 (慶応二年三月九日) 右京大夫 (日)	信濃守 (慶応二年五月〇日)
松平備後守利章 女 延享五年六月四日	松平越中守定賢 女 文化一四年九月七日 真松院殿戒月定光 大姉	幸弘女 文政五年五月一九日 真珠院殿額光良影 大姉	幸專養女(井上河内守正南女) 嘉永六年八月一九日 (二四日改) 真月院殿実操松影 大姉	松平讃岐守頼恕 女 大正四年五月二〇日 真晴院殿觀瑞妙慶 大姉	利字 明治一七年八月二七日 真隆院殿清操妙薫大姉 伊東祐歸妹 宏 子 明治三年六月二二日 真宏院殿慈海靜遠大姉 島津忠洛養妹 昭和三年一〇月一五日 真淨院殿大慈慈觀大姉
伊東氏 毛登 慈眼院 江見氏 琴浦 鈴木氏 蓮光院	座間氏 清信院 田村氏 本 藤田氏 春光院	佐野氏 喜瀬 慎操院 某氏 寿嘉 清操院	山本氏 久(多喜) 土屋氏 久米 前嶋氏 勝 兒玉氏 直		
宝暦二年 四月二三日 三九才	文化一二年 八月三日 七六才	文政一一年 七月六日 五九才	嘉永五年 六月三日 (二七日改) 六二才	明治二年 一〇月一八日 三五才	明治三六年 九月六日 五四才
覺性院殿 幽山一玄大居 士	天真院殿 覺源一無大居 士	大暁院殿 聖諦一義大居 士	感応院殿 至貫一誠大居 士	文聡院殿 揚若一教大居 士	泰寛院殿 義烈一貫大居 士

状などで、貞松院の御守役は史料原文には「南部坂御守役」として現われる。彼女が赤坂南部坂の下屋敷に住していたためである。本項の関連史料としては『夫人等出入国』、『病氣・療養』、『幸教病氣一件』、『交際』、『為御知事』、『郡山柳沢家』等がある。

「お久貫切一件」、久は江戸の竹中主水正家臣山本要左衛門の女。松代で幸教の側室となすために要左衛門より正式に貰受けとする時のもので、専ら貰受けの反対給付の条件を巡る折衝の次第を記したものである。久は、かね・友千代（真田幸世―分家して男爵に列せられる）を儲け、明治四三年八月三十一日に亡くなっている。さて本件史料の年代は記されていないが一〇月二八日付の申上書（か二七九）に巳年とあり、同月二一日付の江戸よりの御用状（か二七七）の尚々書に「今日は弥重墨利加使節登 城ニ御座候」と報じているのは同日のハリス江戸登城を指しているものと思われ、本件史料は安政四年のものと判断される。「久米御暇一件」、久米は江戸土屋卯兵衛の女、松代で幸教の側室となり雄若・棄松を生んだが、文久二年七月二六日に永の暇を得ている。本件史料は松代の久米を奥女中に伴なわせて江戸に送り、親元に引渡すための手配方を巡るものである。

『江戸屋敷』、『屋敷替』は真田家が深川に下屋敷を構えるべく旗本諸氏らとの間で行われた相對屋敷替に関する史料。寛政八年七月六日に幕府の許可を得た屋敷替の内容は、真田に対して渋谷縫殿助拝領下屋敷の深川小松町二千坪と近藤彦八郎拝領屋敷の同町四五〇坪の内三〇〇坪を、渋谷に真田下屋敷の谷中三崎四五九〇坪の内の二千坪を、近藤に同右三〇〇坪を、それぞれに交換するものである。更に真田は近藤深川屋敷の残り一五〇坪（間口七間半、裏行二〇間）の部分についても一〇ヶ年限借地を継続更新していく方式でこれを獲得している。文化七年の相對替では真田は近藤屋敷の右の一五〇坪と石場市三郎の拝領深川小松町屋敷二〇〇坪を、各々三崎屋敷の同坪を以って入取している。次に文政三年五月一六日付で幕府の許可を得た相對替では、石場主膳の深川小松町拝領屋敷二〇〇坪を真田へ、真田三崎屋敷の内二〇〇坪を松波幸右衛門へ、松波の赤坂築地拝領屋敷二五二坪を石場へと、典型的な三方屋敷替となっている。嘉永四年六月のものは、真田の三崎屋敷四七六坪を池田播磨守へ、池田の千住小塚原天王脇拝領下屋敷二四〇〇坪を曲淵甲斐守へ、曲淵の愛宕下拝領屋敷七一五坪を真田へという、これもまた三方屋敷替である。

「抱屋敷」には麻生永坂・芝高輪・大崎村の各抱屋敷の買得に関する史料を収めた。「赤坂溜池浚銀」は赤坂の溜池常浚組合に関する史料。

真田家は赤坂南部坂に下屋敷があり、これが右組合に入っていたものである。真田は寛政四年六月に三浦・吉川氏らと共に右組合の年番となり、組合中の溜池常湊出銀の取集めを担当している。またここには真田よりの各年次の出銀に対する請取証文も収められている。真田の組合高は本高の一〇万石で、出銀は銀二五〇目である。

『交際』、「為御知事」には日々真田家に送付された大名・旗本諸家の留守居書状（また用人書状）を収めた。留守居書状の性格については先の「史料の表題について」の項を参照されたい。さて本項史料の各々の年代について言うならば、その書状としての性質上これを確定していくのは難しい。本項史料はそれぞれに一括された書状群の集合として残されている。それ故に個々の群の中の幾つかの書状について、幕府役職者の就任退職事項の報知や著名な事件の記載から当該書状の年代が明らかとなる時には、その書状を含む一群の書状も同一年時のものと仮定した。また書状授受者たる留守居・用人の人名を『武鑑』『列藩一覽』等によって検討し、その役職就任時期からも年代を推定した。目錄の本項では細項目に年時を立てて各書状を整理したが、その年時は右のような大雑把な推定に基づくものであり、それ故に利用に際してはこの点を考慮されたい。

「彦根井伊家」外、ここには真田家と姻戚関係を有する諸家との交際史料を収めた。これら諸家との関係史料でも留守居書状の群に一括されていたものは「為御知事」にそのまま配してある。また「彦根井伊家」は『相統』『養子』を、「郡山柳沢家」は『奥向』『貞松院』を、「高松松平家」は同「晴姫」を、「宇和嶋伊達家」は『相統』『慶応二年相統一件』をそれぞれ参照されたい。

『勤 役』

『幕令』には「史料の表題について」で述べた大目付廻状・同席触廻状・同席用廻状の写しを収めてある。『勤番』は真田氏が参勤出府した折に勤める江戸城本丸・西丸の大手御門番に関するもの、また増上寺・寛永寺諸門の警固に関する史料である。『海防』、真田氏は内海警衛のため幕府より御台場預りを課され、また文久三年の攘夷状況の下で横浜警衛を命ぜられている。本項に収めた史料は少ないが、海防関係史料は『交際』『為御知事』にも見られるので参照されたい。『供奉』は天保一四年四月の將軍家慶の日光社参に関するもので、これには幸貫の嗣幸良が随従している。本項に収められた史料の大半は真田家老が御供目付の禰津刑左衛門に宛てて発した御書取の形式による示達である。

『役儀』は簿冊編目録では大項目としたが、本目録では史料の点数も限られているのでここに編入した。『御袖裏覚書』は幸貫が老中勤役中に殿中で用いた進退作法の覚書である。予め記された日々の勤務次第に幸貫自筆による書き入れがなされている。本史料の記載内容は案詞方で写し留められ、簿冊の『御袖裏控』（う六〇六く六一七）の形で残っている。併せ見られたい。

『十藩触頭』『甲府城代』は京都朝廷より命ぜられたもので戊辰戦争期のものであるが、真田幸民の勤役としての性格が顕著なのでここに置いた。幸民は明治元年二月八日、次の信濃国一〇藩の触頭を朝廷より命ぜられている。即ち松平丹波守（松本藩）・松平伊賀守（上田藩）・内藤若狭守（高遠藩）・諏訪因幡守（高島藩）・本多豊後守（飯山藩）・堀左衛門尉（飯田藩）・牧野遠江守（小諸藩）・松平縫殿頭（田野口藩）・内藤志摩守（岩村田藩）・堀内藏頭（須坂藩）である。更に二月三〇日、東山道先鋒総督は真田家に対して甲府城守衛を命じ、同家では家老大熊衛士を隊長として総勢七九〇名余を甲府城に送り込んでいる。そののち五月二一日に幸民は大総督府より甲府城代に任ぜられ『維新史料綱要』同日条）、そして六月二九日付の被仰出書を以って越後への転戦が命ぜられ甲府城代職は解かれている（『甲府守城日記』（い一六八三）七月一五日条、『松代町史』上巻四四三頁）。この甲府城代職就任についてはやや問題が残る。即ちまず、右の甲府城代就任を令した任命示達書が見当たらないこと、次に任命時期を巡って諸種の史料の間に隔たりのあることである。真田家文書「家老日記」（い一〇八八）はその七月六日条で幸民の甲府城代職任命を家老より家臣中に伝達した旨を記し、これを諸藩に触れた七月八日付の真田家用人廻状（か四六二）の包紙上り書には「辰年六月中甲府御城代被蒙 仰候旨」とある。大総督府の江戸より松代に至る伝達経過時間を考慮に入れてもなお、これらの時日の隔たりと喰い違いとには疑念が残る（因みに城代解任の六月二九日付の被仰出書は、七月一四日に松代で家臣中に伝達されている）。任命示達書の存在の不明なこと、任命時期を巡って不自然さの残ること、これらは疑問として後考に委ねたい。

〔付 記〕

本目録の作成は笠谷和比古が担当し原島陽一・廣瀬睦その他館員諸氏の教示を得た。松代真田宝物館の関係者の方々にはその所蔵史料の閲覧に際して諸般の御配慮を頂いた。記して謝意を表わすものである。

長谷川深美〔亀吉, 昭道〕

天保10. 1. 13 若殿様(幸良)近習
弘化 1. 8. 9 御代官
嘉永 4. 10. 20 郡奉行・御勝手元メ役
" 6. 11. 25 御役御免
安政 5. 3. 9 隠居
慶応 1. 2. 10 京都御屋敷御留守居(大坂にて)
" 2. 12. 9 武具奉行兼帯
明治 2. — 太政官権大史
" 3. — 本官のまま権大参事心得
" 4. 7. — 松代県権大参事

長谷川平次郎〔美脩〕

元治 1. 8. 26 御番入
慶応 1. 5. 1 京都御留守居見習
" 2. 12. 9 武具奉行助兼帯

畑 権兵衛〔時敏〕

文政 9. 6. 18 御小姓
天保 3. 6. 11 若殿様(幸良)御膳番・御刀番
" 9. 2. 15 江戸徒士頭兼帯
嘉永 5. 6. 13 表御用人
万延 1. 1. 15 御膳番御刀番・江戸徒士頭・御側役
文久2. 閏8. 14 表御用人・御膳番御刀番
明治 2. 11. 16 表御用人御免, 勤仕並
" 4. 3. 7 隠居

馬場弥三郎〔政矩〕

文政 6. 7. 13 御近習
" 10. 8. 18 御目付
安政 2. 7. 10 御側役
万延 1. 2. 1 御取次・御使役
文久2. 閏8. 20 貞松院様御守役
明治 2. 12. 25 貞松院様御家扶
〔ま〕

望月帰一郎〔教愛〕

安政 2. 1. 11 被召出, 江戸御番頭・御奏者
" 3. 8. 26 大目付
万延 1. 2. 15 家老職 4. 14 学校懸
明治 1. 11. 12 家老職御免, 執政・公議人
" 3. 1. 29 職務御免

望月 主永〔貫恕〕

文政 9. 8. 15 御側御用人
天保 6. 6. 18 中老職
" 11. 6. 21 家老職 — 御勝手懸
安政 6. 6. 22 退職之上, 慎
文久 1. 9. 18 隠居

〔や〕

山岸 助藏〔久茂〕

文政 6. 6. 6 若殿様(幸貴)近習
" 13. 8. 5 御側御納戸役
天保 7. 7. 27 若殿様(幸良)御側御納戸役
12. 10 御側御納戸役
嘉永 1. 4. 22 御側役・御側御納戸役
安政 1. 4. 10 御奥元メ役
明治 1. 3. 2 隠居

山寺源太夫〔信龍, 常山, 正左衛門, 庄左衛門〕

文政 8. 2. 19 御近習並 5. 13 御近習

" 11. 10. 11 御目付役

天保11. 4. 22 町奉行

" 14. 3. 21 郡奉行公事方

嘉永 4. 10. 20 御勝手元メ役兼帯, 収納懸

" 6. 11. 4 郡奉行・御側頭取御側役・御勝手元メ役

安政 2. 11. 25 寺社奉行・郡奉行・御勝手元メ役

文久 3. 6. 9 表御用人 10. 15 退役閉門

明治 3. 11. — 藩庁出仕, 権大参事の事務を執る

" 11. 7. 3 病没

山中 鹿渡〔為義〕

天保 3. 3. 8 御近習

" 14. 2. 16 御側御納戸役・御近習

嘉永 6. 4. 25 真月院様御守役

安政 1. 1. 11 御奥元メ役

文久 1. 8. 17 表御用人

明治 1. 5. 28 御役御免 10. 1 隠居

〔わ〕

綿内 右門〔満久, 政之助〕

文政 3. 12. 21 御番入

弘化 1. 5. 13 雄若様(幸教)御膳番御刀番

安政 3. 4. 24 御奥元メ役

明治 1. 3. 2 大御前様御守役

10. 23 御取次・御使役

" 2. 8. 14 没

高山内藏進 〔富進，孝太郎〕			弘化 1. 5. 13	御留守居
弘化 3. 5. 4	御近習		嘉永 6. 10. 10	御側御用兼帯
嘉永 5. 4. 晦	若殿様（幸教）御側御納戸役		慶応 1. 6. 17	表御用人
安政 1. 1. 11	御側役・御側御納戸役		堤 常之丞 〔俊正，千治郎〕	
竹内 晋平 〔重喜，金四郎〕			安政 5. 11. 28	御番入
文政 8. 3. 18	御近習・御小姓		文久 2. 12. 18	弘方御金奉行
天保 3. 3. 7	若殿様（幸良）近習		慶応 1. 12. 23	改名，常之丞
弘化 1. 5. 6	雄若様（幸教）御側御納戸役・近習		明治 2. 11. 16	弘方御金奉行御免
嘉永 5. 4. 晦	若殿様（幸教）御側役		寺内友右衛門 〔安止，友馬，速水〕	
6. 13	御側御納戸役兼帯		天保 2. 4. 6	御近習
安政 1. 3. 5	御前様御守役助		" 10. 3. 14	御側御納戸役
万延 1. 5. —	没		弘化 3. 9. 22	御取次・御使役
谷口弥右衛門 〔清照〕			嘉永 2. 2. 15	表御用人助 4. 18 表御用人
文化 6. 5. 1	大殿様（幸弘）近習		慶応 2. 9. 16	貞松院様御守役
文政 9. 5. 27	大殿様（幸専）御側役助		明治 2. 12. 25	御役御免
" 13. 8. 5	御目付役		" 4. 5. 17	隠居
天保 2. 4. 29	御側役		常田銚大夫 〔貫儀，三郎〕	
弘化 1. 12. 16	二ノ丸御留守居		文政 3. 11. 1	御近習 12. 25 御納戸役
" 4. 8. 25	表御用人助		" 8. 1. 11	御目付 12. 11 依願御役御免
嘉永 1. 4. 22	御奥元ノ役		" 12. 1. 11	御側右筆・表右筆組頭
安政 1. 3. 9	貞松院様御守役		" 13. 1. 25	御目付 8. 5 御側御納戸役
" 3. 8. 2	表御用人		天保 12. 4. 22	御側役・御奥元ノ役
明治 1. 11. 13	没		嘉永 5. 4. 晦	御側御用人（幸貫）
玉川 一学 〔能静，仁太郎〕			" 6. 10. 28	"（幸教）
天保 14. 3. 11	御小姓		慶応 1. 5. 18	依願御役御免，折々御機嫌伺い罷出
嘉永 5. 4. 1	御近習		〔な〕	
安政 1. 7. 4	御使役		中島 渡浪 〔義明〕	
" 3. 8. 2	御留守居		文政 11. 5. 22	役夫調役 11. 8 御藏奉行
明治 1. 10. 2	公用人		天保 15. 7. 9	御代官
玉川 左門 〔正邦，右馬助，刑部，調布〕			元治 1. 12. 25	御奥元ノ役
天保 2. 9. 13	家督		明治 1. 3. 2	大御前様（幸教室，晴）御守役
" 3. 12. 9	御奏者		" 2. 12. 25	御役御免
" 5. 8. 24	御番頭		" 3. 8. 18	司金
" 12. 4. 22	中老職		" 4. 8. 19	職務御免，権大属補助
嘉永 2. 閏 4. 22	御城代		11. 20	長野県貫属
安政 2. 12. 4	家老職		西村源兵衛 〔宣久〕	
" 3. 4. 3	江府詰中御勝手取締・御預所御用懸		天保 14. 10. 18	御番入
慶応 3. 11. 6	家老職・江府長詰御免，謹慎		嘉永 4. 8. 11	御藏奉行
明治 1. 3. 27	家老職 11. 12 御役御免，執政		万延 1. 8. 12	元方御金奉行
" 2. 9. 20	少参事		元治 1. 2. 10	弘方御金奉行兼帯
" 3. 11. 1	免本官		慶応 1. 10. 18	御藏奉行
" 4. 11. 20	廃藩 = 付長野県貫属		" 2. 10. 7	元方御金奉行，御余慶懸
千喜良新之進 〔重太郎，新〕			明治 1. 1. 11	御代官
安政 3. 10. 15	御番入		" 2. 10. 5	租税司
文久 3. 5. 25	京都御守衛方		" 3. 6. 13	御役御免
元治 1. 5. 15	元方御金奉行 10. 5 御目付		祢津刑左衛門 〔直秩〕	
明治 2. 9. 7	改名，新 11. 16 議事		天保 7. 10. 28	御番入
" 4. 8. 19	免職，学監・軍監		" 10. 3. 14	弘方御金奉行 11. 15 御目付役
津田 転 〔成隣〕			弘化 2. 5. 29	御普請奉行 12. 13 御目付役
文政 6. 6. 21	大殿様（幸専）近習		安政 4. 4. 19	御勘定吟味役
" 11. 12. 28	御近習		文久 3. 5. 25	京都守衛方取締役伍長・御留守居・御目付 10. 20 表御用人
天保 3. 3. 7	御使役		元治 1. 4. 16	御奥元ノ役・御前様御守役
" 8. 3. 18	御留守居		明治 1. 3. 2	大御前様御守役兼帯
" 12. 7. 11	内御用人		〔は〕	
" 13. 9. 15	公用人			

安政 6. 8. 11 勤方減略, 月番御免
万延 1. 2. 2 病弱, 家老職御免
文久 2. 6. 27 没

〔か〕

金井美濃輔〔麗水〕

天保 5. 4. 28 御奏者
" 13. 2. 26 逼塞之上退役

弘化 2. 5. 29 御奏者

" 3. 1. 22 御番頭

安政 1. 9. 8 大目付

" 4. 4. 19 中老職

文久 3. 7. 12 御城代

慶応 3. 5. 23 中老職

明治 1. 10. 28 中老職御免, 参政

" 2. 12. 一 少参事

鹿野茂手木〔泰典〕

天保 7. 7. 19 御近習

" 12. 4. 25 若殿様(幸良) 近習

" 13. 11. 9 " " 御側御納戸役

弘化 1. 5. 6 雄若様御側御納戸役・近習

安政 1. 3. 9 御側役・御前様御守役

万延 1. 11. 1 若殿様(豊松) 御守役兼帯

河原敬之進〔正方〕

天保13. 7. 12 若殿様(幸良) 近習

弘化 1. 5. 13 雄若様(幸教) 近習

嘉永 6. 7. 11 御側御納戸役・近習

安政 3. 12. 27 退役

" 4. 4. 19 御側御納戸役

文久 2. 12. 14 御側役

" 3. 5. 11 御奥元ノ役兼帯

明治 1. 3. 2 大御前様御守役兼帯, 大殿様御奥元ノ役兼帯御免

河原 理助

安政 4. 12. 18 御番入

元治 1. 4. 11 御警衛方番士

慶応 1. 9. 2 御目付

鎌原伊野右衛門〔貫唯, 溶水〕

弘化 4. 1. 12 家督

嘉永 4. 5. 11 家老職

" 6. 11. 25 家老職御免

安政 1. 1. 19 家老職

" 5. 11. 22 隠居 12. 23 再勤

万延 1. 1. 26 親類御預, 急度慎

文久 3. 3. 19 蟄居御免 5. 3 家老職

— 御勝手懸

明治 1. 3. 27 御預所懸 10. 28 執政

" 2. 12. 一 権大参事(計政主事)

" 3. 9. 一 免本官

北沢職之助〔正誠, 冠岳〕

安政 5. 12. 4 御番入

万延 1. 5. 9 御近習

慶応 1. 2. 10 御留守居 5. 26 定府

明治 1. 11. 6 公用人(京都にて)

" 2. 9. 1 改名, 冠岳 10. 5 権少参事

" 4. 4. 25 謹慎 5. 15 免職 8. 19 少参事

〔さ〕

真田 志摩〔貫道, 桜山〕

弘化 4. 2. 10 家督

嘉永 4. 5. 11 家老職 10. 11 御勝手懸

" 6. 10. 8 家老職御免

安政 6. 3. 26 隠居蟄居 12. 29 親類御預

文久 3. 3. 19 蟄居御免 4. 7 家老職, 御勝手懸

元治 1. 4. 4 御上京御供

慶応 2. 4. 13 御勝手懸御免

明治 1. 11. 12 家老職御免, 執政

" 2. 9. 1 改名, 桜山 9. 20 大参事

" 4. 4. 21 免本官 4. 25 閉門 5. 晦 御免

座間 百人〔忠順〕

文化 5. 10. 18 御番入

" 10. 4. 5 大殿様(幸弘) 近習

文政 1. 11. 15 " " 御側御納戸役

" 3. 11. 1 御留守居

" 10. 11. 2 表御用人兼帯

天保12. 7. 11 御留守居御免

文久 2. 8. 一 没

鈴木内蔵允〔重義, 主水, 庸, 松山〕

文政12. 7. 11 家督

天保11. 7. 12 主水改名, 内蔵允

" 12. 4. 22 御奏者

安政 4. 3. 12 江戸御番頭・御奏者・御台場方御用

文久 1. 11. 15 御警衛方番頭・太田陣屋詰中老席

慶応 1. 3. 11 中老職

明治 1. 11. 12 中老職御免, 参政 12. 18 公議人

" 2. 9. 1 改名, 庸 9. 20 少参事

" 3. 11. 1 免本官

鈴木弥左衛門〔重久〕

寛政 4. 12. 一 御使役

享和 1. 6. 6 御留守居

文化 3. 9. 11 家督

文政 3. 11. 9 御前様(真珠院) 御守役

" 5. 7. 11 御役御免

〔た〕

高田 幾太〔法古, 輝太郎, 造酒丞〕

文政11. 12. 21 御近習・御小姓

天保 5. 12. 8 御目付役

" 7. 8. 15 御勘定吟味役 12. 25 御普請奉行

" 13. 4. 16 御勘定吟味役・案詞奉行

嘉永 6. 8. 18 郡奉行・御勝手元ノ役

万延 1. 5. 28 御預所郡奉行

慶応 1. 11. 28 二ノ丸御留守居

" 2. 7. 1 没

高野 広馬〔真遜〕

天保14. 7. 20 於江府御用部屋小僧役

弘化 4. 8. 15 御目付方調役・御広間帳付・句読方

文久 2. 4. 12 御勘定目付・御勝手元ノ方調役

" 3. 9. 13 御儒者・侍講・学校文学会頭, 御奥

通御免, 政事向諮問

慶応 2. 4. 21 京都御警衛中御側役助

明治 2. 12. 一 権少参事, 議長

" 3. 9. 一 権大参事

真田家役人略譜

〔備考〕

1. この「略譜」には本文書に頻出する人名を中心に採り上げた。
2. 履歴事項は本文書を理解するに必要な範囲に止めた。
3. 人名は、あいうえお順に配列した。
4. この「略譜」は真田家文書「家中明細書」〔あ4・6・1493〕、真田宝物館蔵「御家中系図」・「家中家譜」、『松代町史』等に拠った。

〔あ〕

赤沢助之進〔安実・蘭溪〕

- 天保 5. 9. 28 被召出御番頭
 " 13. 1. 11 中老職
 嘉永 6. 12. 11 家老職
 万延 1. 2. 8 御勝手懸
 明治 1. 11. 12 家老御免、執政・公議人
 " 2. 9. 1 改名、蘭溪
 " 2. 9. 20 権大参事（市政主事）
 " 3. 11. 1 免本官

池田富之進

- 弘化 4. 12. 21 御勘定役見習
 嘉永 4. 4. 25 御番入
 安政 5. 11. 8 弘方御金奉行
 文久 3. 11. 28 遠慮 12. 19 御免
 明治 2. 11. 16 司金
 " 4. 5. 15 閉門 6. 20 御免 8. 19 免職

石川 新八〔良久、本之助〕

- 文化 2. 1. 28 大殿様（幸弘）御小姓
 " 6. 12. 25 御留守居添役
 " 10. 12. 21 御留守居
 文政 8. 6. 7 表御用人兼帯

石川 新八〔吉春〕

- 文政 10. 12. 5 若殿様（幸良）御小姓
 天保 5. 4. 11 御使役 7. 9 御留守居
 " 8. 2. 8 退役 10. 1 御番入
 " 12. 9. 21 御近習
 " 14. 閏9. 3 案詞奉行・御側御納戸役

弘化 1. 5. 14 御使役

嘉永 1. 11. 25 表御用人助

" 3. 1. 11 表御用人

磯田 音門〔総白・亀之進〕

- 文化 4. 12. 25 御番入
 " 7. 7. 18 近習
 文政 3. 11. 1 御側御納戸役
 " 11. 9. 13 役替、幸貴公御側役・御側御納戸役
 天保 2. 9. 11 若殿（幸良）御側役・御側御納戸役兼帯
 " 7. 6. 3 両殿様御側御納戸役兼帯御免
 " 12. 10 若殿御側役兼帯御免
 " 9. 7. 9 役替、御預所郡奉行
 " 10. 11. 晦 役替、町奉行・御預所郡奉行
 " 12. 4. 25 御勘定吟味役兼帯

- 弘化 3. 9. 22 役替、郡奉行・御勝手元メ役
 嘉永 4. 11. 18 役替、御預所郡奉行・御側役
 " 6. 8. 18 役替、町奉行・御預所郡奉行・御側役

- 安政 3. 9. 4 役替、郡奉行・町奉行・御勝手元メ役
 文久 3. 8. 9 退役
 9. 10 寺社奉行・郡奉行

明治 2. 8. 26 隠居

伊藤 環

- 文化 13. 2. 11 若殿（幸貫）近習
 文政 6. 8. 8 御側御納戸役
 " 10. 10. 10 御側役・御側御納戸役
 " 13. 6. 18 表御用人
 嘉永 5. 4. 晦 若殿（幸教）御側役兼帯
 " 6. 12. 4 御側頭取

安政 3. 4. 9 御前様御守役助

万延 1. 6. 8 御役御免、折々祇候

大熊 衛士〔教政・董〕

- 安政 4. 7. 9 御奏者
 9. 19 御側御用人
 慶応 1. 5. 21 中老職
 " 2. 9. 25 大殿様（幸教）御側御用人兼帯
 11. 25 家老職

明治 1. 11. 12 家老職御免、執政

" 2. 9. 1 改名、董

9. 20 権大参事 9. 21 公議人兼勤

" 4. 4. 21 免本官 8. 27 家令

大日方正司〔直照〕

- 嘉永 2. 6. 9 若殿（幸教）近習
 " 6. 10. 5 目付役
 万延 1. 9. 22 文武学校懸
 文久 3. 9. 2 御側御右筆
 慶応 2. 5. 7 大殿様御奥元メ役
 明治 1. 3. 2 大御前様御守役
 " 4. 1. 一 没

小野 肇〔正脩〕

- 文化 13. 8. 6 被召出、御近習
 天保 13. 3. 20 若殿様（幸良）御側御納戸役
 弘化 1. 12. 16 雄若様（幸教） " 近習
 嘉永 1. 5. 15 貞松院様御守役

小山田菅右衛門〔昌永・茂永・千太郎〕

- 文政 9. 9. 11 御近習
 天保 8. 1. 11 御側御納戸役
 嘉永 1. 4. 22 御側役・御側御納戸役
 " 5. 11. 23 御側役・真月院様御守役・晴姫様御守役

" 7. 4. 27 表御用人

文久 1. 3. 10 御側役・御奥元メ役

慶応 1. 3. 11 隠居

恩田 頼母〔貫実、柳泉〕

- 文政 2. 6. 25 家老職見習
 " 3. 8. 28 家老職
 天保 12. 1. 21 御勝手懸
 嘉永 5. 4. 7 隠居
 " 6. 12. 1 家老帰職、御勝手懸

史料館所藏史料目錄 第三十七集

昭和五十八年三月三十日 印刷発行

東京都品川区豊町一丁目十六番十号
国文学研究資料館内

編集者 国 立 史 料 館
発行者

東京都中野区中央四丁目八番九号

印刷所 株式会社 三 協 社